

常磐分団車庫改築工事

図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
A－0 1	特記仕様書（1）	S－0 1	構造特記仕様書	E－0 1	特記仕様書 建築電気設備 1	K－0 1	特記仕様書（解体 1）
A－0 2	特記仕様書（2）	S－0 2	標準配筋要領図（主体構造が鉄骨造）（1）	E－0 2	特記仕様書 建築電気設備 2	K－0 2	特記仕様書（解体 2）
A－0 3	特記仕様書（3）	S－0 3	標準配筋要領図（主体構造が鉄骨造）（2）	E－0 3	電気設備 配置図	K－0 3	既設分団車庫解体前 付近見取図・配置図
A－0 4	特記仕様書（4）	S－0 4	標準配筋要領図（主体構造が鉄骨造）（3）	E－0 4	盤図・照明器具姿図	K－0 4	既設 仕上げ表・平面図・立面図・天井伏図
A－0 5	概要書、仕上表	S－0 5	鉄骨構造標準図（1）	E－0 5	幹線コンセント設備 平面詳細図	K－0 5	既設 外構詳細図
A－0 6	付近見取図・改修後配置図	S－0 6	鉄骨構造標準図（2）	E－0 6	電灯設備 平面詳細図	K－0 6	既設 断面図・展開図
A－0 7	平面図・立面図・断面図	S－0 7	Q L デッキ合成スラブ設計・施工標準	E－0 7	弱電設備 平面詳細図	K－0 7	既設 展開図
A－0 8	平面図詳細図 天井伏図	S－0 8	ボーリング位置図 地盤柱状図			K－0 8	既設 建具表
A－0 9	断面詳細図 1	S－0 9	基礎梁・1階床伏図 基礎詳細図	M－0 1	特記仕様書 建築機械設備 1	K－0 9	既設 基礎伏図・基礎詳細図
A－1 0	断面詳細図 2	S－1 0	梁伏図	M－0 2	特記仕様書 建築機械設備 2	K－1 0	既設 梁伏図、軸組図
A－1 1	階段断面詳細図	S－1 1	軸組図	M－0 3	1，2 階平面詳細図（空調・換気）	K－1 1	既設 増築部 構造図
A－1 2	展開図	S－1 2	鉄骨詳細図	M－0 4	配置図（衛生）	K－1 2	既設 鉄骨詳細図
A－1 3	建具表			M－0 5	1，2 階平面詳細図（衛生）	K－1 3	既設 電気図 1
A－1 4	外構配置図					K－1 4	既設 電気図 2
A－1 5	外構詳細図 1					K－1 5	既設 給排水衛生設備図 空調換気設備図
A－1 6	ホース乾燥塔詳細図					K－1 6	撤去後配置図・外構詳細図
						K－1 7	既設 ホース乾燥塔

常磐分団 車庫改築 工事特記仕様書		
総 則 工 事 概 要	1. 工事場所	四日市市 城西町 地内
	2. 工事種目	分団車庫新築工事、外構工事、既設解体工事
	3. 別途工事	
1. 共通仕様	(1)図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁	

6章 コンクリート工事	①型枠	外部に面するコンクリート打ち出し仕上げの打増し $\bigcirc$20 ※図示 (6.8.1) 打ち継ぎ目地 ※幅 20×深さ 10 ・図示 (6.6.4) (9.7.3) ひび割れ誘発目地 ※幅 20×深さ 10 ・図示 (6.8.1) (9.7.3) せき板の種類 ※厚さ 12mm ・ (6.8.2) ※下記のいずれかとする。 (1)「コンクリート型枠用合板の農林規格」による表面加工品 (2)「コンクリート型枠用合板の農林規格」によるB-C (3)床型枠用鋼製デッキプレート 打ち出し仕上げの種類 (6.2.5) (表6.2.4) <table> <tr> <th>種 別</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr> <td>・A 種</td><td></td></tr> <tr> <td>※B 種</td><td></td></tr> <tr> <td>・C 種</td><td></td></tr> </table> ・スリーブ材料 (6.8.2) (表6.8.1) 材種 ※標仕6.8.2(9)による ・鋼管 ・硬質塩化ビニール管 ・溶融亜鉛めっき鋼板 ・つば付鋼管	種 別	施 工 箇 所	・A 種		※B 種		・C 種		⑦さび止め塗料	①鉄骨造の鉄部錆止め塗料の種類は 標仕表18.3.1 の下記とする。 (7.8.4) ・JIS K 5625 $\bigcirc$JIS K 5674 ②塗装の場合 JIS K 5552・JIS K 5551(2回) 耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行わない ・行う () (7.9.2～7.9.8) <table> <tr> <th>種 別</th><th>所要性能及び適用構造部位</th></tr> <tr> <td>・耐火材 ・乾式吹付けロックウール</td><td></td></tr> <tr> <td>吹付け</td><td>・半乾式吹付けロックウール</td></tr> <tr> <td></td><td>・湿式ロックウール</td></tr> <tr> <td>・耐火板張り</td><td></td></tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td><td></td></tr> <tr> <td>・耐火塗料</td><td></td></tr> </table>	種 別	所要性能及び適用構造部位	・耐火材 ・乾式吹付けロックウール		吹付け	・半乾式吹付けロックウール		・湿式ロックウール	・耐火板張り		・ラス張りモルタル塗り		・耐火塗料		4 合成高分子系 ルーフィングシート 防水	脱気装置 ・設ける 材質 () 設置数量 () ・設けない 施工機軸 ※設ける ・設けない (9.4.2～9.4.4) (表9.4.1～2) <table> <tr> <th>種 別</th><th>厚さ(mm)</th><th>施工箇所</th><th>仕上り塗料</th><th>仕様区分</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>※非歩行</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>・軽歩行</td></tr> </table> 仕上り塗料の使用量 ※メーカー仕様による 可塑性移行防止用シート ※発泡ポリエチレンシート 機械固定工法に用いる断熱材 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 ・押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b 接着工法に用いる断熱材 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 ・ポリエチレンフォーム断熱材 施工機軸 ※設ける ・設けない	種 別	厚さ(mm)	施工箇所	仕上り塗料	仕様区分					※非歩行					・軽歩行	④張付け用材料	※保水剤は、メチルセルロース等の水溶性樹脂とする。 (11.2.3) (11.3.3) ※有機接着材の種類 (表11.3.1) ※タイプⅠ ・タイプⅡ ※セメント混和用ポリマーディスペーションは JIS A6203による。 ※既調合目地材は、実績等の資料を監督職員に提出する。 (11.2.6) (11.3.7) (表11.2.3) ※下表による。 <table> <tr> <th>タイルの種類別</th><th>タイルの寸法</th><th>工 法</th></tr> <tr> <td>内外装タイル</td><td>小口平 二丁掛 100角</td><td>・密着張り ・改良圧着張り ※壁タイル接着剤張り</td></tr> <tr> <td>内装タイル以外の ユニットタイル</td><td>50 二丁以下</td><td>・マスク張り ・モザイクタイル張り ※壁タイル接着剤張り</td></tr> </table> 躯体表面の処理 ・行う ・行わない ・MCR工法 ・目荒らし工法 タイルの接着力試験 ※行わない ・行う (※外壁タイル () (11.1.7))	タイルの種類別	タイルの寸法	工 法	内外装タイル	小口平 二丁掛 100角	・密着張り ・改良圧着張り ※壁タイル接着剤張り	内装タイル以外の ユニットタイル	50 二丁以下	・マスク張り ・モザイクタイル張り ※壁タイル接着剤張り	④壁タイル張り工法																																												
種 別	施 工 箇 所																																																																																																		
・A 種																																																																																																			
※B 種																																																																																																			
・C 種																																																																																																			
種 別	所要性能及び適用構造部位																																																																																																		
・耐火材 ・乾式吹付けロックウール																																																																																																			
吹付け	・半乾式吹付けロックウール																																																																																																		
	・湿式ロックウール																																																																																																		
・耐火板張り																																																																																																			
・ラス張りモルタル塗り																																																																																																			
・耐火塗料																																																																																																			
種 別	厚さ(mm)	施工箇所	仕上り塗料	仕様区分																																																																																															
				※非歩行																																																																																															
				・軽歩行																																																																																															
タイルの種類別	タイルの寸法	工 法																																																																																																	
内外装タイル	小口平 二丁掛 100角	・密着張り ・改良圧着張り ※壁タイル接着剤張り																																																																																																	
内装タイル以外の ユニットタイル	50 二丁以下	・マスク張り ・モザイクタイル張り ※壁タイル接着剤張り																																																																																																	
7章 鉄骨工事	⑧フレッシュコンクリート 試験・強度試験	(6.9.2) (6.9.3) (表6.9.1) (表6.9.2) ※コンクリートの強度試験の試験回数は、下記による。 20m³ 以下の場合の試験については、監督職員の指示による。 20～50m³ の場合は任意の一車より試料を採取し、各3個供試体を作成する。 50m³ 以上は 標仕6.9.3(1) による。	⑩アンカーボルト等の 設置	①構造用アンカーボルト ・図示 (7.10.3) (表7.10.1) ②建方用アンカーボルトの保持及び埋込み ・A 種 ・B 種 (表7.10.2) ならしモルタルの工法 ※A 種 ・B 種 ③無収縮モルタル(プレミックスタイプ) 下記同等品とする プレュロックス(太平洋マテリアル) マスターフロー-870グラウト(BASFポリリス) ノンシュリンクライトグラウト(ABC商会) デンカスコン(電気化学工業) (社)公共建築協会の評価を受けているもの	5 塗膜防水	(9.5.2～9.5.4) (表9.5.1～2) <table> <tr> <th>種 別</th><th>施工箇所</th><th>備考</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td>仕上り塗料</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td>・シルバー ・カラー</td></tr> </table> 仕上り塗料の使用量 ※メーカー仕様による 脱気装置 ・設ける 材質 () 設置数量 () ・設けない ・Y-2における保護層 () 施工機軸 ※設ける ・設けない ・適用部位及び防水層の位置 (9.6.1)	種 別	施工箇所	備考			仕上り塗料			・シルバー ・カラー	12章 木 工 事	②表面仕上げ	見え掛り面の表面仕上げ程度は、プレーナー加工のうえ、超自動機械かな (12.1.4) サンダー等により、使用箇所、樹種、仕上げ等に適したものとす。	②木材	木材の含水率 ※A 種 ・B 種 (12.2.1) (表12.2.1) ○下地用針葉樹製材 ※2 級 ・1 級 (12.2.1) ○造作用針葉樹製材 $\bigcirc$上小節 (見え掛り面 () (12.2.1) $\bigcirc$小 節 (見え隠れ面・不透明塗料塗り () ・広葉樹製材 ・2 級 ※1 級 ・特級 (12.2.1) ○主要材の樹種 下地材 $\bigcirc$杉 ・松 造作材 $\bigcirc$杉 ・松 ・ひのき	3 集成材又は 単板積層材	集成材又は単板積層材の材質 (12.2.1) ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 集成材の等級 <table> <tr> <th>品 名</th><th>規格・品質</th><th>芯材の種類</th><th>施 工 箇 所</th></tr> <tr> <td>・造作用集成材</td><td>※1 等 ・2 等</td><td>・たも ・なら ・しおじ</td><td></td></tr> <tr> <td>・化粧張り造作用集成材</td><td>※1 等 ・2 等</td><td>・単・針葉樹</td><td></td></tr> <tr> <td>・化粧張り構造用集成材</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・造作用単板積層材</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>・直交集成材</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	品 名	規格・品質	芯材の種類	施 工 箇 所	・造作用集成材	※1 等 ・2 等	・たも ・なら ・しおじ		・化粧張り造作用集成材	※1 等 ・2 等	・単・針葉樹		・化粧張り構造用集成材				・造作用単板積層材				・直交集成材				④床張り用合板	合板の材質 ※標仕12.2.1(6) (7)～(e) による (12.2.1) 合板の接着の程度の種類 ※1 類 ・ 板面の品質 ※2 等 (広葉樹)又はC-D (針葉樹) ・ ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種	⑤防蟻処理	防蟻処理は下記による (12.3.1) ○行う (施工箇所 大引金通コンクリートに面する部と掛け () ※行わない 木材保存剤は、監督職員の承諾するものとする。	⑥防蟻処理	防蟻処理は下記による (12.3.1) ○行う (施工箇所 大引金通コンクリートに面する部と掛け () ※行わない 木材保存剤は、監督職員の承諾するものとする。	6 防虫処理	防虫処理は下記による (12.3.2) ・行う (施工箇所 () ※行わない	13章 屋 根 及 び と い 工 事	①折板葺	(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table> <tr> <th>形 式</th><th>※重ね型</th><th>・はせ締め形</th></tr> <tr> <td>形 状(mm)</td><td>山高(≧85)</td><td>山ピッチ(200)</td></tr> <tr> <td>材 料</td><td>※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板</td><td>※アスファルトルーフィング</td></tr> <tr> <td>断 熱 材</td><td>○有り(種別) ・不燃材</td><td>厚さ: 5 mm) ・無し</td></tr> <tr> <td>耐火性能</td><td>・3 0 分耐火 $\bigcirc$無し</td><td></td></tr> <tr> <td>軒先戸板</td><td>○有り ・無し</td><td></td></tr> </table> 緩どい 材種 ※硬質塩化ビニル管カラー(VP) ・配管用鋼管 (13.5.2) (表13.5.1) 軒どい 材種 ※硬質塩化ビニル雨どい ・表面処理鋼板 ・ステンレス鋼板 とい受け金物 材料 ※ステンレス製の市販品 取付ピッチ ※表13.5.2 による ・	形 式	※重ね型	・はせ締め形	形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)	材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング	断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し	耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し		軒先戸板	○有り ・無し		4 鋼管製といの 防露巻き	※行う 防露材 ※標仕13.5.4 による ・ (13.5.2) (表13.5.4) 防露巻き工法 ※標仕13.5.5 による ・ (13.5.3) (表13.5.5) 施工箇所 () ・行わない																						
種 別	施工箇所	備考																																																																																																	
		仕上り塗料																																																																																																	
		・シルバー ・カラー																																																																																																	
品 名	規格・品質	芯材の種類	施 工 箇 所																																																																																																
・造作用集成材	※1 等 ・2 等	・たも ・なら ・しおじ																																																																																																	
・化粧張り造作用集成材	※1 等 ・2 等	・単・針葉樹																																																																																																	
・化粧張り構造用集成材																																																																																																			
・造作用単板積層材																																																																																																			
・直交集成材																																																																																																			
形 式	※重ね型	・はせ締め形																																																																																																	
形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)																																																																																																	
材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング																																																																																																	
断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し																																																																																																	
耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し																																																																																																		
軒先戸板	○有り ・無し																																																																																																		
9章 鉄 骨 工 事	①鉄骨製作工場	・監督職員の承諾する工場 (7.1.3) ②全国鉄構工業協会、日本鉄骨評価センター 認定工場 (下記認定グレード以上) (・S ・H ・M $\bigcirc$R ・J)	8章 コン クリ ー ト ブ ロ ッ ク ・ A L C パ ネ ル ・ 押 出 成 形 セ メ ン ト 板 工 事	1 補強コンクリート ブロック造の材料	(a) 種類 ・16 N/mm² 普通ブロック 厚さ ・100 ・120 ・150 ・ (8.2.2) ・16 N/mm² 防水ブロック 厚さ ・100 ・150 表8.2.2以外のコンクリートの設計基準強度(Fc) ※21N/mm² ・ (8.2.4)	7 その他防水	7 その他防水	8 保証期間	防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。	⑨シーリング	※下表以外は、標仕表9.7.1 による (9.7.2) (表9.7.1) <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類(記号)</th></tr> <tr> <td>下記以外 全て</td><td>M S -2</td></tr> <tr> <td>トイレ(タム部・面台) キッチン</td><td>S R -1</td></tr> <tr> <td>内装クロス貼リ補修等しない</td><td>アクリル樹脂系</td></tr> </table> 接着性試験 ※行わない ・行う (9.7.5) ・簡易接着性試験 ・引張接着性試験 目地寸法 ※図示による ・ (9.7.3)	施工箇所	シーリング材の種類(記号)	下記以外 全て	M S -2	トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1	内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系	10章 石 工 事	1 施工一般	石材の割付 ・図示による。 ※標仕10.1.3(1)の(7)及び(4)による (10.1.3)	④折板葺	(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table> <tr> <th>形 式</th><th>※重ね型</th><th>・はせ締め形</th></tr> <tr> <td>形 状(mm)</td><td>山高(≧85)</td><td>山ピッチ(200)</td></tr> <tr> <td>材 料</td><td>※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板</td><td>※アスファルトルーフィング</td></tr> <tr> <td>断 熱 材</td><td>○有り(種別) ・不燃材</td><td>厚さ: 5 mm) ・無し</td></tr> <tr> <td>耐火性能</td><td>・3 0 分耐火 $\bigcirc$無し</td><td></td></tr> <tr> <td>軒先戸板</td><td>○有り ・無し</td><td></td></tr> </table> 緩どい 材種 ※硬質塩化ビニル管カラー(VP) ・配管用鋼管 (13.5.2) (表13.5.1) 軒どい 材種 ※硬質塩化ビニル雨どい ・表面処理鋼板 ・ステンレス鋼板 とい受け金物 材料 ※ステンレス製の市販品 取付ピッチ ※表13.5.2 による ・	形 式	※重ね型	・はせ締め形	形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)	材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング	断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し	耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し		軒先戸板	○有り ・無し		4 鋼管製といの 防露巻き	※行う 防露材 ※標仕13.5.4 による ・ (13.5.2) (表13.5.4) 防露巻き工法 ※標仕13.5.5 による ・ (13.5.3) (表13.5.5) 施工箇所 () ・行わない																																																							
施工箇所	シーリング材の種類(記号)																																																																																																		
下記以外 全て	M S -2																																																																																																		
トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1																																																																																																		
内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系																																																																																																		
形 式	※重ね型	・はせ締め形																																																																																																	
形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)																																																																																																	
材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング																																																																																																	
断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し																																																																																																	
耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し																																																																																																		
軒先戸板	○有り ・無し																																																																																																		
10章 鉄 骨 工 事	②施工管理技術者	※適用する ・適用しない (7.1.4)	9章 防 水 工 事	2 コンクリートブロック 機壁及び壁	(a) 種類 ※表8.3.1 による 厚さ ・100 ・120 ・150 (8.3.2) (b) コンクリートの設計基準強度(Fc) ※21N/mm² ・ (c) 各部の配筋 ※標仕 各部配筋参考図 7.31による ・図示 (8.4.2～8.4.5) (表8.4.2～4)	7 その他防水	7 その他防水	8 保証期間	防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。	⑨シーリング	※下表以外は、標仕表9.7.1 による (9.7.2) (表9.7.1) <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類(記号)</th></tr> <tr> <td>下記以外 全て</td><td>M S -2</td></tr> <tr> <td>トイレ(タム部・面台) キッチン</td><td>S R -1</td></tr> <tr> <td>内装クロス貼リ補修等しない</td><td>アクリル樹脂系</td></tr> </table> 接着性試験 ※行わない ・行う (9.7.5) ・簡易接着性試験 ・引張接着性試験 目地寸法 ※図示による ・ (9.7.3)	施工箇所	シーリング材の種類(記号)	下記以外 全て	M S -2	トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1	内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系	10章 石 工 事	2 天然石張り	石の品質 床用石材 ※2 等品 ・ その他の石材 ※1 等品 ・ (10.2.1) 石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>種 類</th><th>産地・名称</th><th>厚さ (mm)</th><th>仕上げの種類</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																					④折板葺	(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table> <tr> <th>形 式</th><th>※重ね型</th><th>・はせ締め形</th></tr> <tr> <td>形 状(mm)</td><td>山高(≧85)</td><td>山ピッチ(200)</td></tr> <tr> <td>材 料</td><td>※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板</td><td>※アスファルトルーフィング</td></tr> <tr> <td>断 熱 材</td><td>○有り(種別) ・不燃材</td><td>厚さ: 5 mm) ・無し</td></tr> <tr> <td>耐火性能</td><td>・3 0 分耐火 $\bigcirc$無し</td><td></td></tr> <tr> <td>軒先戸板</td><td>○有り ・無し</td><td></td></tr> </table> 緩どい 材種 ※硬質塩化ビニル管カラー(VP) ・配管用鋼管 (13.5.2) (表13.5.1) 軒どい 材種 ※硬質塩化ビニル雨どい ・表面処理鋼板 ・ステンレス鋼板 とい受け金物 材料 ※ステンレス製の市販品 取付ピッチ ※表13.5.2 による ・	形 式	※重ね型	・はせ締め形	形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)	材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング	断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し	耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し		軒先戸板	○有り ・無し		4 鋼管製といの 防露巻き	※行う 防露材 ※標仕13.5.4 による ・ (13.5.2) (表13.5.4) 防露巻き工法 ※標仕13.5.5 による ・ (13.5.3) (表13.5.5) 施工箇所 () ・行わない																														
施工箇所	シーリング材の種類(記号)																																																																																																		
下記以外 全て	M S -2																																																																																																		
トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1																																																																																																		
内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系																																																																																																		
施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																																																																																															
形 式	※重ね型	・はせ締め形																																																																																																	
形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)																																																																																																	
材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング																																																																																																	
断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し																																																																																																	
耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し																																																																																																		
軒先戸板	○有り ・無し																																																																																																		
11章 鉄 骨 工 事	③鋼材	鋼材の材質、規格 (7.2.1) (表7.2.1) <table> <tr> <th>材 質</th><th>品 名又は使用箇所</th><th>規 格</th></tr> <tr> <td>①SS 400</td><td>小梁、間柱</td><td>※JISの規格品</td></tr> <tr> <td>②SSC 400</td><td>鋼線、タイトフレーム受け</td><td>※JISの規格品</td></tr> <tr> <td>③BGR 295</td><td>柱 角形鋼管</td><td>※JISの規格品</td></tr> <tr> <td>④STKR 400</td><td>間柱、開口補強</td><td>※JISの規格品</td></tr> <tr> <td>⑤SN 490B</td><td>内ダイヤフラム</td><td>※JISの規格品</td></tr> <tr> <td>⑥SN 490C</td><td>通しダイヤフラム・ベースプレート</td><td>※JISの規格品</td></tr> <tr> <td>⑦SN 400B</td><td>大梁</td><td>※JISの規格品</td></tr> </table> ⑧トルシア形高力ボルト ⑨JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛メッキ高力ボルト (7.2.2)	材 質	品 名又は使用箇所	規 格	①SS 400	小梁、間柱	※JISの規格品	②SSC 400	鋼線、タイトフレーム受け	※JISの規格品	③BGR 295	柱 角形鋼管	※JISの規格品	④STKR 400	間柱、開口補強	※JISの規格品	⑤SN 490B	内ダイヤフラム	※JISの規格品	⑥SN 490C	通しダイヤフラム・ベースプレート	※JISの規格品	⑦SN 400B	大梁	※JISの規格品	9章 防 水 工 事	3 ALCパネル	(a) 種類 ・16 N/mm² 普通ブロック 厚さ ・100 ・120 ・150 (8.2.2) ・16 N/mm² 防水ブロック 厚さ ・100 ・150 表8.2.2以外のコンクリートの設計基準強度(Fc) ※21N/mm² ・ (8.2.4)	7 その他防水	7 その他防水	8 保証期間	防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。	⑨シーリング	※下表以外は、標仕表9.7.1 による (9.7.2) (表9.7.1) <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類(記号)</th></tr> <tr> <td>下記以外 全て</td><td>M S -2</td></tr> <tr> <td>トイレ(タム部・面台) キッチン</td><td>S R -1</td></tr> <tr> <td>内装クロス貼リ補修等しない</td><td>アクリル樹脂系</td></tr> </table> 接着性試験 ※行わない ・行う (9.7.5) ・簡易接着性試験 ・引張接着性試験 目地寸法 ※図示による ・ (9.7.3)	施工箇所	シーリング材の種類(記号)	下記以外 全て	M S -2	トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1	内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系	10章 石 工 事	2 天然石張り	石の品質 床用石材 ※2 等品 ・ その他の石材 ※1 等品 ・ (10.2.1) 石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>種 類</th><th>産地・名称</th><th>厚さ (mm)</th><th>仕上げの種類</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																					④折板葺	(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table> <tr> <th>形 式</th><th>※重ね型</th><th>・はせ締め形</th></tr> <tr> <td>形 状(mm)</td><td>山高(≧85)</td><td>山ピッチ(200)</td></tr> <tr> <td>材 料</td><td>※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板</td><td>※アスファルトルーフィング</td></tr> <tr> <td>断 熱 材</td><td>○有り(種別) ・不燃材</td><td>厚さ: 5 mm) ・無し</td></tr> <tr> <td>耐火性能</td><td>・3 0 分耐火 $\bigcirc$無し</td><td></td></tr> <tr> <td>軒先戸板</td><td>○有り ・無し</td><td></td></tr> </table> 緩どい 材種 ※硬質塩化ビニル管カラー(VP) ・配管用鋼管 (13.5.2) (表13.5.1) 軒どい 材種 ※硬質塩化ビニル雨どい ・表面処理鋼板 ・ステンレス鋼板 とい受け金物 材料 ※ステンレス製の市販品 取付ピッチ ※表13.5.2 による ・	形 式	※重ね型	・はせ締め形	形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)	材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング	断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し	耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し		軒先戸板	○有り ・無し		4 鋼管製といの 防露巻き	※行う 防露材 ※標仕13.5.4 による ・ (13.5.2) (表13.5.4) 防露巻き工法 ※標仕13.5.5 による ・ (13.5.3) (表13.5.5) 施工箇所 () ・行わない						
材 質	品 名又は使用箇所	規 格																																																																																																	
①SS 400	小梁、間柱	※JISの規格品																																																																																																	
②SSC 400	鋼線、タイトフレーム受け	※JISの規格品																																																																																																	
③BGR 295	柱 角形鋼管	※JISの規格品																																																																																																	
④STKR 400	間柱、開口補強	※JISの規格品																																																																																																	
⑤SN 490B	内ダイヤフラム	※JISの規格品																																																																																																	
⑥SN 490C	通しダイヤフラム・ベースプレート	※JISの規格品																																																																																																	
⑦SN 400B	大梁	※JISの規格品																																																																																																	
施工箇所	シーリング材の種類(記号)																																																																																																		
下記以外 全て	M S -2																																																																																																		
トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1																																																																																																		
内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系																																																																																																		
施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																																																																																															
形 式	※重ね型	・はせ締め形																																																																																																	
形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)																																																																																																	
材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング																																																																																																	
断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し																																																																																																	
耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し																																																																																																		
軒先戸板	○有り ・無し																																																																																																		
12章 鉄 骨 工 事	④高力ボルト	※標仕表7.2.31による (7.2.3)	9章 防 水 工 事	4 押出成形セメント板	※厚物(厚さ50mm以上) (8.5.2～8.5.4) (表8.5.1～2) <table> <tr> <th>種 類</th><th>※無石棉タイプ</th></tr> <tr> <td>施工箇所</td><td>表面形状</td></tr> <tr> <td>・外 壁</td><td>※フラットパネル</td></tr> <tr> <td>・間仕切り</td><td>※フラットパネル</td></tr> <tr> <td>・床パネル</td><td>・2350 ・3530 ・100 ・150 ・有 ・無 ※標仕表8.4.4 による</td></tr> <tr> <td>外壁目地幅</td><td>mm ・製造所の仕様による (8.4.3)</td></tr> <tr> <td>耐火目地材</td><td>・ (8.4.2)</td></tr> </table> ・薄物(厚さ50mm未満) (8.5.5) <table> <tr> <th>パネルに開口</th><th>短辺</th><th>パネル幅の1/2以下</th><th>切断後のパネルの残り部分の幅</th></tr> <tr> <td>を設ける場合</td><td>短辺</td><td>5 0 0 mm以下</td><td>3 0 0 mm以下</td></tr> <tr> <td>パネルを切り</td><td>短辺</td><td>(パネル幅-3 0 0 mm) 以下</td><td>3 0 0 mm以下</td></tr> <tr> <td>欠く場合</td><td>短辺</td><td>5 0 0 mm以下</td><td>3 0 0 mm以下</td></tr> </table>	種 類	※無石棉タイプ	施工箇所	表面形状	・外 壁	※フラットパネル	・間仕切り	※フラットパネル	・床パネル	・2350 ・3530 ・100 ・150 ・有 ・無 ※標仕表8.4.4 による	外壁目地幅	mm ・製造所の仕様による (8.4.3)	耐火目地材	・ (8.4.2)	パネルに開口	短辺	パネル幅の1/2以下	切断後のパネルの残り部分の幅	を設ける場合	短辺	5 0 0 mm以下	3 0 0 mm以下	パネルを切り	短辺	(パネル幅-3 0 0 mm) 以下	3 0 0 mm以下	欠く場合	短辺	5 0 0 mm以下	3 0 0 mm以下	7 その他防水	7 その他防水	8 保証期間	防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。	⑨シーリング	※下表以外は、標仕表9.7.1 による (9.7.2) (表9.7.1) <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類(記号)</th></tr> <tr> <td>下記以外 全て</td><td>M S -2</td></tr> <tr> <td>トイレ(タム部・面台) キッチン</td><td>S R -1</td></tr> <tr> <td>内装クロス貼リ補修等しない</td><td>アクリル樹脂系</td></tr> </table> 接着性試験 ※行わない ・行う (9.7.5) ・簡易接着性試験 ・引張接着性試験 目地寸法 ※図示による ・ (9.7.3)	施工箇所	シーリング材の種類(記号)	下記以外 全て	M S -2	トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1	内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系	10章 石 工 事	2 天然石張り	石の品質 床用石材 ※2 等品 ・ その他の石材 ※1 等品 ・ (10.2.1) 石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>種 類</th><th>産地・名称</th><th>厚さ (mm)</th><th>仕上げの種類</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																					④折板葺	(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table> <tr> <th>形 式</th><th>※重ね型</th><th>・はせ締め形</th></tr> <tr> <td>形 状(mm)</td><td>山高(≧85)</td><td>山ピッチ(200)</td></tr> <tr> <td>材 料</td><td>※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板</td><td>※アスファルトルーフィング</td></tr> <tr> <td>断 熱 材</td><td>○有り(種別) ・不燃材</td><td>厚さ: 5 mm) ・無し</td></tr> <tr> <td>耐火性能</td><td>・3 0 分耐火 $\bigcirc$無し</td><td></td></tr> <tr> <td>軒先戸板</td><td>○有り ・無し</td><td></td></tr> </table> 緩どい 材種 ※硬質塩化ビニル管カラー(VP) ・配管用鋼管 (13.5.2) (表13.5.1) 軒どい 材種 ※硬質塩化ビニル雨どい ・表面処理鋼板 ・ステンレス鋼板 とい受け金物 材料 ※ステンレス製の市販品 取付ピッチ ※表13.5.2 による ・	形 式	※重ね型	・はせ締め形	形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)	材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング	断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し	耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し		軒先戸板	○有り ・無し		4 鋼管製といの 防露巻き	※行う 防露材 ※標仕13.5.4 による ・ (13.5.2) (表13.5.4) 防露巻き工法 ※標仕13.5.5 による ・ (13.5.3) (表13.5.5) 施工箇所 () ・行わない
種 類	※無石棉タイプ																																																																																																		
施工箇所	表面形状																																																																																																		
・外 壁	※フラットパネル																																																																																																		
・間仕切り	※フラットパネル																																																																																																		
・床パネル	・2350 ・3530 ・100 ・150 ・有 ・無 ※標仕表8.4.4 による																																																																																																		
外壁目地幅	mm ・製造所の仕様による (8.4.3)																																																																																																		
耐火目地材	・ (8.4.2)																																																																																																		
パネルに開口	短辺	パネル幅の1/2以下	切断後のパネルの残り部分の幅																																																																																																
を設ける場合	短辺	5 0 0 mm以下	3 0 0 mm以下																																																																																																
パネルを切り	短辺	(パネル幅-3 0 0 mm) 以下	3 0 0 mm以下																																																																																																
欠く場合	短辺	5 0 0 mm以下	3 0 0 mm以下																																																																																																
施工箇所	シーリング材の種類(記号)																																																																																																		
下記以外 全て	M S -2																																																																																																		
トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1																																																																																																		
内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系																																																																																																		
施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																																																																																															
形 式	※重ね型	・はせ締め形																																																																																																	
形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)																																																																																																	
材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング																																																																																																	
断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し																																																																																																	
耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し																																																																																																		
軒先戸板	○有り ・無し																																																																																																		
13章 鉄 骨 工 事	⑤アンカーボルト	材質 $\bigcirc$一般構造用圧延鋼(JIS G 3101) $\bigcirc$SS400 ・SS490 (7.2.4) $\bigcirc$ABR400 ・ABR490	9章 防 水 工 事	1 アスファルト防水	アスファルトの種類 ※3種 (9.2.2) 端部押え金物 ※既製アルミニウム製L-30×15×2.0程度 ・ 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA (スキン層付き) 厚さ (mm) ※35 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材 材質 ※JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材 ・硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号 厚さ (mm) ※35 絶縁用シート ・ポリエチレンフィルム 厚0.15mm以上 ・フラットヤーンクロス 乾式保護材 製造所 ・ 防水保護のれんがの種類 ※市販品のレンガ又は市販品のレンガ形コンクリートブロック 施工機軸 ※設ける ・設けない 防水層の種類、種別 (9.2.3) (表9.2.3～3) ・屋根保護防水 ・A-1 ・A-2 ・A-3 ・A1-1 ・A1-2 ・A1-3 ・B-1 ・B-2 ・B1-1 ・B1-2 ・屋根露出防水 ・D-1 ・D-2 ・D1-1 ・D1-2 ・屋内防水 ・E-1 ・E-2 仕上り塗料(屋根露出防水) ※種類および使用量は製造所の仕様による 絶縁工法における脱気装置 ※設ける 材質 () 設置数量 () ・設けない ルーフドレーン及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい ※図示による (9.2.4)	7 その他防水	7 その他防水	8 保証期間	防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。	⑨シーリング	※下表以外は、標仕表9.7.1 による (9.7.2) (表9.7.1) <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類(記号)</th></tr> <tr> <td>下記以外 全て</td><td>M S -2</td></tr> <tr> <td>トイレ(タム部・面台) キッチン</td><td>S R -1</td></tr> <tr> <td>内装クロス貼リ補修等しない</td><td>アクリル樹脂系</td></tr> </table> 接着性試験 ※行わない ・行う (9.7.5) ・簡易接着性試験 ・引張接着性試験 目地寸法 ※図示による ・ (9.7.3)	施工箇所	シーリング材の種類(記号)	下記以外 全て	M S -2	トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1	内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系	10章 石 工 事	2 天然石張り	石の品質 床用石材 ※2 等品 ・ その他の石材 ※1 等品 ・ (10.2.1) 石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>種 類</th><th>産地・名称</th><th>厚さ (mm)</th><th>仕上げの種類</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																					④折板葺	(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table> <tr> <th>形 式</th><th>※重ね型</th><th>・はせ締め形</th></tr> <tr> <td>形 状(mm)</td><td>山高(≧85)</td><td>山ピッチ(200)</td></tr> <tr> <td>材 料</td><td>※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板</td><td>※アスファルトルーフィング</td></tr> <tr> <td>断 熱 材</td><td>○有り(種別) ・不燃材</td><td>厚さ: 5 mm) ・無し</td></tr> <tr> <td>耐火性能</td><td>・3 0 分耐火 $\bigcirc$無し</td><td></td></tr> <tr> <td>軒先戸板</td><td>○有り ・無し</td><td></td></tr> </table> 緩どい 材種 ※硬質塩化ビニル管カラー(VP) ・配管用鋼管 (13.5.2) (表13.5.1) 軒どい 材種 ※硬質塩化ビニル雨どい ・表面処理鋼板 ・ステンレス鋼板 とい受け金物 材料 ※ステンレス製の市販品 取付ピッチ ※表13.5.2 による ・	形 式	※重ね型	・はせ締め形	形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)	材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング	断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し	耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し		軒先戸板	○有り ・無し		4 鋼管製といの 防露巻き	※行う 防露材 ※標仕13.5.4 による ・ (13.5.2) (表13.5.4) 防露巻き工法 ※標仕13.5.5 による ・ (13.5.3) (表13.5.5) 施工箇所 () ・行わない																														
施工箇所	シーリング材の種類(記号)																																																																																																		
下記以外 全て	M S -2																																																																																																		
トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1																																																																																																		
内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系																																																																																																		
施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																																																																																															
形 式	※重ね型	・はせ締め形																																																																																																	
形 状(mm)	山高(≧85)	山ピッチ(200)																																																																																																	
材 料	※塗装溶融55%Zn・重鉛めっき鋼板	※アスファルトルーフィング																																																																																																	
断 熱 材	○有り(種別) ・不燃材	厚さ: 5 mm) ・無し																																																																																																	
耐火性能	・3 0 分耐火 $\bigcirc$ 無し																																																																																																		
軒先戸板	○有り ・無し																																																																																																		
14章 鉄 骨 工 事	⑥ターナックル	開の種類 ※割寸式 ・ ボルトの種類 ※羽子板ボルト ・ (7.2.6)	9章 防 水 工 事	2 保護層等の施工	・保護コンクリートの厚み ※8 0 mm ・ (9.2.5) ・立上り部の保護 ・乾式保護材 ・れんが押え ・コンクリート押え ・モルタル押え (9.3.2～9.3.4) (表9.3.1～3)	7 その他防水	7 その他防水	8 保証期間	防水の保証期間は原則、表面仕上材塗替なしで10年とする。ただし、既存の劣化等の状況により保証ができない場合は、保証できない理由を明確にし、監督職員と協議を行うこと。	⑨シーリング	※下表以外は、標仕表9.7.1 による (9.7.2) (表9.7.1) <table> <tr> <th>施工箇所</th><th>シーリング材の種類(記号)</th></tr> <tr> <td>下記以外 全て</td><td>M S -2</td></tr> <tr> <td>トイレ(タム部・面台) キッチン</td><td>S R -1</td></tr> <tr> <td>内装クロス貼リ補修等しない</td><td>アクリル樹脂系</td></tr> </table> 接着性試験 ※行わない ・行う (9.7.5) ・簡易接着性試験 ・引張接着性試験 目地寸法 ※図示による ・ (9.7.3)	施工箇所	シーリング材の種類(記号)	下記以外 全て	M S -2	トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1	内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系	10章 石 工 事	2 天然石張り	石の品質 床用石材 ※2 等品 ・ その他の石材 ※1 等品 ・ (10.2.1) 石の種類・表面仕上げ (10.2.1) (表10.2.1～2) <table> <tr> <th>施 工 箇 所</th><th>種 類</th><th>産地・名称</th><th>厚さ (mm)</th><th>仕上げの種類</th></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																					④折板葺	(13.3.2) (13.3.3) (表13.2.1) <table> <tr> <th>形 式</th><th>※重ね型</th><th>・はせ</th></tr></table>	形 式	※重ね型	・はせ																																															
施工箇所	シーリング材の種類(記号)																																																																																																		
下記以外 全て	M S -2																																																																																																		
トイレ(タム部・面台) キッチン	S R -1																																																																																																		
内装クロス貼リ補修等しない	アクリル樹脂系																																																																																																		
施 工 箇 所	種 類	産地・名称	厚さ (mm)	仕上げの種類																																																																																															
形 式	※重ね型	・はせ																																																																																																	

14章 金属工事	①アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理	処理の種類 (14.2.2) (表14.2.1) 種 別 ○B B-1種 手摺 ・B B-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・ 表面処理の膜厚試験 ・行う ○行わない
	2 鉄鋼の亜鉛めっき	亜鉛めっきの種類 (14.2.3) (表14.2.2) 表面処理方法 種 別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 電気亜鉛めっき ・E種 ・F種 表面処理の品質 ※品質証明書を提出する ・品質試験を行う ・
	③軽量鉄骨天井下地材料	屋内 ※19形 ・ (14.4.2) (表14.4.1) 屋外 ※25形 ・
	④軽量鉄骨壁下地材料	スタッド、ランナなどの種類 (14.5.3) (表14.5.1) ・50形 ○65形 ○90形 ・100形 ・標仕表14.5.1による
	5 金属成形板張り	(14.6.2) (表14.2.1) 形 状 製 法 材 種 寸法(mm) 厚さ(mm) 表面処理 ・Sハット16形 ・押出し ・アルミニウム製 ・ロール ・パネル形 ※プレス 伸縮継手 ※設けない ・設ける(施工箇所は図示) 取付下地 ※屋内19形 ※屋外25形 野縁間隔 ・300mm ・360mm (14.6.3) (14.7.2) (表14.2.1) (表14.7.1) 種 類 呼称肉厚 表面処理 固定間隔 備 考 ・250形 1.6以上 ※A B-1種又は 隅部等の役物は ・300形 1.8以上 B B-1種 本体製造所の仕様 ・350形 2.0以上 ・B B-2種 による。 ()
	6 アルミニウム製笠木	(14.7.2) (表14.2.1) (表14.7.1) 種 類 呼称肉厚 表面処理 固定間隔 備 考 ・250形 1.6以上 ※A B-1種又は 隅部等の役物は ・300形 1.8以上 B B-1種 本体製造所の仕様 ・350形 2.0以上 ・B B-2種 による。 ()
	①モルタル塗り	防水モルタル 防水剤は下記製造所の製品とする。 (15.3.2) シフカー建設防水工業 (シフカー液B号) セントラル工業 (シーアイシー防水剤) ボース (ボース防水剤) 日本セメント防水剤製造所 (ウォータータイトB号) マノール (マノール防水剤) 保水剤は、メチルセルローズ等の水溶性樹脂とする。 吸水調整剤の品質 ※表15.3.2による 目 地 位置 ※図示による (15.3.5) 種 別 ※押し目地 ・ ・既成目地材
	2 セルフレバリング材	種類、品質 ※標仕表15.5.1による。 (15.5.2) (表15.5.1) 種 類 厚 さ(mm) 施 工 箇 所 ※セメント系 ※10 ・ ・せっこう系 ・
	3 仕上塗材仕上げ	(15.6.2) (表15.6.1) 種 類 呼 び 名 仕 上 の 形 状 ・薄付け仕上塗材 ・外装薄塗材E ・内装薄塗材E ・可とう形外装薄塗材E ・防水形外装薄塗材E ・外装薄塗材S ・砂壁状 ・砂壁状じやらく ・ゆず肌状 ・さざ波状 ・凹凸状 ・複層仕上塗材 ・複層塗材C E ・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 ・上塗材 ・水系アクリル ・複層塗材E ・複層塗材R E ・防水形複層塗材C E ・防水形複層塗材E ・外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック ・ ・ 複層仕上塗材の耐候性 ※耐候形3種 ・ (15.6.2) 防火材料の指定 ※屋内の壁及び天井仕上げ材は、防火材料とする。 () ・次の箇所を除き防火材料とする。 () 建物内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種
	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)

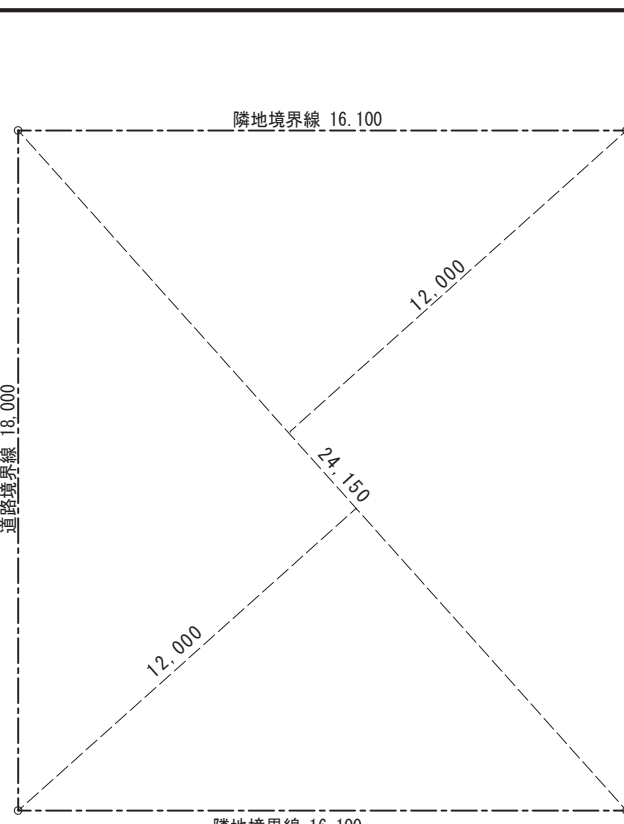
15章 左官工事	①アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシを除く) (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ○A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※図示 ・B種 S-5 ・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・ 木下地 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-3 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) 屋内建具 表面処理 ※AC-1種又はBB-1種 ・AC-2種又はBB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・防音建具 遮音性の等級 ・ (16.2.2) ・断熱建具 断熱性の等級 ・ ・耐震建具 面内変形追随性の等級 ・
	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)
	①アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシを除く) (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ○A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※図示 ・B種 S-5 ・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・ 木下地 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-3 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) 屋内建具 表面処理 ※AC-1種又はBB-1種 ・AC-2種又はBB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・防音建具 遮音性の等級 ・ (16.2.2) ・断熱建具 断熱性の等級 ・ ・耐震建具 面内変形追随性の等級 ・
	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)
	①アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシを除く) (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ○A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※図示 ・B種 S-5 ・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・ 木下地 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-3 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) 屋内建具 表面処理 ※AC-1種又はBB-1種 ・AC-2種又はBB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・防音建具 遮音性の等級 ・ (16.2.2) ・断熱建具 断熱性の等級 ・ ・耐震建具 面内変形追随性の等級 ・
	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)
	①アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシを除く) (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ○A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※図示 ・B種 S-5 ・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・ 木下地 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-3 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) 屋内建具 表面処理 ※AC-1種又はBB-1種 ・AC-2種又はBB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・防音建具 遮音性の等級 ・ (16.2.2) ・断熱建具 断熱性の等級 ・ ・耐震建具 面内変形追随性の等級 ・

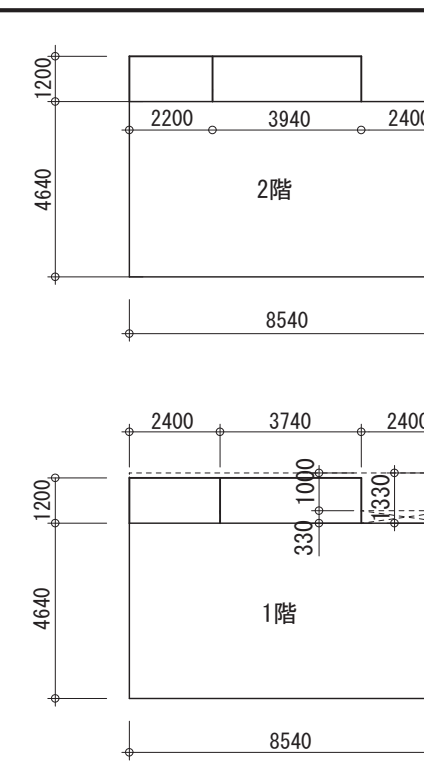
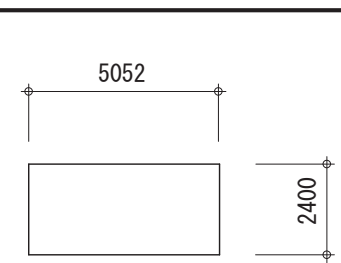
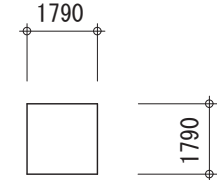
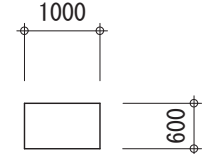
16章 建具工事	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)
	①アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシを除く) (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ○A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※図示 ・B種 S-5 ・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・ 木下地 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-3 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) 屋内建具 表面処理 ※AC-1種又はBB-1種 ・AC-2種又はBB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・防音建具 遮音性の等級 ・ (16.2.2) ・断熱建具 断熱性の等級 ・ ・耐震建具 面内変形追随性の等級 ・
	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)
	①アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシを除く) (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ○A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※図示 ・B種 S-5 ・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・ 木下地 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-3 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) 屋内建具 表面処理 ※AC-1種又はBB-1種 ・AC-2種又はBB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・防音建具 遮音性の等級 ・ (16.2.2) ・断熱建具 断熱性の等級 ・ ・耐震建具 面内変形追随性の等級 ・
	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示
	2 見本の製作等	・特殊な建具の仮組 (建具番号) (16.1.4)
	①アルミニウム製建具	外部に面する建具(フロントサッシを除く) (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ○A種 S-4 ※A-3 ※W-4 ※図示 ・B種 S-5 ・C種 S-6 ・A-4 ・W-5 ・ 木下地 (16.2.2) (16.2.4) (表16.2.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-3 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 表面処理 ※BB-1種 ・BB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) 屋内建具 表面処理 ※AC-1種又はBB-1種 ・AC-2種又はBB-2種 (・ブランク系・ブランク・ステンレス) ・防音建具 遮音性の等級 ・ (16.2.2) ・断熱建具 断熱性の等級 ・ ・耐震建具 面内変形追随性の等級 ・
	1 防火戸	・防火戸 (建築基準法に基づく認定) ・有り ・無し (16.1.3) ・防火戸の自動閉鎖装置及び防火戸の煙感知器との連動装置 ※図示

⑩網戸	使用法	○可動式 ○固定式 (16.2.3)
	網の材質	防虫網 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ステンレス (SUS 316) 製 網 目 ※16～18メッシュ 防虫網 ※ステンレス (SUS 304) 線材 ・
	5 樹脂製建具	外部に面する建具 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・A種 S-4 ※W-4 ・ ※図示 ・B種 S-5 A-4 ・W-5 ・C種 S-6 木下地 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-4 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 遮音性能 ※T-1 ・T-2 断熱性能 ※H-4 ・H-5 ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.4.2) 気密性 ※A-3 ・ 水密性 ※W-1 ・ 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.4.2による (16.4.4) (表16.4.2) ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.5.2) 気密性 ※A-3 ・ 召合せ、縦小口包み板等の材質 (16.5.3) ※鋼 板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出型材 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.5.1による (16.5.4) (表16.5.1) 8 標準型钢製軽量建具 ・製造所の仕様による (16.5.6) 9 ステンレス製建具 ステンレス鋼板 ※SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 (16.6.3) 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.6.1による (16.6.4) (表16.6.1) 表面仕上 ※H L (16.6.4) 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強あり) (16.6.5) ⑩木製建具 建具材の含水率による種別 (16.7.2) (表16.7.1) ※A種 ・B種 フラッシュ かまち、中骨の樹種 ※標仕表16.7.2による ・標仕表16.7.2のむく材とする 表面材 ※普通合板 ・難燃合板 ○特殊合板 ・MDF ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着の程度は、水掛かりを1類、その他を2類とする。 ・かまち戸 かまち () 鏡 板 () ・ふすまの材料 ※標仕表16.7.3 (表16.7.3) ・ふすまの上りの種類 ※新島の子 (押入れ内は雲花紙とする) ・ふすまの縁の仕上げ ※塗り縁(カシュー塗料2回塗り) ・生地縁 (※ウレタンクリヤー塗装 ・素地) ⑪建具用金物 金物の見掛けり部の材質 ※標仕表16.8.1による (16.8.2) (表16.8.1) モノロック ゴール(H) 美和ロック(U9HK) シリンドー箱錠 ゴール(AS) 堀商店(No.1110,1171) 美和ロック(U9HM,MA,LI,LA) シリンドー本締まり錠 ゴール(HD) 美和ロック(U9BH,DA) 堀商店(No.1131) ヒンジクローザー ※丁番型 ・内蔵型 押板、とっ手 樹種工業 ユニオン マスターキーについては下記による。 (16.8.4) ・グループ及びグランドマスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ○マスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ・一般キー(マスターキー設置付)のみパネルに整理して提出する。 ・一般キー(マスターキー設置なし)のみパネルに整理して提出する。 ○鍵 箱 既製品 ○20個用 ・60個用 ・120個用 ・ () 12 自動ドア開閉装置 種 別 (16.9.2) (16.9.3) (表16.9.1～4) 開 閉 方 法 引き戸用検出装置の種類 ※引き戸 ※光線センサー ・熱線センサー (性能値は表16.9.1) ・音波センサー ・光電センサー ・多機能トイレル用引き戸 ・電波センサー ・タッチスイッチ (性能値は表16.9.2) ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ ・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による) 13 自閉式上吊り引き戸装置 性能 ※標仕表16.10.1 (16.10.3) (表16.10.1) 14 重量シャッター 形式 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター (16.11.2) ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 (表16.11.1) 外部に面するシャッターの前風圧性能 () N/m ² 防火又は防煙シャッターの危害防止機構 ※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」に定める基準に適合するもの。 シャッターケース(防火・防煙以外のもの) ・設ける ・設けない ※危害防止装置 開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ○手動式 (16.12.2) (表16.12.1) スラット 材 質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ 厚 さ ・0.5 ○0.8 形 状 ○インターロックング形 ・オーバーラッピング形 外部に面するシャッターの耐風圧性能 (600) N/m ² 16 その他のシャッター ・リンググリルシャッター パイプ及びリングの種類 ※ステンレス (SUS 304) ・ ・スライディングドア ・アルミ ・スチール(消防合格品) 17 オーバーヘッドドア セクション材料 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ (16.13.2) ・ファイバークラスタイプ 開閉方式 ※バランス式 ・チェーン式 ・電動式 ガイドレール ※ステンレス鋼板 ・溶融亜鉛メッキ鋼板 耐風圧性能 () N/m ²
	使用法	○可動式 ○固定式 (16.2.3)
	網の材質	防虫網 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ステンレス (SUS 316) 製 網 目 ※16～18メッシュ 防虫網 ※ステンレス (SUS 304) 線材 ・
	5 樹脂製建具	外部に面する建具 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・A種 S-4 ※W-4 ・ ※図示 ・B種 S-5 A-4 ・W-5 ・C種 S-6 木下地 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-4 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 遮音性能 ※T-1 ・T-2 断熱性能 ※H-4 ・H-5 ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.4.2) 気密性 ※A-3 ・ 水密性 ※W-1 ・ 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.4.2による (16.4.4) (表16.4.2) ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.5.2) 気密性 ※A-3 ・ 召合せ、縦小口包み板等の材質 (16.5.3) ※鋼 板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出型材 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.5.1による (16.5.4) (表16.5.1) 8 標準型钢製軽量建具 ・製造所の仕様による (16.5.6) 9 ステンレス製建具 ステンレス鋼板 ※SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 (16.6.3) 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.6.1による (16.6.4) (表16.6.1) 表面仕上 ※H L (16.6.4) 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強あり) (16.6.5) ⑩木製建具 建具材の含水率による種別 (16.7.2) (表16.7.1) ※A種 ・B種 フラッシュ かまち、中骨の樹種 ※標仕表16.7.2による ・標仕表16.7.2のむく材とする 表面材 ※普通合板 ・難燃合板 ○特殊合板 ・MDF ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着の程度は、水掛かりを1類、その他を2類とする。 ・かまち戸 かまち () 鏡 板 () ・ふすまの材料 ※標仕表16.7.3 (表16.7.3) ・ふすまの上りの種類 ※新島の子 (押入れ内は雲花紙とする) ・ふすまの縁の仕上げ ※塗り縁(カシュー塗料2回塗り) ・生地縁 (※ウレタンクリヤー塗装 ・素地) ⑪建具用金物 金物の見掛けり部の材質 ※標仕表16.8.1による (16.8.2) (表16.8.1) モノロック ゴール(H) 美和ロック(U9HK) シリンドー箱錠 ゴール(AS) 堀商店(No.1110,1171) 美和ロック(U9HM,MA,LI,LA) シリンドー本締まり錠 ゴール(HD) 美和ロック(U9BH,DA) 堀商店(No.1131) ヒンジクローザー ※丁番型 ・内蔵型 押板、とっ手 樹種工業 ユニオン マスターキーについては下記による。 (16.8.4) ・グループ及びグランドマスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ○マスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ・一般キー(マスターキー設置付)のみパネルに整理して提出する。 ・一般キー(マスターキー設置なし)のみパネルに整理して提出する。 ○鍵 箱 既製品 ○20個用 ・60個用 ・120個用 ・ () 12 自動ドア開閉装置 種 別 (16.9.2) (16.9.3) (表16.9.1～4) 開 閉 方 法 引き戸用検出装置の種類 ※引き戸 ※光線センサー ・熱線センサー (性能値は表16.9.1) ・音波センサー ・光電センサー ・多機能トイレル用引き戸 ・電波センサー ・タッチスイッチ (性能値は表16.9.2) ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ ・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による) 13 自閉式上吊り引き戸装置 性能 ※標仕表16.10.1 (16.10.3) (表16.10.1) 14 重量シャッター 形式 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター (16.11.2) ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 (表16.11.1) 外部に面するシャッターの前風圧性能 () N/m ² 防火又は防煙シャッターの危害防止機構 ※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」に定める基準に適合するもの。 シャッターケース(防火・防煙以外のもの) ・設ける ・設けない ※危害防止装置 開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ○手動式 (16.12.2) (表16.12.1) スラット 材 質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ 厚 さ ・0.5 ○0.8 形 状 ○インターロックング形 ・オーバーラッピング形 外部に面するシャッターの耐風圧性能 (600) N/m ² 16 その他のシャッター ・リンググリルシャッター パイプ及びリングの種類 ※ステンレス (SUS 304) ・ ・スライディングドア ・アルミ ・スチール(消防合格品) 17 オーバーヘッドドア セクション材料 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ (16.13.2) ・ファイバークラスタイプ 開閉方式 ※バランス式 ・チェーン式 ・電動式 ガイドレール ※ステンレス鋼板 ・溶融亜鉛メッキ鋼板 耐風圧性能 () N/m ²
	使用法	○可動式 ○固定式 (16.2.3)
	網の材質	防虫網 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ステンレス (SUS 316) 製 網 目 ※16～18メッシュ 防虫網 ※ステンレス (SUS 304) 線材 ・
	5 樹脂製建具	外部に面する建具 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・A種 S-4 ※W-4 ・ ※図示 ・B種 S-5 A-4 ・W-5 ・C種 S-6 木下地 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-4 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 遮音性能 ※T-1 ・T-2 断熱性能 ※H-4 ・H-5 ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.4.2) 気密性 ※A-3 ・ 水密性 ※W-1 ・ 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.4.2による (16.4.4) (表16.4.2) ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.5.2) 気密性 ※A-3 ・ 召合せ、縦小口包み板等の材質 (16.5.3) ※鋼 板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出型材 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.5.1による (16.5.4) (表16.5.1) 8 標準型钢製軽量建具 ・製造所の仕様による (16.5.6) 9 ステンレス製建具 ステンレス鋼板 ※SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 (16.6.3) 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.6.1による (16.6.4) (表16.6.1) 表面仕上 ※H L (16.6.4) 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強あり) (16.6.5) ⑩木製建具 建具材の含水率による種別 (16.7.2) (表16.7.1) ※A種 ・B種 フラッシュ かまち、中骨の樹種 ※標仕表16.7.2による ・標仕表16.7.2のむく材とする 表面材 ※普通合板 ・難燃合板 ○特殊合板 ・MDF ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着の程度は、水掛かりを1類、その他を2類とする。 ・かまち戸 かまち () 鏡 板 () ・ふすまの材料 ※標仕表16.7.3 (表16.7.3) ・ふすまの上りの種類 ※新島の子 (押入れ内は雲花紙とする) ・ふすまの縁の仕上げ ※塗り縁(カシュー塗料2回塗り) ・生地縁 (※ウレタンクリヤー塗装 ・素地) ⑪建具用金物 金物の見掛けり部の材質 ※標仕表16.8.1による (16.8.2) (表16.8.1) モノロック ゴール(H) 美和ロック(U9HK) シリンドー箱錠 ゴール(AS) 堀商店(No.1110,1171) 美和ロック(U9HM,MA,LI,LA) シリンドー本締まり錠 ゴール(HD) 美和ロック(U9BH,DA) 堀商店(No.1131) ヒンジクローザー ※丁番型 ・内蔵型 押板、とっ手 樹種工業 ユニオン マスターキーについては下記による。 (16.8.4) ・グループ及びグランドマスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ○マスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ・一般キー(マスターキー設置付)のみパネルに整理して提出する。 ・一般キー(マスターキー設置なし)のみパネルに整理して提出する。 ○鍵 箱 既製品 ○20個用 ・60個用 ・120個用 ・ () 12 自動ドア開閉装置 種 別 (16.9.2) (16.9.3) (表16.9.1～4) 開 閉 方 法 引き戸用検出装置の種類 ※引き戸 ※光線センサー ・熱線センサー (性能値は表16.9.1) ・音波センサー ・光電センサー ・多機能トイレル用引き戸 ・電波センサー ・タッチスイッチ (性能値は表16.9.2) ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ ・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による) 13 自閉式上吊り引き戸装置 性能 ※標仕表16.10.1 (16.10.3) (表16.10.1) 14 重量シャッター 形式 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター (16.11.2) ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 (表16.11.1) 外部に面するシャッターの前風圧性能 () N/m ² 防火又は防煙シャッターの危害防止機構 ※「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」に定める基準に適合するもの。 シャッターケース(防火・防煙以外のもの) ・設ける ・設けない ※危害防止装置 開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ○手動式 (16.12.2) (表16.12.1) スラット 材 質 ※塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・ 厚 さ ・0.5 ○0.8 形 状 ○インターロックング形 ・オーバーラッピング形 外部に面するシャッターの耐風圧性能 (600) N/m ² 16 その他のシャッター ・リンググリルシャッター パイプ及びリングの種類 ※ステンレス (SUS 304) ・ ・スライディングドア ・アルミ ・スチール(消防合格品) 17 オーバーヘッドドア セクション材料 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ (16.13.2) ・ファイバークラスタイプ 開閉方式 ※バランス式 ・チェーン式 ・電動式 ガイドレール ※ステンレス鋼板 ・溶融亜鉛メッキ鋼板 耐風圧性能 () N/m ²
	使用法	○可動式 ○固定式 (16.2.3)
	網の材質	防虫網 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ※ステンレス (SUS 316) 製 網 目 ※16～18メッシュ 防虫網 ※ステンレス (SUS 304) 線材 ・
	5 樹脂製建具	外部に面する建具 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.1) コンクリート系下地及び鉄骨下地 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・A種 S-4 ※W-4 ・ ※図示 ・B種 S-5 A-4 ・W-5 ・C種 S-6 木下地 (16.3.2) (16.3.4) (表16.3.2) 種 別 耐風圧性 気密性 水密性 枠見込み(mm) 施 工 箇 所 ・D種 S-2 ※A-4 ※W-3 ・ ※図示 ・E種 S-3 遮音性能 ※T-1 ・T-2 断熱性能 ※H-4 ・H-5 ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.4.2) 気密性 ※A-3 ・ 水密性 ※W-1 ・ 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.4.2による (16.4.4) (表16.4.2) ・簡易気密型ドアセット 適用箇所： (16.5.2) 気密性 ※A-3 ・ 召合せ、縦小口包み板等の材質 (16.5.3) ※鋼 板 ・ステンレス鋼板 ・アルミニウム合金の押出型材 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.5.1による (16.5.4) (表16.5.1) 8 標準型钢製軽量建具 ・製造所の仕様による (16.5.6) 9 ステンレス製建具 ステンレス鋼板 ※SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 (16.6.3) 鋼板の厚さ (mm) ※標仕表16.6.1による (16.6.4) (表16.6.1) 表面仕上 ※H L (16.6.4) 曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (補強あり) (16.6.5) ⑩木製建具 建具材の含水率による種別 (16.7.2) (表16.7.1) ※A種 ・B種 フラッシュ かまち、中骨の樹種 ※標仕表16.7.2による ・標仕表16.7.2のむく材とする 表面材 ※普通合板 ・難燃合板 ○特殊合板 ・MDF ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種 ※接着の程度は、水掛かりを1類、その他を2類とする。 ・かまち戸 かまち () 鏡 板 () ・ふすまの材料 ※標仕表16.7.3 (表16.7.3) ・ふすまの上りの種類 ※新島の子 (押入れ内は雲花紙とする) ・ふすまの縁の仕上げ ※塗り縁(カシュー塗料2回塗り) ・生地縁 (※ウレタンクリヤー塗装 ・素地) ⑪建具用金物 金物の見掛けり部の材質 ※標仕表16.8.1による (16.8.2) (表16.8.1) モノロック ゴール(H) 美和ロック(U9HK) シリンドー箱錠 ゴール(AS) 堀商店(No.1110,1171) 美和ロック(U9HM,MA,LI,LA) シリンドー本締まり錠 ゴール(HD) 美和ロック(U9BH,DA) 堀商店(No.1131) ヒンジクローザー ※丁番型 ・内蔵型 押板、とっ手 樹種工業 ユニオン マスターキーについては下記による。 (16.8.4) ・グループ及びグランドマスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ○マスターキーを製作し、鍵箱に整理し提出する。 ・一般キー(マスターキー設置付)のみパネルに整理して提出する。 ・一般キー(マスターキー設置なし)のみパネルに整理して提出する。 ○鍵 箱 既製品 ○20個用 ・60個用 ・120個用 ・ () 12 自動ドア開閉装置 種 別 (16.9.2) (16.9.3) (表16.9.1～4) 開 閉 方 法 引き戸用検出装置の種類 ※引き戸 ※光線センサー ・熱線センサー (性能値は表16.9.1) ・音波センサー ・光電センサー ・多機能トイレル用引き戸 ・電波センサー ・タッチスイッチ (性能値は表16.9.2) ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ ・凍結防止措置 (適用箇所は建具表による) 13 自閉式上吊り引き戸装置 性能 ※標仕表16.10.1 (16.10.3) (表16.10.1) 14 重量シャッター 形式 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター (16.11.2) ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉形式 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 (表16.11.1) 外部に面するシャッターの前風圧性能 () N/m ² 防火又は防煙シャッターの危害防止機構 ※「防火区画に用いる防火設備等の構造

[illegible]

設 計 概 要	
建 築 主	四日市市長
建築主住所	四日市市諏訪町1番5号
工 事 場 所	四日市市 城西町8-11 の一部
敷 地 面 積	289.80 m 2
用 途 地 域	準住居地域
床 面 積	車庫 93.98 m 2・カーポート 12.12m2・ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ 物置 3.20m2 合計 109.30m2
建 築 面 積	車庫 47.81 m 2・カーポート 12.12m2・ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ 物置 3.20m2 合計 63.13m2
最 高 軒 高	7.200 m
最 高 高 さ	7.370 m
構 造	車庫建物部分 鉄骨造2階建て
	ホース乾燥塔：コンクリート製既製品
	カーポート：アルミ既製品・プロバン庫：スチール製 プレハブ既製品
設 備	機械設備・電気設備
工 事 範 囲	分団車庫新築
別 途 工 事	

敷 地 求 積 図	
	$24.15 \times 12.00 / 2 = 144.90$$24.15 \times 12.00 / 2 = 144.90$$= 289.80$ 敷地面積 289.80m 2

求 積 図	
車庫 	カーポート  床面積、建築面積 5.052 x 2.40=12.12m2
	ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ 物置  床面積、建築面積 1.79 x 1.79=3.20m2
	プロバン庫  ※奥行1.0m以下の為、非建築物扱いとなる

外部仕上表					
屋 根	ルーフデッキ カラーガルバリウム鋼板 t=0.8 H=85 (告示 不燃材料) 不燃断熱材 t=5裏打ち (屋内)	樋	軒樋：硬質塩ビ製 W=130 縦樋：硬質塩ビ製 カラーVP 100φ	その他	カーポート 三協立山㈱ 三協7㍻社 エクオーレNex 5124タイプ ㈱LIXIL フーゴ R袖壁 1台用 基本仕様 24ー50型 四国化成工業㈱ ハ'リュ-ホ-ﾄR基本タイプ VPRN-V-2450 各社同等品
外 壁	角波カラーガルバリウム鋼板 t=0.5 透湿防水シート ケイカル板 t=6 下地 水切金物：カラーガルバリウム鋼板 t=0.5	断熱材	屋根：グラスウールt=50 24kg/m 3 外壁・内壁：グラスウールt=50 24kg/m 3 範囲は平面詳細図による		ﾌﾞﾚﾊﾞ'物置 ㈱淀川製鋼所 ヨﾄ物置 LMD-1818 ㈱稲葉製作所 イﾅﾊﾞ物置 FS-1818S 各社同等品
外 部 巾 木	モルタル金ゴテ仕上げ G L +300	庇	カラールーフデッキ t=0.8 H=85 (告示 不燃材料)		ﾌﾞﾛﾊﾞﾝ庫 (株) ﾎｸｴｲ B N-100ST (ｼｰｴﾙｻｲｴﾝｽ (株) B N-200D 高橋産業 (株) ﾀﾞｲ ﾔ ﾔ C-502 X S型 各社同等品
外 部 階 段	踏板：C H P L-6 D P 手摺：アルミシルバー				
建 具	アルミサッシ鉄骨用サッシ 軽量バランスシャッター				

内部仕上表								
室名	床	巾木	壁	天井		廻縁	備考	
1階車庫	コンクリート金ゴテ仕上げ	コンクリート打放し	鉄骨鋼縁表しのまま S O P	デッキプレート表し (亜鉛メッキ)	CH=3800		鉄骨見え掛かり 全てSOP	
			一部ケイカル板 t=6.0素地 (縦方向のみアルミジョイナー押え)				ホース棚、コート・ヘルメット掛け (22ケ x 4 段) ・車止め	
1階便所	50角モザイクタイル	タイル巾木	LGS W 50下地 + 耐水PB t=12.5 下地 クロス貼り	軽量鉄骨天井下地 化粧PB t=9.5	CH=2350	塩ビ製	棚板・ビクトサイン、腰壁：7/8製見切り	
			FL+1060まで 100角タイル貼り					
2階待機室	コンクリート金ゴテ仕上げ	塩ビ製巾木 H=100	LGS W 65 (一部LGS W 90) +耐水PB t=12.5 下地 クロス貼り (仕上げ下地共譜面)	軽量鉄骨天井下地 化粧PB t=9.5	CH=2600	塩ビ製	ビクチャーレール (7ヶ2か所程度)、アルミ枠ホワイトボード 750 x 900 (後付け)	
	一部 木床組下地 複合フローリング貼り t=15 (塗装品)	一部 木製巾木 H=60	流し前 : LGS W 65+耐水PB t=12.5 下地 化粧ケイカル板 t=6貼り (7/8ジョイナー使用)	(不燃)			流し台 L=1200程度及びガス台 L=600 (レンジフードと吊戸棚付き)	
2階和室14帖	木床組下地タタミ敷き	タタミ寄せ	LGS W 65+PB t=12.5 下地 ジュラク調クロス貼り	軽量鉄骨天井下地 PB t=9.5+木目調7/8貼	CH=2400	木製	ビクチャーレール (7ヶ合計7か所程度)	
	一部板の間部分 木床組下地 複合フローリング貼り t=15 (塗装品)						横型ブラインド (正面付け)	
2階便所	木床組下地 ビニル床シート t=2.0 (防汚防滑仕様)	塩ビ製巾木 H=100	LGS W 65の上 PB t=12.5下地 クロス貼り	軽量鉄骨天井下地 化粧PB t=9.5	CH=2300	塩ビ製	ビクトサイン、面台 (ポリ合板フラスコ)	
共通事項	2階スラブ : デッキプレート H=50の上コンクリート t=60金ゴテ仕上げ		クロス (AA級) : 準不燃 防火2級 (N M -3991)	化粧ケイカル板 t=6 : 不燃 (N M -8579)	ケイカル板 t=6 : 不燃 (N M -9029)	S O P : 準不燃 (Q M -9816)		
	木材 : 見え隠れ、車庫棚-杉特1等、見え掛かり-上がり框・棚框・その他 : 杉小		木部塗装 上がり框、建具額縁 (敷居部分は除く)、床見切、巾木のみUC塗装		内部 塗装 : 鉄部見え掛かり部 S O P 塗装、その他錆止め塗装			

特記事項		No. A-05	
壁：PB t=12.5・耐水PB t=12.5：不燃【N M -8619】	・吹き付け石綿及び吹き付けロックウール等の建築材料は使用しないこと。	常磐分団車庫改築工事	
壁：PB t=9.5：準不燃【Q M -9828】	・建材全て【F☆☆☆☆】とする。	R 7 年 1 月	
天井：化粧石膏ボード t=9.5：不燃【N M -1864】（待機室）	・ビニル床シート：ロンシール サニタリウム、タキロンマテックス ネオグリーン、東リ 消臭NSトリレ 各社同等以上	概要書、仕上表	
		scale	
		株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治	

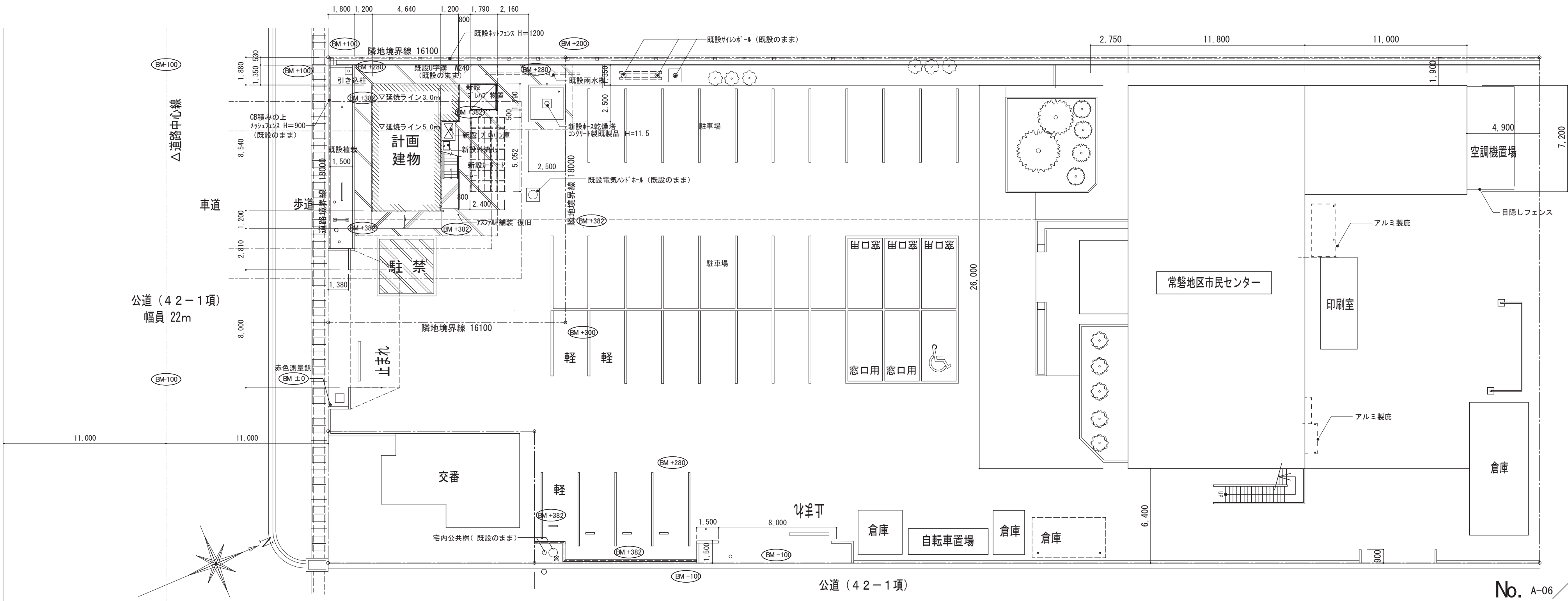


付近見取図



< 工事手順 >

1. 分団車庫 [新築]
- ↓
2. 消防団引っ越し (2週間程度)
- ↓
3. 既設分団車庫 [解体]
- ↓
4. 解体後外構工事



※計画建物に接する地盤面は全て 設計G L ±0 (KBM+380)
※開発行為にかかわる敷地の切土盛土はありません。
※道路斜線の検討
前面道路22.0m*1.25倍=27.5m>計画建物最高高さ 7.32m

配置図 S=1/200

No. A-06

常磐分団車庫改築工事		令和 7 年 1 月
付近見取図・改修後配置図		
scale	A2-1: 200	A3-1: 284

屋根伏図 S=1 : 100

2階平面図 S=1 : 100

1階平面図	S=1 : 100
-------	-----------

1階車庫部分面積
 $8.54 \times 4.64 - 0.6 \times 2.4 = 38.19 \text{m}^2$

階	面積 (A)	消防法有窓無窓チェック		A/30
1階	1階床面積 8.54*4.64+1.2*2.4 =42.51	東側 SS-1 3.0*3.0=9.0 北側 AD-1 0.9*2.0=1.8 10.8	>	1.417
2階	2階床面積 8.54*4.64 =39.63	東側 AW-3 1.7*1.2/2=1.02 北側 AD-3 0.8*2.0 =1.6 2.62	>	1.321

室 名	面積(A)	採 光 計 算	A / 20	排 煙 計 算	A / 50	換 気 計 算	A / 20
2階 和室 14帖	6.33*4.64 =29.3712	東側 AW-3 1.7*1.2= 2.04	> 1.4686	北・東側 AW-3 1.7*0.4/2*2= 0.68	> 0.5874	北・東側 AW-3 1.7*1.2/2*2= 2.04	> 1.4686
2階 待機室	3.74*2.21 =8.2654	西側 AW-4 1.02*0.7= 0.714	> 0.4132	排煙告示1436.4.ニ.4		北、西側 AD-3 0.8*2.0= 1.6 AW-4 1.02*0.7/2= 0.357 1.953	> 0.4132

アルミ製屋外掲示板仕様
引き違い扉、鍵付き、金具ビス固定 サイズ H820 W1070程度
杉田エース ルックコーナー壁掛型 WHN10-08 同等品程度
※施工に先立ち施工図を提出し、監督職員の承認を得ること

東立面図 S=1:100

南立面图 S=1:100

西立面图 S=1:100

北立面图 S=1:100

断面图 A S=1:100

断面图 B S=1:100

シヤッタ一部 文字カッティングシート

縦 24 c m、横22cm-黒文字

四日市市消防団
常磐分団
車庫前駐車禁止

縦 19 c m、横 18 c m-赤文字

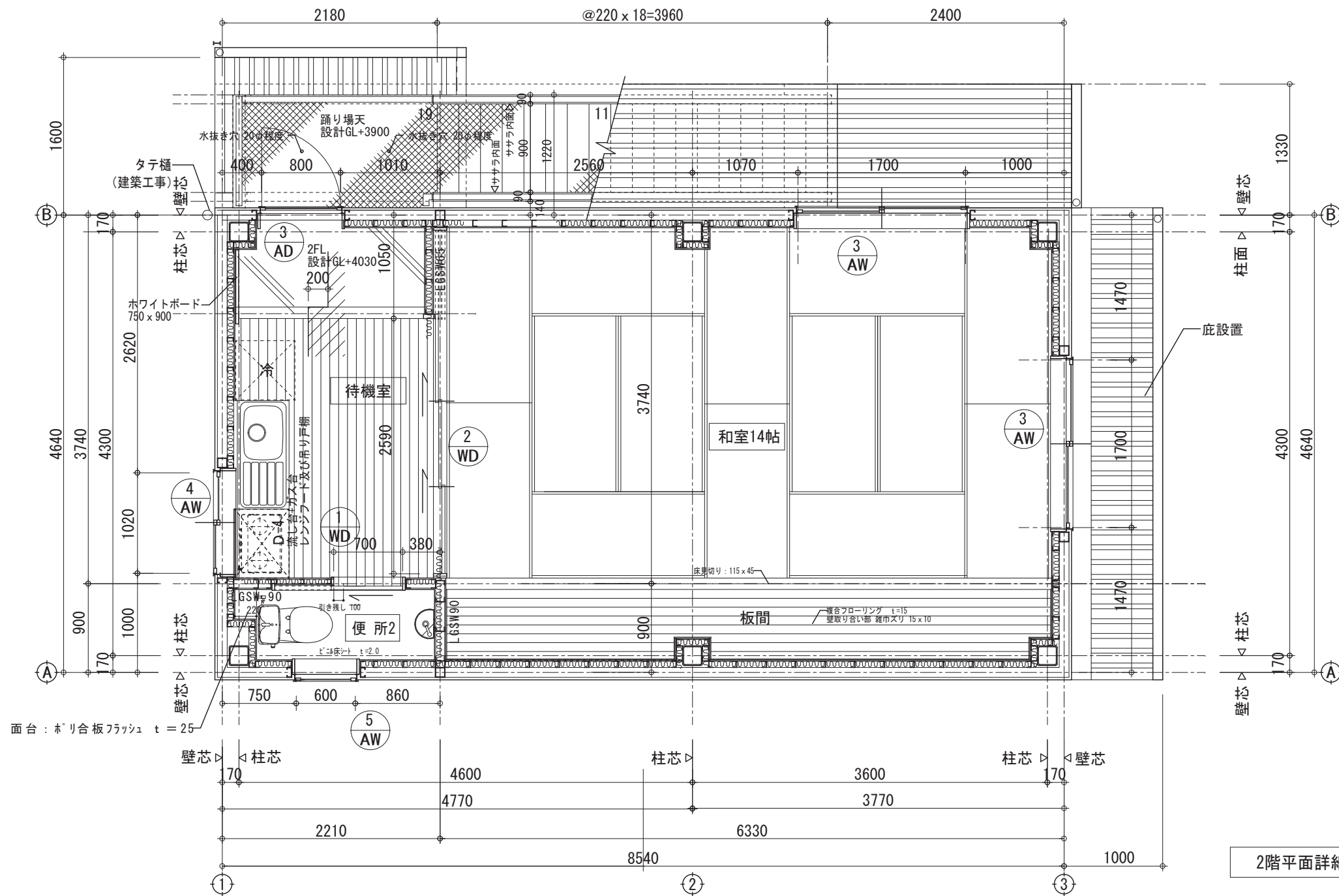
No. A-07/

常磐分団車庫改築工事	R 7 年 1 月
------------	-----------

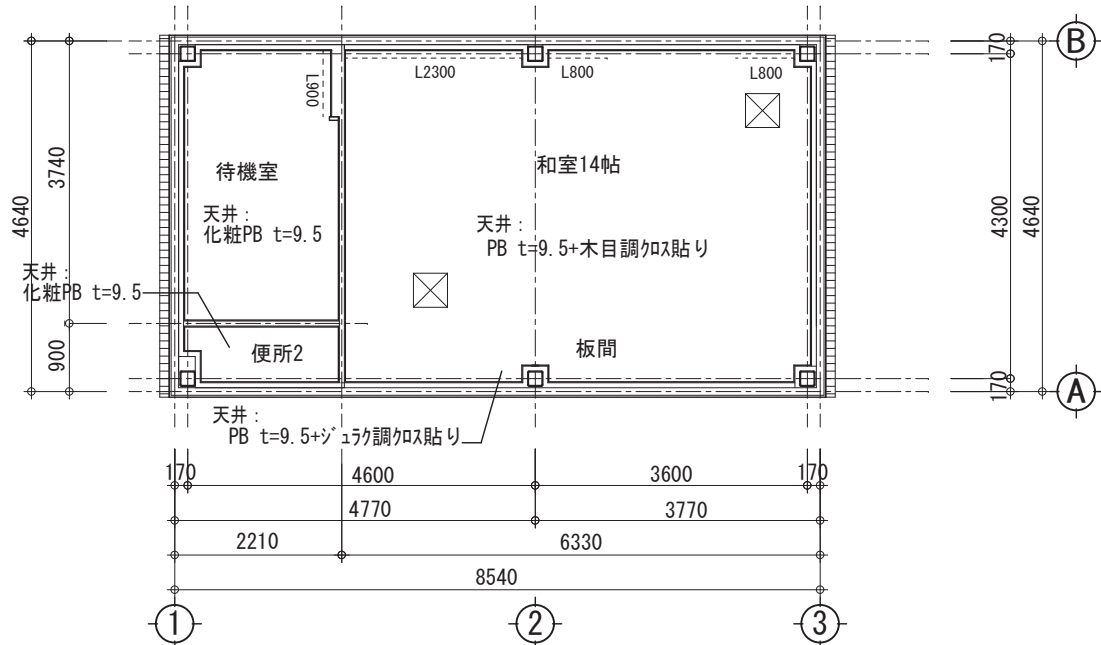
平面图·立面图·断面图

scale (A2) S=1: 100 (A3) S=1: 142

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治

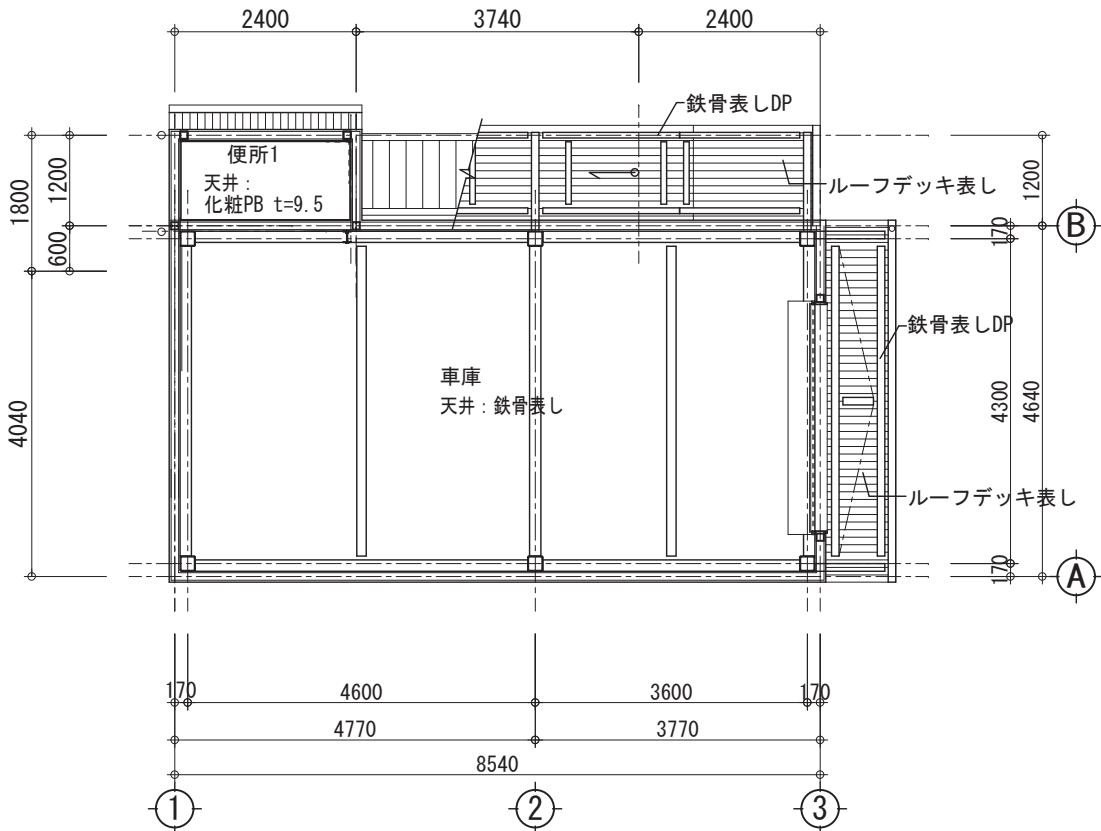


2階平面詳細図 S=1:50

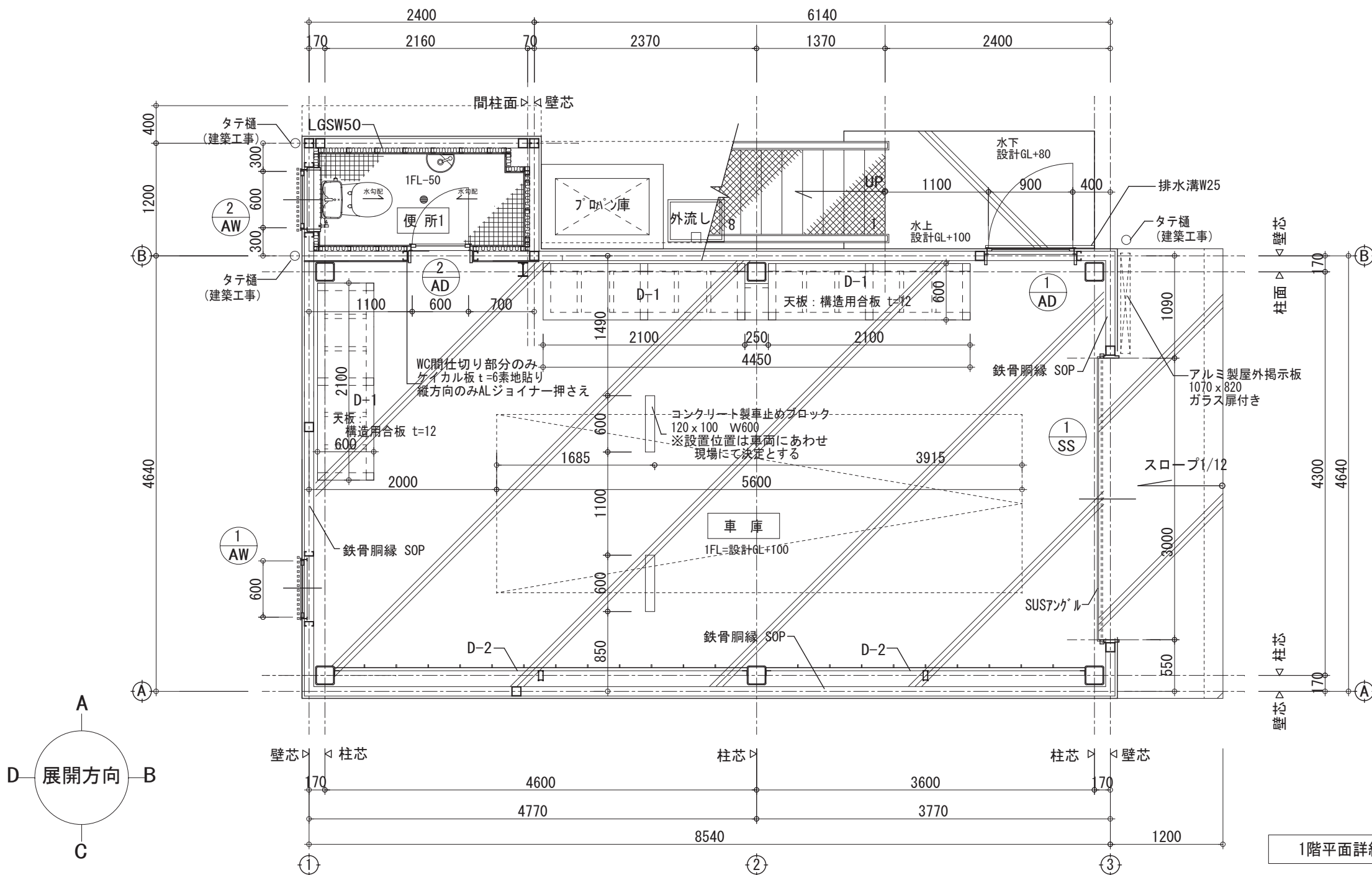


2階天井伏図 S=1:100

☒ アルミ終天井点検口
450 x 450を示す
----- ビクチャーレールを示す
アルミ製 フック各 計 9箇所程度



1階天井伏図 S=1:100



1階平面詳細図 S=1:50

特記事項

- ※設置する機械換気設備は全て、単相の送風機とする
- ※待機室に設置する給湯設備について、流し台での湯沸程度の給湯設備とする
- ※1階車庫内部は換気空調設備などを設けず、外部と同等の室内環境である

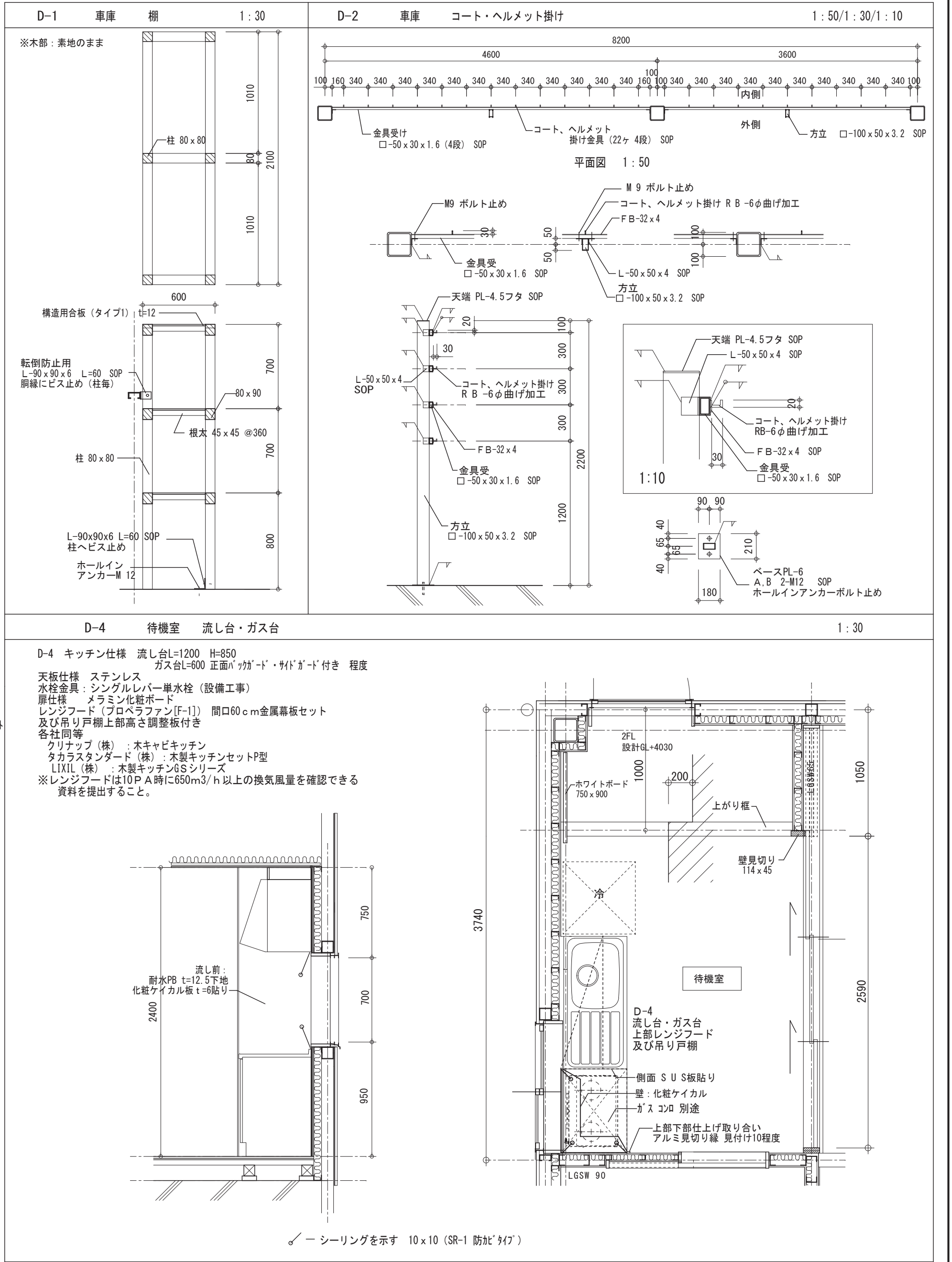
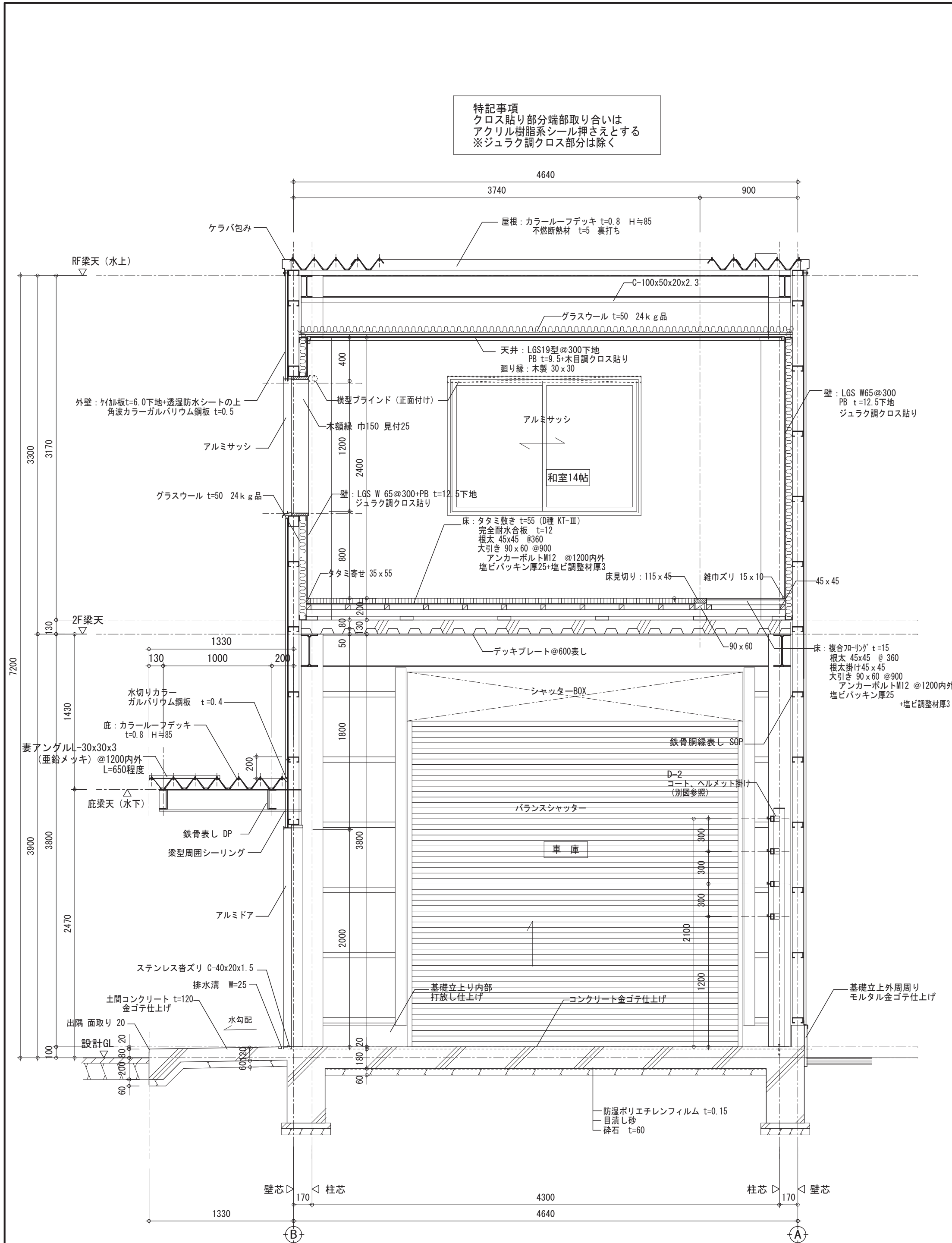
No. A-08

常磐分団車庫改築工事 R 7 年 1 月

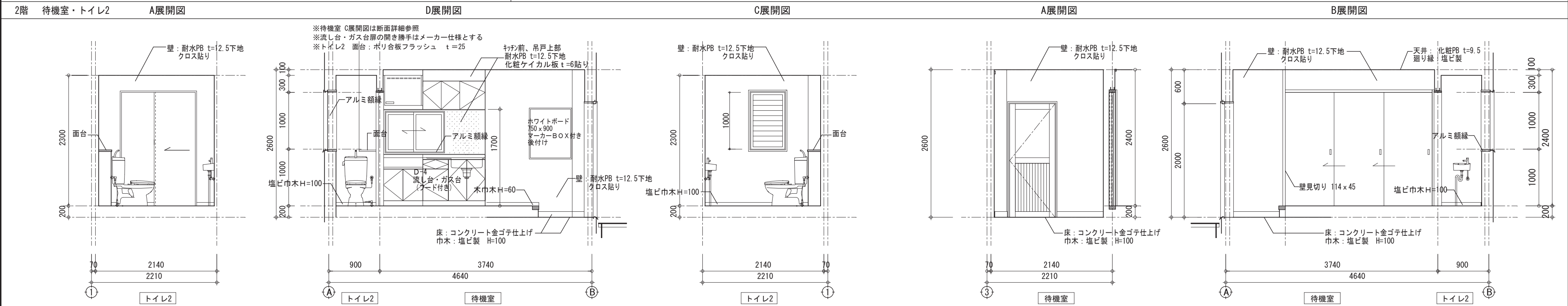
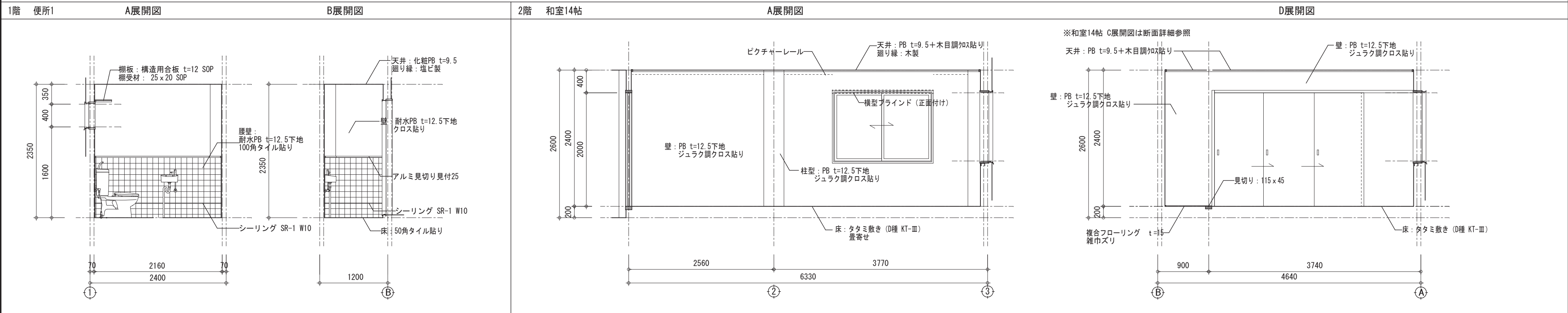
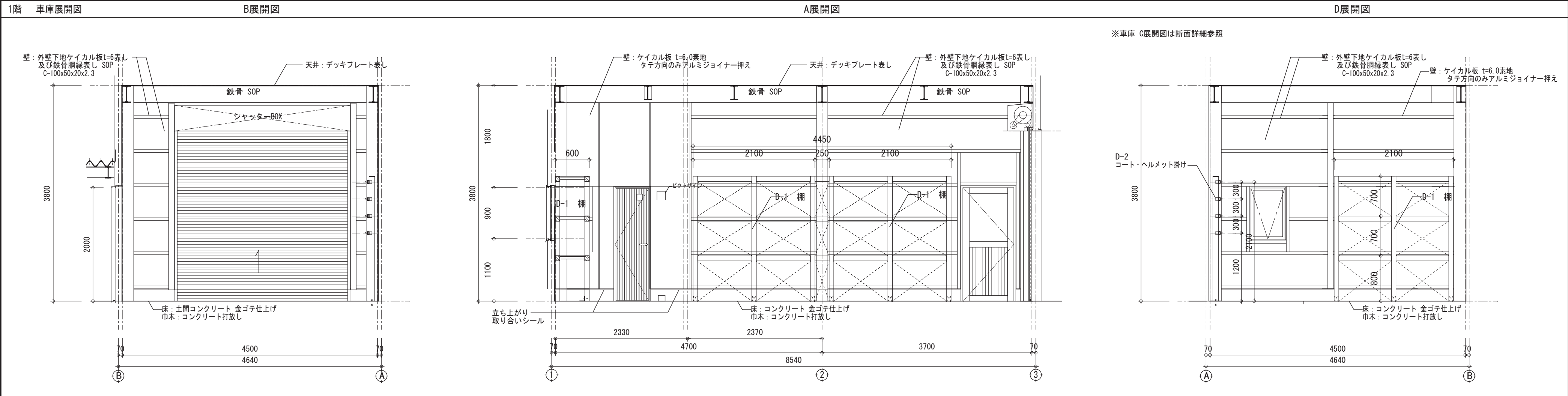
平面図詳細図
天井伏図

scale (A2)S=1: 50・100 (A3)S=1: 71・142

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治



No. A-09

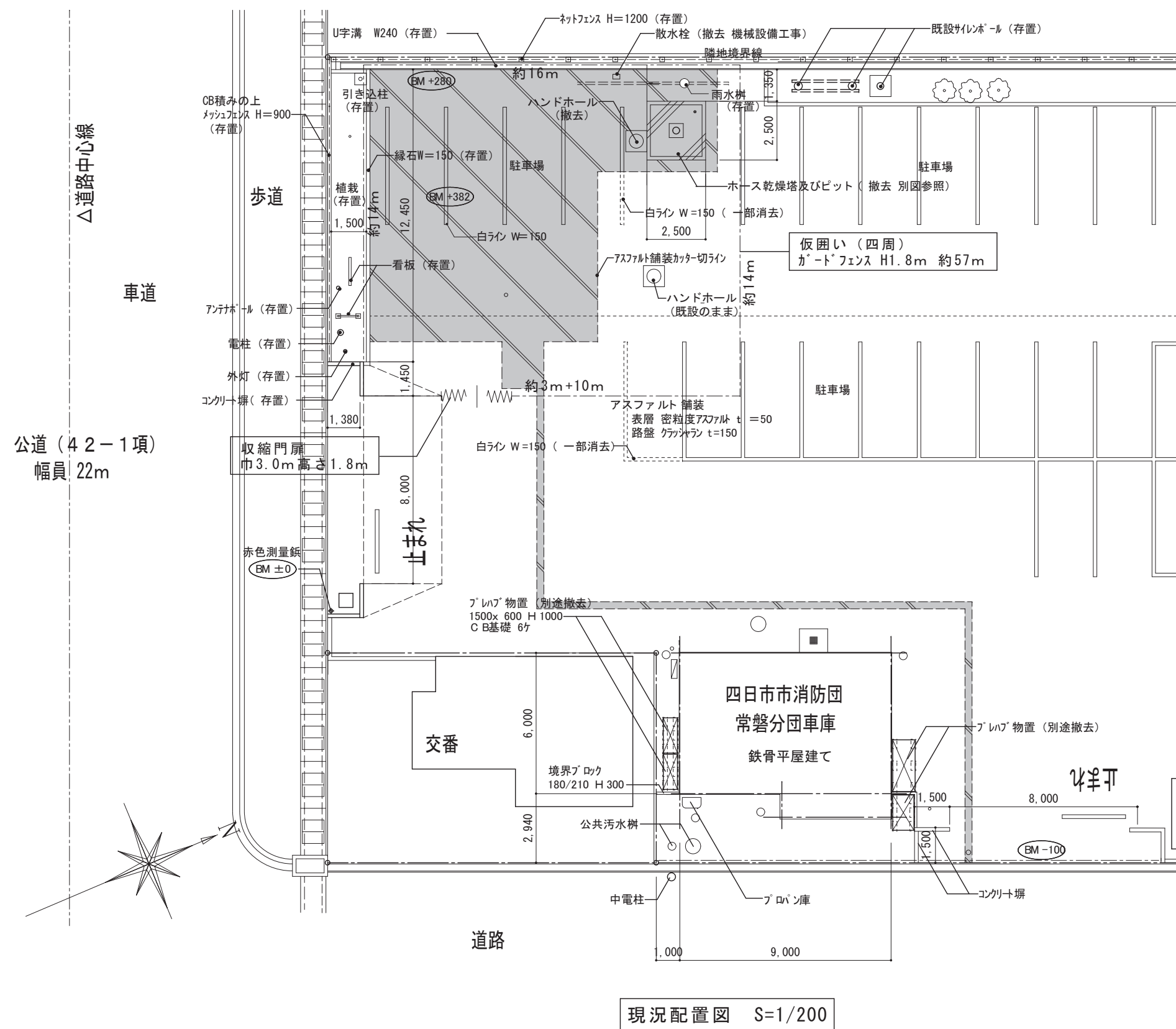


ピクトサイン仕様
表示板 7715板 t=5 白 UV印刷 150×150 平付け
杉田エース 国土交通省ピクト 平付け FI-15同等品

建具表

記号/数量	AD-11箇所	AD-21箇所	AD-31箇所	AW-11箇所	AW-21箇所	AW-32箇所
場 所	1階 車庫	1階 トイレ1	2階 待機室	1階 車庫	1階 便所	2階 和室
形 式	片開きドア	片開きドア	片開きドア	内倒し窓	内倒し窓	引き違い窓
姿 図						
見込・枠/建具	W900 x H2000 見込み70	W600 x H2000 見込み70	W800 x H2000 見込み70	W600 x H900 見込み70	W600 x H400 見込み70	W1700 x H1200 見込み70
材 質/仕 上	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー	アルミシルバー
ガ ラ ス	網入り型板ガラス t=6.8	強化型板ガラス t=4.0	網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.8
額/沓摺・型式	アルミ額縁/SUS製沓ズリ t=1.5	アルミ額縁/SUS製沓ズリ t=1.5	アルミ額縁/SUS製沓ズリ t=1.5	アルミ額縁	アルミ額縁	木額縁
金 物	SUS3枚丁番・ドアチェック (ストッパー付き) シリンダーサムターン錠、レバーハンドル	SUS3枚丁番・ドアチェック (ストッパー付き) 表示錠、レバーハンドル、アンダーカット加工	SUS3枚丁番・ドアチェック (ストッパー付き) ・戸当り シリンダーサムターン錠、レバーハンドル	付属金物一式、SUS製網戸、アルミ製タテ格子付き	付属金物一式、SUS製網戸、アルミ製タテ格子付き	クレセント・戸車・SUS製網戸
備 考	アルミパネル t=3.0	アルミパネル t=3.0	アルミパネル t=3.0			
記号/数量	AW-41箇所	AW-51箇所	SS-11箇所	WD-11箇所	WD-21箇所	
場 所	2階 待機室	2階 トイレ2	1階 車庫	2階 トイレ2	2階 和室	
形 式	引き違い窓	ルーバー窓	手動式 軽量バランスシャッター	片引きフラッシュ戸	3本引き込みフラッシュ戸	
姿 図						※和室側
見込・枠/建具	W1020 x H700 見込み70	W600 x H1000 見込み70	W3000 x H3000	W700 x H2000 ドア見込み36	W2590 x H2000 ドア見込み36	
材 質/仕 上	アルミシルバー	アルミシルバー	スチール・カラー鋼板スラットt=0.8	木製・ポリ合板 t=4 (両面)	木製・ポリ合板 t=4 (両面)	
ガ ラ ス	網入り型板ガラス t=6.8	網入り型板ガラス t=6.8				
額/沓摺・型式	アルミ額縁	アルミ額縁		木製 UC塗装	木製 UC塗装	
金 物	付属金物一式、SUS製網戸	付属金物一式、SUS製網戸	付属金物一式・3方化粧枠 (スチール t=1.6 DP) 鍵、フック棒、ガイドレール、ケース: カラー鋼板、マグサはSUS	SUS製表示錠付き 引き手、引き戸金物一式、	SUS製引き手、平車	
備 考			文字カッティングシート貼り	化粧縁 桧 t=6.0 (UC塗装)	化粧縁 桧 t=6.0 (UC塗装)	

特記事項
建具廻りは全てシーリングとする (MS-2 W=10)



凡例

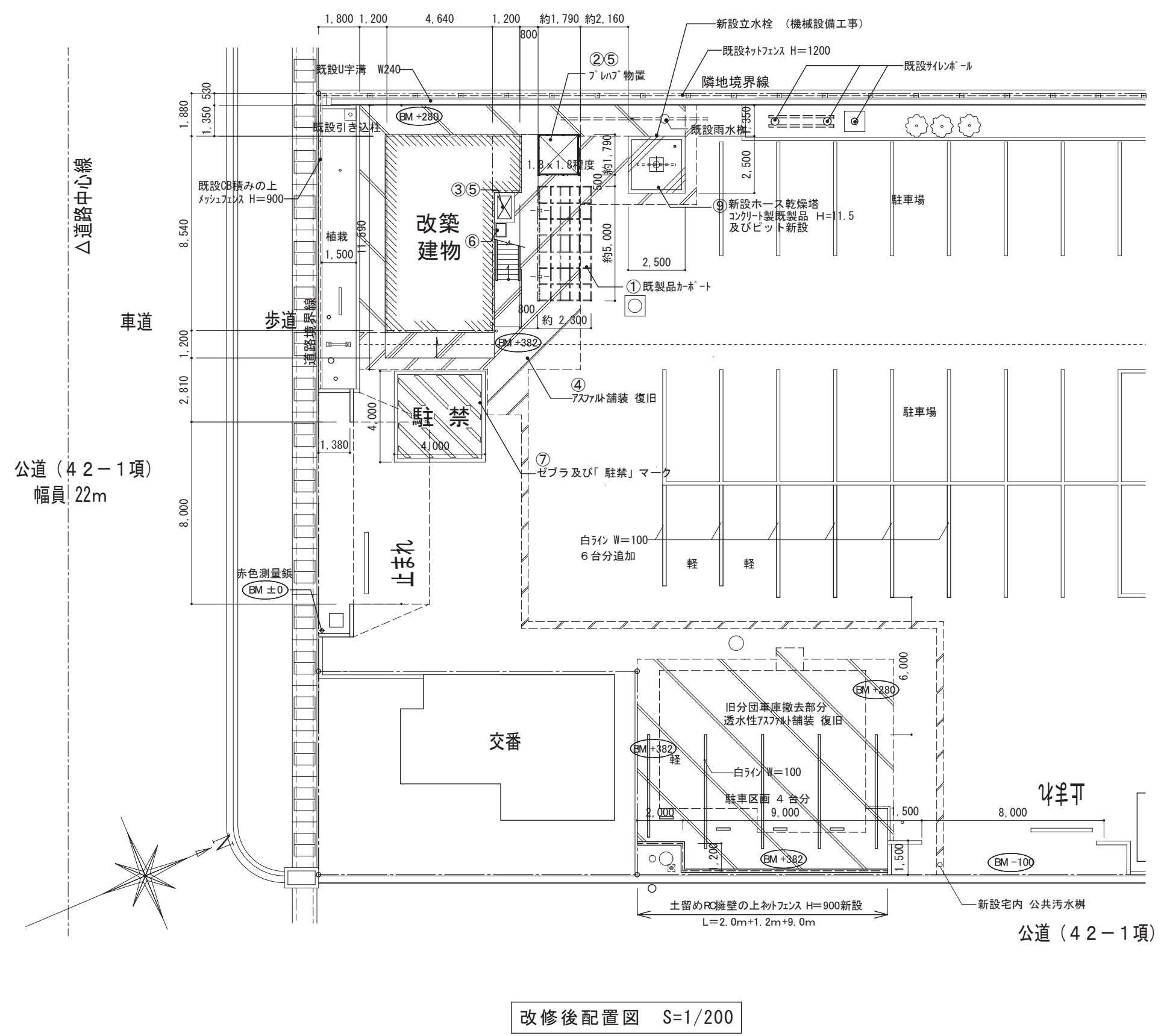
特記無き限り
—既設工作物・アスファルト舗装、
土間コンクリート、撤去範囲を示す

注意事項)

○解体工事に伴い既存のままとする 全ての構造物に影響を与えないよう十分に養生を行い、損傷を与えぬよう注意すること。

○埋設配管の為の舗装撤去範囲については、設備工事と調整のこと

○ラップルコンクリート等土工事の施工に際しては西側、南側に土留めを計画し、監督職員の承諾を受けてから施工すること。（参考：軽量鋼矢板 t=5 15.8㎡程度）



外構工事リスト

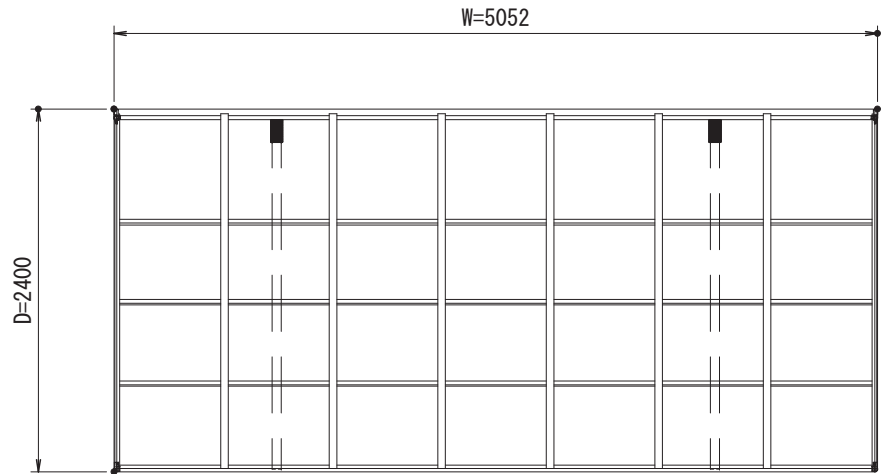
- | | |
|---|---|
| ① | 既製品ﾌﾟﾗﾝｸｰﾄ |
| ② | 既製品ﾌﾞﾚｲﾌﾞ倉庫 |
| ③ | 既製品ﾌﾞﾛｯｸ倉庫 |
| ④ | ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装
 ー透水性ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（開粒度ｱｽｺﾝ混合物 t=50, 路盤 RC-40 t=150, ﬁﾙﾀｰ層用砂 t=50）
 ーｱｽﾌｧﾙﾄ舗装（蜜粒度ｱｽｺﾝ混合物 t=50, 路盤 RC-40 t=150） |
| ⑤ | ﾌﾞﾚｲﾌﾞ物置・ﾌﾞﾛｯｸ庫部分 コンｸﾘｰﾄ基礎 |
| ⑥ | 既製品外流し設置（機械設備工事） |
| ⑦ | ゼブラマーク ライン引き 4.0m x 4.0m |

No. A-14 /

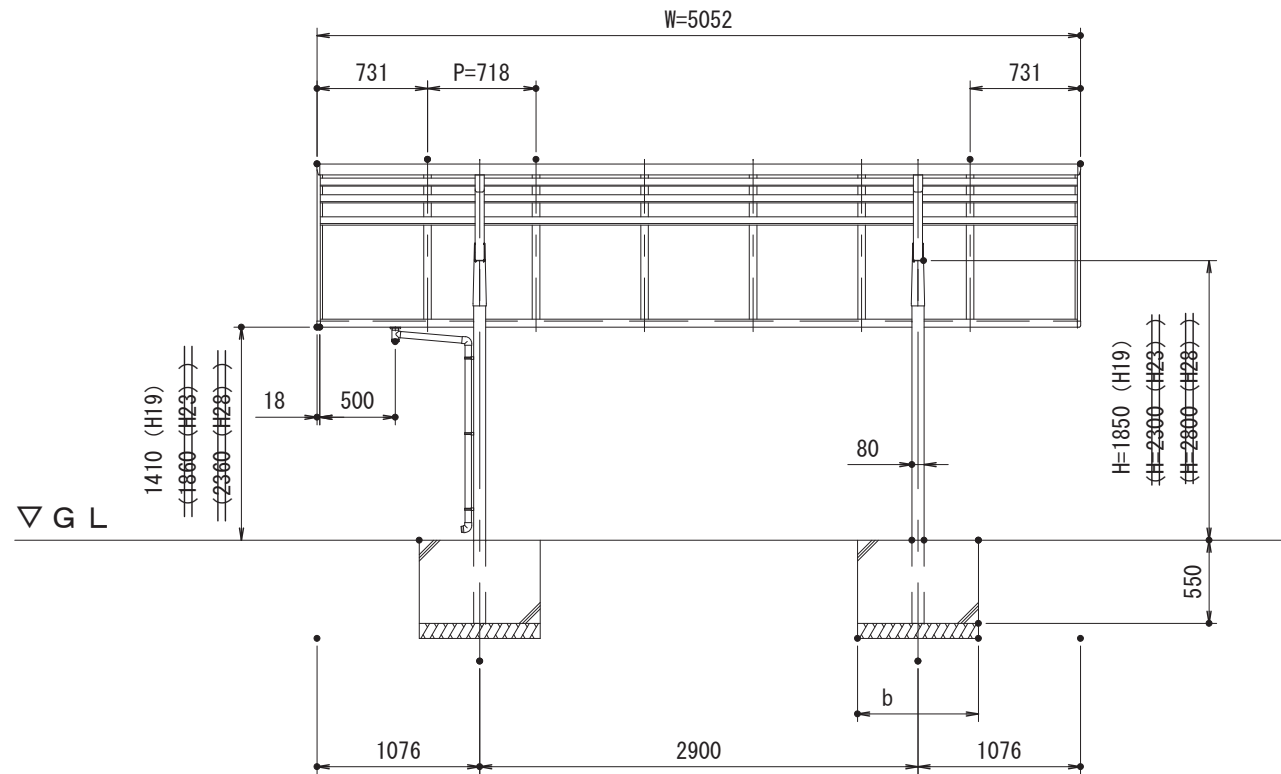
常磐分団車庫改築工事			令和 7 年 1 月
外構配置図			
scale	A2-1: 200	A3-1: 284	
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治			

① アルミカーポート

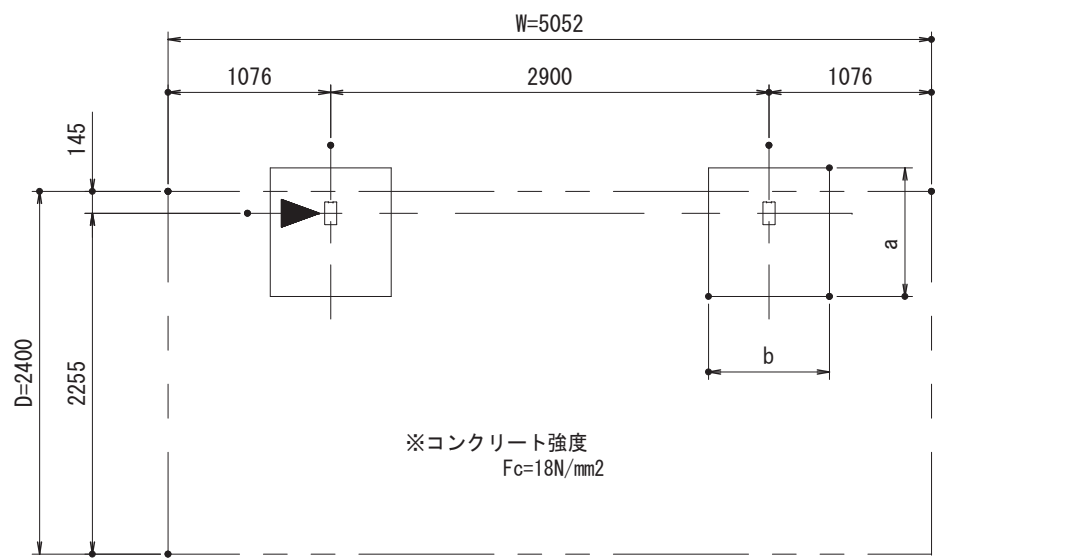
平面図 (S = 1 / 5 0)



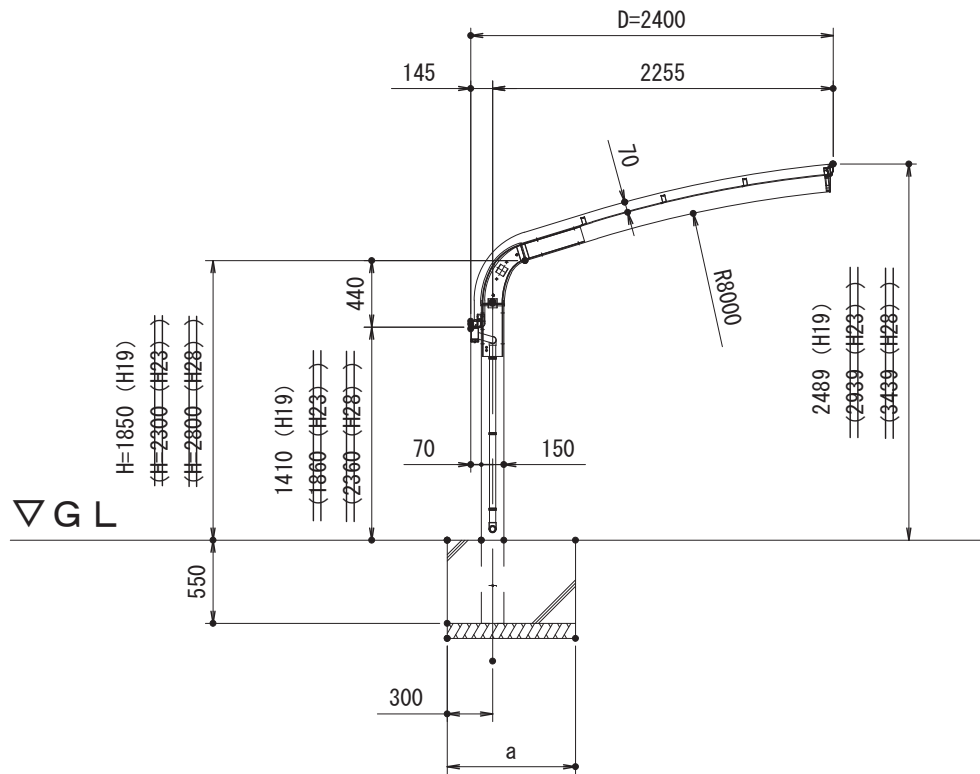
立面図 (S = 1 / 5 0)



柱・基礎位置図 (S = 1 / 5 0)



側面図 (S = 1 / 5 0)



基礎寸法表

長期地耐力 (KN/m ²)	a (mm)		b (mm)
	H19, H23	H28	
30	1350	1450	1100

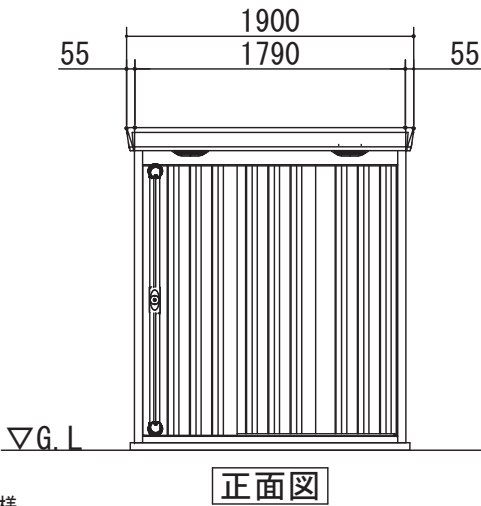
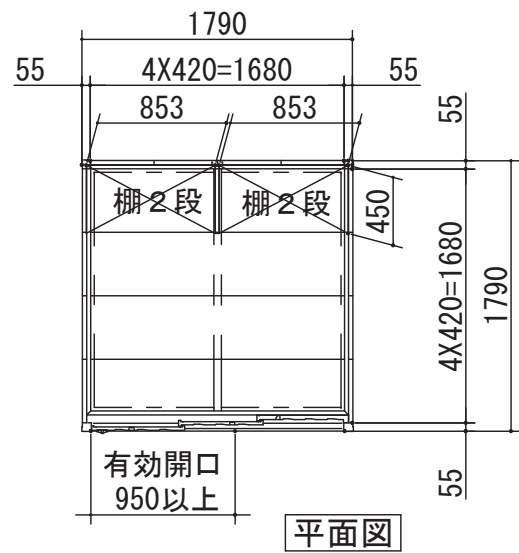
※既製品 カーポート

三協立山㈱ 三協7㌔社 エクオーレNex 5124タイプ
㈱LIXIL フーゴ R袖壁 1台用 基本仕様 24-50型
四国化成工業㈱ バリホー-R基本タイプ VPRN-V-2450 各社同等品

参考図

屋根材 ポリカーボネート板 DR認定品

② プレハブ物置



※既製品 プレハブ物置

㈱稲葉製作所 イナバ物置 FS-1818S
㈱淀川製鋼所 ヨド物置 LMD-1818 各社同等品以上

品番	部 品 名	材料 (材質)	板厚 (mm)
1	土台取付板	SGMH400 K27	2.3
2	土台	SGC400 F12	1.2
3	根太	SGCC F12	1.2
4	柱	SGC400 F12	1.2
5	壁パネル	なし	
6	鴨居	SZAC400 Y10	1.0
7	桁後	SZAC400 Y10	1.0
8	妻板左右	SZAC400 Y10	0.7
9	鼻隠シ前後	SZACC Y10	0.7
10	屋根パネル	SZAC400 Y10	0.5
11	母屋中 (1790mm)	一輪型 多量型 兼量型	SGC400 F12 1.2
12	壁パネル	SGC400 F12	0.6 (0.7)
13	正面パネル	SGC400 F12	0.7
14	扉	SGCC F12	0.8
15	網板	SGCC F8	0.6
16	アンカープレート	SGHC F12	2.3

SGMH400: 溶融亜鉛7%以上付メッキ鋼板 (JIS B 3322)
SGC400, SGCC, SGHC: 溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS B 3322)
SZAC400, SZACC: 溶融亜鉛-5%7%以上付メッキ鋼板 (JIS B 3317)
SGCC: 電気亜鉛めっき鋼板 (JIS B 3313)

・ () 内はH高さを示す。

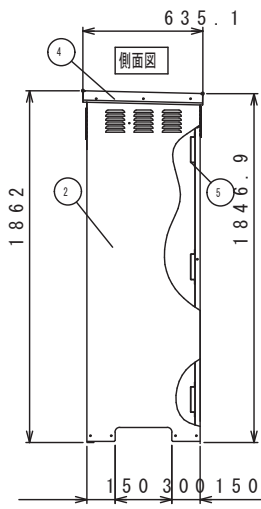
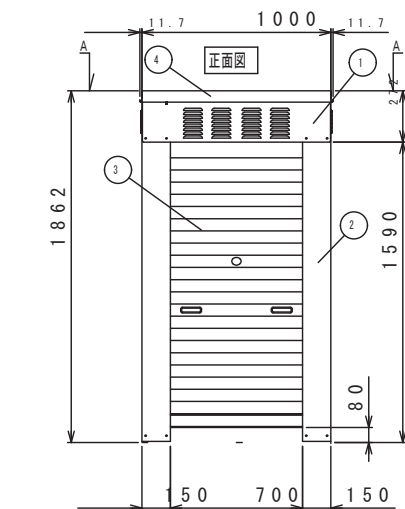
共通仕様

- ・床面積3.2m²以上
- ・有効開口950以上
- ・屋根: JIS G 3322 不燃認定番号: NM-8697
塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板
- ・原: 引戸又は引分戸 (t=0.8以上)
- ・棚板2段以上
- ・コンクリート基礎に7か所留め

この図面は参考図であり仕様を限定するものではない。
施工に先立ち施工図を提出し監督員の承認を得ること。

参考図

③ プロパン庫



※既製品 プロパン庫

(株)ホクエイ BN-100MT
ジーエフケイエス (株) BN-200D
高橋産業 (株) UTC-502XS型
各社同等品 (機械設備工事)

参考図

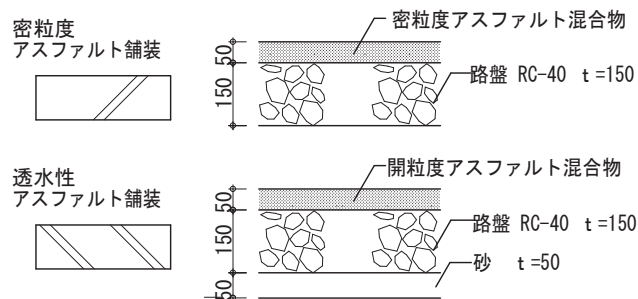
既製品・機械設備の品名 (参考→FMSエレクトロニクス系の機器・金庫等)					
7	防犯灯	24W	1	1.5段設置メッキ	※
6	防犯灯	24W	1	1.5段設置メッキ	※
5	網板	3000	1	1.5段設置メッキ	※
4	扉板	24W	1	1.5段設置メッキ	※
3	シャッター	3000	1	1.5段設置メッキ	※
2	金	3000	1	1.5段設置メッキ	※
1	扉板	3000	1	1.5段設置メッキ	※

※ 参考用 7700-8100
※ 参考用 7700-8100

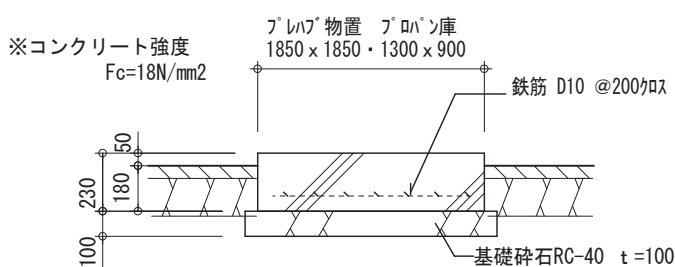
品 名	材 質	規 格	備 考
7	防犯灯	24W	1.5段設置メッキ
6	防犯灯	24W	1.5段設置メッキ
5	網板	3000	1.5段設置メッキ
4	扉板	24W	1.5段設置メッキ
3	シャッター	3000	1.5段設置メッキ
2	金	3000	1.5段設置メッキ
1	扉板	3000	1.5段設置メッキ

※ 参考用 7700-8100
※ 参考用 7700-8100

④ アスファルト舗装



⑤ プレハブ物置・プロパン庫基礎



⑥ 既製品外流し設置 (機械設備工事)
タキロンシーアイ (株)
研ぎ出し流し埋め込みタイプ 650-U型同等品程度

⑦ ゼブラマークライン引き

ゼブラマーク ライン引き 4.0m x 8.3m
(黄色 W100 @700程度) 文字「駐禁」書き込み1000角程度
仕様: 路面表示用塗装常温型 JIS-K5605 2種
ガラスビーズ (JIS-R3301) 散布

No. A-15

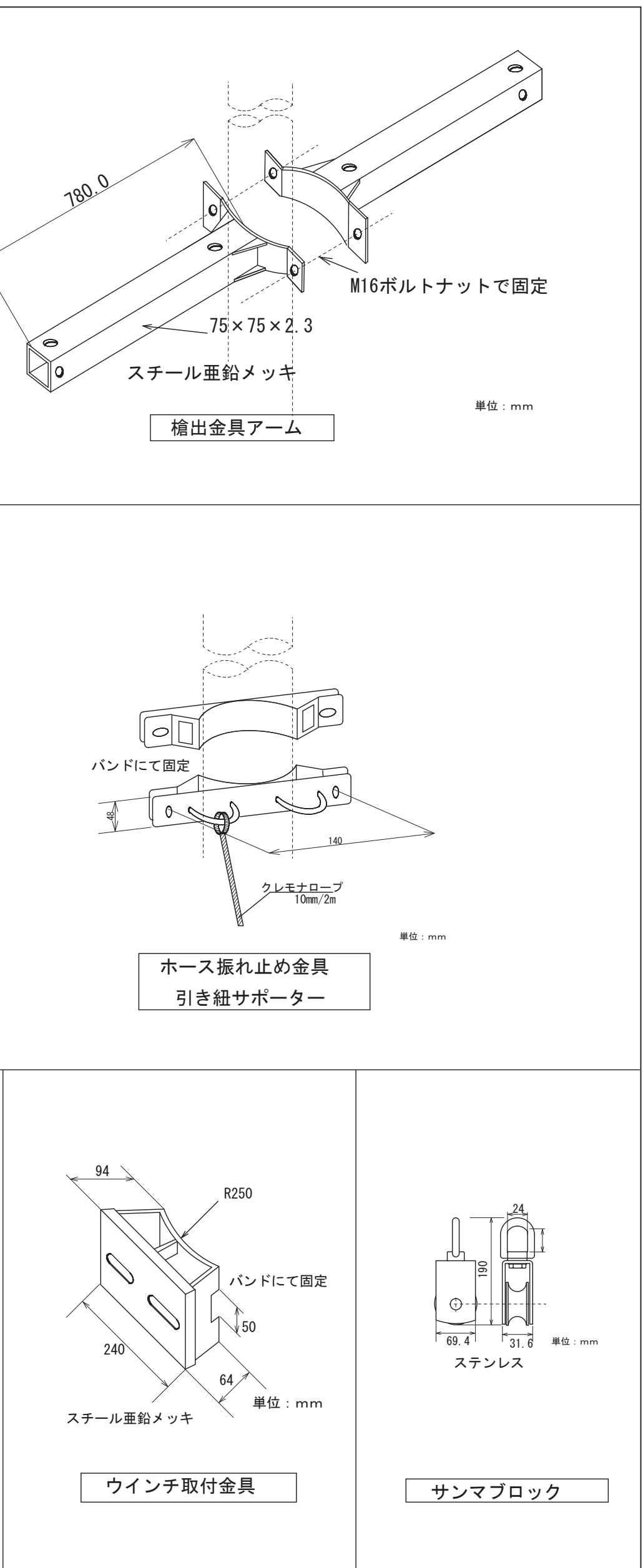
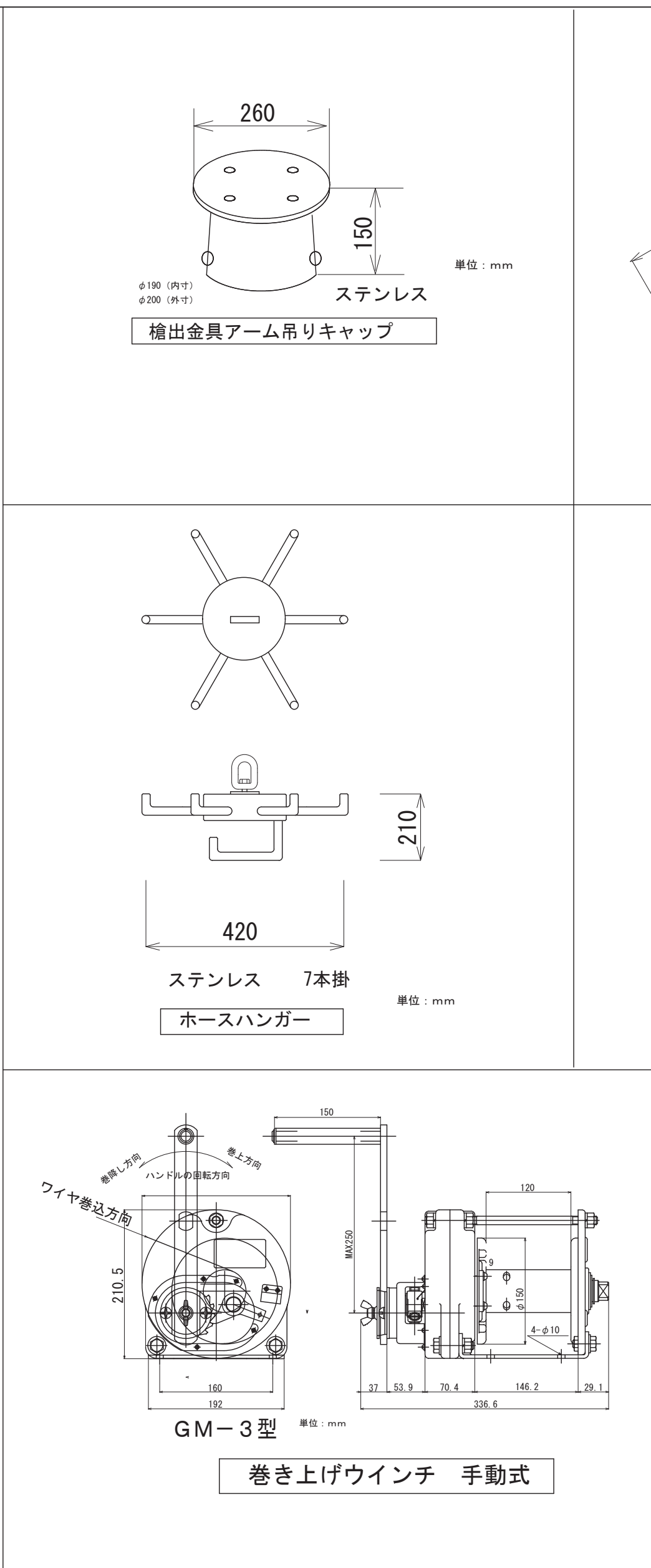
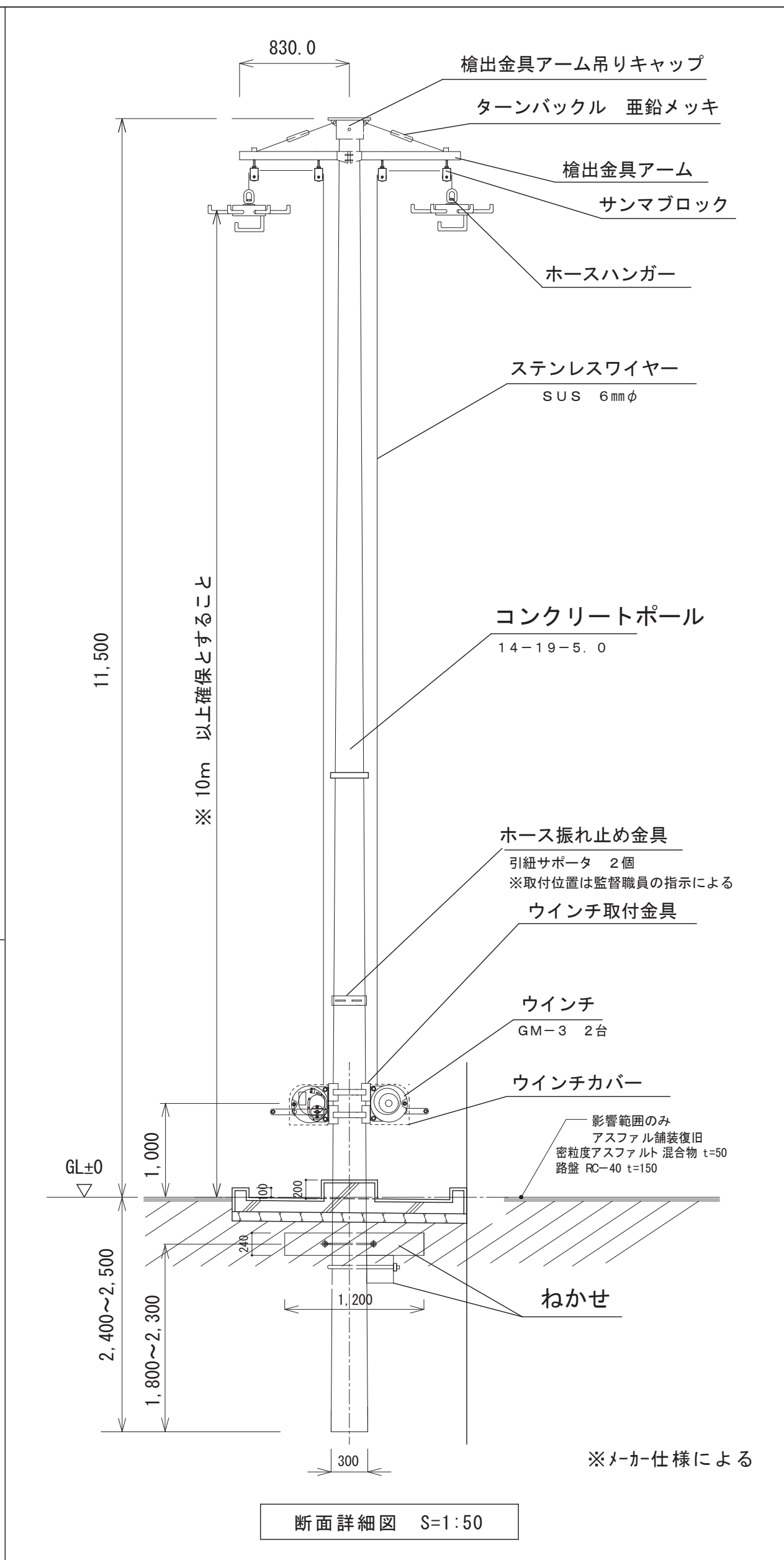
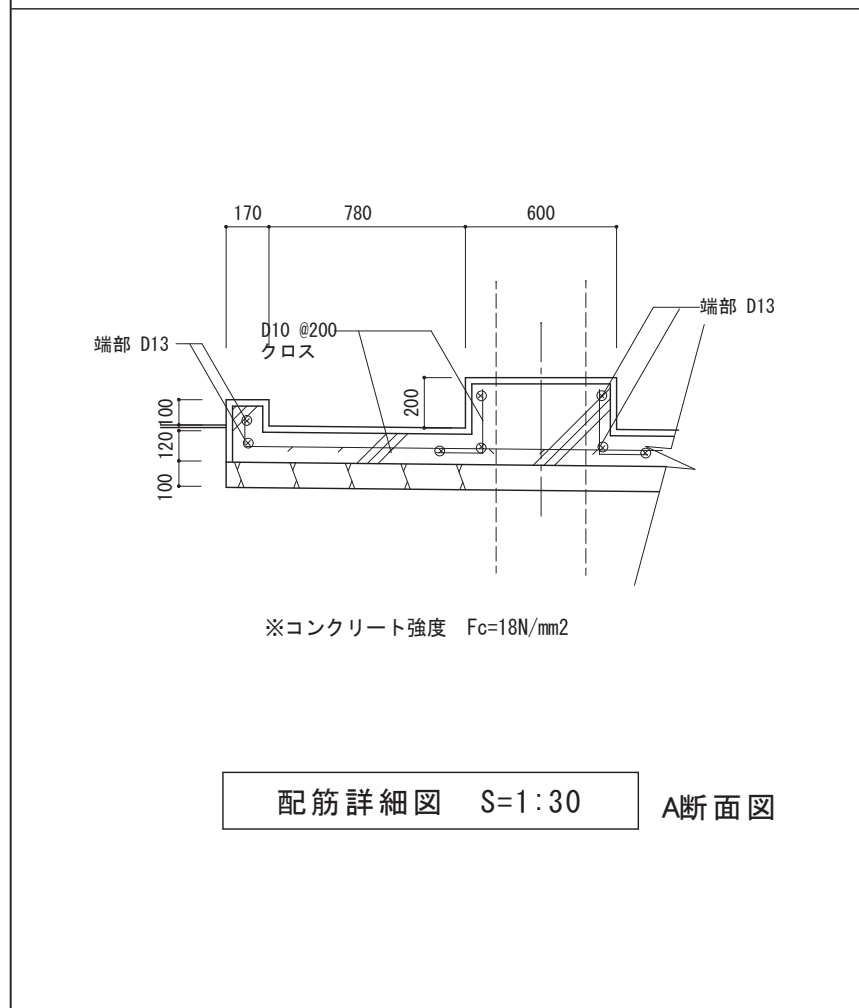
常磐分団車庫改築工事

R 7 年 1 月

外構詳細図1

scale (A2) S1: 50 (A3) S1: 71

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治



ホース乾燥塔詳細図

S=1:50

資機材詳細図

○参考メーカー

CSK 総合防災(株) 又は FSK 木曽防災設備; CP ホース乾燥塔 同等品
※事前に施工図を提出し、監督職員の承諾を得ること。

No. A-16 /

常磐分団車庫改築工事		令和 7 年 1 月
ホース乾燥塔詳細図		
scale	A2-1: 50 A3-1: 71	ETC

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治

標準配筋要領図（主体構造が鉄骨造）（１）

§ １ 一般事項

- １．本標準配筋要領図（鉄骨造）のコンクリートおよび鉄筋の適用範囲は以下とする。
- ・普通コンクリートは $F_c=18\text{ kN/mm}^2$ 以上、 $F_c=60\text{ kN/mm}^2$ 以下
 - ・軽量コンクリートは $F_c=18\text{ kN/mm}^2$ 以上、 $F_c=36\text{ kN/mm}^2$ 以下
- ・鉄筋の規格は JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）
- ・鉄筋の種類は SD295A、SD295B、SD345、SD390、SD490 で径は D41 以下とする
 - ・溶接金網は JIS G 3551 に適合するものを使用する
- ２．高強度せん断補強筋、機械式継手、機械式定着を使用する場合は、各工法に定める規定の他、構造図に記載する内容を優先して適用するものとする。
- ３．本標準配筋要領図に示す単位は、特記なき限り mm とする。
- ４．鉄筋径の図面記号は表 1-1 による。

表 1-1 鉄筋径の図面記号

記 号	・	×	∅	●	○	⊕	⊗	◎	⊗	⬤	⊗
呼び名（d）	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41

§ ２ 鉄筋加工における共通事項

２-１ 鉄筋のかぶり厚さ

- １．各部位の設計かぶり厚さは、表 2-1 による。
- ２．表 2-1 によらない設計かぶり厚さを支持するときは、設計図書に特記する。
- ３．ひび割れ誘発目地・施工目地・化粧目地等でかぶり厚さが部分的に減少する箇所は、防錆処置を施した鉄筋を使用するか、目地底から必要なかぶり厚さを確保する。

表 2-1 設計かぶり厚さ

部材の種類		短期		標準・長期		超長期	
		屋内・屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内
構造部材	柱・梁・耐力壁	40	40	50	40	50	
	床スラブ・屋根スラブ	30	30	40	40	50	
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	30	40	40	50	
	計画供用期間中に維持保全を行う部材 ⁽¹⁾	30	30	40	(30)	(40)	
直接土に接する柱・梁・壁・床および布基礎の立上り部分		50					
基 礎		70					

- 〔注〕（１） 計画供用期間の級が超長期で計画供用期間中に維持保全を行う部材では、維持保全の周期に応じて定める。
- （２） 計画供用期間の級が標準、長期および超長期で、耐久性有効な仕上げを施す場合は、屋外側では、設計かぶり厚さを 10mm 減じることができる。

２-２ 鉄筋のあきと鉄筋間隔

- １．鉄筋のあきと鉄筋間隔の最小値は表 2-2-1 による。
- ２．各鉄筋径のあきおよび間隔の最小値は表 2-2-2 による。

表 2-2-1 鉄筋のあき・鉄筋間隔の最小値

	鉄筋のあき	鉄筋の間隔
	・呼び名の数値の 1.5 倍 ・粗骨材の最大寸法の 1.25 倍 ・25mm のうち最も大きい数値	・呼び名の数値の 1.5 倍＋最外径 ・粗骨材の最大寸法の 1.25 倍＋最外径 ・25mm＋最外径 のうち最も大きい数値

〔注〕 D：鉄筋の最外径

表 2-2-2 各鉄筋径のあきおよび間隔の最小値

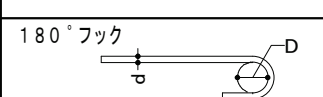
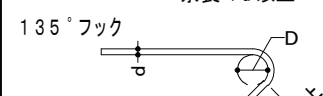
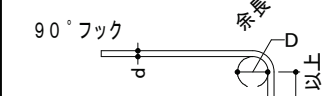
呼び名（d）	最外径	鉄筋のあきの最小値	鉄筋の間隔の最小値
D10	11	32	43
D13	14	32	46
D16	18	32	50
D19	21	32	53
D22	25	33	58
D25	28	38	66
D29	33	44	77
D32	36	48	84
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	46	62	108

- 〔注〕（１） 粗骨材の最大寸法が 25mm の場合を示す
- （２） 鉄筋の最外径はメーカーごとに異なるため、使用する鉄筋メーカーに合わせて適宜判断すること

２-３ 鉄筋の加工形状

- １．鉄筋の折曲げ形状とその寸法は、表 2-3 による。
- ２．鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
- ３．SD490 の鉄筋を 90° を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認したうえで、工事監理者の承認を得ること。

表 2-3 鉄筋の折曲げ形状・寸法

折曲げ形状	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径（D）
	180°	SD295A SD295B SD345	D16 以下	3d 以上
			D19～D41	4d 以上
	135°	SD390	D41 以下	5d 以上
			D41 以下	5d 以上
	90°	SD490	D25 以下	5d 以上
			D29～D41	6d 以上

- 〔注〕（１） 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で 90° または 135° フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
- （２） 折曲げ内法寸法直径を上表の数値より小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障のないことを確認した上で、工事監理者の承認を得ること。

２-４ 鉄筋のフック

- １．鉄骨柱の脚部の基礎柱・根巻コンクリート柱の四隅の鉄筋。（図 2-1 の◎印）
- ２．あばら筋および帯筋。
- ３．片持ちスラブの上端筋の先端。
- ４．杭基礎（偏心基礎および杭 2 本打以上の基礎）の基礎筋（ベース筋）の端末。

図 2-1 柱のフックが必要な鉄筋

§ ３ 継手と定着

３-１ 継手

- １．対象とする継手は重ね継手、ガス圧接継手、フレア溶接継手とし、その他（機械式継手・突合せアーク溶接継手）の仕様は構造図による。
- ２．柱主筋を除く異形鉄筋の重ね継手長さは、保有水平耐力の計算を行い、かつ、平 19 国交第 594 号第 4 第四号に定める確認を行った場合は、表 3-1-1 による。前記の確認を行っていない場合は、40d（軽量コンクリートを使用する場合は 50d）かつ表 3-1-1 の継手長さ以上とする。
- ３．D35 以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
- ４．径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋径（d）を用いる。
- ５．あき重ね継手は、原則としてスラブ筋・壁筋に適用し、図 3-1-1 の継手長さ L は重ね継手と同様とする。
- ６．梁主筋の重ね継手は水平重ね、上下重ねのいずれでもよい。

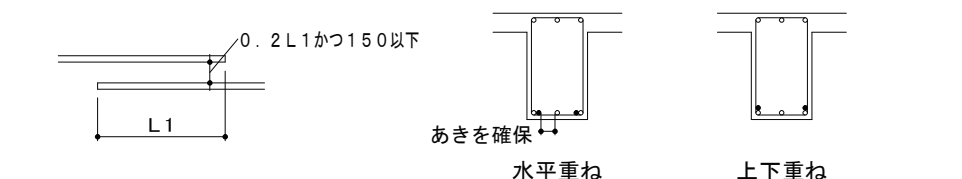
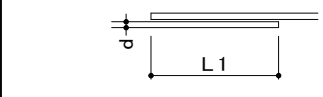


図 3-1-1 あき重ね継手

図 3-1-2 梁主筋の重ね継手

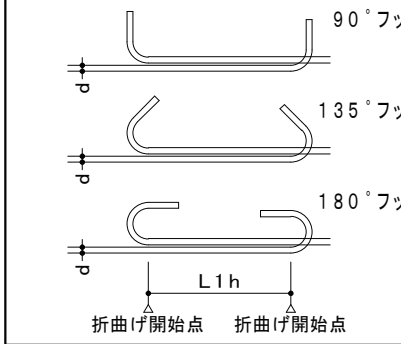
- ７．ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表 3-1-2 による。
- ８．径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋径（d）を用いる。径の差は原則として、7mm 以下とする。
- ９．鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類は SD345 まで、径は D16 までとする。
- １０．フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表 3-1-3 による。
- １１．隣り合う継手の位置は、図 3-1-2 による。ただし、壁およびスラブ筋で D16 以下の場合を除く。

表 3-1-1 （a）鉄筋の重ね継手長さ L1

	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295A SD295B	SD345	SD390	SD490
		18	45d	50d	—
	21	40d	45d	50d	—
	24～27	35d	40d	45d	55d
	30～36	35d	35d	40d	50d
	39～45	30d	35d	40d	45d
	48～60	30d	30d	35d	40d

- 〔注〕（１） 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に 5d を加えた値とする。
- （２） 継手位置は、継手の好ましい位置に設けること。

表 3-1-1 （b）フック付き重ね継手長さ L1h

	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295A SD295B	SD345	SD390	SD490
		18	35d	35d	—
	21	30d	30d	35d	—
	24～27	25d	30d	35d	40d
	30～36	25d	25d	30d	35d
	39～45	20d	25d	30d	35d
	48～60	20d	20d	25d	30d

- 〔注〕（１） 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に 5d を加えた値とする。
- （２） 継手位置は、継手の好ましい位置に設けること。
- （３） フック形状は、表 2-3 による。

表 3-1-2 ガス圧接・フレア溶接の形状

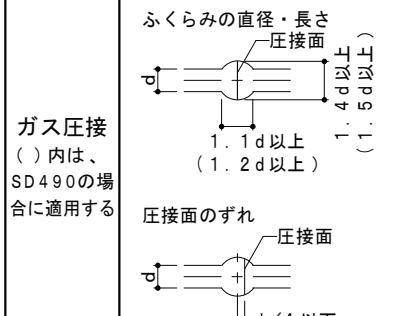
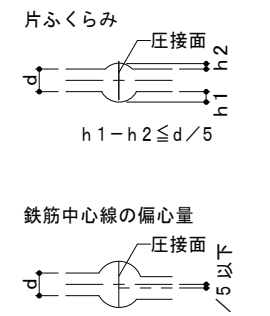
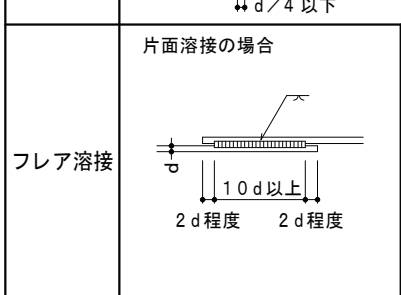
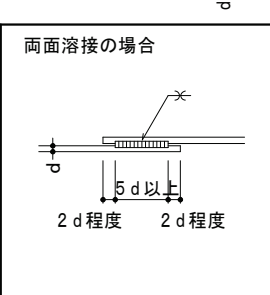
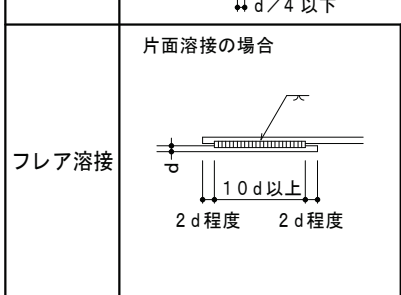
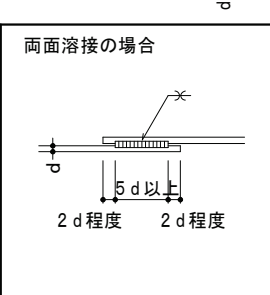
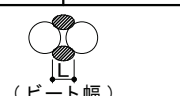
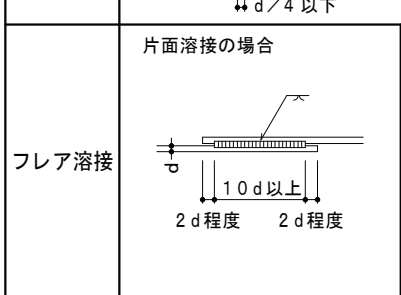
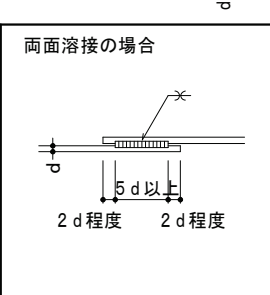
ガス圧接 () 内は、SD490 の場合に適用する			圧接面形状 2mm 以下
			
フレア溶接			溶接ビート幅 鉄筋径（d） 最小値 10 6 13 7 16 8 
			

表 3-1-3 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312
SD295A SD295B	E4316、E4915、E4916 等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW12 YGW13 YGW15
SD345	E4915、E4916 等の低水素系溶接棒	YGW16 YGW18 YGW19

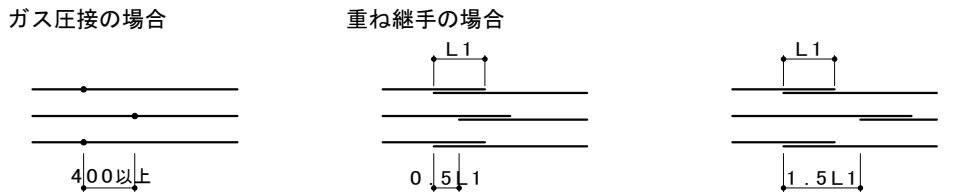
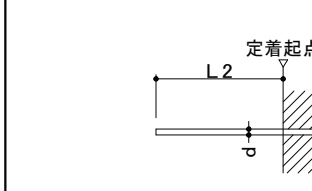


図 3-1-3 鉄筋相互のずらし方

３-２ 定着

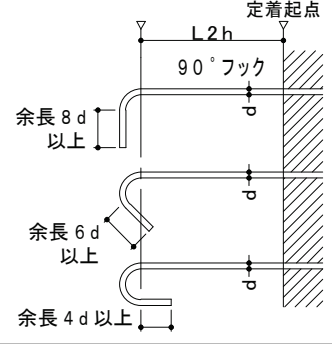
- １．異形鉄筋の定着長さは、表 3-2-1 の鉄筋の定着長さによる。
- ただし、小梁・スラブの下端の定着長さは、表 3-2-2 による。
- ２．梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
- ３．梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの 3/4 倍以上とする。
- ４．柱梁仕口内に 90° フックの定着長さが、表 3-2-1 の定着長さを満足しない場合は、全長を表 3-2-1 に示す直線定着長さとし、余長 8d 以上、定着起点から鉄筋外面までの投影定着長さ La を確保する。
- ５．大梁内に 90° フックの定着長さが、表 3-2-2 の定着長さを満足しない小梁・スラブの場合は、全長を表 3-2-2 に示す直線定着長さとし、余長 8d 以上、定着起点から鉄筋外面までの投影定着長さ Lb を確保する。
- ６．鉄筋の投影定着長さ La または Lb は、RC 基準に従って計算し、構造図に特記する。特記がない場合は表 3-2-3 に示す数値以上とする。

表 3-2-1 （a）直線定着長さ L2

	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295A SD295B	SD345	SD390	SD490
		18	40d	40d	—
	21	35d	35d	40d	—
	24～27	30d	35d	40d	45d
	30～36	30d	30d	35d	40d
	39～45	25d	30d	35d	40d
	48～60	25d	25d	30d	35d

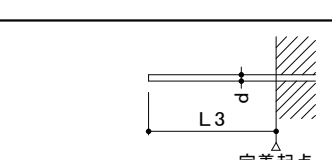
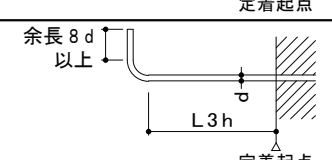
- 〔注〕（１） 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に 5d を加えた値とする。

表 3-2-1 （b）フック付き定着長さ L2h

	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295A SD295B	SD345	SD390	SD490
		18	30d	30d	—
	21	25d	25d	30d	—
	24～27	20d	25d	30d	35d
	30～36	20d	20d	25d	30d
	39～45	15d	20d	25d	30d
	48～60	15d	15d	20d	25d

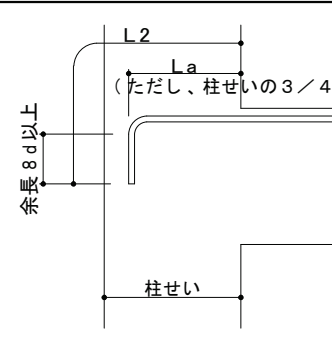
- 〔注〕（１） 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に 5d を加えた値とする。

表 3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3、L3h

小梁・スラブの下端筋の定着長さ	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	鉄筋の種類	下 端 筋	
			小梁	スラブ
	18～60	SD295A SD295B SD345 SD390	20d (25d)	10d かつ 150 以上 (25d)
	18～60	SD295A SD295B SD345 SD390	10d	—

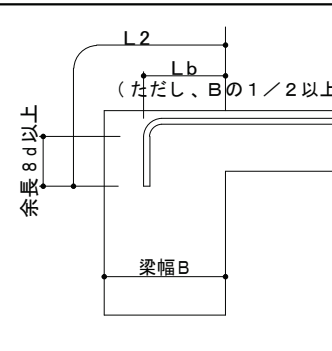
- 〔注〕（１） 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に 5d を加えた値とする。
- （２）（）は、片持ち小梁・片持ちスラブの場合を示す。

表 3-2-3 （a）大梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ La

	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295A SD295B	SD345	SD390	SD490
		18	20d	20d	—
	21	15d	20d	20d	—
	24～27	15d	20d	20d	25d
	30～36	15d	20d	20d	25d
	39～45	15d	15d	15d	20d
	48～60	15d	15d	15d	20d

- 〔注〕（１） 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に 5d を加えた値とする。
- （２） 片持ち梁・片持ちスラブの上端筋を含む。

表 3-2-3 （b）小梁・スラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ Lb

	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	SD295A SD295B	SD345	SD390	SD490
		18	15d	20d	—
	21	15d	20d	20d	—
	24～27	15d	15d	20d	—
	30～36	15d	15d	15d	—
	39～45	15d	15d	15d	—
	48～60	15d	15d	15d	—

- 〔注〕（１） 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に 5d を加えた値とする。
- （２） 片持ち梁・片持ちスラブの上端筋を除く。

３-３ 溶接金網の継手と定着定着

- １．溶接金網の継手は重ね継手とし、図 3-3-1 による。
- ２．溶接金網の定着は、図 3-3-2 による。

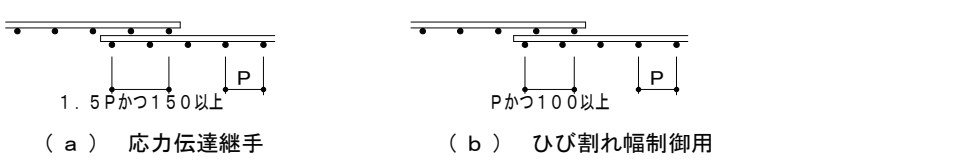
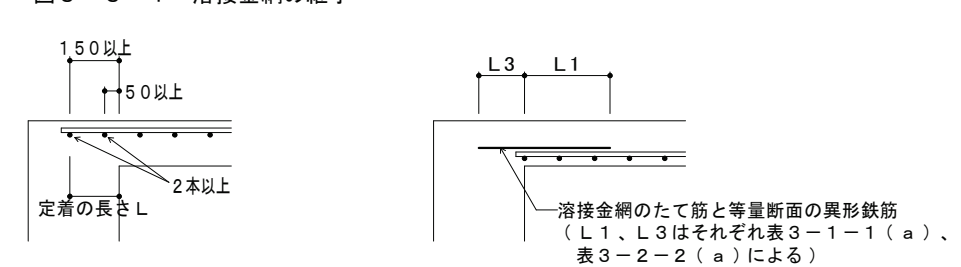


図 3-3-1 溶接金網の継手



- （a）通常の定着
- （b）スラブ下端筋に配筋した場合の定着

図 3-3-2 溶接金網の定着

§ 4 基礎

4-1 独立基礎

- 直接基礎は図4-1-1、杭基礎は図4-1-2による。
- 直接基礎のはかま筋は、偏心や浮上りが生じる基礎以外は必要としない。
- 杭基礎の基礎筋は、1本杭で偏心が生じて居ない場合は立上りを必要としない。

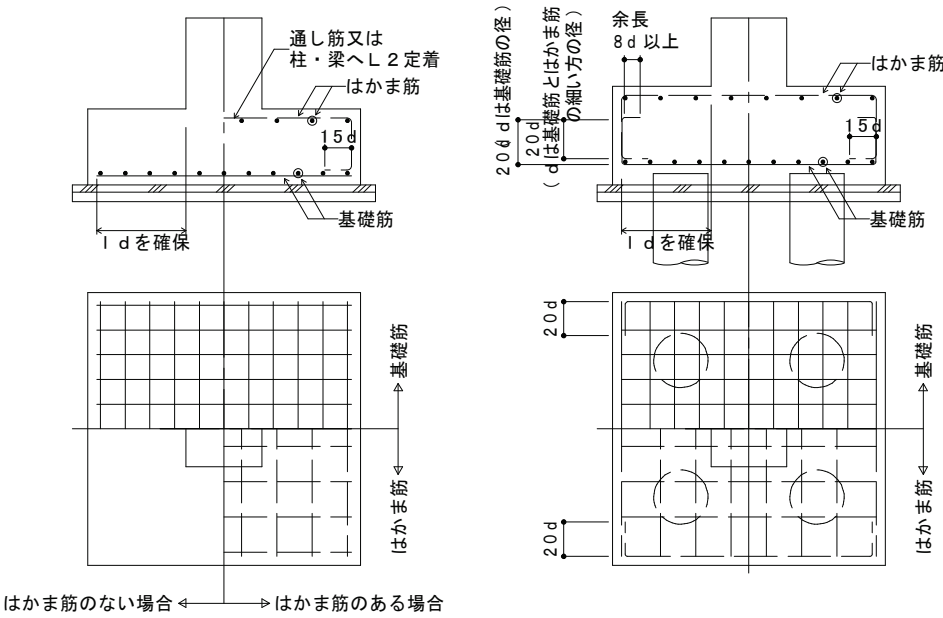


図 4-1-1 直接基礎の場合

図 4-1-2 杭基礎の場合

4-2 連続基礎

- 連続基礎の側柱交差部は、側柱列の基礎主筋を連続して配置する。
- 連続基礎の中柱交差部は、いずれかの方向の基礎主筋を連続して配置する。
- 連続基礎の隅柱交差部は、両方向の基礎主筋を連続して配置する。

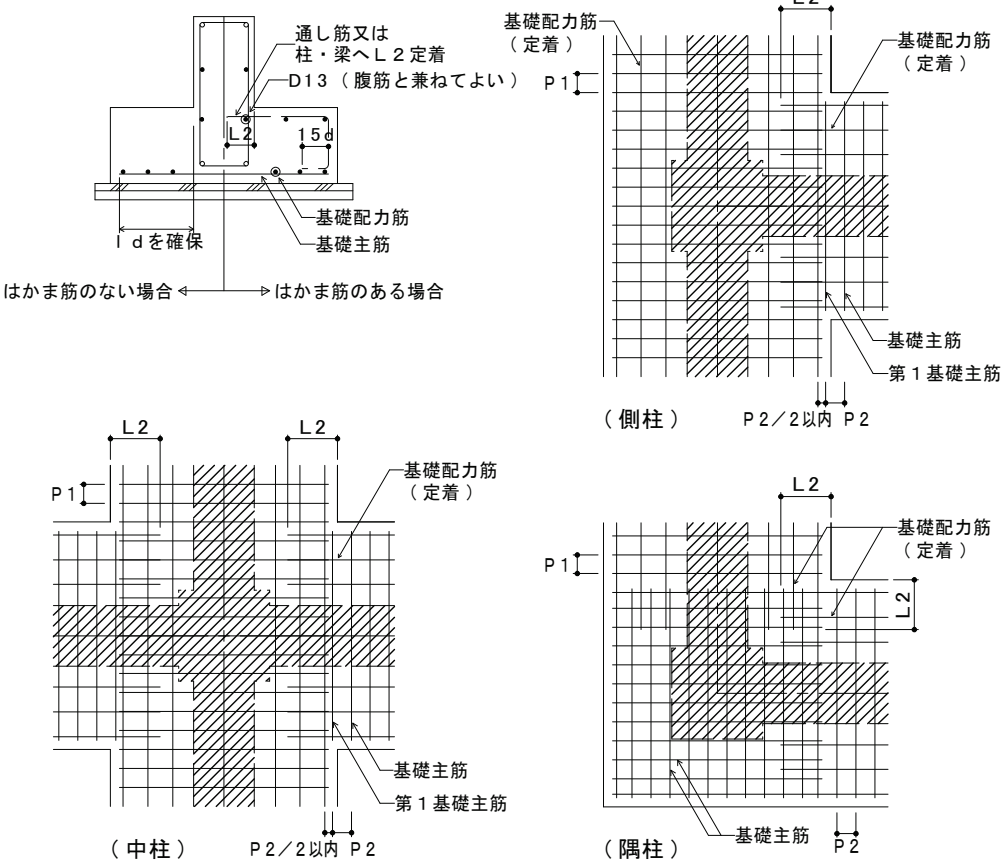


図 4-2 連続基礎の配筋

4-3 ベタ基礎

- 基礎スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面より50mm程度の位置とする。

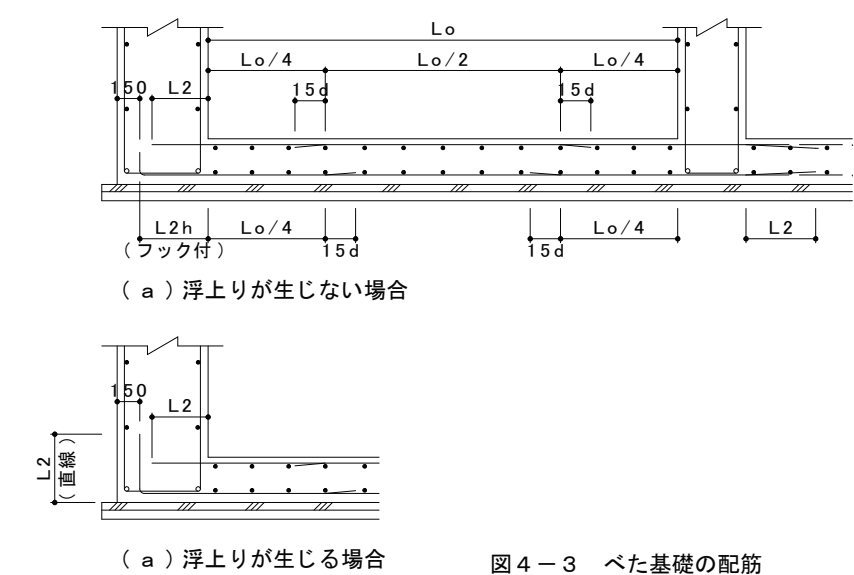


図 4-3 ベタ基礎の配筋

4-4 基礎と基礎梁の接合

- 基礎と基礎梁の隙間部分の補強要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図4-4による。
- 補強幅は基礎梁幅と同じとする。

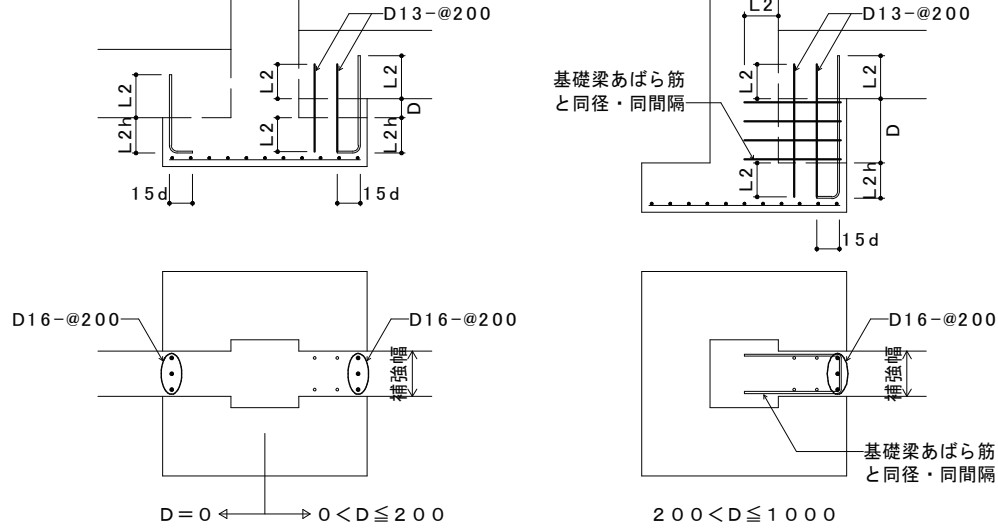


図 4-4 基礎と基礎梁の接合要領

4-5 基礎柱

- 基礎柱の定着は基礎梁が付く場合は図4-5-1、付かない場合は図4-5-2による。
- 基礎梁が付かない場合の定着長さLaは原則としてRC規準に従った計算とする。
- 帯筋の形状は原則として135°フックまたはフレア溶接とする。

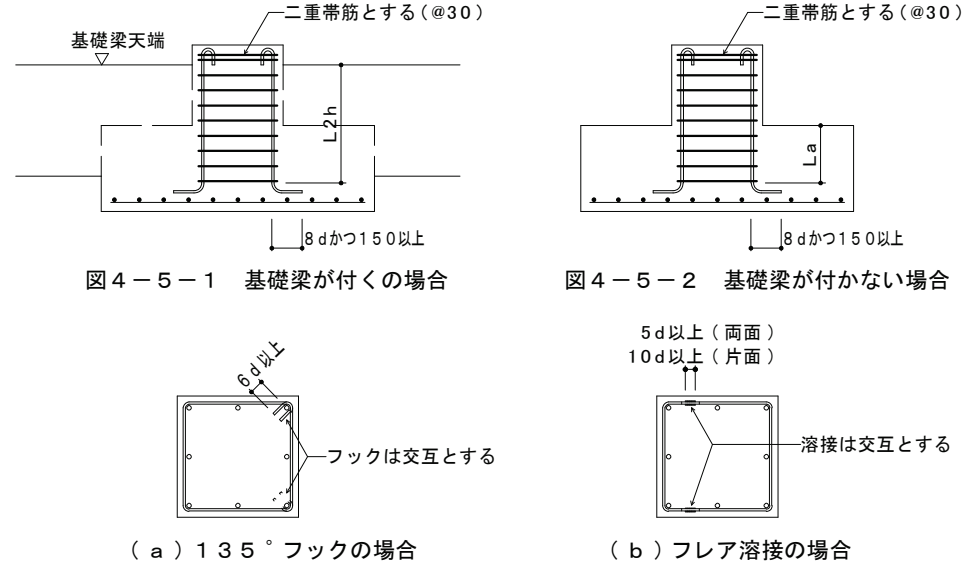


図 4-5-3 帯筋の形状

§ 5 基礎梁

5-1 あばら筋・腹筋・幅止め筋

- あばら筋の形状は図5-1-1、副あばら筋・腹筋・幅止め筋の形状は図5-1-2による。
- 図5-1-1の(a)のフックおよび(b)のフレア溶接は原則として交互とする。
- 第1あばら筋は柱面に配置し、設計ピッチにて割り付け、反対側の柱面にある第1あばら筋との間で調整する。
- 腹筋は構造図に特記がない場合は定着は不要とする。
- 幅止め筋の径・間隔は特記がない場合はD10-@1000とする。

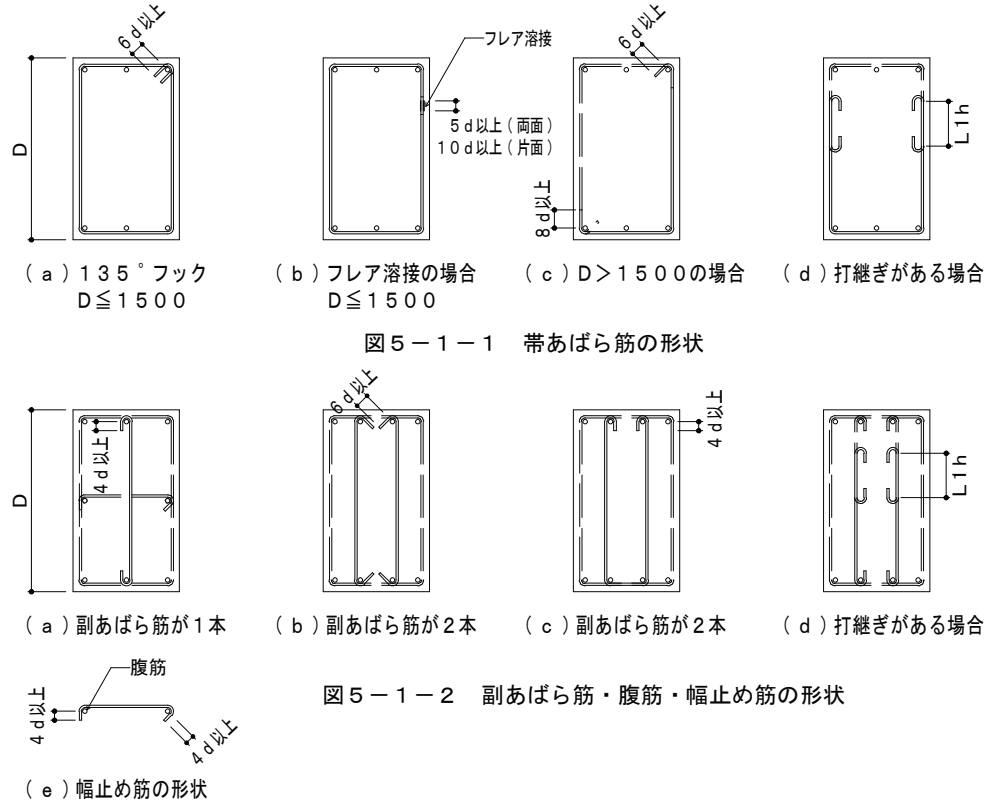


図 5-1-2 副あばら筋・腹筋・幅止め筋の形状

5-2 基礎大梁筋の配置と定着

- 採用するタイプは構造図による。
- カットオフ筋長さは構造図による。また、その場合の要領図は図5-2-4による。構造図に記載がない場合は、図5-2-1～3による。
- 平面で傾斜した基礎梁のLoの基準は構造図による。構造図に記載の無い場合は、通り芯と基礎大梁の軸芯との交点をLoの基準とする。

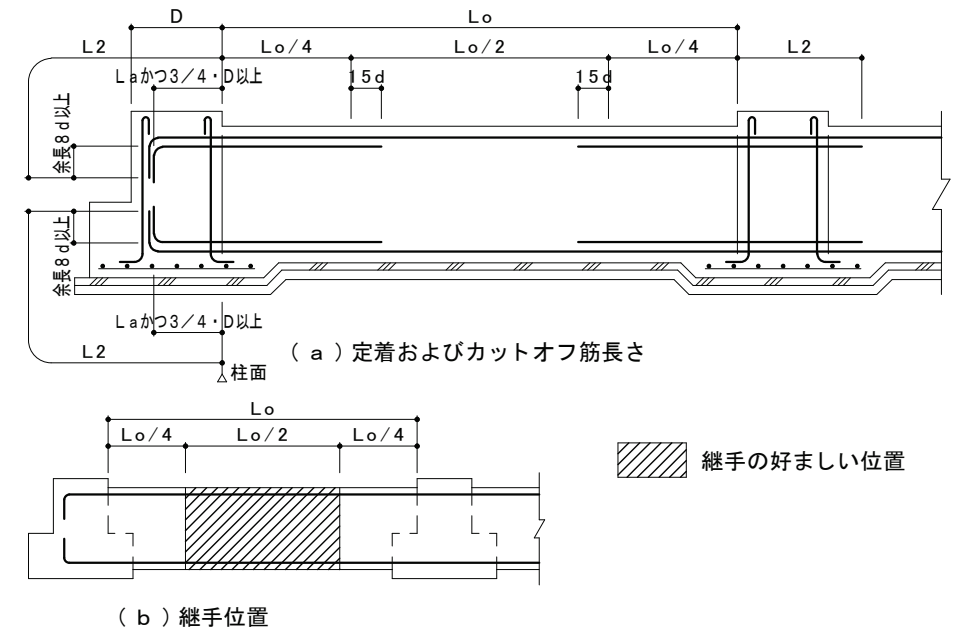


図 5-2-1 一般の基礎大梁の場合（タイプA）

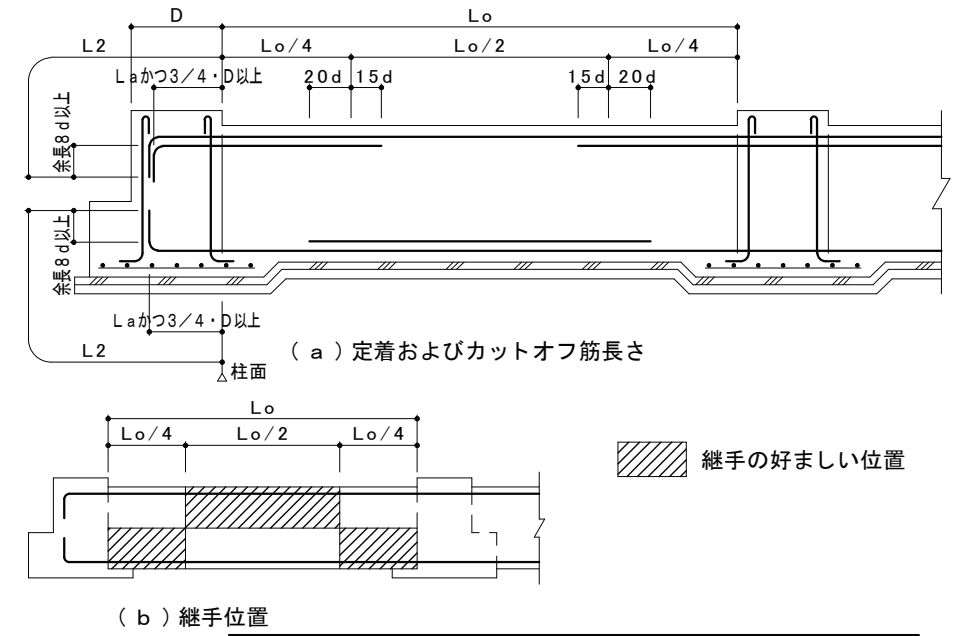


図 5-2-2 上載荷重が大きい基礎大梁の場合（タイプB）※採用する

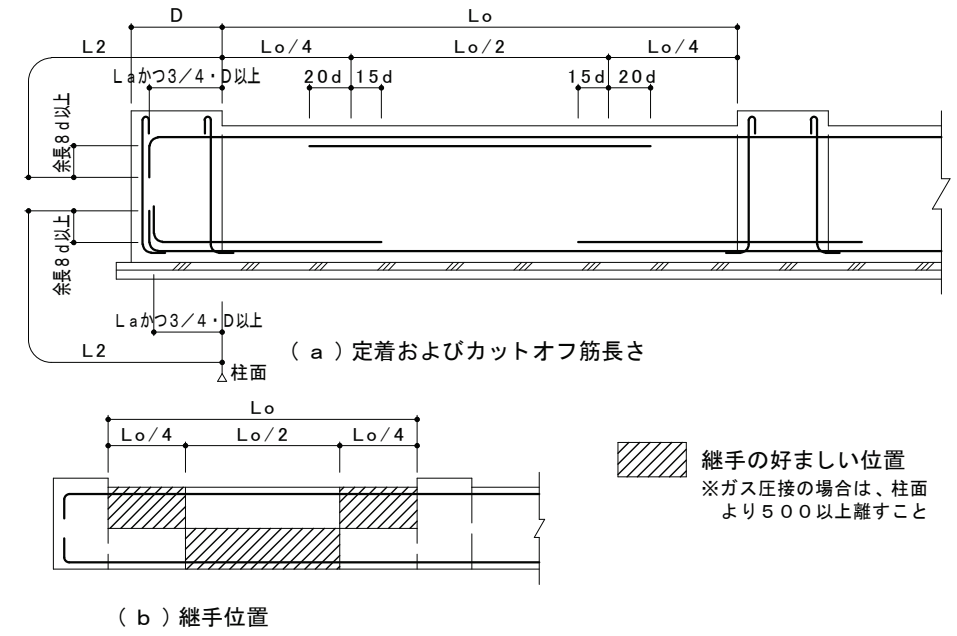


図 5-2-3 地反力を受ける基礎大梁の場合（タイプC）

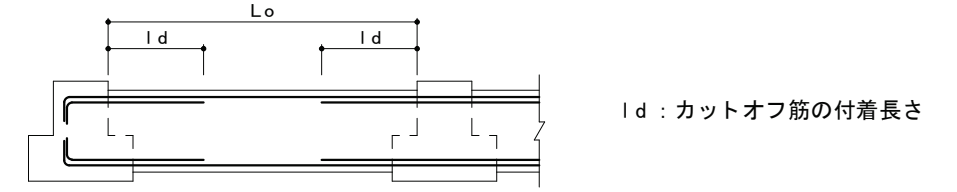


図 5-2-4 カットオフ筋の付着長さ（構造図記載）

5-3 基礎小梁筋の配置と定着

- 採用するタイプは構造図による。
- 連続梁で等スパンまたは等荷重分布でない場合の小梁の配筋方法は構造図による。
- 平面で傾斜した基礎梁のLoの基準は構造図による。構造図に記載の無い場合は、通り芯と基礎小梁の軸芯との交点をLoの基準とする。

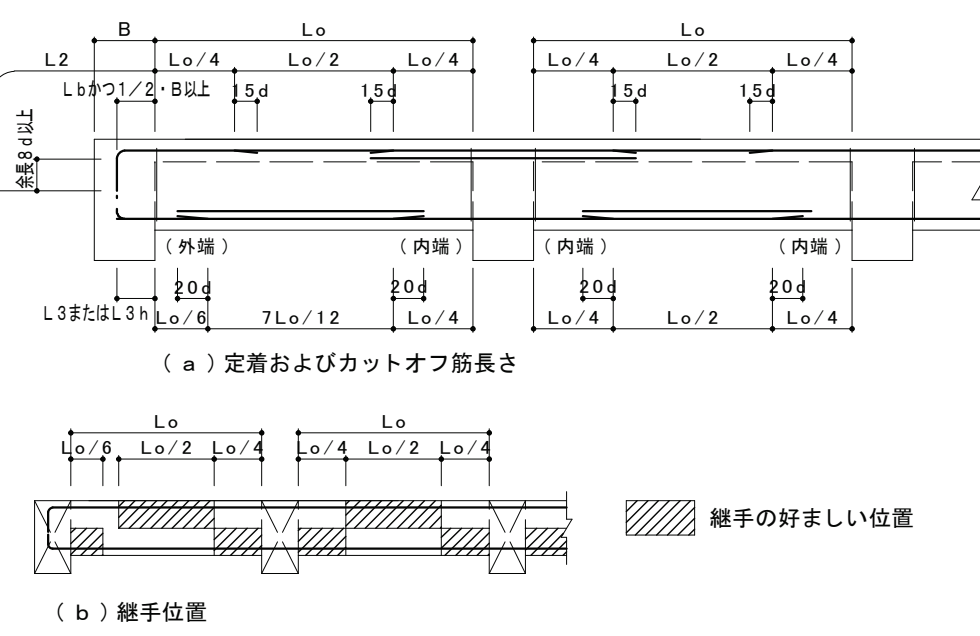


図 5-3-1 一般の基礎小梁で連続支持場合（タイプA・B）

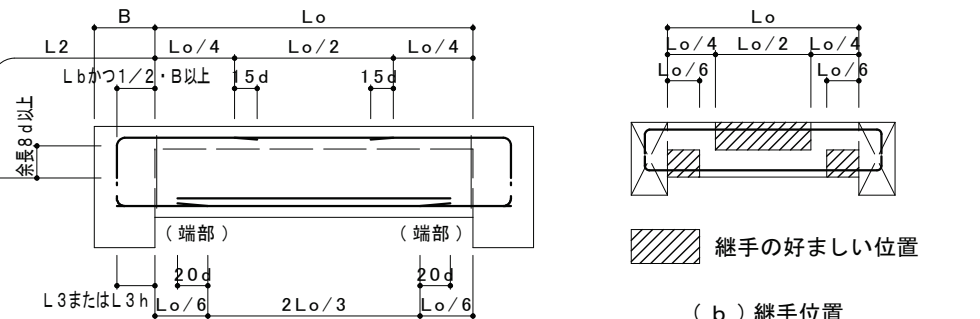


図 5-3-2 一般の基礎小梁で単純支持場合（タイプA・B）

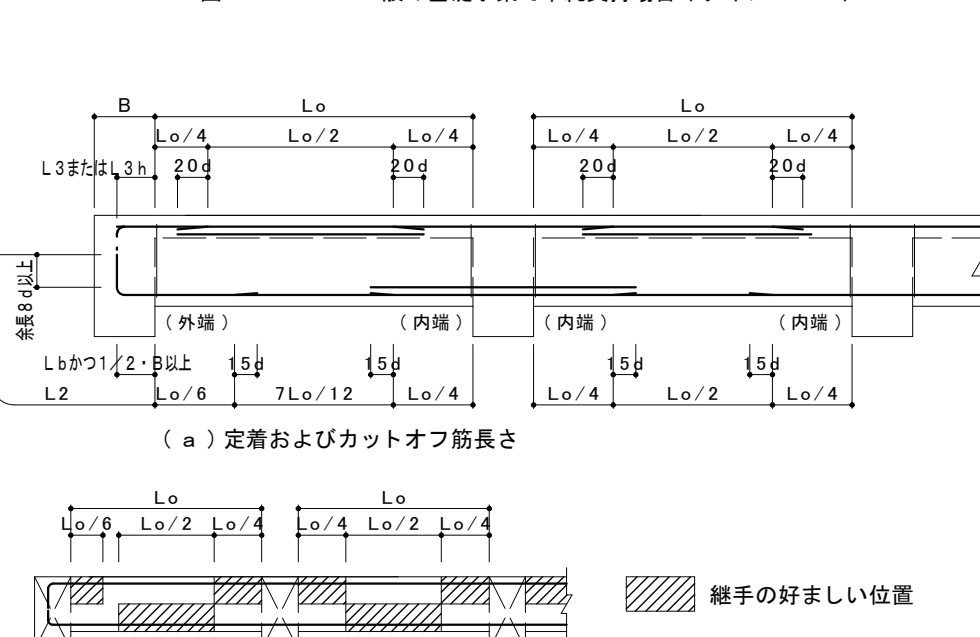


図 5-3-3 地反力を受ける基礎小梁で連続支持場合（タイプC）

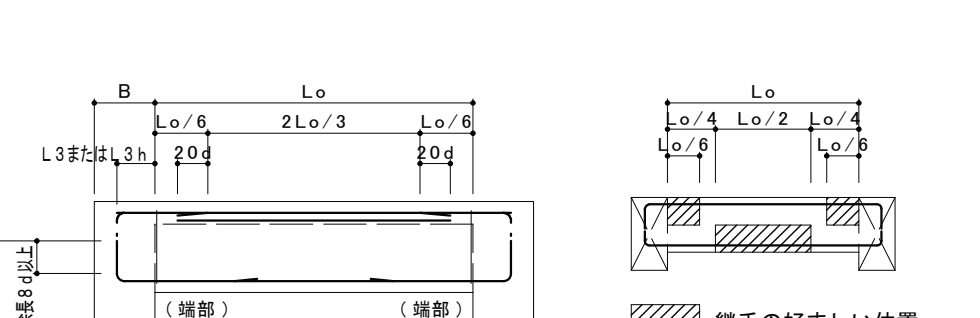


図 5-3-4 地反力を受ける基礎小梁で単純支持場合（タイプC）

5-4 基礎小梁と直交する梁への定着

1. 基礎小梁の定着で垂直に余長が確保できない場合は、上端筋は斜め定着、下端筋は斜め定着あるいは水平定着としてよい。

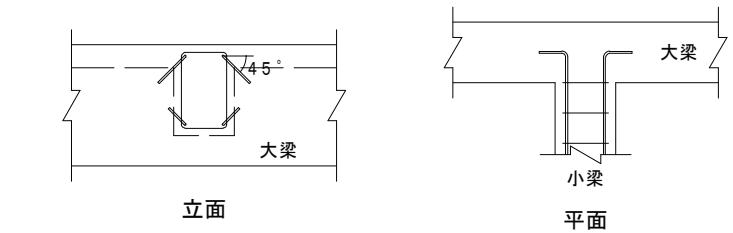


図5-4 直交する梁への定着

5-5 片持ち基礎梁筋の配置

1. 定着とカットオフ筋長さは構造図による。構造図に記載がない場合は、図5-5による。
2. 原則として、片持ち基礎梁には継手を設けない。継手を設ける場合は工事監理者の承認を得ること。
3. 原則として、主筋は通し配筋とする。通し配筋ができない場合は、柱内に折曲げ定着する。

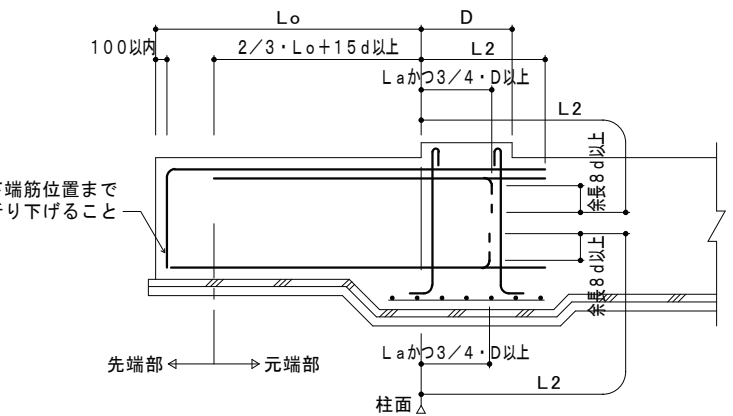


図5-5 片持ち基礎梁の定着およびカットオフ筋長さ

5-6 片持ち基礎梁に付く先端基礎小梁筋の定着

1. 先端基礎小梁の終端部の主筋は、片持ち基礎梁内に水平定着する。
2. 先端基礎小梁の連続端は、片持ち基礎梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

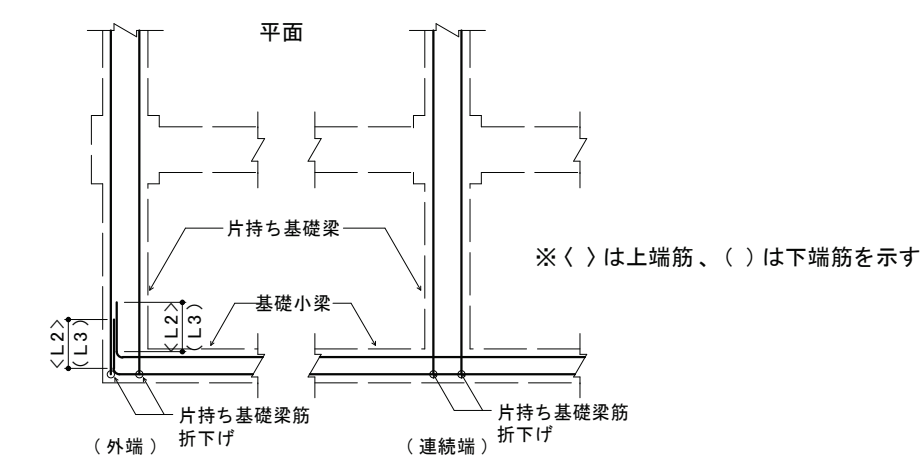


図5-6 片持ち基礎梁に付く先端基礎小梁筋の定着

5-7 基礎大梁に段差がある場合の配筋

1. 基礎大梁筋は原則として通し配筋とするが、通し配筋できない場合は柱内にそれぞれの主筋を定着してよい。

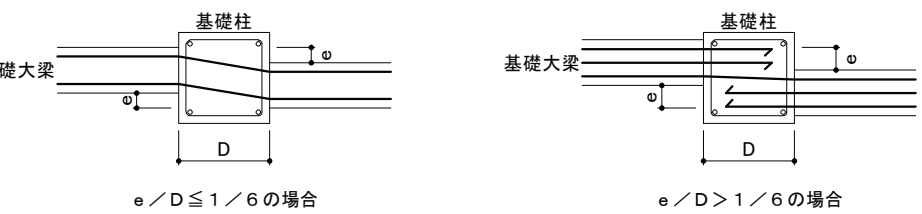


図5-7-1 水平方向に段差がある場合

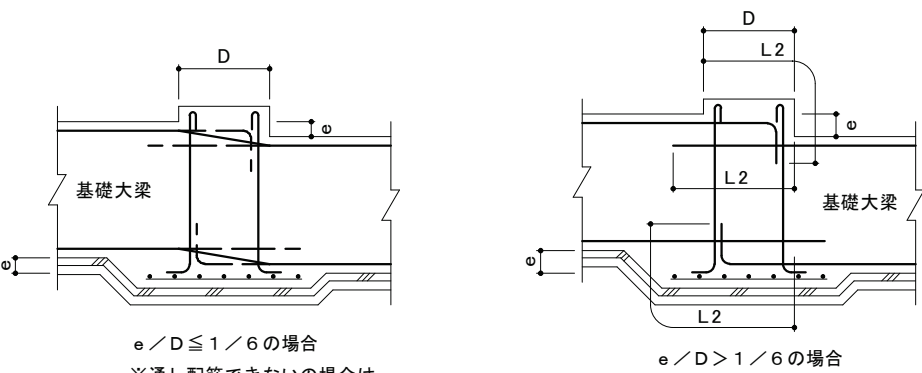


図5-7-2 鉛直方向に段差がある場合

5-8 基礎梁貫通孔の補強

1. 補強筋は原則として、工場製品を使用する。
2. 補強筋は技術評価取得品とし、その定める規定および各製品の仕様を満足させること。
3. 採用する補強筋の計算は工事監理者の承認を得ること。
4. 貫通孔の径が梁せいりの1/10以下かつ150未満の場合で、あばら筋の配置を変えずに貫通孔を配置できる場合は補強を省略してよい。

6-1 配筋および定着

1. 床スラブ筋の配筋および定着は図6-1-1による。
2. 片持ちスラブの配筋および定着は図6-1-2による。

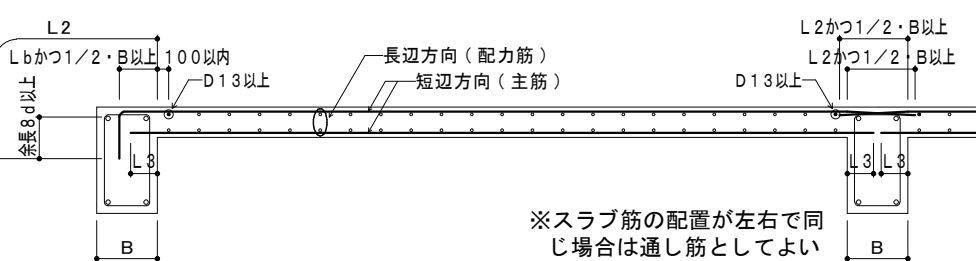


図6-1-1 床スラブ筋の配筋および定着

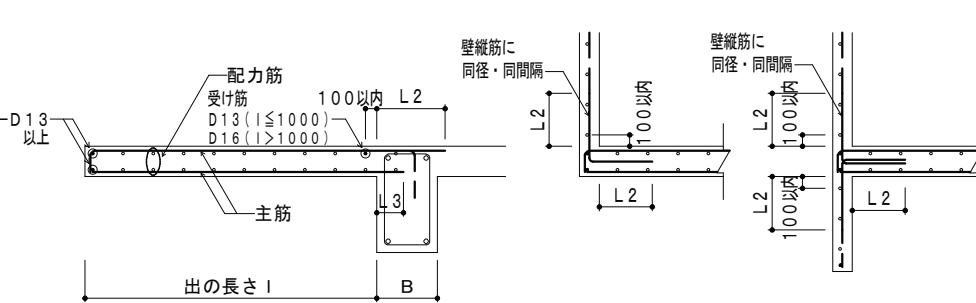


図6-1-2 片持ちスラブ筋の配筋および定着

6-2 スラブ筋の継手位置

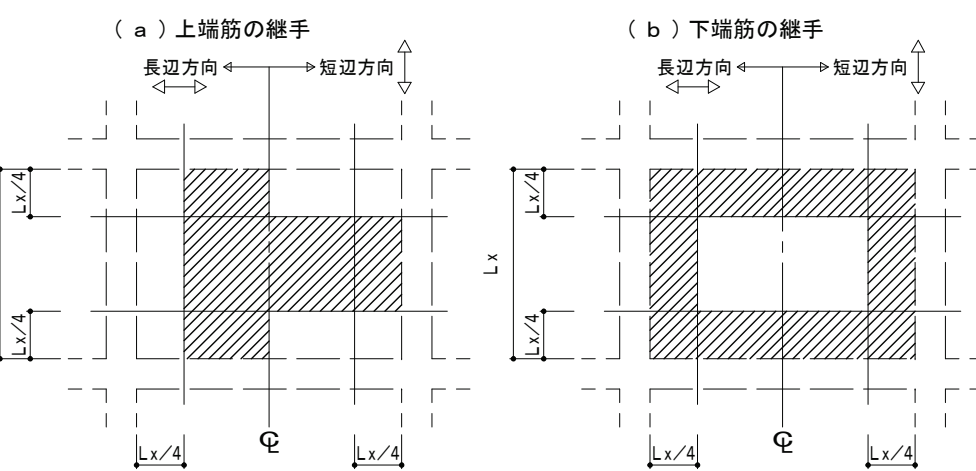


図6-2 スラブ筋の継手位置

6-3 段差がある場合のスラブ筋の定着

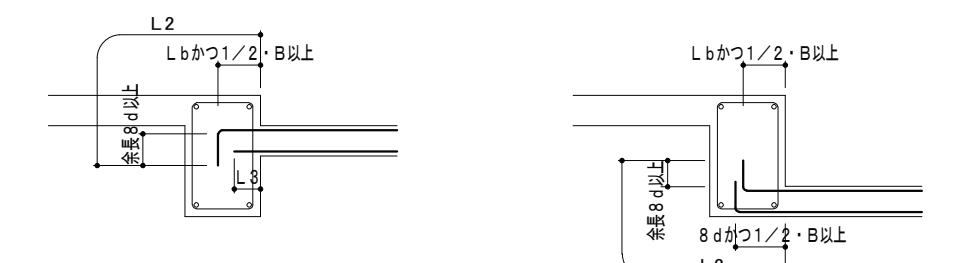


図6-3-1 スラブが梁側面に付く場合

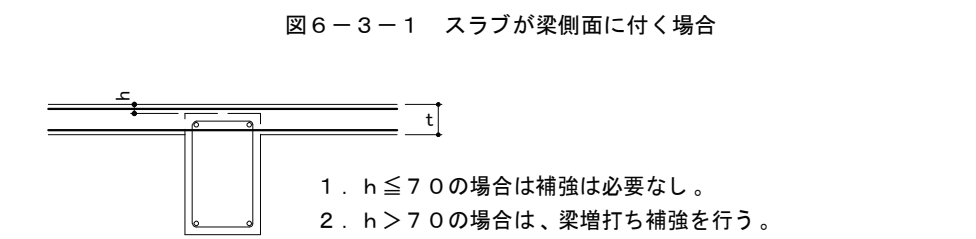


図6-3-2 梁に付くスラブが上がる場合

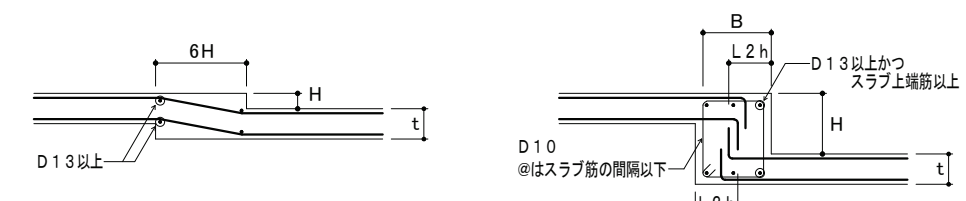


図6-3-3 スラブが梁側面に付く場合

6-4 スラブ開口部の補強

1. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口部の補強は、図6-4による。それ以外は構造図による。
2. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより開口部から設計かぶりを確保できる場合は、補強筋を省略することができる。

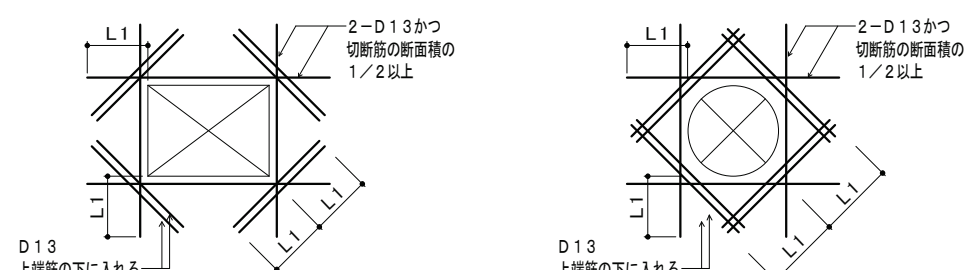


図6-4 スラブ開口部の補強

6-5 かま場の配筋

1. かま場の大きさは意匠図または構造図による。
2. 図6-5の※印の鉄筋は、スラブ筋最大径の1サイズアップとする。

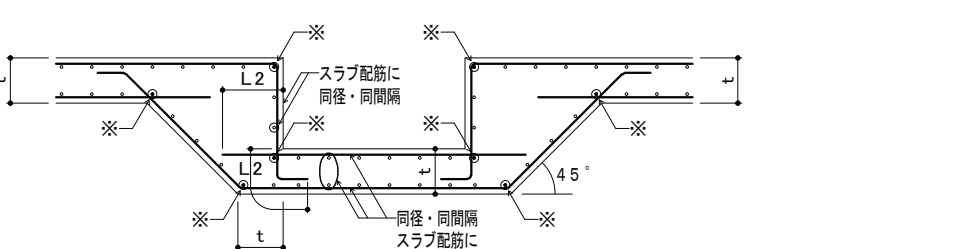


図6-5 かま場の配筋

7 その他

7-1 基礎梁の増打ち

1. 増打ち寸法 a、b が70mmを超え300mm以下の場合は図7-1による。
2. 増打ち寸法 a、b が70mm以下の場合は補強筋不要とする。
3. 増打ち寸法 a、b が300mmを超える場合の補強筋は構造図による。

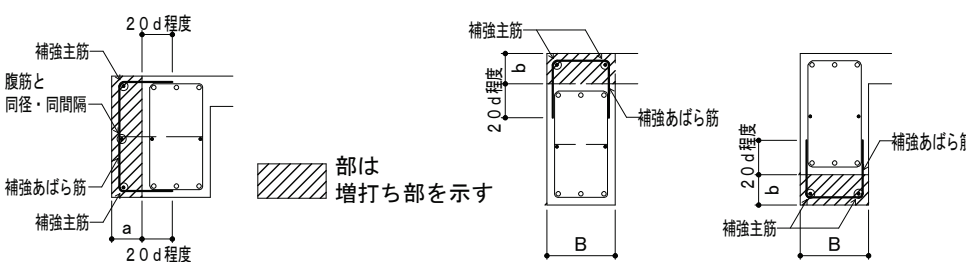


表7-1-1 基礎梁側面補強筋

補強主筋	1-D16
補強あばら筋	あばら筋と 同径・同間隔

表7-1-2 基礎梁上下面補強筋

梁幅	B ≤ 350	B > 350
補強主筋	2-D16	D16-@250以下
補強あばら筋	あばら筋と同径・同間隔	

図7-1 基礎梁の増打ち要領

7-2 立上り壁の配筋

1. 立上り寸法 h、t は構造図による。
2. 立上り寸法 h が1500mmを超える場合または t が150mmを超える場合は構造図による。

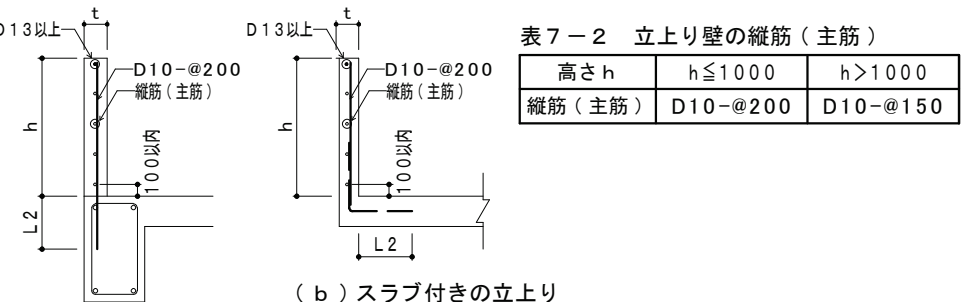


図7-2 立上り壁の配筋要領

7-3 土間コンクリート

1. 土間コンクリートの仕様は構造図による。
2. 土間コンクリート各部の納まりは図7-3-1～5による。
3. 土間コンクリートの段差部は図6-3-1による。

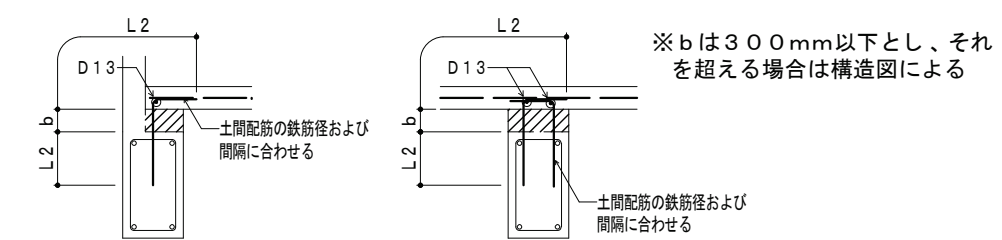


図7-3-1 土間コンクリートと基礎梁の接合筋

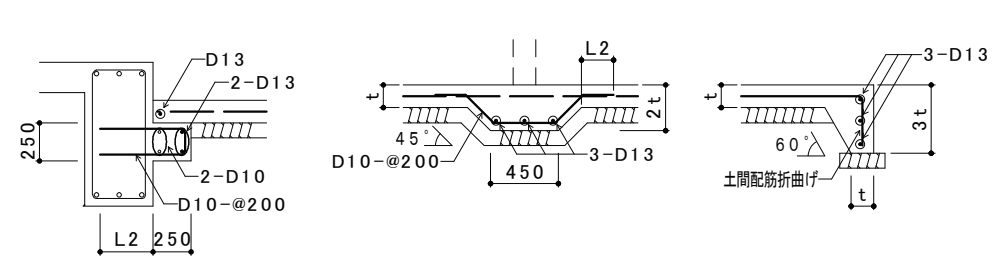


図7-3-2 土間コンクリート受け等

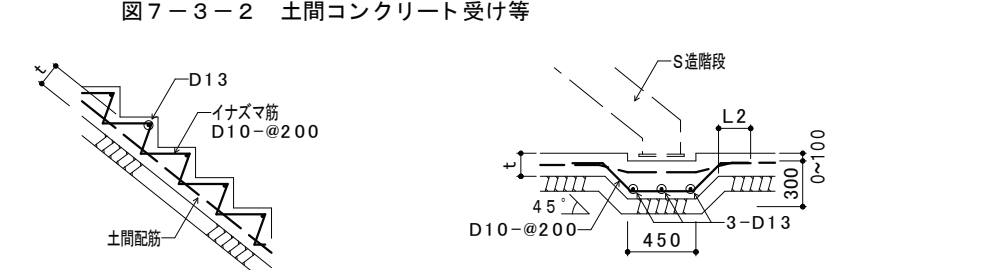


図7-3-3 土間コンクリート階段・階段受け受け等

8 パーサポート・スペーサー

8-1 パーサポート・スペーサーの種類

1. コンクリート製
2. 鋼製（かぶり部分は防錆処理を行う）
3. プラスチック製
4. ステンレス製

8-2 パーサポート・スペーサーの標準的な配置および間隔

表8-2 パーサポートおよびスペーサーなどの種類および数量・配置の標準

部 位	スラブ	梁	柱
種 類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数量または配置	上端筋、下端筋それぞれ 1. 3個/㎡程度	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は梁下より0.5m程度 中段は柱脚と上段の中間 柱幅方向は1.0mまで2個 1.0m以上3個
備 考	端部上端筋および中央部 下端筋には必ず配置	側梁以外の梁は上または 下に配置、側梁は側面の 両側に対象に配置	同一平面に点対称となる ように配置
部 位	基礎	基礎梁	壁・地下外壁
種 類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数量または配置	面積 4㎡程度 8個 16㎡程度 20個	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上段は梁下より0.5m程度 中段は上段より1.5m間隔程度 横間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内
備 考		上または下と側面の両側 へ対象に配置	

- 〔注〕（１） 表の数量または配置は5～6階程度までのRC造を対象としている。
（２） 梁・柱、基礎梁・壁および地下外壁のスペーサーは側面に限りプラスチック製でもよい。
（３） 断熱材打込み時のパーサポートは支持重量に対して、めり込まない程度の接触面積を持ったものとする。
（４） 梁の上とは、かんざしを示す。

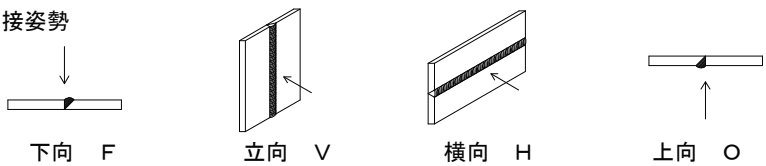
鉄骨構造標準図（１）

§ 1 一般事項

1. 材料及び検査
- ・構造特記仕様書による。
 - ・適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが4 0mm以下のものとする。ただし、ベースプレート、ダイヤフラムの厚さは除く。
 - ・社内検査結果の検査報告書には、鋼骨の寸法・精度およびその他の結果を添付する。
 - ・製作精度等に関しては、J A S S 6 の付則 6「鉄骨精度検査基準」による。
2. 工作一般
- ・鉄骨製作および施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承諾を得る。
 - ・鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
 - ・高張力鋼の歪矯正は、冷間矯正とする。
3. 高強力ボルト接合
- ・本締めに使用するボルトと、仮締めに使用するボルトの併用はしてはならない。
 - ・高力ボルトの摩擦面の処理は黒皮などを座金外径 2 倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面荒さが、5 0μmRz 以上である場合、赤さびは発生しないままでよい。
 - ・高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分に密着するよう注意して行う。

4. 溶接接合

- ・平成 1 2 建設省告示第 1 4 6 4 号第二号イ、ロによる、溶接部の性能、溶接金属の性能を満足すること。
- ・溶接技能者
溶接技能者は施行する溶接に適應する J I S Z 3 8 0 1（手溶接）、J I S Z 3 8 4 1（半自動溶接）の溶接術検定試験に合格し、引き続き半年以上溶接に従事している者とする。また、スタッド溶接は「スタッド溶接技術検定試験」に合格した有資格者またはスタッド協会が発行する技術証明書を有する者とする。
- ・溶接機器
（イ）交流アーク溶接機 300A～500A （ニ）炭酸ガスアーク半自動溶接機
（ロ）アークエアーガウジング機（直流） （ホ）溶接電流を測定する電流計
（ハ）サブマージアーク溶接機機一式 （ヘ）溶接棒乾燥機
- ・溶接方法（完全溶込み溶接）
被覆アーク溶接（MC）、ガスシールドアーク溶接およびセルフシールドアーク溶接（GC）
※ガスシールドアーク溶接は自動溶接およびロボット溶接を含む
サブマージアーク溶接（SAW）
- ・溶接姿勢



- ・組立溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う。
（イ）仮付位置
組立溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける。
（ロ）完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する。
- ・溶接施工
（イ）エンドタブ
i 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端側に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
ii エンドタブの材質は、母材同様とする。
iii エンドタブの長さは、MC、GCは3 0mm以上
SAWの場合は7 0mm以上とする。
iv エンドタブの切断の要否は特記による。特記にない場合は切断しなくてよい。
v 代替タブの使用は特記による。特記にない場合は工事監理者の承諾を得て使用する。
（ロ）裏当て金
材質は溶接性に問題のないものとし、厚さはMCで6mm以上、GCで9mm以上、自動溶接で1 2mm以上とし、幅は2 5～3 2mmとする。
組立用隅肉溶接は、サイズは4～6mmで1パスとし、長さ4 0～6 0mm程度とする。
現場溶接の場合、裏当て金の組立溶接は開先内とし、再溶融させる。
（ハ）スカラップ半径は3 0～3 5mmと1 0mmのダブルアールとする。
但し、梁成が1 5 0mm未満の場合のスカラップはr=2 5mmとする。
（ニ）裏はつり
部材の両面から溶接する場合、裏面側の初層溶接をする前に、表面側の溶接の健全な溶接金属部分が現れるまで裏はつりを行う。

5. 塗装

- ・コンクリートに埋め込まれている部分およびコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

6. 本標準図に示す単位は、特記なき限りmmとする。

7. 図面の略号は以下による。

- | | | | | | |
|------|-------------|-----|------------|-------|-----------|
| AB | : アンカーボルト | HTB | : 高力ボルト | W1～4 | : 隅肉溶接 |
| BPL | : ベースプレート | BH | : 組立てH形鋼 | F1～2 | : フレーアー溶接 |
| DTPL | : 通しダイヤフラム | CPL | : 綫銅板 | LP | : 部分溶込み溶接 |
| D1PL | : 内ダイヤフラム | FB | : フラットバー | KP | : 部分溶込み溶接 |
| FPL | : フランジプレート | GPL | : ガセットプレート | LB1～4 | : 完全溶込み溶接 |
| WPL | : ウェブプレート | RPL | : リブプレート | KB | : 完全溶込み溶接 |
| SPL | : スプライズプレート | TB | : ターンバックル | | |

§ 2 溶接規準図

- ・ルート開隔、ルート面、開先角度、開先深さの許容差は、J A S S 6（2 0 1 5 年版）付則 5 による。 S : 脚長
f : 余盛
- ・余盛高さの標準及び許容差はの許容差は、J A S S 6（2 0 1 5 年版）付則 6 による。

隅肉
t1 ≤ 16
W1

t1	6以下	～9	～12	～14	～16		
S	t1	7	9	10	12		

隅肉
t1 > 16
W2

t1	19	22	25	28	32	36	40
S	11	13	15	17	19	21	24

隅肉
t2 ≤ 16
t1 ≤ 12
W3

t1	6以下	9	12	14	16		
S	t1	7	9	10	12		

隅肉
t2 ≤ 16
t1 ≤ 12
W4

t	6	7	9	10	12	13	
S1	8	10	14	14	17	17	
S2	4	5	7	7	10	10	

フレーアー
F1

φ	9	13	16	19	22	25	
B	7	8	9	10	11	12	
S	4	4.5	5	6	7	8	

フレーアー
F2

φ	9	13	16	19	22	25	
B	7	8	9	10	11	12	
S	4	4.5	5	6	7	8	

部分溶込み
t ≥ 9
LP

t	6	7	9	10	12	13	
S1	8	10	14	14	17	17	
S2	4	5	7	7	10	10	

部分溶込み
t ≥ 16
KP

t	6	7	9	10	12	13	
S1	8	10	14	14	17	17	
S2	4	5	7	7	10	10	

完全溶込み
LB1

溶接方法	適用板厚 t (mm)	ルート開隔 G (mm)	ルート面 R (mm)	開先角度 α 1 (°)	溶接姿勢
MC	6 ≤	9	2	35	FHVO
GC	6 ≤	7	2	35	FHVO

完全溶込み
LB2

溶接方法	適用板厚 t (mm)	ルート開隔 G (mm)	ルート面 R (mm)	開先角度 α 1 (°)	溶接姿勢
MC	6 ≤	0	2	45	FHVO
GC	6 ≤	0	2	45	FHVO

完全溶込み
LB3

溶接方法	適用板厚 t (mm)	ルート開隔 G (mm)	ルート面 R (mm)	開先角度 α 1 (°)	溶接姿勢
MC	6 ≤	9	2	35	FHVO
GC	6 ≤	7	2	35	FHVO

完全溶込み
LB4

溶接方法	適用板厚 t (mm)	ルート開隔 G (mm)	ルート面 R (mm)	開先角度 α 1 (°)	溶接姿勢
MC	6 ≤	0	2	45	FHVO
GC	6 ≤	0	2	45	FHVO

完全溶込み
KB

溶接方法	適用板厚 t (mm)	ルート開隔 G (mm)	ルート面 R (mm)	開先角度 α 1 (°)	溶接姿勢
MC	16 ≤	0	2	α 1 : 45 α 2 : 60	FHVO
GC	16 ≤	0	2	α 1 : 45 α 2 : 60	FHVO

スカラップ形状

	工場溶接		現場溶接
	ノンスカラップ工法	スカラップ工法	
梁通し (通しダイヤ)			
柱通し			

§ 3 柱、梁取り合い基準図

●勾配屋根

●梁通し

●柱通し

●現場溶接継手

●弱軸方向にブレースが取付く場合

●腰折れ柱

1. 仕口等の板厚

- ・PL-a（鉛直スチフナー）：上下柱のFPLの厚い方の板厚の1サイズUP以上
- ・PL-b（水平スチフナー）：仕口部に接合する梁の最大FPLより1サイズUP以上
- ・PL-c（折れ曲がり部）：梁または柱のFPLより1サイズUP以上
- ・DTPL（通しダイヤフラム）：仕口部に接合する梁の最大FPLより2サイズUP以上かつ柱のFPL以上
- ・D1PL（内ダイヤフラム）：仕口部に接合する梁の最大FPLより1サイズUP以上
- ・下表に梁フランジとダイヤフラムの板厚の組み合わせの最小値を示す

取り合う梁フランジ板厚	内ダイヤフラム板厚	通しダイヤフラム板厚	取り合う梁フランジ板厚	内ダイヤフラム板厚	通しダイヤフラム板厚
6～9	12	16	23～25	28	32
10～12	16	19	26～28	32	36
13～16	19	22	32	36	40
17～19	22	25	36	40	45
20～22	25	28	40	45	50

2. 出寸法

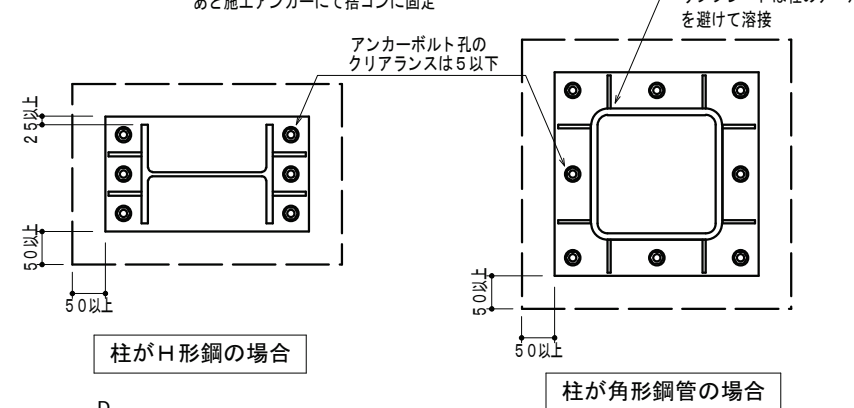
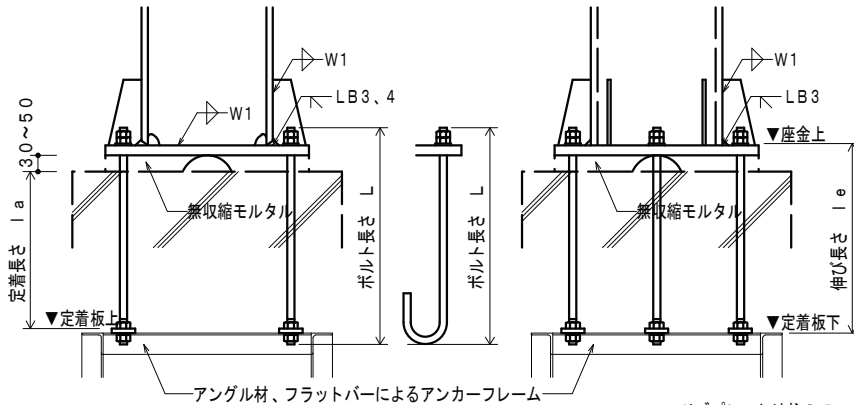
- ・㊦ 2 5mm以上かつ t f 以上
- ・㊧ 鋼管柱の板厚が2 8mm未満の場合 2 5mm
鋼管柱の板厚が2 8mm以上の場合 3 0mm

3. 注記

- ・ダイヤフラムの材質は、特記仕様書による。
- ・㊨のテーバー管の板厚は上下柱の厚い方とし、材質は上下柱と同様とする。また、冷間プレス成形品を使用する場合は、大臣認定品とすること。
- ・ハンチ部でFPLを曲げる場合は、R ≥ 1 0 t f とし補強プレートを入れる。ただし、勾配が1 / 6 以下の場合は省略することができる。
- ・通しダイヤフラムと梁フランジの溶接部で梁フランジは、通しダイヤフラムの板厚内で溶接すること。（告示 1 4 6 4）
- ・現場溶接を行う場合は、工事監理者の承諾を得、養生に十分配慮して行うこと。なお、現場溶接は原則として超音波探傷試験を1 0 0 %行う。

4. 柱脚

- ・柱脚部の仕様は、構造図による。（メーカーの柱脚は、メーカーの仕様による）
- ・アンカーボルトの表記長さは下図による図による。
- ・アンカーボルトにせん断力を負担させた場合は、ボルト孔のクリアランスを0 . 5mmとした鋼板をアンカーボルトに被せた後、その周辺を隅肉溶接でベースプレートと密着させる。
（アンカーボルトセットの座金に溶接は行わないこと）
- ・アンカーボルトの設置方法は軽微な場合を除き、吊方式は用いずアンカーフレームにて据付ける。アンカーフレームはアングル材またはフラットバーにて組立、あと施工アンカーにより捨コンに固定する。
- ・以下に柱脚部の要領図を示す



アンカーボルトの1次締め目標トルク

ボルトの径	1次締め目標トルク
M16～M22	7 0 N・m程度
M24～M27	1 0 0 N・m程度
M30～M42	2 0 0 N・m程度
M48～M72	3 0 0 N・m程度
M75～M100	4 0 0 N・m程度

- アンカーボルトにせん断力を負担する場合の処理方法

No. S-05/

常盤分団車庫改築工事

R 7 年 1 月

鉄骨構造標準図（１）

scale

株式会社 山田建築設計

1級建築士153321号 山田 純治

QL デッキ合成スラブ設計・ 施工標準 耐火仕様② JFE 建材 株式会社

耐火補強筋不要仕様

QL デッキ合成スラブリ設計・ 施工は、(社) 日本建築学会「 各種合成構造設計指針・ 同解説 」「 鉄骨工技術指針 」「 建築工事標準仕様書・ 同解説 JASS5 鉄筋コンクリート 工事及び JASS6 鉄骨工事 」、(一社) 日本鋼構造協会「 デッキプレート 床構造設計・ 施工標準 2018 」、QL デッキ設計マニュアル・ 同施工マニュアルによる。

設 計

材料／デッキプレート

デッキプレート 種類	板厚 (mm)	表 面 処 理
■QL99-50 □QL99-75	端部加工 ■エンクロ有り □無し	□亜鉛めっき [□12 □27] □JFEエコガル (高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他 () □表面防錆処理 (一次塗装) QL プライマー (P) *1+2 ■亜鉛めっき [□12 ■27] □JFEエコガル (高耐食溶融めっき鋼板) [□Y18 □Y27] □その他 () □無し *2
材 質	JIS G 3352 に定めるSDP1T、SDP2、SDP2G	

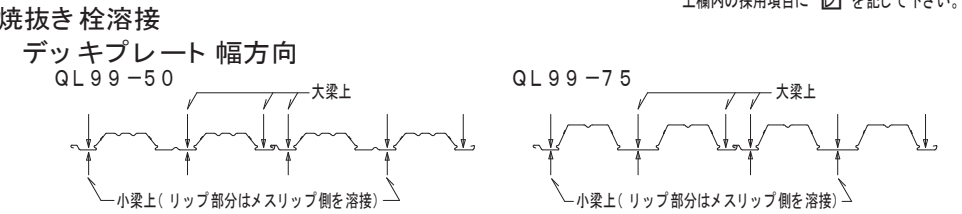
種 別	■普通コンクリート
設計基準強度	□18 □21 ■24 □() N/mm ²
厚さ (QL デッキ山上)	□60 □70 ■80 □85 □90 □95 □100 □() mm

■溶接金網	JIS G 3551	□φ6-75×75 □φ6-100×100 □()	■φ6-150×150	□()
□異形鉄筋	JIS G 3112、3117	□D10-150×150 □D10-200×200	□()	□()

接 合	■頭付きスタッド	JIS B 1198 □φ13 □φ16 □φ19 □φ22 (各長さ・ピッチは特記による *4)
梁 と の 接 合	□焼抜き栓溶接 □打込み鉄 □その他	下記焼抜き栓溶接の項による 接合箇所は特記による

デッキプレート	耐火区分	支持条件	コンクリート種別	耐火補強筋	認定番号
QL99-50	床1時間	単純／連続	普通	不要	□FP060FL-0126 □FP060FL-0100 □FP060FL-0101 □FP060FL-0102 □FP060FL-0099 □FP120FL-0127
QL99-75	床2時間				
その他	□指定なし □() □()				

特 記	支保工有無	その他:
	■無 □有	



デッキプレート スパン方向	「QL デッキ設計マニュアル」に基づいて決定する。
Aw = $\frac{1.5Qa}{Qd}$ × 1000mm	かつ 600mm 以下
Aw = 焼抜き栓溶接ピッチ	
Qd: 設計最大せん断力 (N/m)	
Qa: 焼抜き栓溶接1個当たりの長期許容せん断力 (N)	
板厚	1.0 1.2 1.6
Qa (N)	4,000 4,900 7,350 (SPW 6,860 (APW))
Aw = (600) mm	(注) 接合に頭付きスタッドを用いる場合、焼抜き栓溶接は不要です。

■施工時許容スパン表 (デッキプレートの検討)																	単位 (m)	
コンクリート厚 (mm)		80			85			90			95			100				
		1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6	1.0	1.2	1.6		
0.50	支持条件	単続 (内注)	2.28	(2.42)	2.64	2.26	(2.39)	2.61	2.24	(2.37)	2.59	2.22	(2.35)	2.57	2.20	(2.33)	2.54	
		2連続	3.06	(3.24)	3.54	3.03	(3.21)	3.51	3.01	(3.18)	3.47	2.98	(3.15)	3.44	2.95	(3.12)	3.41	
		3連続	2.82	(2.99)	(3.26)	2.80	(2.96)	(3.23)	2.77	(2.93)	(3.20)	2.75	(2.91)	(3.17)	2.72	(2.88)	(3.15)	
		裏面	3.01	(3.18)	3.48	2.98	(3.15)	3.45	2.96	(3.13)	3.42	2.93	(3.10)	3.39	2.91	(3.07)	3.37	
0.75	支持条件	単続 (内注)	2.82	(2.99)	3.26	2.80	(2.96)	3.23	2.77	(2.93)	3.20	2.75	(2.91)	3.17	2.72	(2.88)	3.15	
		2連続	3.58	(3.67)	4.18	3.54	(3.62)	4.15	3.49	(3.58)	4.13	3.44	(3.53)	4.10	3.40	(3.49)	4.07	
		3連続	3.58	(3.67)	4.18	3.54	(3.62)	4.15	3.49	(3.58)	4.13	3.44	(3.53)	4.10	3.40	(3.49)	4.07	
		裏面	3.58	(3.67)	4.18	3.54	(3.62)	4.15	3.49	(3.58)	4.13	3.44	(3.53)	4.10	3.40	(3.49)	4.07	

注1 普通コンクリート、標準強度28.0N/㎡3、素組材が乾燥状態の素組材

注2 数値は素組材の乾燥状態の素組材の値

注3 上表と異なる場合は、別途変更工が必要です

注1: 普通コンクリート (単位重量24.0 kN/m³)、表面処理が亜鉛めっきの場合
注2: () 数値は表面処理が亜鉛めっきなしまたは塗装時の許容スパンを示す。注3: 上表を超える場合、別途支保工が必要で
S 造: 施工時のスパンの取り方

耐火仕様

○共通事項 支持梁: 鉄骨梁、コンクリート: 設計基準強度18~36 N/m² の普通コンクリート
溶接金網: JIS G 3551 又は異形鉄筋 (JIS G 3112、G 3117) 寸法は下表参照
耐火補強筋: 不要

認定番号 [FP060FL-0100 (床1時間耐火)]	デッキプレート 品名	支持形式	支持スパン	コンクリート 厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合 (径)
QL99-50-10	単続支持	2.700mm 以下	80mm 以上	5,400N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 打込み鉄 (φ4.5)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-50-12	連続支持	3.000mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 打込み鉄 (φ4.5)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-50-16	連続支持	3.400mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 打込み鉄 (φ4.5)	頭付きスタッド (φ13 以上)
認定番号 [FP060FL-0101 (床1時間耐火)]	QL99-50-10	単続支持	2.700mm 以下	80mm 以上	7,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16 以上)
QL99-50-12	連続支持	3.000mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 打込み鉄 (φ4.5)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-50-16	連続支持	3.400mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 打込み鉄 (φ4.5)	頭付きスタッド (φ13 以上)
認定番号 [FP060FL-0126 (床1時間耐火)]	QL99-50-10	単続支持	2.700mm 以下	80mm 以上	7,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16 以上)
QL99-50-12	連続支持	3.000mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 打込み鉄 (φ4.5)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-50-16	連続支持	3.400mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 打込み鉄 (φ4.5)	頭付きスタッド (φ13 以上)

認定番号 [FP060FL-0102 (床1時間耐火)]	デッキプレート 品名	支持形式	支持スパン	コンクリート 厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合 (径)
QL99-75-10	単続支持	3.000mm 以下	80mm 以上	5,400N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-75-12	連続支持	3.400mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-75-16	連続支持	3.800mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
認定番号 [FP060FL-0099 (床1時間耐火)]	QL99-75-10	単続支持	3.000mm 以下	80mm 以上	5,400N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16 以上)
QL99-75-12	連続支持	3.400mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-75-16	連続支持	3.800mm 以下	80mm 以上	3,500N/㎡ 以下	縦径6mm以上-150×150mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
認定番号 [FP120FL-0127 (床2時間耐火)]	QL99-75-10	単続支持	2.500mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	頭付きスタッド (φ16 以上)
QL99-75-12	連続支持	2.900mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-75-16	連続支持	3.300mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)

認定番号 [FP120FL-0127 (床2時間耐火)]	デッキプレート 品名	支持形式	支持スパン	コンクリート 厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合 (径)
QL99-75-10	単続支持	2.500mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ16 以上)
QL99-75-12	連続支持	2.900mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-75-16	連続支持	3.300mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)

認定番号 [FP120FL-0127 (床2時間耐火)]	デッキプレート 品名	支持形式	支持スパン	コンクリート 厚さ	許容積載荷重	溶接金網または異形鉄筋	梁との接合 (径)
QL99-75-10	単続支持	2.500mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ16 以上)
QL99-75-12	連続支持	2.900mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)
QL99-75-16	連続支持	3.300mm 以下	90mm 以上	6,000N/㎡ 以下	縦径6mm以上-100×100mm以下 D10以上-200×200mm以下	焼抜き栓溶接 (φ18 以上) 頭付きスタッド (φ13 以上)	頭付きスタッド (φ13 以上)

注1) 梁との接合間隔は、焼抜き栓溶接・打込み鉄・頭付きスタッド共に、デッキ溝と直交する場合300mm以下、平行方向は600mm以下とする。
注2) 梁の耐火被覆 梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて適切な耐火被覆を施す。(本認定仕様外)
注3) 許容積載荷重は、梁に付する全荷重 (仕上げ荷重も含む) から床荷重 (デッキプレート + コンクリート + 鉄筋) を差し引いた値を示す。

アクセサリ

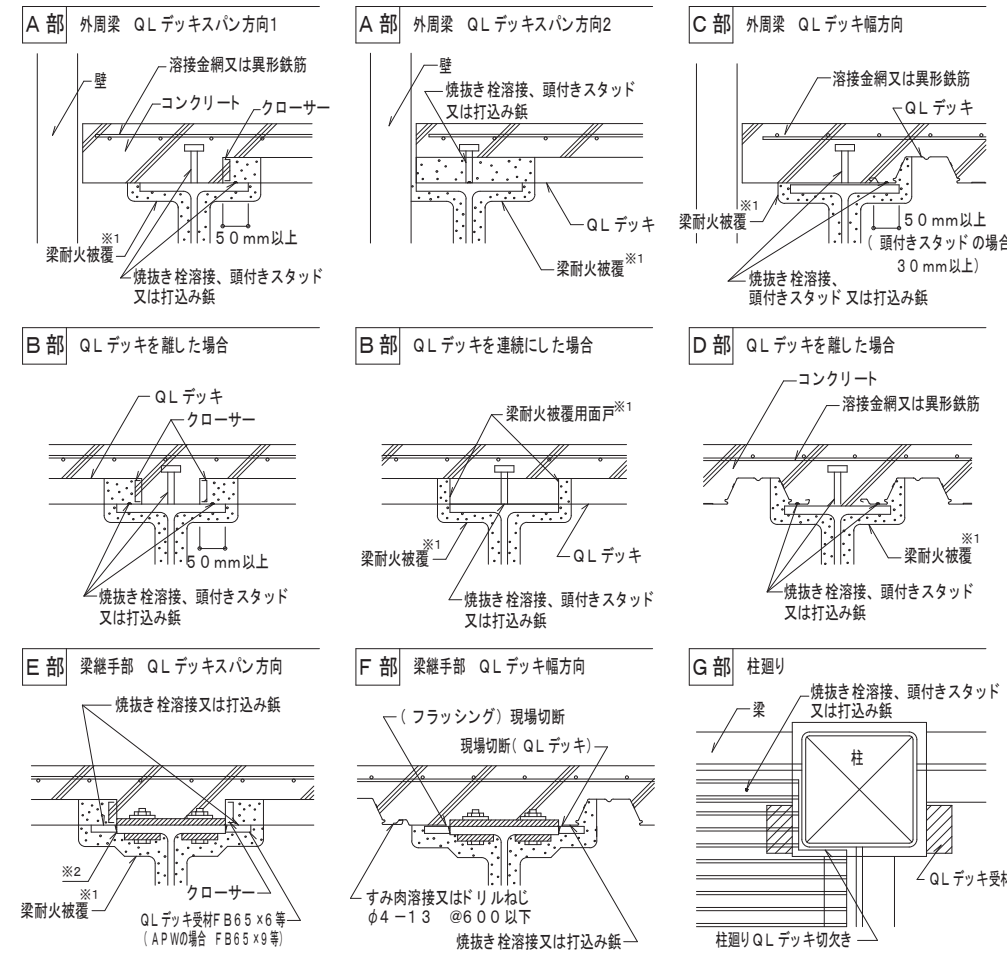
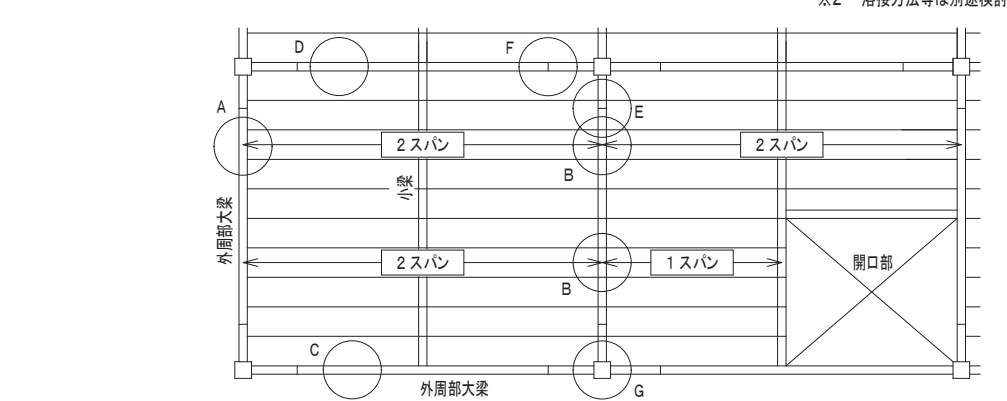
フラッシング	クローサー	ハンガー金具
QL デッキ割付の幅調整に用いる。 定尺2.4m、t=1.2mmまたは1.6mm	QL デッキの小口ふさぎ用	梁の耐火被覆用戸

施工順序	敷 込 み
墨 出 し ↓ 敷込み仮止め溶接 ↓ QLデッキと梁との接合 1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接 ↓ ひび割れ防止筋敷込み ↓ 検 査 ↓ コンクリート 打設	鉄骨梁の場合 1) 墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレート を仮止め溶接した後、順次適当な枚数 (5~10枚) ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの 隅部が乗るように敷込む。 ↓ QLデッキと梁との接合 1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接 ↓ ひび割れ防止筋敷込み ↓ 検 査 ↓ コンクリート 打設

施工順序	敷 込 み
墨 出 し ↓ 敷込み仮止め溶接 ↓ QLデッキと梁との接合 1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接 ↓ ひび割れ防止筋敷込み ↓ 検 査 ↓ コンクリート 打設	鉄骨梁の場合 1) 墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレート を仮止め溶接した後、順次適当な枚数 (5~10枚) ごとに仮止めの溶接する。 2) 各大梁上にデッキプレートの 隅部が乗るように敷込む。 ↓ QLデッキと梁との接合 1) 頭付きスタッド 2) 打込み鉄 3) 焼抜き栓溶接 ↓ ひび割れ防止筋敷込み ↓ 検 査 ↓ コンクリート 打設

標準納まり

支持梁: 鉄骨梁



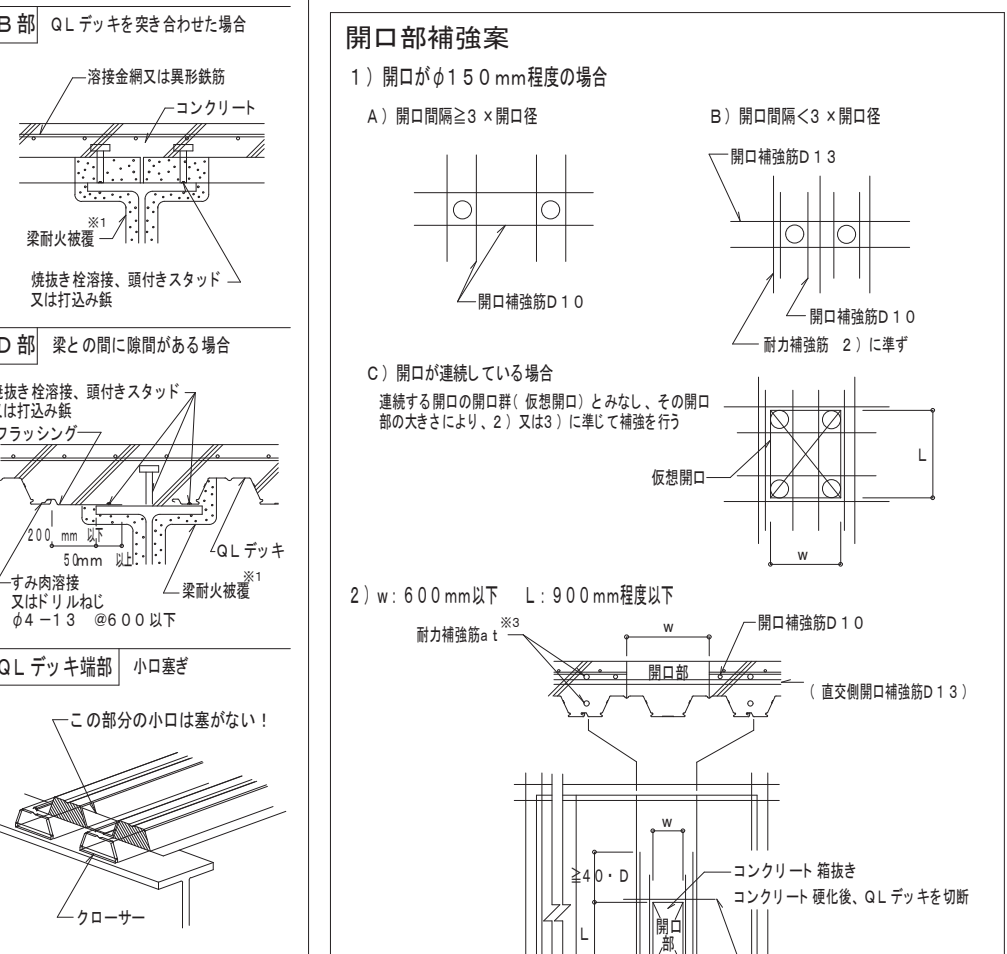
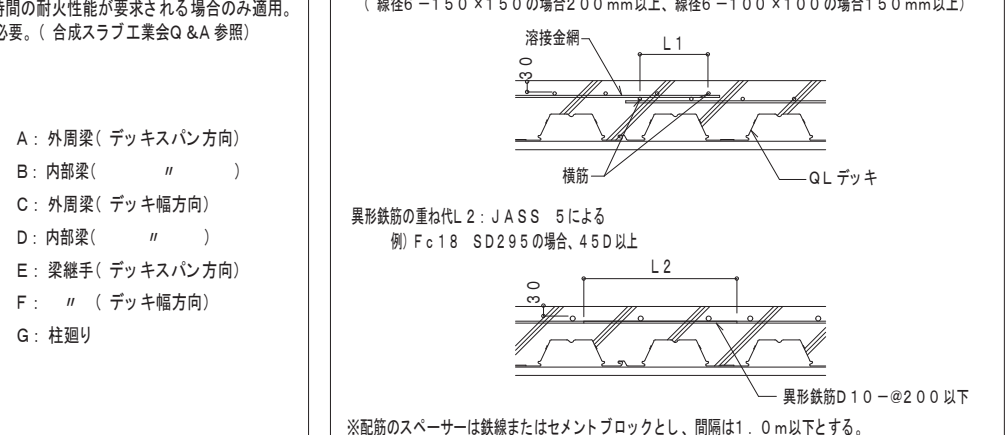
(参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項

- 1) 設計上の留意点
1) 小梁の剛性を大きくする。
2) ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3) スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
(コンクリート厚さはQLデッキ山上から 80~90mm 厚くする。)
4) デッキプレートは各端で梁に接合すること。
頭付きスタッド 使用の場合にも、デッキプレート 各溝全てをアークスポット 溶接するのが望ましい。
- 2) 施工上の留意点
1) 水セメント比を小さくする。
〔例〕 単位重量 175リットル/㎡ 以下
ベアコンクリートスラブ 10cm
高性能AE減水剤
2) 溶接金網の位置-かぶり厚さ30mm-を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3) コンクリート 打込み後1週間以内は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4) 打込み後初期には散水や養生シート 等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5) 打込み後4~7 日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例



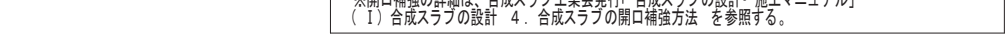
柱通りの補強例



(参考) ひび割れ拡大防止のための留意事項

- 1) 設計上の留意点
1) 小梁の剛性を大きくする。
2) ひび割れ拡大防止のため補強筋を設ける。(右図補強例参照)
3) スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。
(コンクリート厚さはQLデッキ山上から 80~90mm 厚くする。)
4) デッキプレートは各端で梁に接合すること。
頭付きスタッド 使用の場合にも、デッキプレート 各溝全てをアークスポット 溶接するのが望ましい。
- 2) 施工上の留意点
1) 水セメント比を小さくする。
〔例〕 単位重量 175リットル/㎡ 以下
ベアコンクリートスラブ 10cm
高性能AE減水剤
2) 溶接金網の位置-かぶり厚さ30mm-を確保する。(補強筋は溶接金網より下に配筋する)
3) コンクリート 打込み後1週間以内は載荷作業を行わない。歩行程度は可。
4) 打込み後初期には散水や養生シート 等で湿潤養生を行う。
直射日光が当たる屋上は、散水養生は必須。
5) 打込み後4~7 日間はスラブに振動や荷重を加えないようにし、充分な養生期間を設ける。

大梁上の補強例



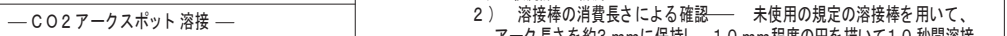
柱通りの補強例



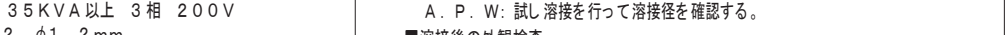
大梁上の補強例



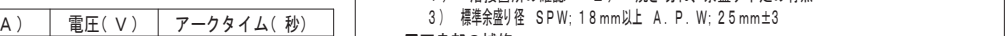
柱通りの補強例



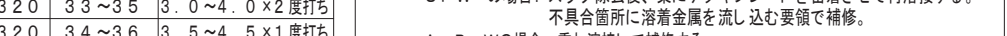
大梁上の補強例



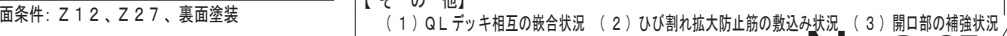
柱通りの補強例



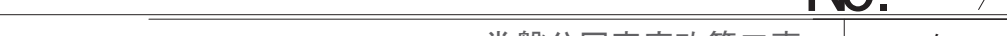
大梁上の補強例



柱通りの補強例



大梁上の補強例



柱通りの補強例



大梁上の補強例



柱通りの補強例

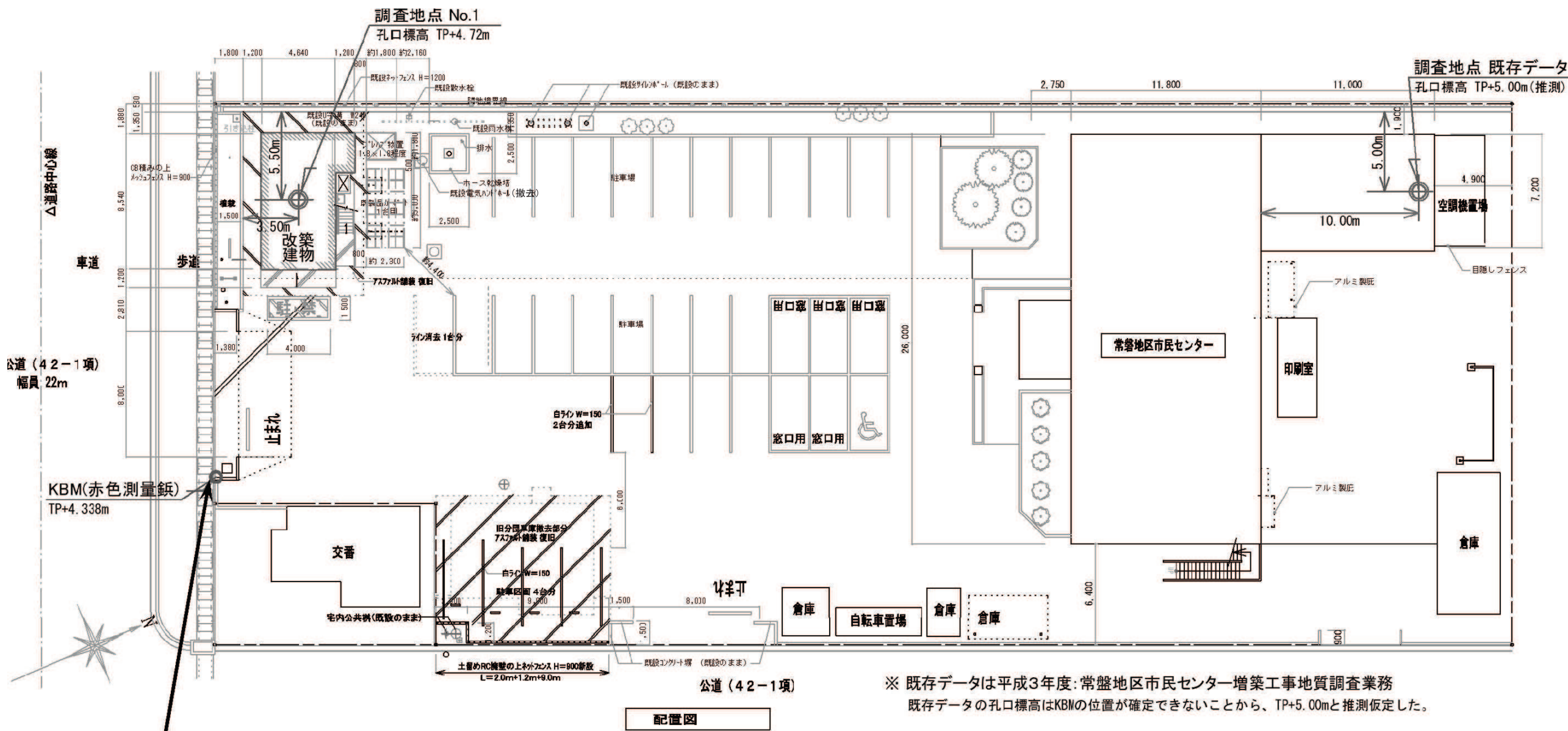


大梁上の補強例



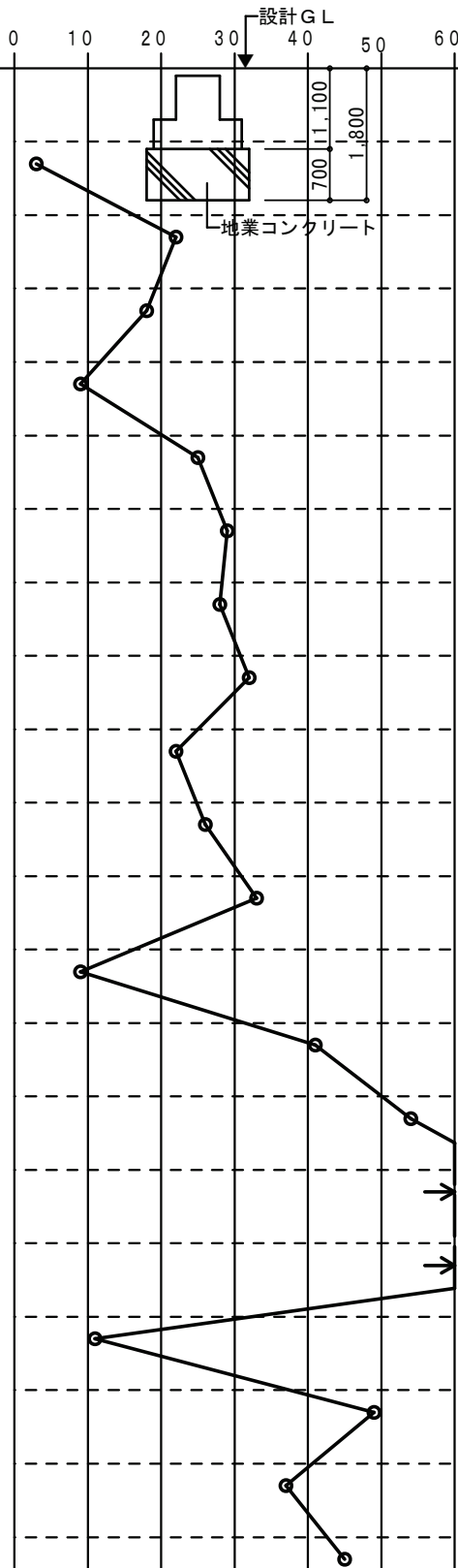
柱通りの補強例

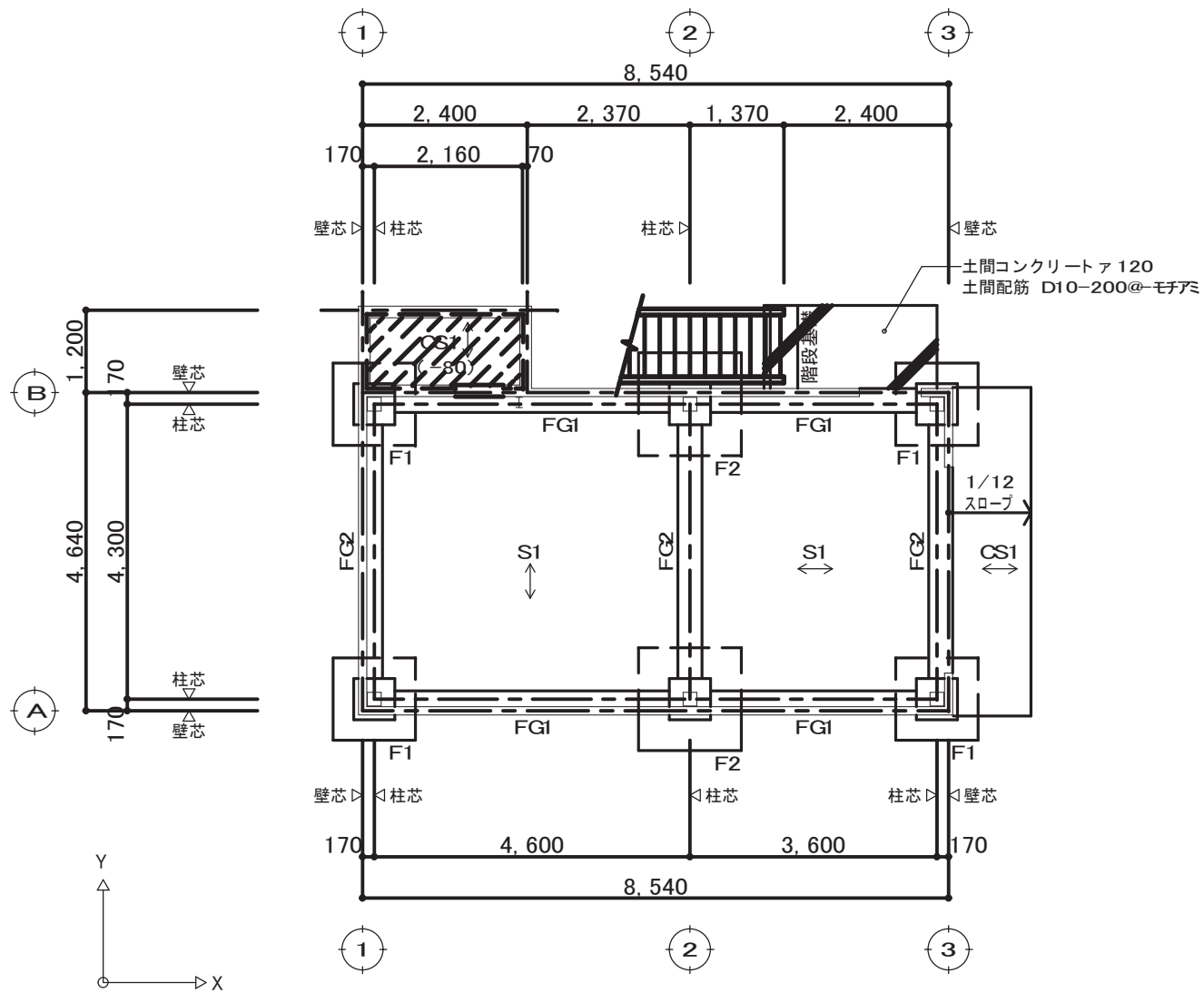




ボーリング標準貫入試験結果 No.1

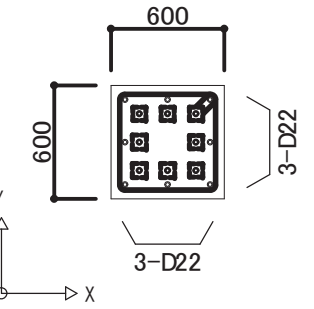
設計GLはTP+4.72m(KBM+0.382m)とする
※詳細は地質調査報告書による
※支持層は、KBM-1.7mからの礫混じり粗砂

標 尺 (m)	標 高 (m)	層 厚 (m)	深 度 (m)	土 質 区 分	孔 内 水 位	孔口標高：T P + 4 . 7 2 m		
						深 度	N 値	
1	3.02	1.70	1.70	埋土	7/29 1.70 ▽	1.15 1.45	3/30	
2						2.15 2.45	22/30	
3						3.15 3.45	18/20	
4						4.15 4.45	9/30	
5	-0.33	3.35	5.05	礫混じり粗砂		5.15 5.45	25/30	
6						6.15 6.45	29/30	
7						7.15 7.45	28/30	
8						8.15 8.45	32/30	
9						9.15 9.45	22/30	
10	-6.18	5.85	10.90	礫混じり砂		10.15 10.45	26/30	
11	-7.28	1.10	12.00	砂礫		11.15 11.45	33/30	
12	-8.18	0.90	12.90	礫混じり粘土		12.15 12.45	9/30	
13						13.15 13.45	41/30	
14						14.15 14.45	54/30	
15						15.15 15.40	60/25	
16	-12.08	3.90	16.80	砂礫		16.15 16.37	60/22	
17	-13.18	1.10	17.90	砂質シルト		17.15 17.45	11/30	
18						18.15 18.45	49/30	
19						19.15 19.45	37/30	
20	-15.73	3.10	20.45	砂礫		20.15 20.45	45/30	

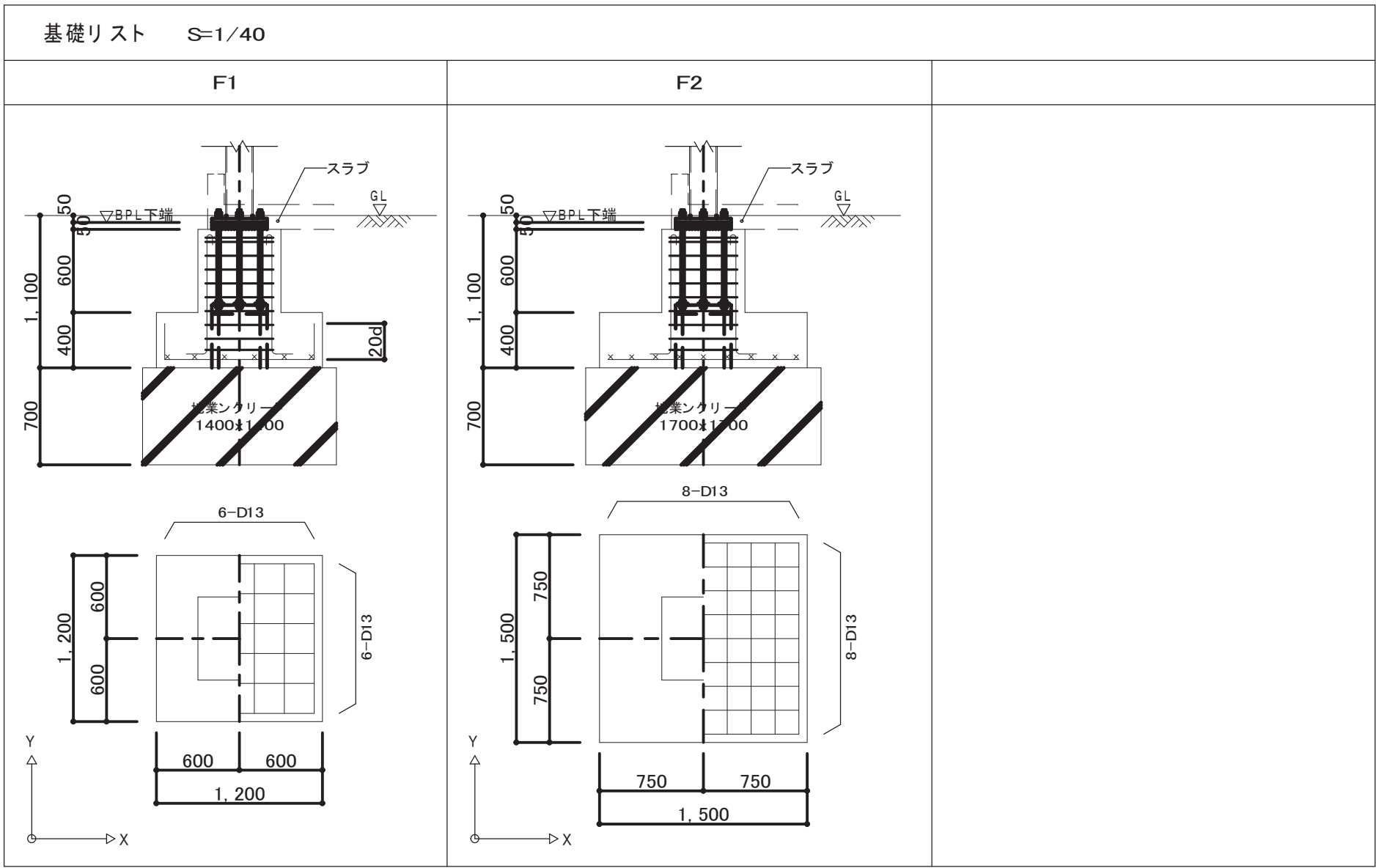


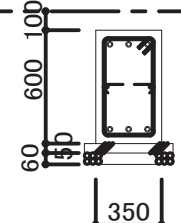
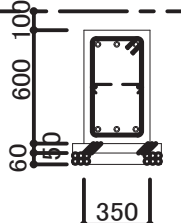
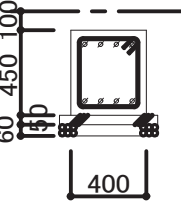
基礎梁・1階床伏図 S=1/100 (S=1/141)

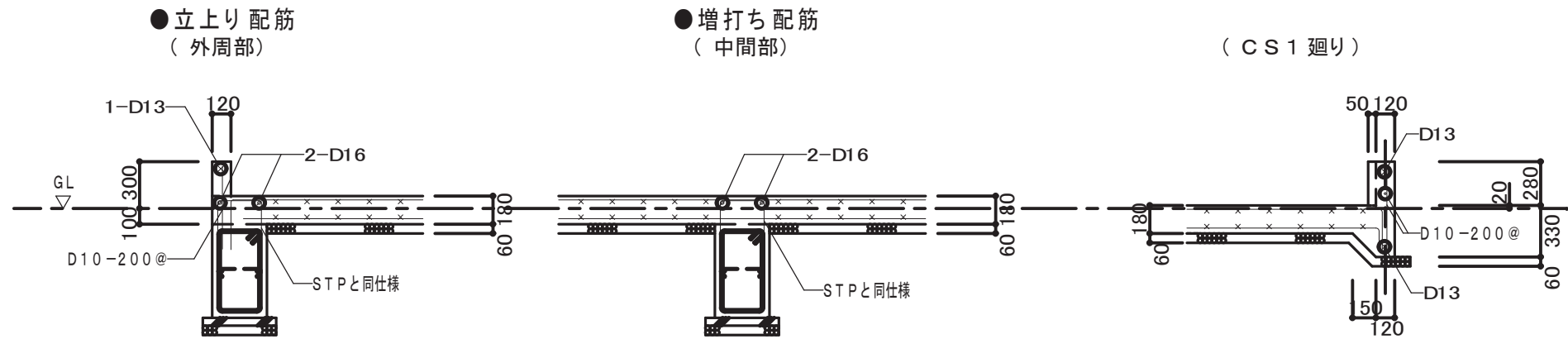
※() は1 F L からのレベルを示す(点線斜線部分)
特記なき場合は1 F L - 2 0 とする

基礎柱断面リスト S=1/40	
符 号	C 1
断 面	
主 筋	8 - D22
H O O P	□-D10-100@
T O P・H O O P	2 - D13
備 考	アンカーボルトは アンカーフレームを設けること

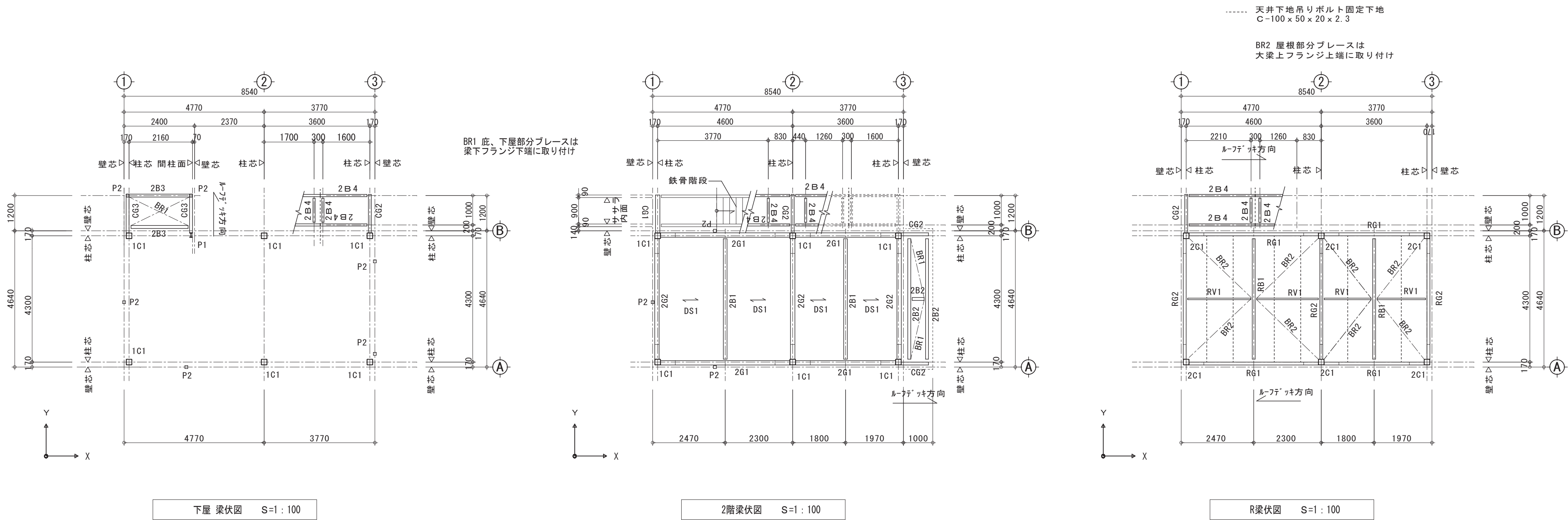
床版リスト					
符 号	版 厚	位 置	短辺方向X	長辺方向Y	備 考
S1	180	上端筋	D13-200@	D13-200@	モチアミ
		下端筋	D13-200@	D13-200@	
CS1	180	上端筋	D13-200@	D13-200@	モチアミ
		下端筋	D13-200@	D13-200@	



基礎梁断面リスト S=1/40				
※直交する主筋の交差部はX方向の主筋(上筋下筋共)を上側とする				
符 号	F G 1	F G 2		階段基礎
位 置	全 断 面	全 断 面		全 断 面
▽ 設計GL				
断 面				※F G 1には定着しないこと
上 端 筋	3 - D22	3 - D22		4 - D16
下 端 筋	3 - D22	3 - D22		4 - D16
S T P	□-D10-150@	□-D10-150@		□-D13-200@
腹 筋	2 - D10	2 - D10		



※基礎梁下端～フーチング肩の段差部分については、捨コン打設にて段差調整を行うこと



部材リスト

柱リスト	部 材	BCR295	BPL A. B. リブPL (建設大臣認定工法を除く)
1C1	□ - 200 x 200 x	12.0	BPL-28 x 400 x 400 (SN490C) A. B 8-M 22 (ABR490) L=660 DN 定着板PL-12 70 x 70
2C1	□ - 200 x 200 x	9.0	

間柱リスト	部 材	SS400・STKR400	継 手 e = 40、p = 60 S10T	BPL A. B. SS400
P1	H - 148 x 100 x 6 x 9		GPL - 6.0 2-M16 (2列)	BPL-16 x 200 x 160 A. B 2-M16 L=320 (フック付き) DN
P2	□ - 100 x 100 x 3.2		TOP PL-9 GPL-6.0 ピースPL-6加工 2-M12 (中) L=100x75x7	BPL-16 x 260 x 120 A. B 2-M16 L=320 (フック付き) DN

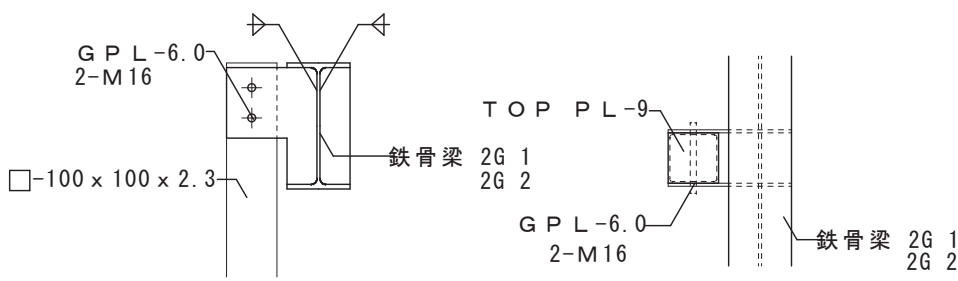
ブレースリスト	部 材	SS400	継 手 e = 40、p = 60
BR1	1 - M12		GPL - 6.0 1-M12 (F10T) JIS仕様ターンバックル締
BR2	1 - M16		GPL - 9.0 1-M16 (S10T) JIS仕様ターンバックル締

胴縁	SSC400	C - 100 x 50 x 20 x 2.3 リップ溝形鋼	@ 600	ピースPL-6加工 2-M12 (中) 強度区分 4.6	アングル・ス既製品 L=100x90x40x4.5程度
胴縁	SSC400	2C - 100 x 50 x 20 x 2.3 リップ溝形鋼	@ 1800	ピースPL-6加工 2-M12 (中) 強度区分 4.6	アングル・ス既製品 L=100x90x40x4.5程度
開口補強a	STKR400	□ - 100 x 100 x 2.3	@ 600	ピースPL-6加工 2-M12 (中) 強度区分 4.6	アングル・ス既製品 L=100x90x40x4.5程度
タイトフレーム受け	SSC400	C - 100 x 50 x 20 x 2.3 リップ溝形鋼			
階段	SS400	ササラ桁 □ - 250x90x9x13 GPL-9 HTB 3-M20 段板 CHPL-6曲げ加工 踊り場補強 L-65x65x6 @500			BPL-16x110x300 A. B 2-M16 L=320 (フック付き)
スラブ 合成床版 (DS1)		QL99-50-1.2 [JFE建材 (株)]・MA50 t 1.2 [明治鋼業 (株)]・E Z50 t 1.2 [日鐵住金建材 (株)] S50-1.2 [(株)アイ・テック] 各社同等品 亜鉛メッキ (Z 27) 普通コンクリート Fc=24N 山上80 ワイヤメッシュφ150 頭付きスタッド			

大梁 (片持) リスト	部 材	SN400B	
2G1・2G2・CG1	H - 300 x 150 x 6.5x 9		スブライスプレートは 梁と同材料 (SN400B) とする ※CG3 ノスカラー 摘要
RG1・RG2・CG2	H - 200 x 100 x 5.5x 8		
CG3	H - 148 x 100 x 6 x 9		

小梁リスト	部 材	SS400	継 手 M16 M 20 .e = 40、p = 60 S10T M 22 .e = 40、p = 65
2B1	H - 250 x 125 x 6 x 9		GPL - 9.0 2-M 20 (1列)
2B2・RB1	H - 200 x 100 x 5.5x 8		GPL - 6.0 2-M 20 (1列)
2B3	H - 148 x 100 x 6 x 9		GPL - 6.0 2-M 16 (2列)
2B4	□ - 180 x 75 x 7 x 10.5		GPL - 6.0 2-M 16 (2列)
RV1	□ - 100 x 50 x 5 x 7.5		GPL - 6.0 2-M 16 (2列)

P 2 柱頭 納まり図



頭付きスタッド詳細図

2G1・2G2	2B1
φ 19-@ 300	φ 16-@ 300

※ 外部鉄骨現し部分は DP塗装となる為ブラスト 処理を施すこと。

凡例 (胴縁・サッシ開口補強 共通)

— C-100x 50x 20x 2.3

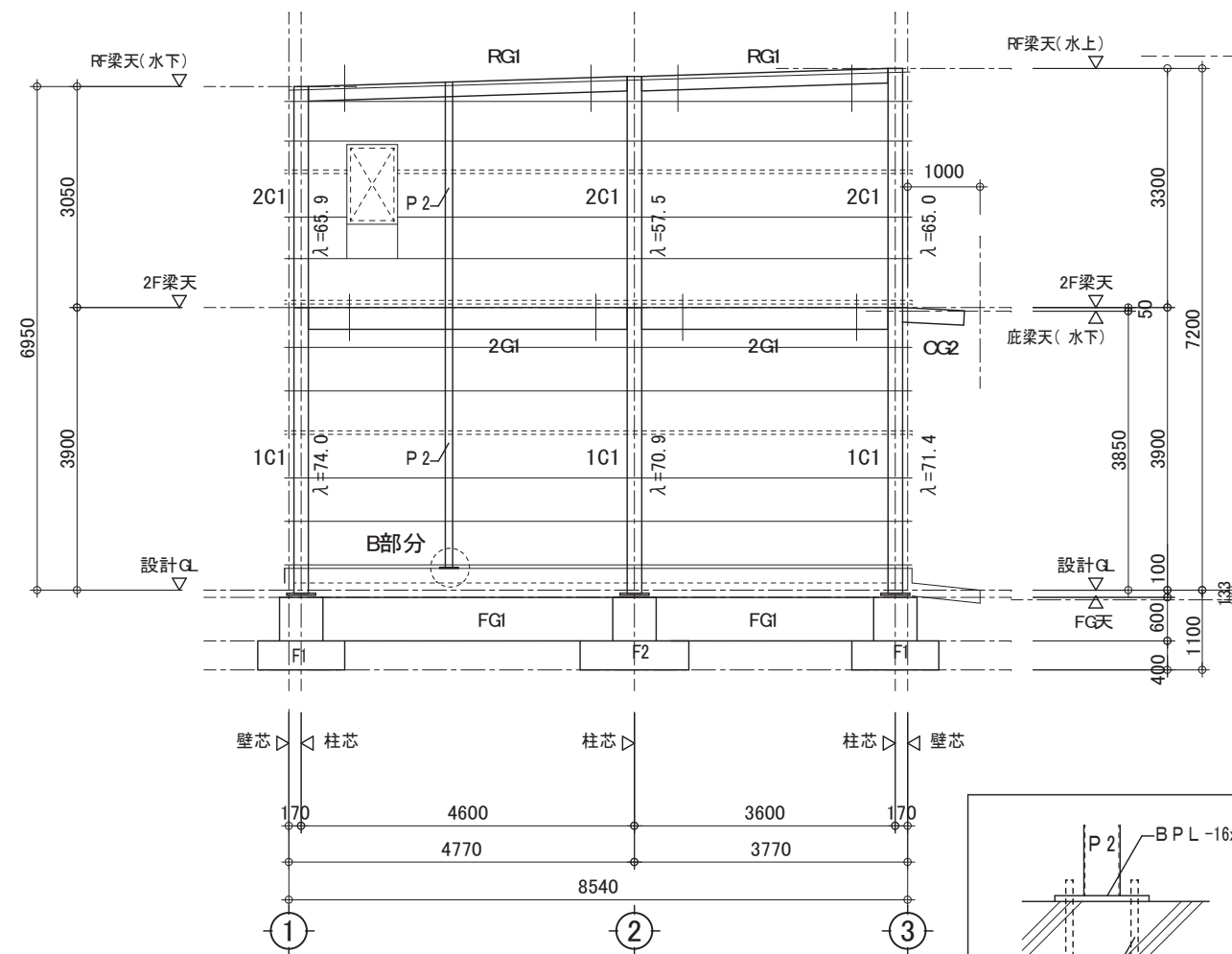
----- 2C-100x 50x 20x 2.3

□ -100x 100x 2.3

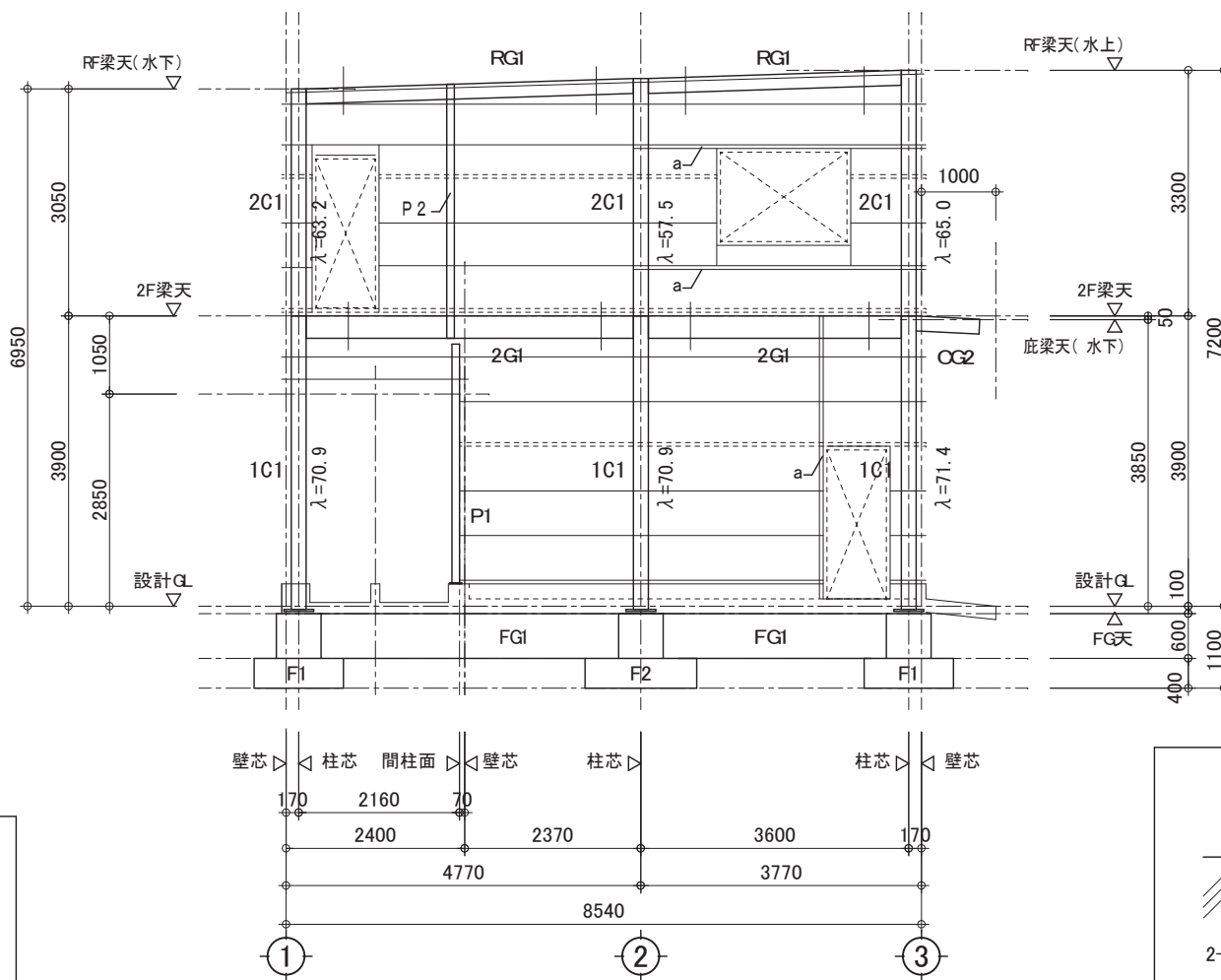
共通事項

特記なき限り 継ぎ手位置は柱芯より 600mm とする

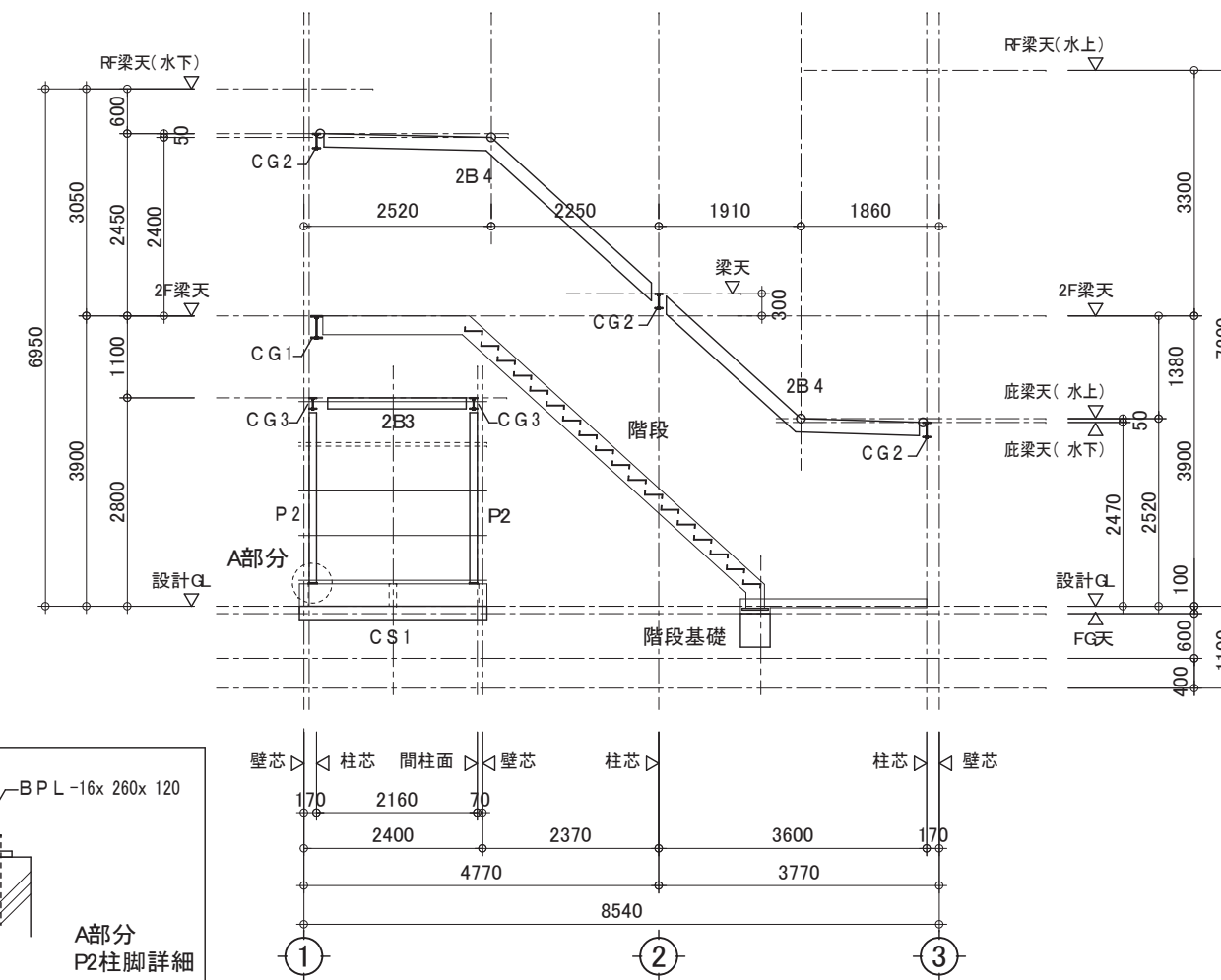
特記なき限り 継ぎピース PL-6加工 2-M12 L-100x 75x 7を 胴縁上に取り付け



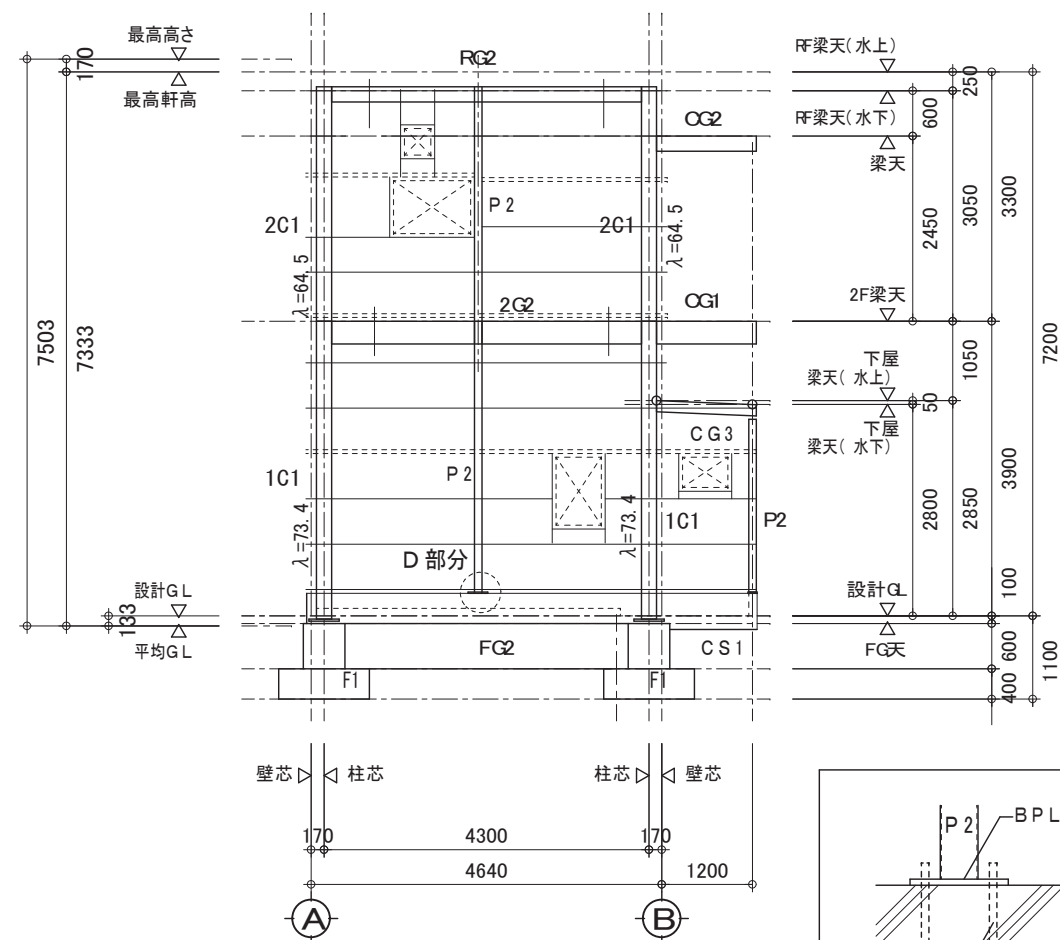
Aを通り軸組図 S=1: 100



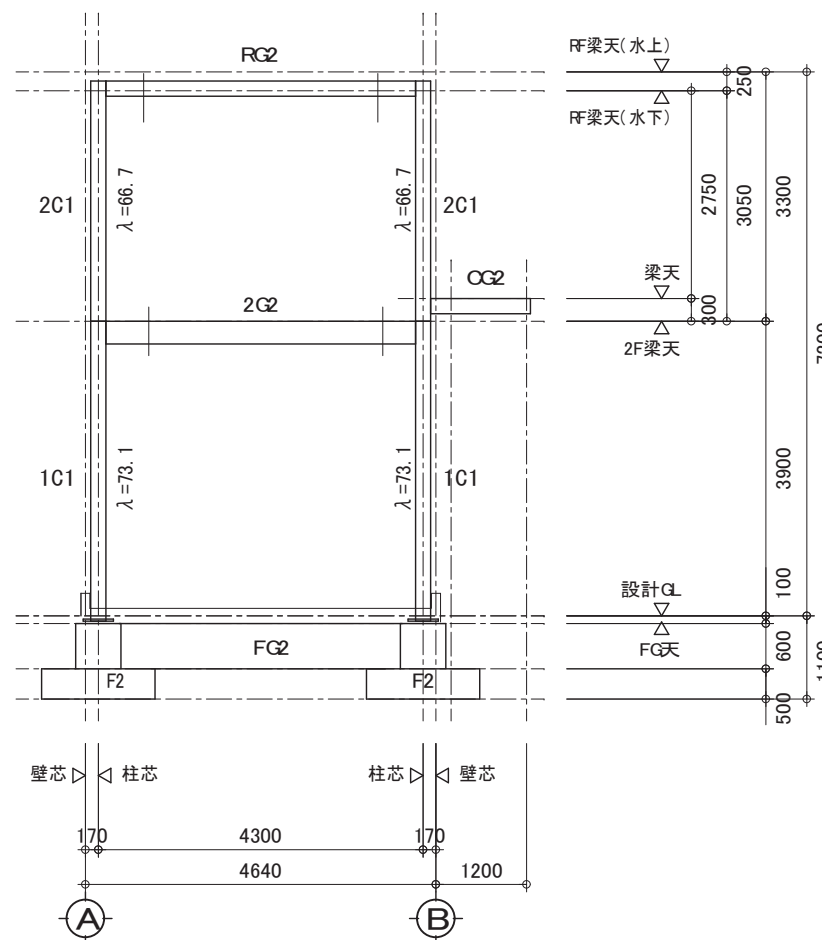
Bを通り軸組図 S=1: 100



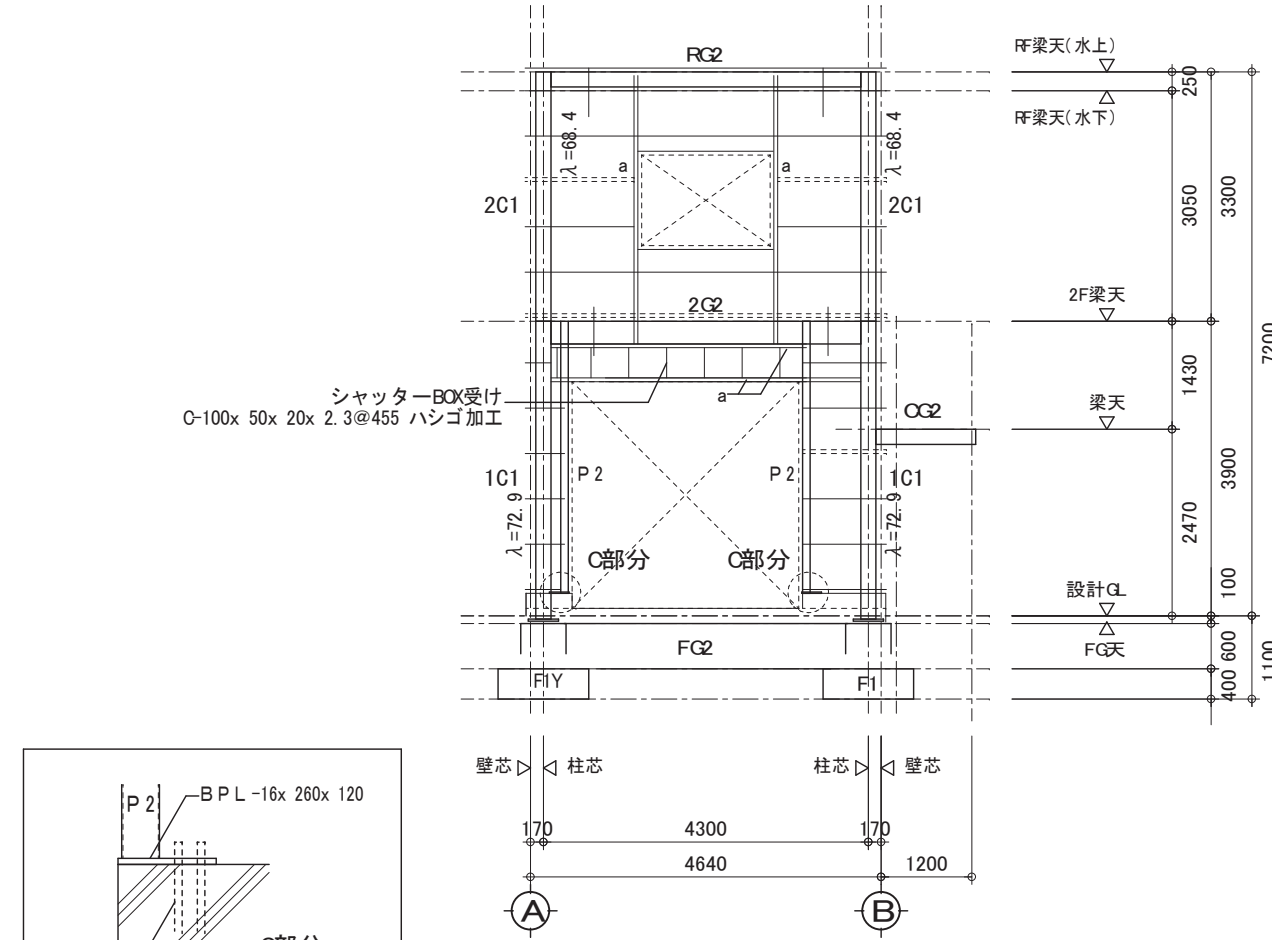
B通り-1200 軸組図 S=1: 100



1通り軸組図 S=1: 100



2通り軸組図 S=1: 100



3通り軸組図 S=1: 100

No. S-11

常磐分団車庫改築工事

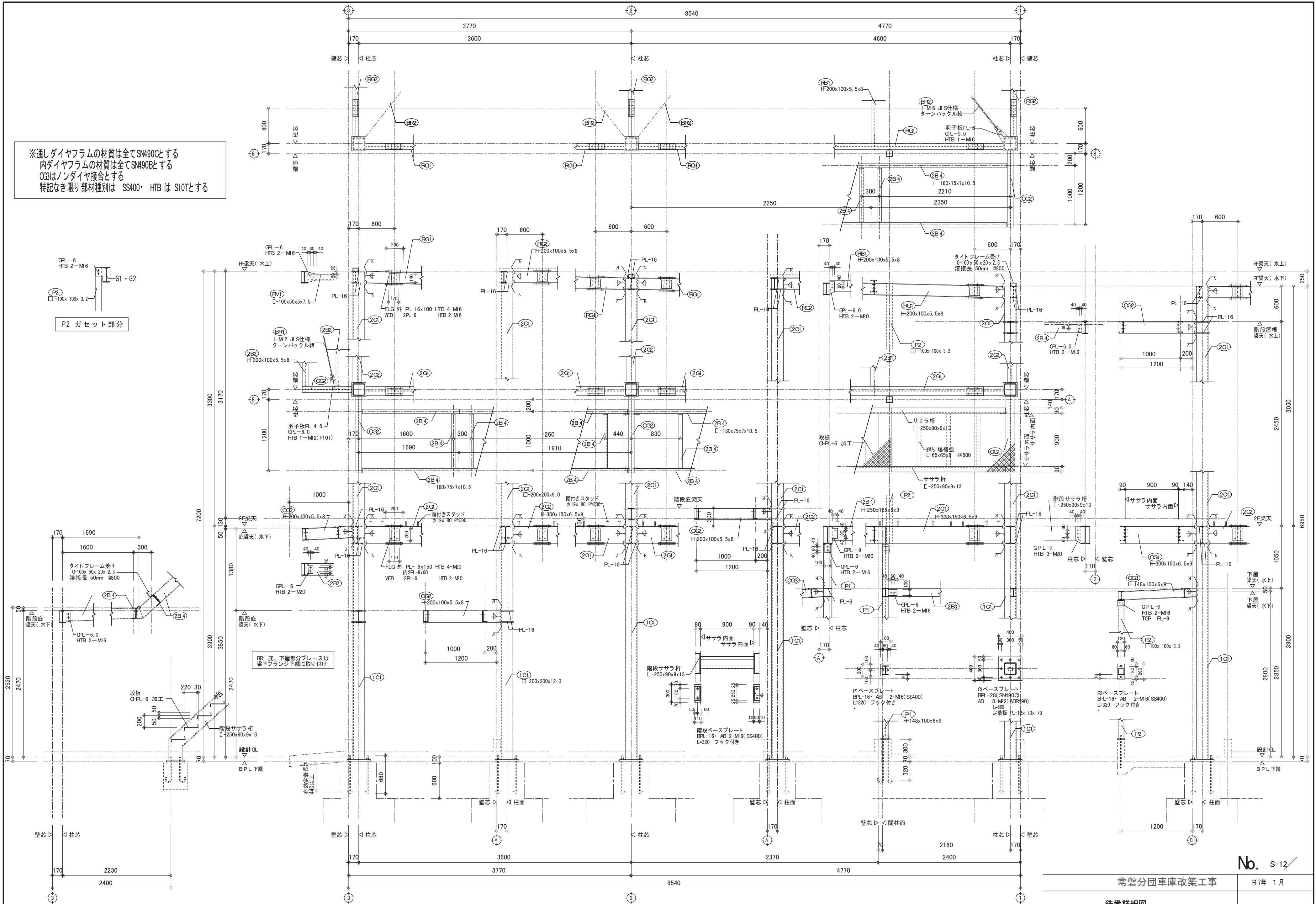
R7年 1月

軸組図

scale (A2) S=1: 100 (A3) S=1: 142

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治

※通しダイヤフラムの材質は全てSM490Cとする
内ダイヤフラムの材質は全てSM490Bとする
CG3はノンダイヤ接合とする
特記なき限り部材種別は SS400・ HTB は S10Tとする



[illegible]

項目

特記事項

51

取付高さ

壁付、壁掛形の機器等の取付高さは、図面に記載のない場合は原則として下表による。

名 称	測 点	取付高さ [mm]
ブラケット（一般）	床土 ～ 中心	2,100
（路場）	〃	2,500
〃（鏡上）	鏡上端 ～ 中心	150
スイッチ（一般）	床土 ～ 中心	1,200
〃（多機能併用等）	〃	1,200
自動スイッチ（照明、換気扇用等）	〃	1,800
コンセント、電話用7芯ケーブル端子（一般）	〃	300
〃（和室）	〃	150
〃（台土）	台土 ～ 中心	150
コンセント（土間）	床土 ～ 中心	800 ～ 1,300
コンセント（電動車いす充電用）	〃	900
引込開閉器箱（低圧）	床土 ～ 上端	1,500
分電盤、制御盤、実験盤	床土 ～ 中心	1,500（上端1,900以下）
開閉器箱	〃	1,500
電磁開閉器押しボタン	〃	1,200
接地用端子箱	地上、床土 ～ 中心	500
試験用接続端子箱	床土 ～ 下端	800
接地極埋設標	地上 ～ 中心	600
給油ボックス	地上 ～ 給油口	1,000
室内端子盤（廊下・室内）	床土 ～ 下端	300
中間端子盤（EPS・電気室）	床土 ～ 中心	1,500
壁付電話機	〃	1,300
観時計	〃	1,500（上端1,900以下）
子時計、スピーカ	〃	（天井高）×0.9
アッテネータ	〃	1,200
表示盤	〃	（天井高）×0.9
発信器（出退表用）	〃	1,200
外部受付けインターホン（子機）	〃	標準図による
壁付インターホン（上記以外）	〃	1,100
呼出ボタン（多機能併用等）	〃	900
復帰ボタン（ 〃 ）	〃	1,300
廊下表示灯（ 〃 ）	〃	2,000
テレビ機器受信機	天井下 ～ 上端	200
火報受信機（複合型）	床土 ～ 操作部	800 ～ 1,500
副受信機	床土 ～ 中心	1,500
機器収納箱（火災報知設備）	〃	800 ～ 1,500
発信機	〃	800 ～ 1,500
警報ベル	〃	（天井高）×0.9
表示灯（火災報知設備）	〃	（天井高）×0.8
運動制御器（自動開鎖）	〃	1,500
ガス漏れ検知器（重ガス）	〃	300
ガス漏れ検知器（軽ガス）	天井面 ～ 中心	（天井高）-200

（参考）天井面を基準とする取付高は、天井高さが 2,500mm から 3,000mm の場合に適用する。
天井高さが 3,000mm 以上の場合及び機器の使用に支障が生じる場合は、監督職員と協議する。

52

接地極

接地極の材料は下記による。なお接地極E B（14φ）の長さは 1,500mm 以上とし、10φは W=30 L=900mm 以上、14φは、W=40 L=1,200mm 以上としても差し支えない。

接 地 の 種 類	記 号	接 地 抵 抗 値	接 地 極（参 考）
・ 共 同 接 地	E _{A,B,C}	Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 1 組
・ 共 同 接 地	E _{A,B,C}	10Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 3 組
・ A 種	E _A	10Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 2 組
・ B 種	E _B	Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 2 組
・ D 種	E _D	100Ω以下	E B（10φ）× 1（L=1,000mm）
・ C 種	E _C	10Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 2 組
・ 高 圧 避 雷 器 用	E _{UL}	10Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 3 組
・ 低 圧 避 雷 器 用	E _{UL}	10Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 2 組
・ 構 造 体 接 地			
・ 交 換 機 用	E _E	10Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 3 組
・ 通 信 用	E _{UL}	10Ω以下	E B（14φ）× 3 連- 3 組
・ 通 信 用	E _{UL}	100Ω以下	E B（10φ）× 1（L=1,000mm）
・ 電話引込口の保安器用	E _{UL}	100Ω以下	E B（10φ）× 1（L=1,000mm）
・ 測 定 用	E _D		E B（10φ）× 1（L=1,000mm）

項目

特記事項

53

高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定

高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機	器具容量、コンデンサ回路の配線						
	配線用遮断器等 [A]			コンデンサ回路		電流計 [A]	
	定格電流 (参考値) [A]	直入始動 Y-Δ始動 [A]	直入始動 MOCB [A]	電圧 [V]	電流 [A]		
				長さを3m以下	長さを3m以下	50Hz	60Hz
0.2	1.8	15	—	15	3	2	15
0.4	3.2	15	—	15	5	2	20
0.75	4.6	15	—	15	5	2	40
1.5	8	30	—	15	10	2	75
2.2	11.1	40	—	20	15	2	100
3.7	16.8	60	—	30	20	2	150
5.5	24.6	75	60	50	30	2	200
7.5	34	125	75	60	40	5.5	250
11	48	125	125	75	60	5.5	300
15	64	125	150	125	100	5.5	400
18.5	79	150	175	125	100	8	500
22	92	175	200	150	100	14	800
30	124	225	300	200	150	22	900
37	152	300	350	225	200	22	1,200

400V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機	器具容量、コンデンサ回路の配線						
	配線用遮断器等 [A]			コンデンサ回路		電流計 [A]	
	定格電流 (参考値) [A]	直入始動 Y-Δ始動 [A]	直入始動 MOCB [A]	電圧 [V]	電流 [A]		
				長さを3m以下	長さを3m以下	50Hz	60Hz
0.2	0.9	15	—	—	3	2	5
0.4	1.6	15	—	15	3	2	5
0.75	2.3	15	—	15	5	2	10
1.5	4	15	—	15	5	2	20
2.2	5.5	20	—	15	10	2	25
3.7	8.4	30	—	15	10	2	30
5.5	12.3	40	30	30	15	2	50
7.5	17	60	40	30	20	2	50
11	24	75	60	50	30	2	75
15	32	100	75	60	40	3.5	100
18.5	39.5	125	100	75	60	5.5	125
22	46	125	100	100	60	5.5	200
30	62	125	150	125	100	5.5	300
37	76	150	175	125	100	8	350
45	95	175	225	150	100	14	500
55	114	225	250	175	150	14	800
75	155	300	350	225	200	22	1,000
90	180	350	400	300	200	38	1,400
110	220	400	500	350	250	38	1,800

54

高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定

高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機	器具容量、コンデンサ回路の配線						
	配線用遮断器等 [A]			コンデンサ回路		電流計 [A]	
	定格電流 (参考値) [A]	直入始動 Y-Δ始動 [A]	直入始動 MOCB [A]	電圧 [V]	電流 [A]		
				長さを3m以下	長さを3m以下	50Hz	60Hz
0.2	0.9	15	—	—	3	2	5
0.4	1.6	15	—	15	3	2	5
0.75	2.3	15	—	15	5	2	10
1.5	4	15	—	15	5	2	20
2.2	5.5	20	—	15	10	2	25
3.7	8.4	30	—	15	10	2	30
5.5	12.3	40	30	30	15	2	50
7.5	17	60	40	30	20	2	50
11	24	75	60	50	30	2	75
15	32	100	75	60	40	3.5	100
18.5	39.5	125	100	75	60	5.5	125
22	46	125	100	100	60	5.5	200
30	62	125	150	125	100	5.5	300
37	76	150	175	125	100	8	350
45	95	175	225	150	100	14	500
55	114	225	250	175	150	14	800
75	155	300	350	225	200	22	1,000
90	180	350	400	300	200	38	1,400
110	220	400	500	350	250	38	1,800

55

高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定

高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機	器具容量、コンデンサ回路の配線						
	配線用遮断器等 [A]			コンデンサ回路		電流計 [A]	
	定格電流 (参考値) [A]	直入始動 Y-Δ始動 [A]	直入始動 MOCB [A]	電圧 [V]	電流 [A]		
				長さを3m以下	長さを3m以下	50Hz	60Hz
0.2	0.9	15	—	—	3	2	5
0.4	1.6	15	—	15	3	2	5
0.75	2.3	15	—	15	5	2	10
1.5	4	15	—	15	5	2	20
2.2	5.5	20	—	15	10	2	25
3.7	8.4	30	—	15	10	2	30
5.5	12.3	40	30	30	15	2	50
7.5	17	60	40	30	20	2	50
11	24	75	60	50	30	2	75
15	32	100	75	60	40	3.5	100
18.5	39.5	125	100	75	60	5.5	125
22	46	125	100	100	60	5.5	200
30	62	125	150	125	100	5.5	300
37	76	150	175	125	100	8	350
45	95	175	225	150	100	14	500
55	114	225	250	175	150	14	800
75	155	300	350	225	200	22	1,000
90	180	350	400	300	200	38	1,400
110	220	400	500	350	250	38	1,800

56

高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定

高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機	器具容量、コンデンサ回路の配線						
	配線用遮断器等 [A]			コンデンサ回路		電流計 [A]	
	定格電流 (参考値) [A]	直入始動 Y-Δ始動 [A]	直入始動 MOCB [A]	電圧 [V]	電流 [A]		
				長さを3m以下	長さを3m以下	50Hz	60Hz
0.2	0.9	15	—	—	3	2	5
0.4	1.6	15	—	15	3	2	5
0.75	2.3	15	—	15	5	2	10
1.5	4	15	—	15	5	2	20
2.2	5.5	20	—	15	10	2	25
3.7	8.4	30	—	15	10	2	30
5.5	12.3	40	30	30	15	2	50
7.5	17	60	40	30	20	2	50
11	24	75	60	50	30	2	75
15	32	100	75	60	40	3.5	100
18.5	39.5	125	100	75	60	5.5	125
22	46	125	100	100	60	5.5	200
30	62	125	150	125	100	5.5	300
37	76	150	175	125	100	8	350
45	95	175	225	150	100	14	500
55	114	225	250	175	150	14	800
75	155	300	350	225	200	22	1,000
90	180	350	400	300	200	38	1,400
110	220	400	500	350	250	38	1,800

57

高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定

高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機	器具容量、コンデンサ回路の配線						
	配線用遮断器等 [A]			コンデンサ回路		電流計 [A]	
	定格電流 (参考値) [A]	直入始動 Y-Δ始動 [A]	直入始動 MOCB [A]	電圧 [V]	電流 [A]		
				長さを3m以下	長さを3m以下	50Hz	60Hz
0.2	0.9	15	—	—	3	2	5
0.4	1.6	15	—	15	3	2	5
0.75	2.3	15	—	15	5	2	10
1.5	4	15	—	15	5	2	20
2.2	5.5	20	—	15	10	2	25
3.7	8.4	30	—	15	10	2	30
5.5	12.3	40	30	30	15	2	50
7.5	17	60	40	30	20	2	50
11	24	75	60	50	30	2	75
15	32	100	75	60	40	3.5	100
18.5	39.5	125	100	75	60	5.5	125
22	46	125	100	100	60	5.5	200
30	62	125	150	125	100	5.5	300
37	76	150	175	125	100	8	350
45	95	175	225	150	100	14	500
55	114	225	250	175	150	14	800
75	155	300	350	225	200	22	1,000
90	180	350	400	300	200	38	1,400
110	220	400	500	350	250	38	1,800

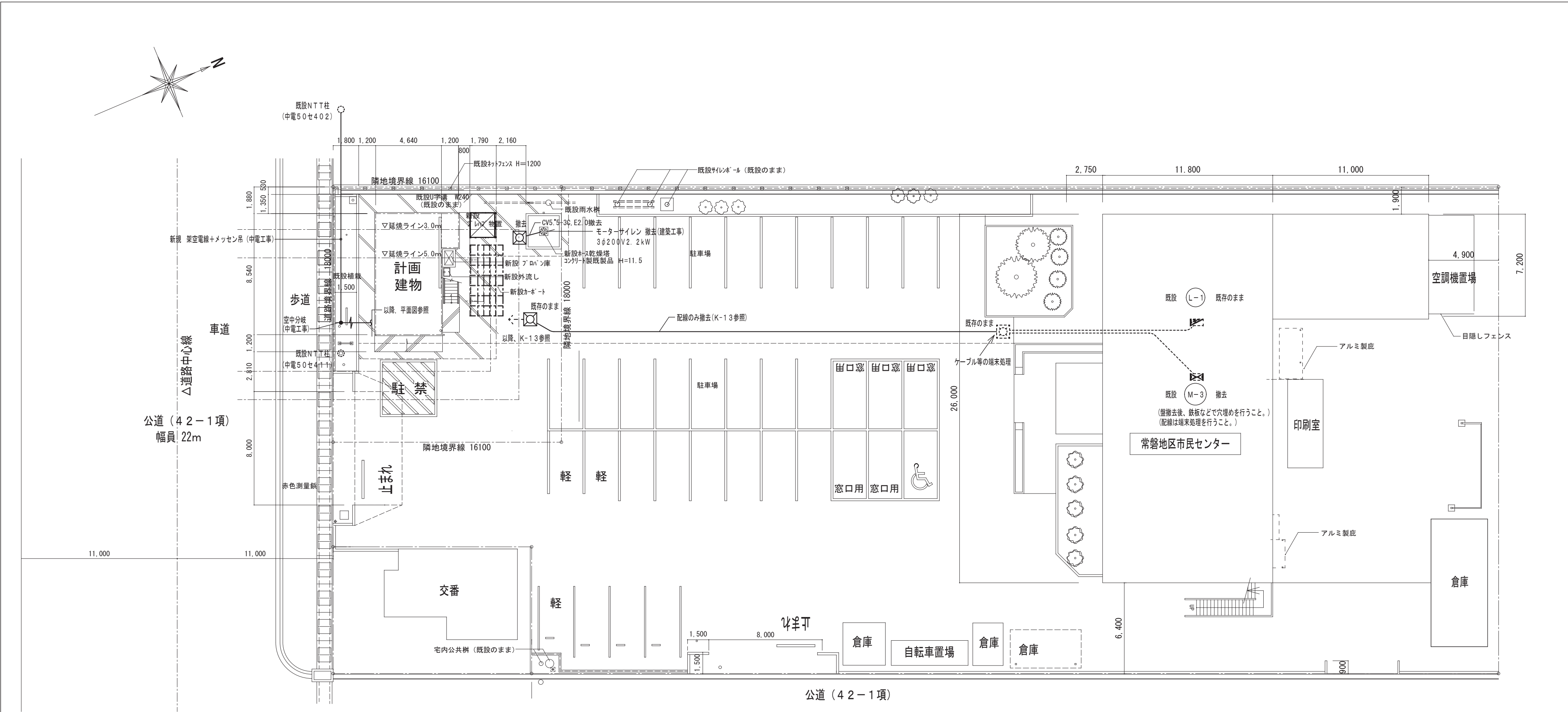
58

高効率誘導電動機の配線用遮断器等の選定

高効率誘導電動機回路保護用の配線用遮断器等の選定は下記による。

200V三相誘導電動機回路の器具容量等

電 動 機	器具容量、コンデンサ回路の配線						
	配線用遮断器等 [A]						

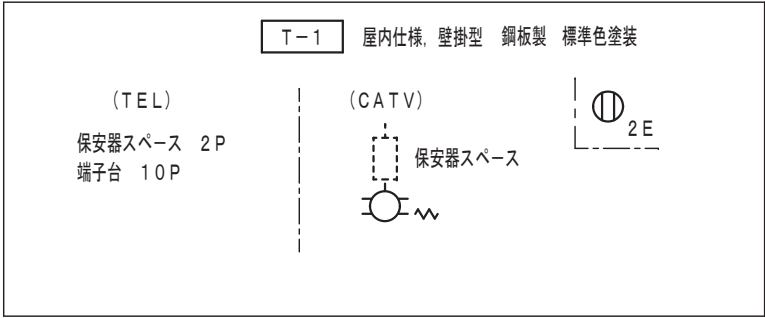
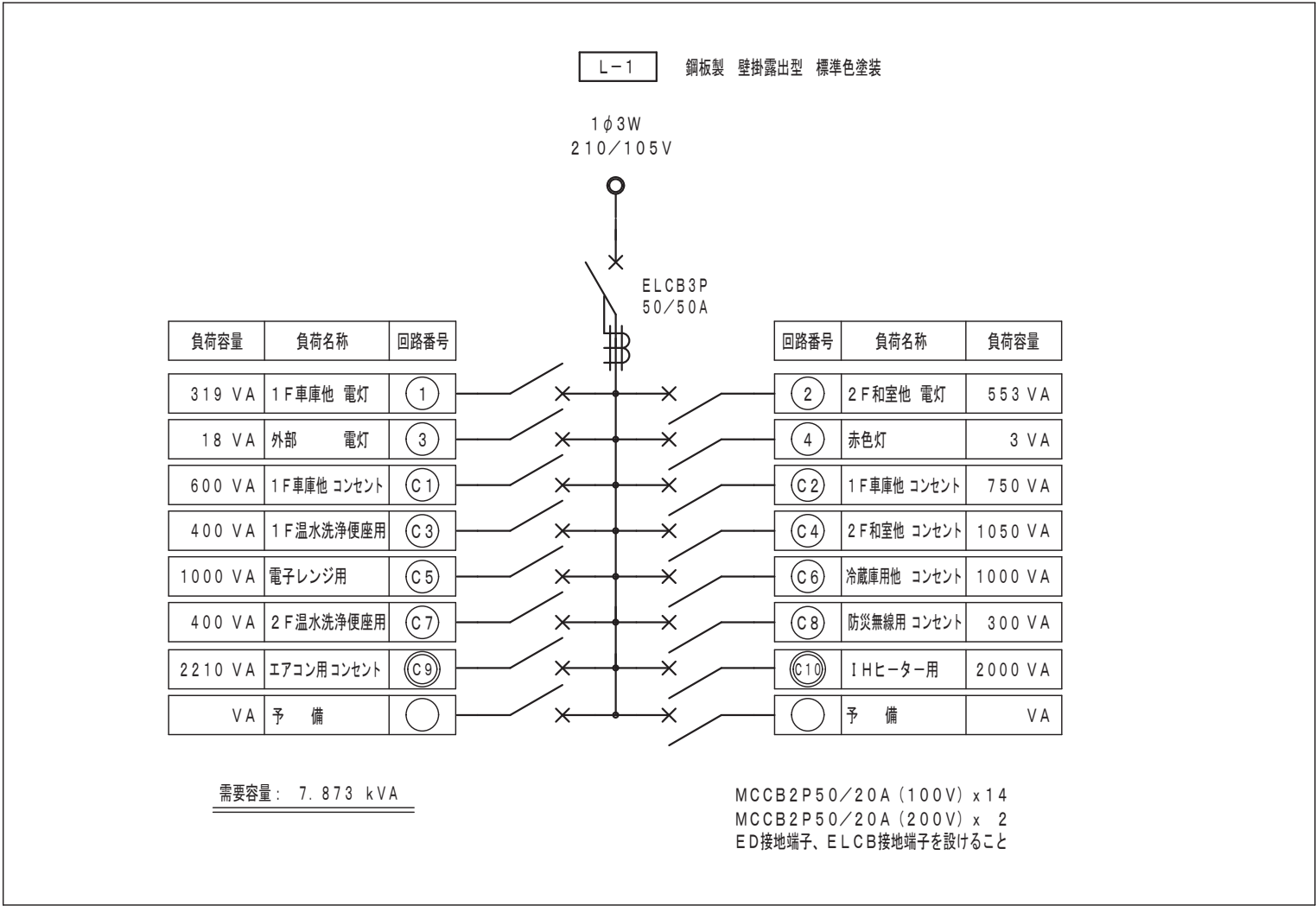
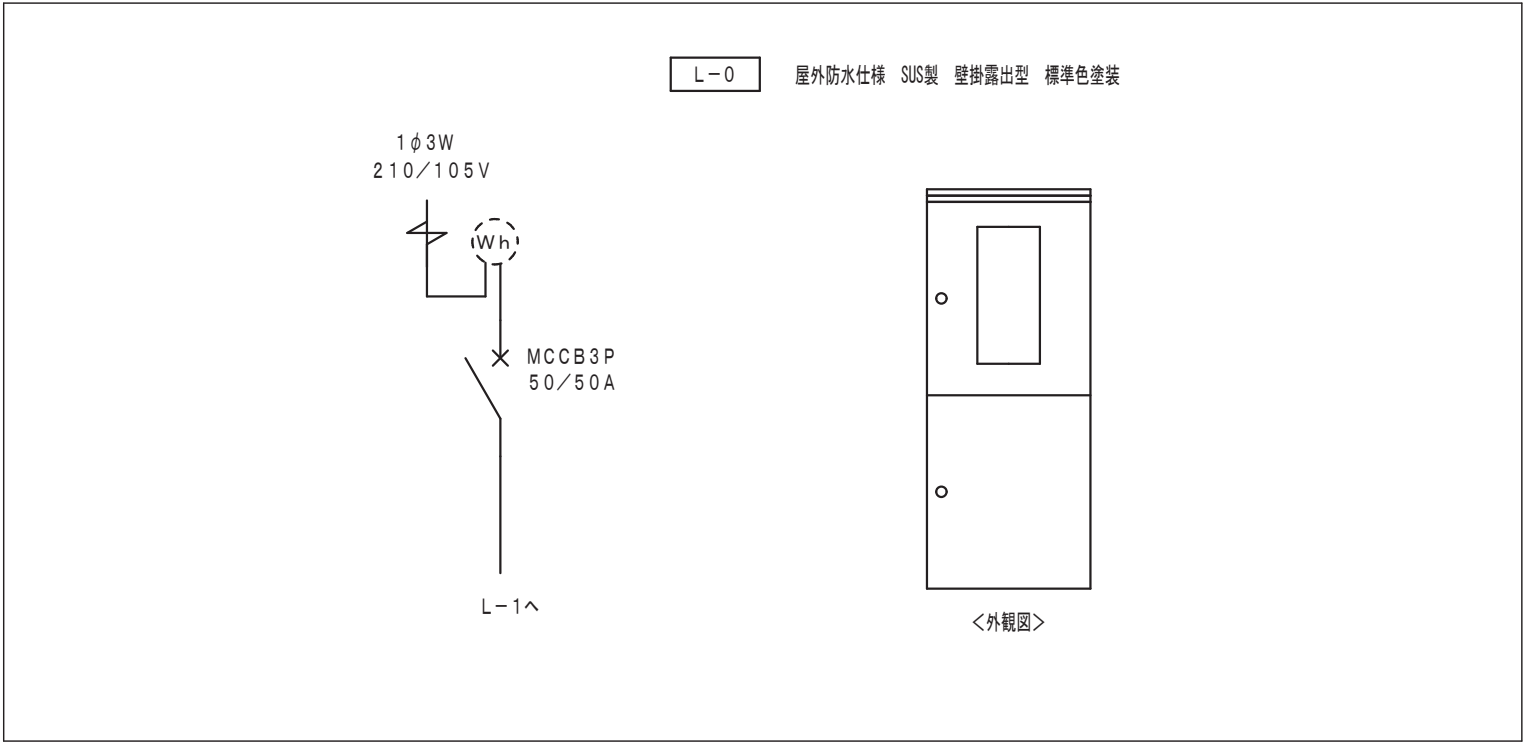


配置図 S=1/200

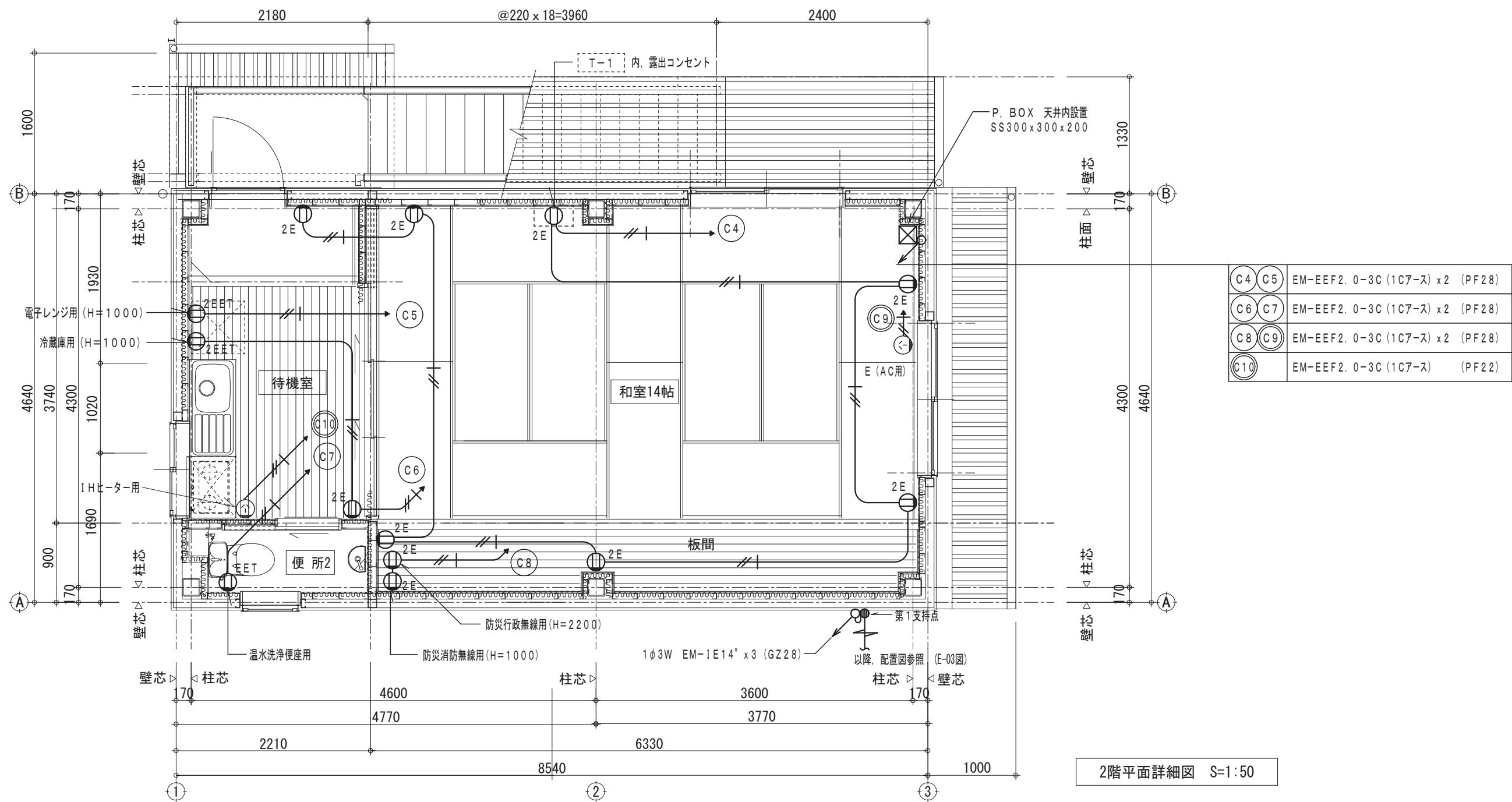
- 特記事項
- 凡例
実線は新設を示す
点線は既存のまますす
 - 中電の引込み工事が必要となるため、申請等の期間が必要なことを考慮し、手続きを行うこと。

No. E-03

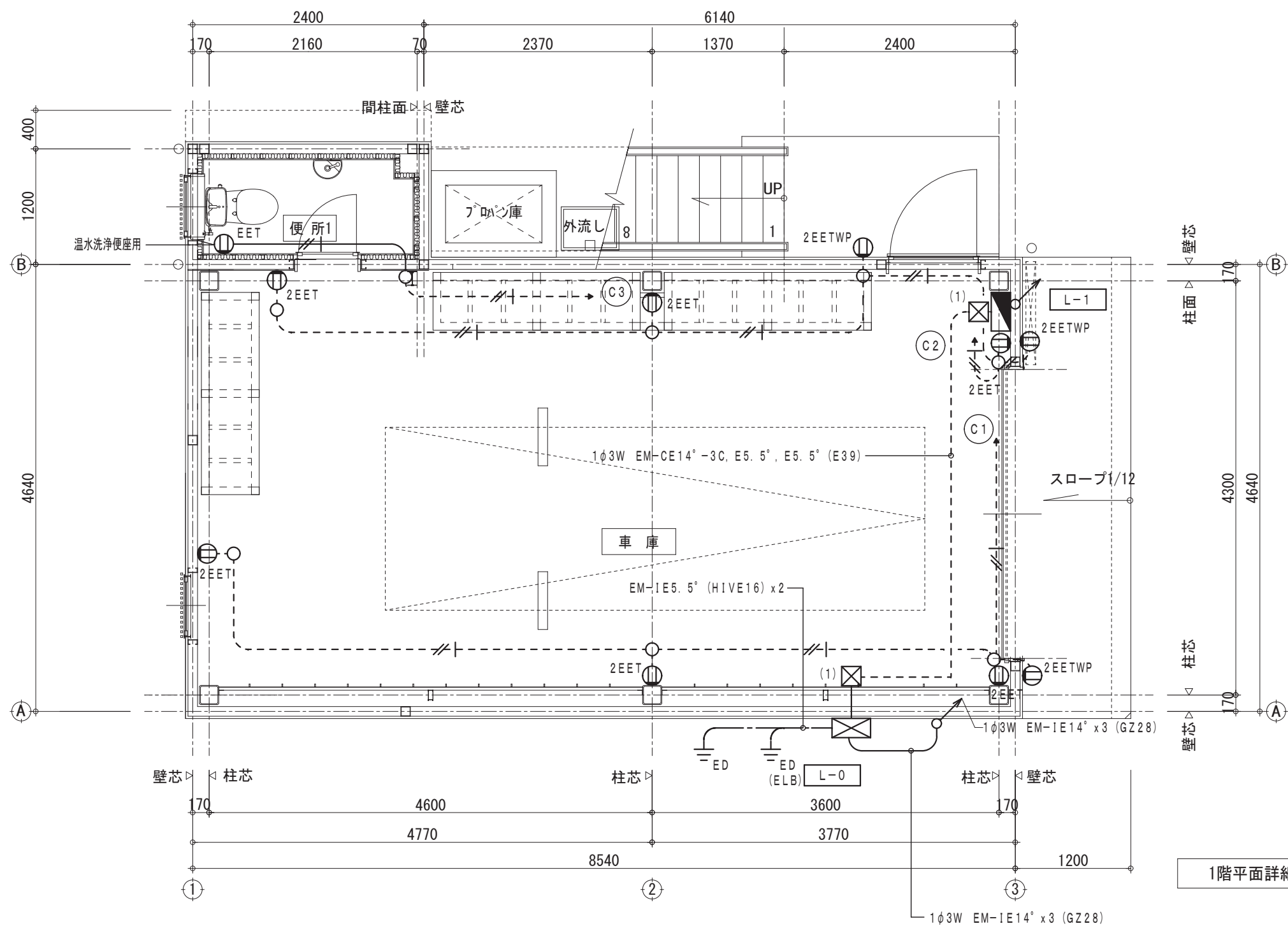
常磐分団車庫改築	工事設計図	R 7 年 1 月
電気設備 配置図		
scale (A2) S=1 : 200 (A3) S=1 : 284		
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治		



照 明 器 具 姿 図											
A		一体型LEDベースライト 直付 反射型付 消費電力20.6W FHF32Wx1 高出力相当				B		一体型LEDベースライト 直付 消費電力43.1W FHF32Wx2 高出力相当			
		パナソニック 直付XLX430KENP LE9 相当品 東芝ライテック LEKT415323N-LS9 相当品 三菱電機 MY-H430330/N AHTN 相当品						LSS9-4-65			
D		LEDブラケット 防雨型 消費電力5.1W 人感センサー・明るさセンサー付				E		LEDスポットライト 防雨型 消費電力10.7W 人感センサー・明るさセンサー付			
								照射方向可動型 パナソニック LGWC40116 相当品 東芝ライテック LEDS88901Y (S) M+ランプLDR12L-W/150W 相当品 三菱電機 EL-S0501L 1HN 相当品 落下防止ワイヤー共			
								パナソニック NNF20293Z 相当品 東芝ライテック LEDB-00902X 相当品			



2階平面詳細図 S=1:50



1階平面詳細図 S=1:50

特記事項

1. 記入なき配管配線は下記とする

EM-EEF2. 0-3C (1C7-ス) (PF22) 隠蔽

EM-IE2. 0x2, E2. 0 (E19) 露出

※ 二重天井内はケーブルこがしとする

2. 凡例

2E : 埋込コンセント 2P15Ax2, E付

EET : 埋込コンセント 2P15Ax1, E+ET付

2EET : 埋込コンセント 2P15Ax2, E+ET付

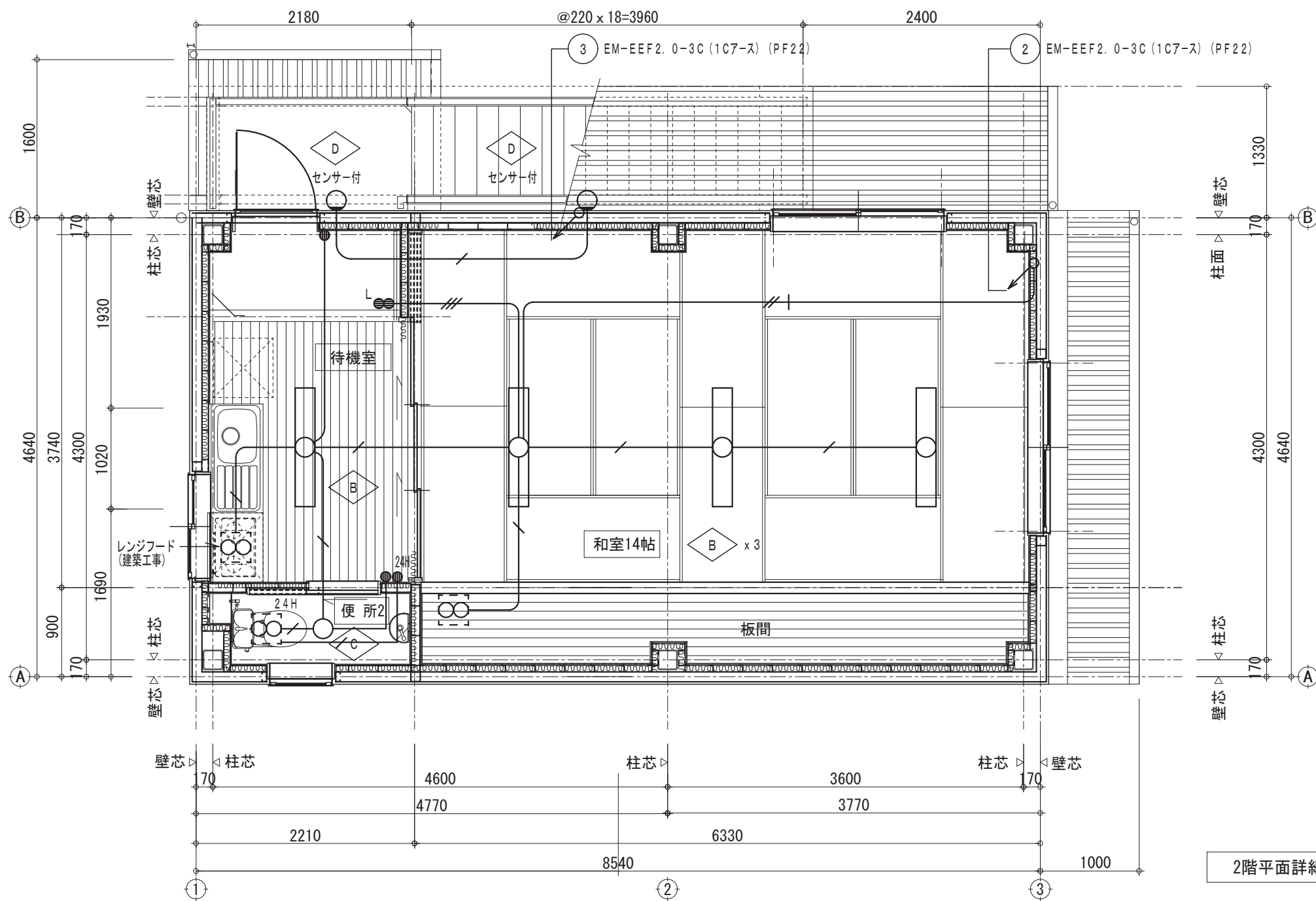
2EETWP : 防水コンセント 2P15Ax2, E+ET付

T : 埋込コンセント T型 2P15A・20A兼用 E付

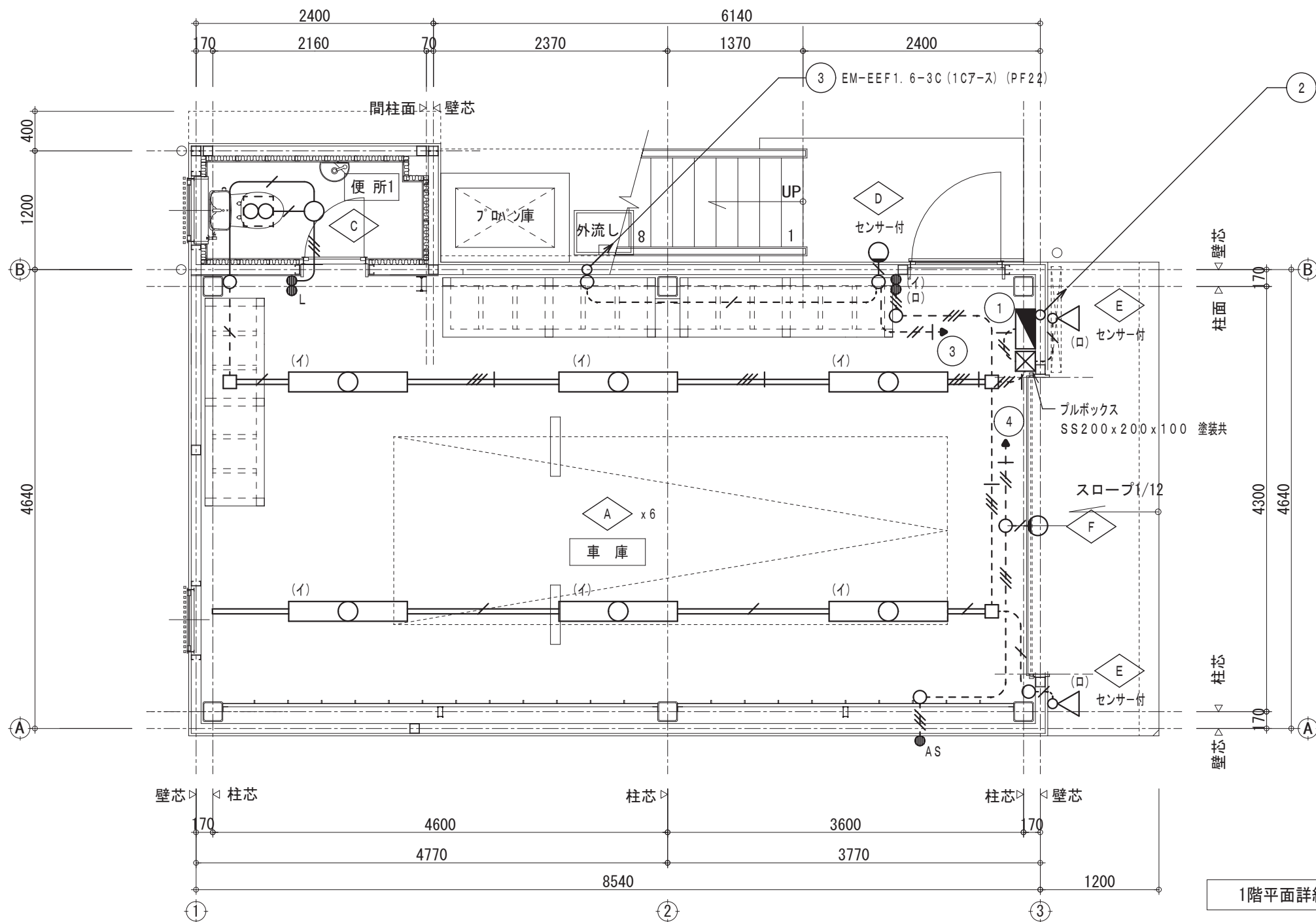
(1) : ブルボックス SS300x300x200 防錆塗装共

WP (1) : 防水ブルボックス SUS製 300x300x200

○ : 丸型露出ボックス



2階平面詳細図 S=1:50

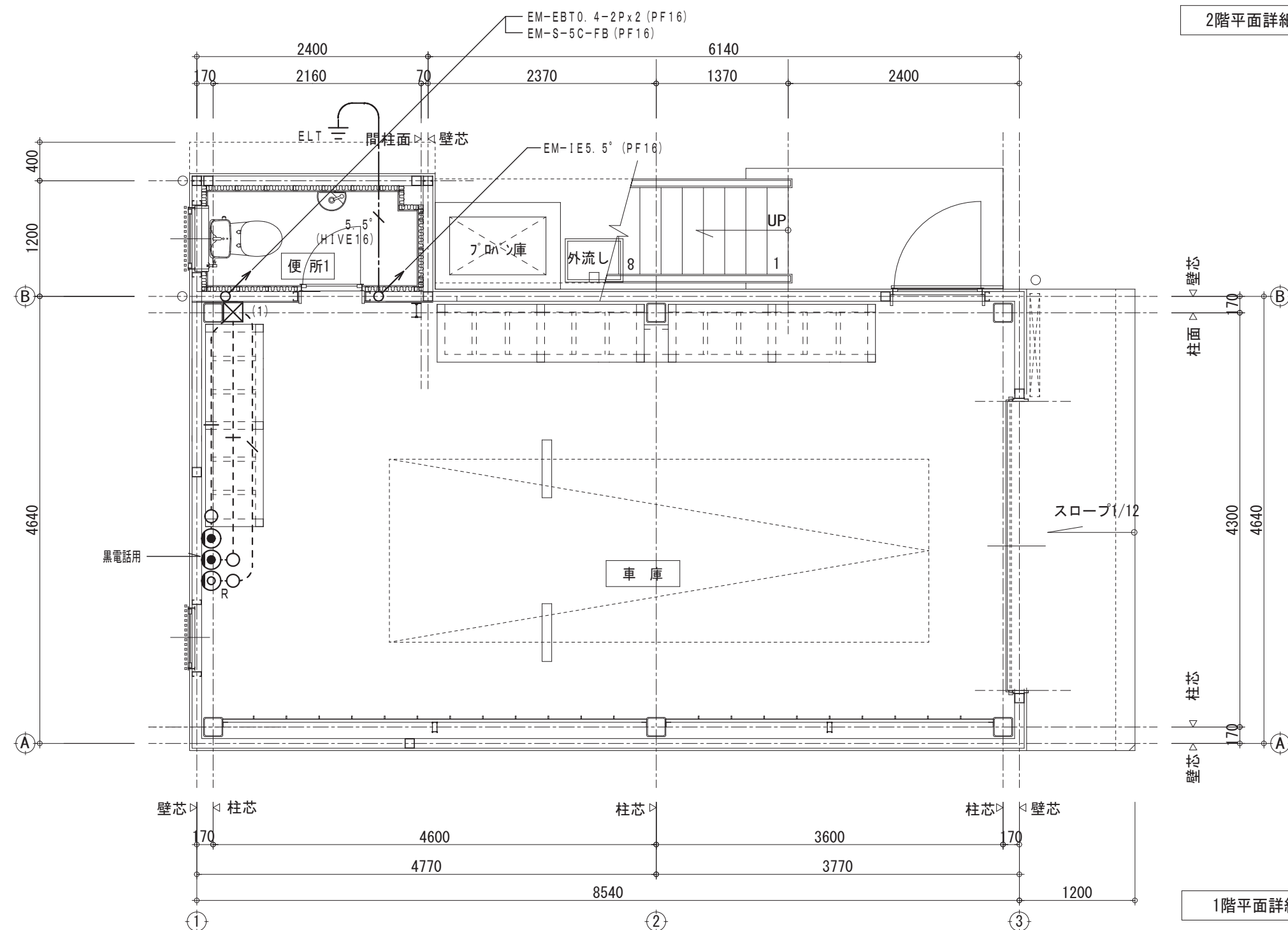
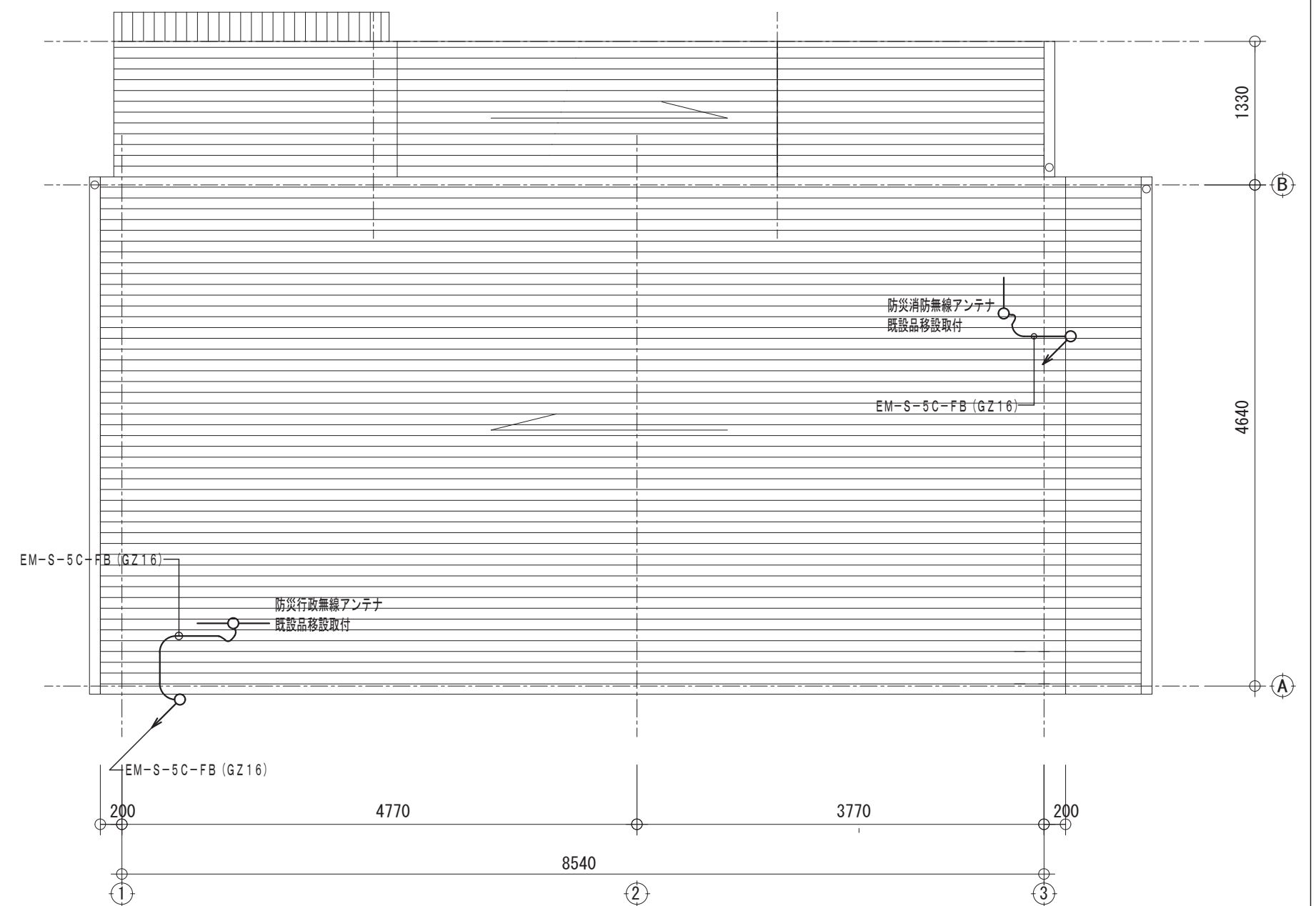
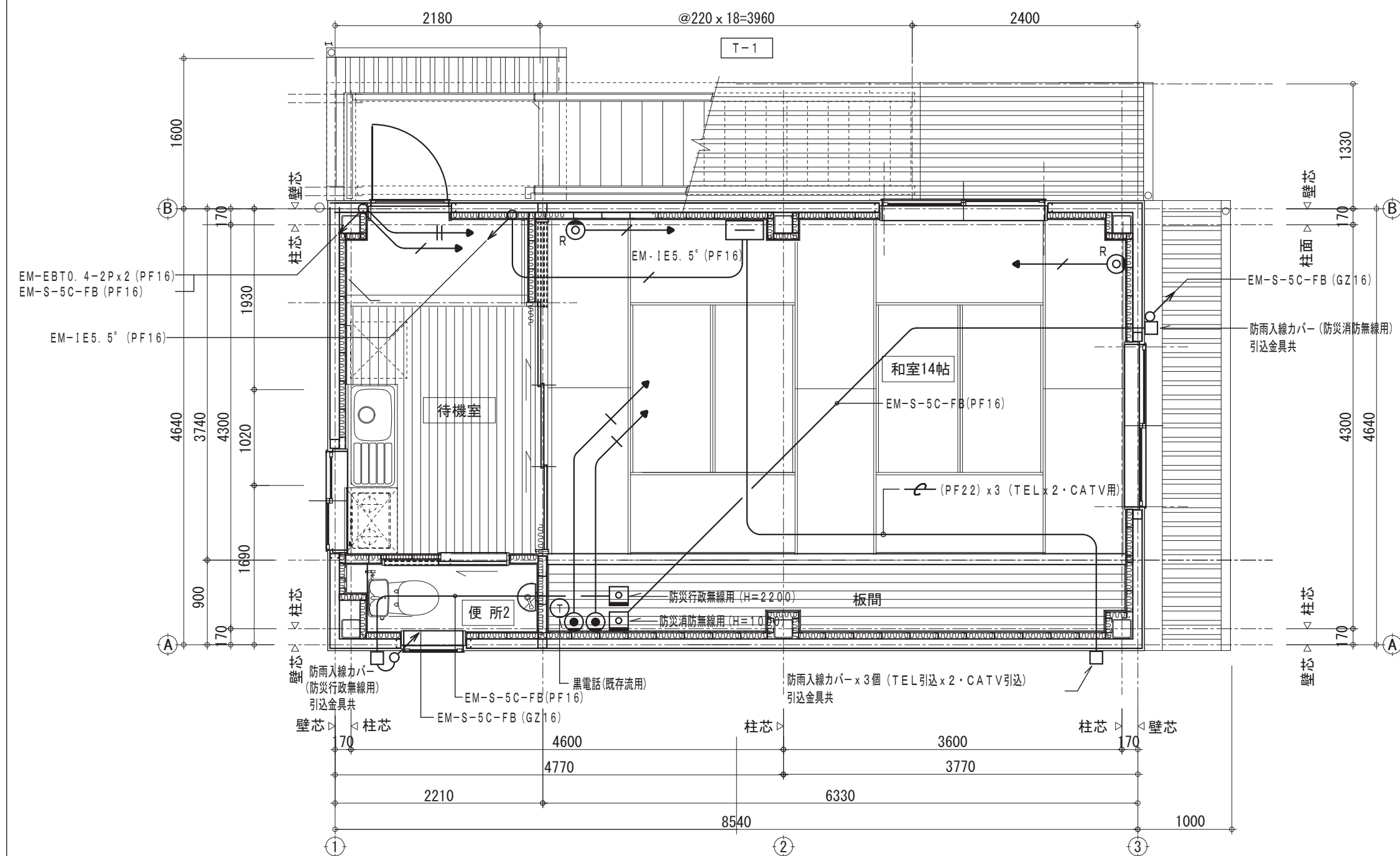


1階平面詳細図 S=1:50

- 特記事項
1. 記入なき配管配線は下記とする
- EM-EEF2. 0-3C (1C7-ス) (PF22)
 - EM-EEF1. 6-2C (PF16)
 - EM-EEF1. 6-3C (PF22)
 - EM-EEF1. 6-3C (1C7-ス) (PF22)
 - EM-IE2. 0x2, E2. 0 (E19)
 - EM-IE1. 6x2, E1. 6 (E19)
 - EM-IE1. 6x3 (E19)
 - EM-IE1. 6x3, E1. 6 (E25)
 - EM-IE1. 6x2, E1. 6 レースウェイ
 - EM-IE1. 6x3, E1. 6 レースウェイ
- ※ 二重天井内はケーブルころがしとする

2. 凡例
- 埋込スイッチ 1P15A x1
 - 埋込スイッチ 1P15A x2
 - L 埋込スイッチ 1P15A x1+L x1
 - 24H 24H換気扇スイッチ 機械設備工事支給品取付け
 - AS 自動点滅器 防水型 点灯照度調整型
 - レースウェイボックス
 - 丸型露出ボックス
 - 天井換気扇 機械設備工事
3. レースウェイには振止め支持を行うこと

No. E-06



＝＝＝＝＝ 特 記 事 項 ＝＝＝＝＝			
1. 記入なき配管記号は下記とする			
TEL		EM-EBT0. 4-2P (PF16)	隠蔽
		EM-EBT0. 4-2P x 2 (PF16)	隠蔽
		EM-EBT0. 4-2P (E19)	露出
CATV		EM-S-5C-FB (PF16)	隠蔽
		EM-S-5C-FB (E19)	露出
※ 二重天井内はケーブルころがしとする			
2. 凡 例			
	:	電話受口	モジュラジャック6芯 2 新金属プレート
 _R	:	直列ユニット 终端	新金属プレート
	{1}:	ブルボックス	SS200 x 200 x 100 防錆塗装共
3. 防災無線及び消防無線の取付位置は参考とし、受電状況を確認のうえ位置を決定する			
4. 電話については、一般電話と黒電話の両方が使用できるよう施工を行うこと。			
5. TEL引込とCATV引込は別途工事			

常磐分団車庫改築工事

設計図

仕様書

I. 工事概要

1. 工事場所

四日市市 城西町 地内

2. 建物概要

建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一	備考
常磐分団車庫	S造	2階建て	93.00	16項目	

3. 工事種目 (○印の付いたものを適用する)

建物別及び屋外	工事種別				
工事種目	常磐分団車庫				
○空気調和設備	新築一式				
○換気設備	新築一式				
・排煙設備					
・自動制御設備					
○衛生器具設備	新築一式				
○給水設備	新築一式				
○排水設備	新築一式				
○給湯設備	新築一式				
・消火設備					
・厨房設備					
○ガス設備	新築一式				
・雨水利用設備					
・排水処理設備					
・し尿浄化槽設備					
・撤去工事					

4. 指定部分

○無 ・有 (部位)

指定部分工期 令和 年 月 日

II. 工事仕様

1. 共通仕様

○印の付いたものを適用する。

(1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部制定の下記仕様書等のうち、

○公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)

○公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「改修標準仕様書」という。)

○公共建築設備工事標準図 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準図」という。)

2. 特記仕様

章、項目及び特記事項は、○印の付いたものを適用する。

一般共通通事項

項目	特記事項
1 適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ・風圧力 風速 (V0=34m/s) 地表面粗度区分 (Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ) ・積雪荷重 垂直積雪量 (0.3m)
2 他工事又は他工種との取合い	工事区分表による。ただし、これにより難しい場合は監督職員と協議する。
③ 週休2日制工事	「四日市週休2日制工事実施要領 (営繕工事)」 (令和6年7月9日改正適用) に基づく適用は下記による。 ・週休2日制工事対象 ・週休2日制工事 (受注者希望型) 対象 ・週休2日制対象外工事 (工事の実働日数が30日未満の工事・現場閉所困難な工事) 完全週休2日制工事 (受注者希望型含む) の現場閉所日については下記による。 ・土日閉所 (ただし、/ ~ / については土日作業とすること。) ・土日以外閉所 土日以外閉所における現場閉所日は、着手前に監督職員と協議の上設定すること。 なお、現場閉所日については、原則として毎週連続する同一の曜日とすること。 機械設備の改修等のため、在来設備を一時的にさせる必要がある場合は、予めその時期、停止の範囲及び工法等を施設管理などとの関係者と打ち合わせ、場合によっては停電、断水計画書等を提出し、承諾を得たうえで作業を行うものとし、施設の運営に支障を来さないよう特に注意する。
④ 施工条件	施工可能日 ・土、日曜日、祝日施工有り ・指定なし ・その他 (E-03による M-03による) 施工可能時間帯・指定なし ・指定有り (E-03による M-03による) 現場閉所日、祝日、夜間作業を行う場合は、事前に「休日及び夜間工事承認願」を提出し、監督職員の承諾を得ること。 高さ5mを超える箇所での作業を有する場合の墮落制止用器具は7m×4m型を使用する。 完成確認及び完成検査待等の給排水・ガス確保 機器の動作確認、運転確認できるように給排水・ガスを確保すること。 完成時の操作説明 空調設備、自動制御設備、ポンプ、ろ過機、浄化槽設備等、操作の必要な機器は、施設管理者へ使用開始前に操作説明を行うものとする。 操作説明にあたって、操作説明書、操作注意事項書を作成し、機側に備えること。
5 監督員事務所	監督員事務所を設けること。
6 工事用電力 ・水・その他	・工事用電力、水及び諸手続きなどの費用は、すべて受注者の負担とする。 ・市支給。ただし現場において既設設備より供給可能な範囲に限る。
7 工事用仮設備	工事用仮設備を構内につくることができる。
8 足場その他	・別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。 ・本工事で設置する。 「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。 ・内部足場等 () ・外部足場等 (くさび緊結式 (手すり先行工法))
9 交通安全管理	交通誘導員 ・配置する 名以上 (大型車の出入は必ず) ・配置しない ・交通誘導警備員A ・交通誘導警備員B
⑩ 施工調査	・はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に走査式埋設物調査を行うこと。 ・石綿含有分析調査 (定性分析により石綿が含有されている場合は、定量分析を実施する。) ○既設埋設配管等を切断または接続する箇所は、事前に試験掘削を行うこと。

一般共通通事項

項目	特記事項																																												
11 非破壊検査等	構造部等の機械はつり箇所は、非破壊検査等による埋設物の調査を行い、監督職員に報告書を提出する。																																												
12 既存躯体への穿孔	穿孔機械を使用し、既存躯体に穿孔する場合は、金属探知により電源供給が停止できる付属装置等を用いて施工する。																																												
13 耐震安全性の分類と耐震施工	設備機器の固定は次によるほか、建築設備耐震設計・施工指針 2014 年版 (独立行政法人建築研究所監修) による。(100kg以上の機器を対象とする。) (1) 設計用水平地震力は、機器の質量 (自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量) に、地域係数1.0及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用標準水平震度 <table><tr><th>設置場所</th><th>機器種別</th><th>・特定の施設</th><th>・一般の施設</th></tr><tr><td></td><td></td><td>重要機器</td><td>一般機器</td></tr><tr><td>上階階・屋上及び塔屋</td><td>機器</td><td>2.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td></td><td>防振支持の機器</td><td>2.0</td><td>2.0</td></tr><tr><td></td><td>水槽類</td><td>2.0</td><td>1.5</td></tr><tr><td>中間階</td><td>機器</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr><tr><td></td><td>防振支持の機器</td><td>1.5</td><td>1.5</td></tr><tr><td></td><td>水槽類</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr><tr><td>地階・1階</td><td>機器</td><td>1.0</td><td>0.6</td></tr><tr><td></td><td>防振支持の機器</td><td>1.0</td><td>1.0</td></tr><tr><td></td><td>水槽類</td><td>1.5</td><td>1.0</td></tr></table> 上階階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階建以上の場合は上層4階とする。 中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの 重要機器は次による。 ・消火ポンプ ・充電槽 ・受水槽 ・高架水槽 ・揚水ポンプ ・その他 () 水槽類にはオイルタンクを含む。 (2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1／2とする。	設置場所	機器種別	・特定の施設	・一般の施設			重要機器	一般機器	上階階・屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5		防振支持の機器	2.0	2.0		水槽類	2.0	1.5	中間階	機器	1.5	1.0		防振支持の機器	1.5	1.5		水槽類	1.5	1.0	地階・1階	機器	1.0	0.6		防振支持の機器	1.0	1.0		水槽類	1.5	1.0
設置場所	機器種別	・特定の施設	・一般の施設																																										
		重要機器	一般機器																																										
上階階・屋上及び塔屋	機器	2.0	1.5																																										
	防振支持の機器	2.0	2.0																																										
	水槽類	2.0	1.5																																										
中間階	機器	1.5	1.0																																										
	防振支持の機器	1.5	1.5																																										
	水槽類	1.5	1.0																																										
地階・1階	機器	1.0	0.6																																										
	防振支持の機器	1.0	1.0																																										
	水槽類	1.5	1.0																																										
⑭ 建設発生土の処理	○埋戻し後の建設発生土は、監督職員が指示する構内の場所に敷きならしとする。 ・構内搬出適切処理とする。 ※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告 (位置図等) を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。																																												
⑮ 埋戻し土・盛土	地中埋設管まわりは山砂の類とし、図面に記載のない部分は掘削土の良質土で埋戻す。																																												
⑯ 材料・機材の品質等	(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 別表ー1に機材名が記載された製造業者等は、次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督職員の承認を受ける。ただし、製造業者等名が記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ②生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定め許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制を整えていること。 (3) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づく特定調達品目は判断の基準等を満足させるものとする。																																												
⑰ 環境への配慮	(1) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑剤 (フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く) が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用しものとする。 (2) 設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第Ⅰ種」とは③又は④に該当する材料を指す。 ①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料 ②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料 ③建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料 ④建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料																																												
18 資源有効利用促進	※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律 (平成三年法律第四十八号) の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合 (下記内容該当工事) は、受注者は、工事の施工前に発注者から再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならず、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。 ・建設副産物を搬出する際の計画 1.土砂500m3以上 2.コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上 ・再生資材を利用する際の計画 1.土砂500m3以上 2.砕石500t以上 3.加熱アスファルト200t以上																																												
19 工事の保険	・建設工事保険 (管理財物担保特約に加え) (保険証の写しを提出) ・請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出) (ア) 第一種フロン回収業者登録通知書の写し (イ) フロン類回収証明書 保険期間は工事期間を原則とする。(必要に応じて延長するものとする。)																																												
20 建設共済等	下記の制度について加入すること。 ・法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出) ・建設業退職金共済制度 (掛金収納書を提出) 共済証紙額 請負額の0.5/1000以上 ただし、建設業退職金共済については請求額が500万円以上の場合とする。 ※1 他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする。 ※2 契約変更により工事価格が上昇した場合は、不足分を追加購入すること。																																												
21 工事実績情報登録	工事請負金額500万円以上の工事は、工事実績情報サービス (CORINS) に登録すること。																																												
22 施工体制台帳提出	公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律により、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、下請契約締結後、速やかに提出すること。変更時も同様とする。																																												
23 資材購入及び下請業者の選定に際しての留意事項	資材購入及び工事の一部を下請業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、できる限り市内業者を優先させること。																																												

一般共通通事項

項目	特記事項
24 工事記録	工事記録は以下のように行うこと。 ○工事写真 工事写真 埋設部、隠ぺい部、施工工程、材料等 完成写真 ※撮影用具にデジタルカメラを用い、サービサイズ程度大きさでA4用紙に印刷し、提出する。 ※次の図書を参考とする。 国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修「工事写真の撮り方 建築設備編」 ○工事日報、納品伝票、出荷証明の写しは監督職員が提出を求めた場合に提出すること。
25 完成時の提出図書	監督職員の指示により下記のものを提出する。 ○工事完成図 (竣工図 (修正済みの設計図) +施工図) ○完成図 CADデータ (JW CAD) PDFデータ (DVD) (1) 枚 ・完成図 (A4版に製本したもの) ○完成図 (A1またはA2サイズで電気設備図と併せて二つ折り製本したもの) (2) 部 ○工事写真 (紙、DVD) ※DVDは原則として、完成図データと同一媒体とする。 ○保全に関する資料等 (2) 部 施工図等の著作権に関わる当該技術に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
26 施工図等の取扱い	(1) 地中埋設機 ○要 (図示による。) ・不要 (2) 埋設表示用テープ (2倍) ○要 (排水管を除く。) ・不要
27 地中埋設機等	
28 既設との取合い	本工事に伴う既設の軽微な加工改造は本工事とする。
29 電源周波数	・50Hz ○60Hz
30 電気工作物の種類と電気保安技術者	・事業用電気工作物 ・一般用電気工作物 電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、工事の調整にあたる指導を受けるものとする。 電気保安技術者 事業用電気工作物：電気主任技術者 一般用電気工作物：電気工事士 電線及びケーブルの規格は標準仕様書第4編 1. 5. 1表 4. 1. 1.1による。
31 電線類	
32 管溶接部の検査	標準仕様書第2編 2.5.16.12 の溶接部の非破壊検査を行う。
33 管の防食	プラスチックテープ巻き 1/2 重ね 1回巻きとする。(外面被覆ライニング鋼管及び排水管は除く)
34 吊り及び支持	(・ 構内 ○土間) の吊り金物・支持金物類はステンレス鋼製 (SUS304) とする。 屋内埋設配管についても、通常の配管支持方法に準じて行う。
35 防振吊り金物及防振支持金物	次の配管には、防振吊り金物 (シングル ・ ダブル) または、防振支持金物を設ける。ただし、屋外及び地下ピットを除く。 ・口径 50A以上の配管 (冷水 ・ 冷却水 ・ 揚水 ・ 消火 ・) ・次に示す配管 露出機材の塗装仕上げは下記による。 ○屋外： ○ドレン管 (指定色塗装 ・) ・金属電線管 (内外外溶融亜鉛メッキ仕上 ・ 指定色塗装) ○屋内： ・EPS、ビット階を除く露出配管、電線管類 (指定色塗装 ・) 下記の保温を施さない垂れメッキを施したダクト及び配管は、塗装を行わない。 ・機械室 ・倉庫 ・電気室 機械室、PS内、水槽廻り、その他必要な箇所に配管種別 (「給水」等)、流向 (矢印) を表示すること。また、弁には常開、常閉、調整 等の札表示を行うこと。 ・系統図、機器等の取り扱い方及び重要な定期点検項目を記載した亚克力樹脂製の板を機械室に設ける。説明板の大きさは、約 m2とする。 特記なき取り付け箇所及び仕様は標準仕様書第2編第2章第2部 2.2.12による。
36 塗装、表示	
37 絶縁継手	・合成ゴム製 ・ペロウズ形
38 防振継手	
39 可撓継手	・合成ゴム製 ・ペロウズ形
40 鉄線製弁類	
⑪ スリーブ	・亜鉛板鉄 ・紙テープ ・つば付鋼管 ・塩化ビニル管
⑫ 容量等の表示	(1) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 (2) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された数値以下とする。 (1) 各種機器の試験は、新設配管に適用する。 (2) 新設配管は、既設配管との接続前に試験を行う。 給水の水道用硬質塩化ビニル管H1VPは0.75MPaでの耐圧試験とする。 給水、給湯用集配ホリエレン管はメーカー推奨圧力で行う。 上記 (2) より難しく、既設配管との接続の場合は、監督職員の承認を得れば、遅れ、詰まりがない事を目視での確認で良いこととする。 既設配管は保温、埋設直前に、給水給湯系は24時間常圧耐圧確認、排水系は通水確認を行う。 ・本工事 ・別途 調整項目 (測定箇所等は監督職員の指示による。) ・風量調整 ・水量調整 ・室内外空気の温湿度の測定 ・室内気流及びびじんあいの測定 ・騒音の測定 ・飲料水の水质の測定 (水道法第4条の水质基準の規定に基づくこと) ・検査項目は下記による 一般細菌、大腸菌、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩化物イオン、有機物 (全有機炭素 (TOC) の量) 、PH値、味、臭気、色度、濁度、遊離残留塩素 その他 (・ 項目 ・ 遊離残留塩素 ・ 図示)
⑬ 試験	
44 総合調整	機械設備工事機材承諾図式集 (令和4年版) によるほか、監督職員の指示による。
⑭ 撤去工事	○図示による ダクト及び配管等の支持金物・吊りボルト等は本工事にて撤去する。 冷凍機等の撤去に伴う冷凍の回収方法は改修標準仕様書による。 冷凍の回収にあたっては、監督職員に次の書類を提出する。 (ア) 第一種フロン回収業者登録通知書の写し (イ) フロン類回収証明書 ○引き渡しを要するものは (金属類 (・ 機器 ・ ダクト ・ 配管 ・ その他の金物)) ○ルームエアコン (・ ・ ・) となる。 ○引渡しを要するもの以外 構内搬出適切処理とする。 廃棄物管理票 (マニフェスト) 確認書を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。 ・特別管理産業廃棄物 (PCB使用機器) PCB使用機器は、関係法令に従い適切に処理する。 ・再使用又は再資源化を図るもの

一般共通通事項

項目	特記事項																																																													
1 設計用温湿度	○空気調和設備 <table><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">外 気 (地区名：津)</th><th colspan="4">屋 内</th></tr><tr><th>一 般 系 統</th><th>OA系統</th><th colspan="2">一般系統 (ACP系統)</th></tr><tr><td></td><td>温度 (DB) 湿度 (RH)</td><td>温度 (DB) 湿度 (RH)</td><td>温度 (DB) 湿度 (RH)</td><td>温度 (DB) 湿度 (RH)</td><td>温度 (DB) 湿度 (RH)</td></tr><tr><td>夏期</td><td>35.3℃ 63.1%</td><td>28℃ 50%</td><td>24℃ 45%</td><td>28℃ (参考) 50% (参考)</td><td></td></tr><tr><td>冬期</td><td>1.9℃ 53.6%</td><td>19℃ 40%</td><td>24℃ 45%</td><td>19℃ (参考) 40% (参考)</td><td></td></tr></table>		外 気 (地区名：津)	屋 内				一 般 系 統	OA系統	一般系統 (ACP系統)			温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)	夏期	35.3℃ 63.1%	28℃ 50%	24℃ 45%	28℃ (参考) 50% (参考)		冬期	1.9℃ 53.6%	19℃ 40%	24℃ 45%	19℃ (参考) 40% (参考)																																		
	外 気 (地区名：津)			屋 内																																																										
		一 般 系 統	OA系統	一般系統 (ACP系統)																																																										
	温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)	温度 (DB) 湿度 (RH)																																																									
夏期	35.3℃ 63.1%	28℃ 50%	24℃ 45%	28℃ (参考) 50% (参考)																																																										
冬期	1.9℃ 53.6%	19℃ 40%	24℃ 45%	19℃ (参考) 40% (参考)																																																										
2 鋼板製煙道	伸縮継手、掃除口及びばいじん量測定口の位置は図示による。																																																													
3 ダクト	・低圧ダクトの工法は下記とする。 ・コーナーボルト工法 (長辺の長さが1500mm以下の部分) ・アングルフランジ工法 ・高圧1ダクトの適用範囲は図示による。 ・ステンレスダクト及び塩化ビニルダクトの仕様及び適用範囲は図示による。																																																													
4 風量測定口	取り付け箇所は図示による。																																																													
5 チャンバー等	(1) 内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 (2) 空気調和機に取り付けるサプライチャンバー、レタランチャンバー及び風道系で消音内貼りしたチャンバーには点検口を設け、大きさは図示による。 (3) 外壁ガラリに直接取り付けするチャンバー類は雨水の滞留のないように施工する。 (4) 空気調和機の吸い込み側及び吐出側に接続するチャンバーの板厚は、1.2mm 以上とする。 図示されたチャンバーには点検口を設ける。 寸法は図示されていない場合は (・ 400x500H ・ 500x600H) とする。 (5) 内張りを施すチャンバー等の表示寸法は、外形寸法とする。 (6) アネモ形吹出口接続用ボックスは、吹出口のネック径200mm以下は、400×400×250H、200mmを超えるものは、500×500×300Hとする。																																																													
6 ダンパー	(1) 防煙ダンパー 復帰方式 (・ 遠隔 ・) (2) ビストンダンパー 復帰方式 (・ 遠隔 ・)																																																													
⑦ 配管材料	配管材料は原則下記とし、下記以外は図示による。 (1) 冷温水管 ・配管用炭素鋼管 (白) ・塩ビライニング鋼管 (HVA) (2) 冷却水管 ・配管用炭素鋼管 (白) ・塩ビライニング鋼管 (VA) (3) 油管 ・配管用炭素鋼管 (黒) (4) 蒸気管 給気管 ・配管用炭素鋼管 (黒) ・圧力配管用炭素鋼管 (黒) (・ Sch40) 選 管 ・圧力配管用炭素鋼管 (白) (・ Sch80) (5) 高温水管 ・ステンレス鋼管 ・配管用炭素鋼管 (白) (6) 膨張管 空気抜き管 ・配管用炭素鋼管 (白) 膨張タンクよりボイラー等への補給水管 (7) 冷媒管 ○断熱材被覆鋼管 (8) ドレン管 ・配管用炭素鋼管 (白) ○ビニル管 (VP) (屋外露出：VP ｶｰﾍﾞｰﾌﾟ 屋内：保温VP)																																																													
8 弁 類	J I S又はJ V (・ 5 K ・ 1 0 K (図示部分)) 6 5 A以上の冷温水・冷却水用弁装置の仕切弁はバタフライ弁とする。 ・鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。 ・ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする。																																																													
9 油面制御装置	油面制御には (・ 遠隔警報 ・ 電磁弁制御 ・) の端子を設ける。 なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。																																																													
⑩ 配管施工	○冷媒管は、製造者の標準仕様による。ただし、断熱材被覆鋼管の断熱材厚さは、液管を10mm以上、ガス管を20mm以上とする。 冷媒管の耐圧試験は24時間メーカー推奨圧力で行う。 冷媒管の立て管は、垂直方向に5m以上ある場合、ガス管、液管共に鋼管から直接1箇所以上固定すること。 ・冷水、ブライン及び冷温水配管の吊りバンド等の支持部は、合成樹脂製の支持受けを使用すること。 ○冷媒管の支持受け材として保護プレート断熱被覆鋼管と吊り金物、支持金物、固定金物の間に設ける。																																																													
11 ばい煙濃度計	・設ける ・設けない																																																													
12 ばいじん量測定口	・設ける (口径80φ以上) ・設けない ・本体は (・ アスファルト ・ モルタル ・ エポキシ樹脂) により保護を行う。																																																													
13 吹出口・吸込口	・鋼製 ・アルミニウム製 ・木製																																																													
14 瞬間流量計	・設ける (検出部と指示部一体形) ・設けない 取付箇所は、 (・ ユニート形空気調和機 ・ 冷水ポンプ ・ ヘッダーの各送り管 ・ ヘッダーの各戻り管) とする。 ・瞬間流量計を設けない場合は、ビトマー式流量計用タッピングのみに設ける。 取付箇所は前記による。																																																													
15 圧力計・温度計	<table><tr><th rowspan="2">機器名</th><th rowspan="2"></th><th colspan="2">計器取付箇所 (○印の箇所)</th><th rowspan="2">温度計の種類</th></tr><tr><th>機器入口側</th><th>機器出口側</th></tr><tr><td rowspan="2">冷 凍 機</td><td>冷 却 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>冷 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="2">直たき吸収式冷 温 水 機</td><td>冷 却 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>冷 温 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="2">パッケージ形空気調和機</td><td>冷 却 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>温 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="2">空気調和機</td><td>冷 温 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>チャンパ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="2">温風暖房機</td><td>チャンパ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>温 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td rowspan="2">温水ボイラ</td><td>温 水</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>管 密 せ</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr></table>	機器名		計器取付箇所 (○印の箇所)		温度計の種類	機器入口側	機器出口側	冷 凍 機	冷 却 水	○	○	○	冷 水	○	○	○	直たき吸収式冷 温 水 機	冷 却 水	○	○	○	冷 温 水	○	○	○	パッケージ形空気調和機	冷 却 水	○	○	○	温 水	○	○	○	空気調和機	冷 温 水	○	○	○	チャンパ	○	○	○	温風暖房機	チャンパ	○	○	○	温 水	○	○	○	温水ボイラ	温 水	○	○	○	管 密 せ	○	○	○
機器名				計器取付箇所 (○印の箇所)			温度計の種類																																																							
		機器入口側	機器出口側																																																											
冷 凍 機	冷 却 水	○	○	○																																																										
	冷 水	○	○	○																																																										
直たき吸収式冷 温 水 機	冷 却 水	○	○	○																																																										
	冷 温 水	○	○	○																																																										
パッケージ形空気調和機	冷 却 水	○	○	○																																																										
	温 水	○	○	○																																																										
空気調和機	冷 温 水	○	○	○																																																										
	チャンパ	○	○	○																																																										
温風暖房機	チャンパ	○	○	○																																																										
	温 水	○	○	○																																																										
温水ボイラ	温 水	○	○	○																																																										
	管 密 せ	○	○	○																																																										
⑮ 機器基礎	ボ ン プ 基礎施工要領 (四) ・標準基礎 ・防振基礎 遠心冷凍機 基礎施工要領 (二) ・標準基礎 往復動冷凍機 基礎施工要領 (二) ・標準基礎 パッケージ形空気調和機 基礎施工要領 (三) ・標準基礎 ・防振基礎 ○既製品基礎 ユニート形空気調和機 基礎施工要領 (三) ・標準基礎 ・防振基礎 遠心送風機 基礎施工要領 (四) ・標準基礎 ・防振基礎 ・防振基礎は市販の防振装置を使用してもよい。																																																													
17 形鋼振れ止め	ダクトに形鋼振れ止め支持を行う。図面に特記なき場合、支持部材選定表による。																																																													
18 吊機種の振れ止め	室内機器等の吊り用ボルトには、ダブルナットで固定し、ボルト長さが1000mm以上の場合には、振れ止めを施す。																																																													

特記仕様書

建築機械設備 1

縮 尺

1: N0 (A2)

設計番号

作図 令和7年 4月

工 事 名

常磐分団車庫改築工事

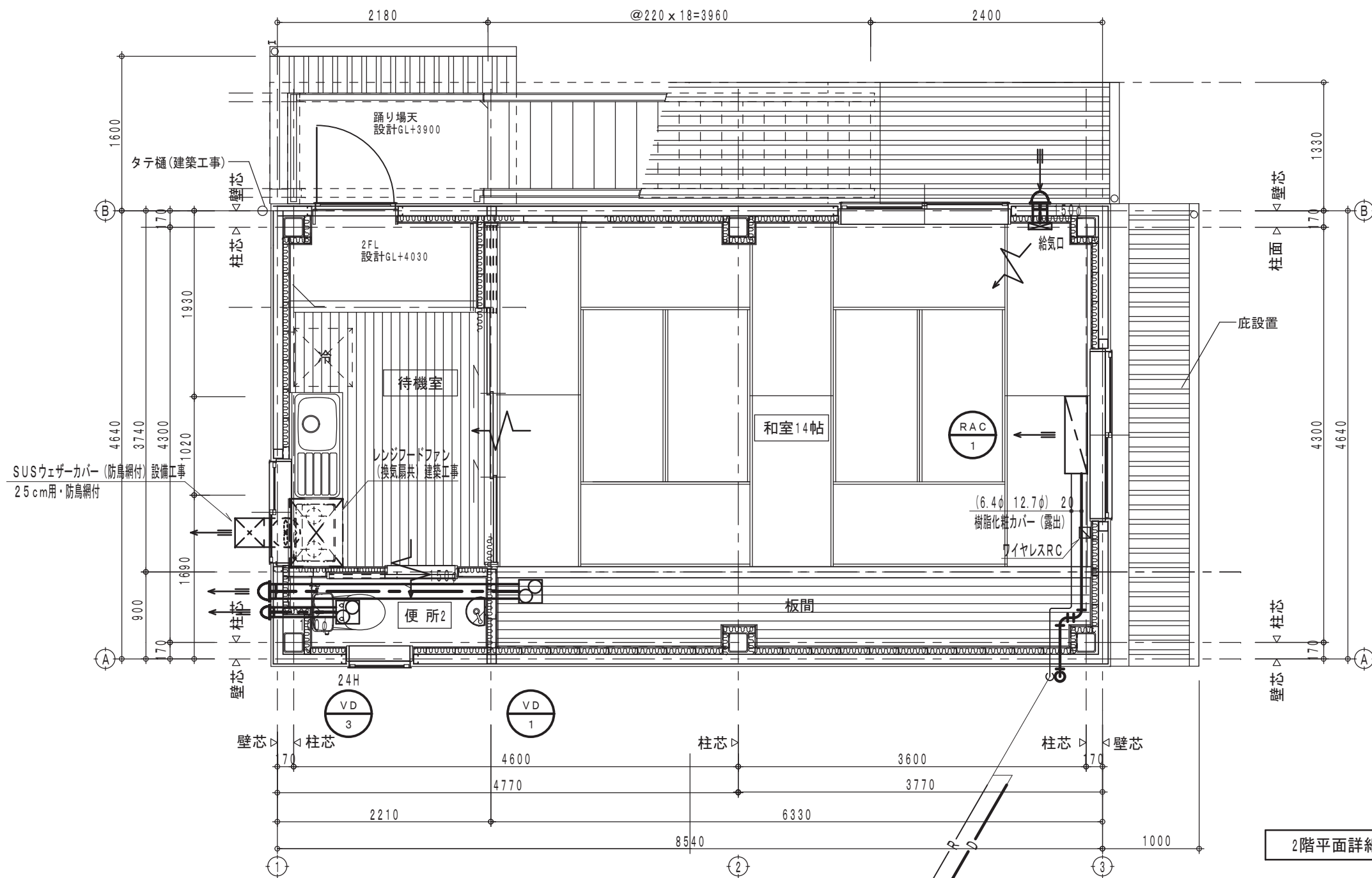
図面番号

M-01

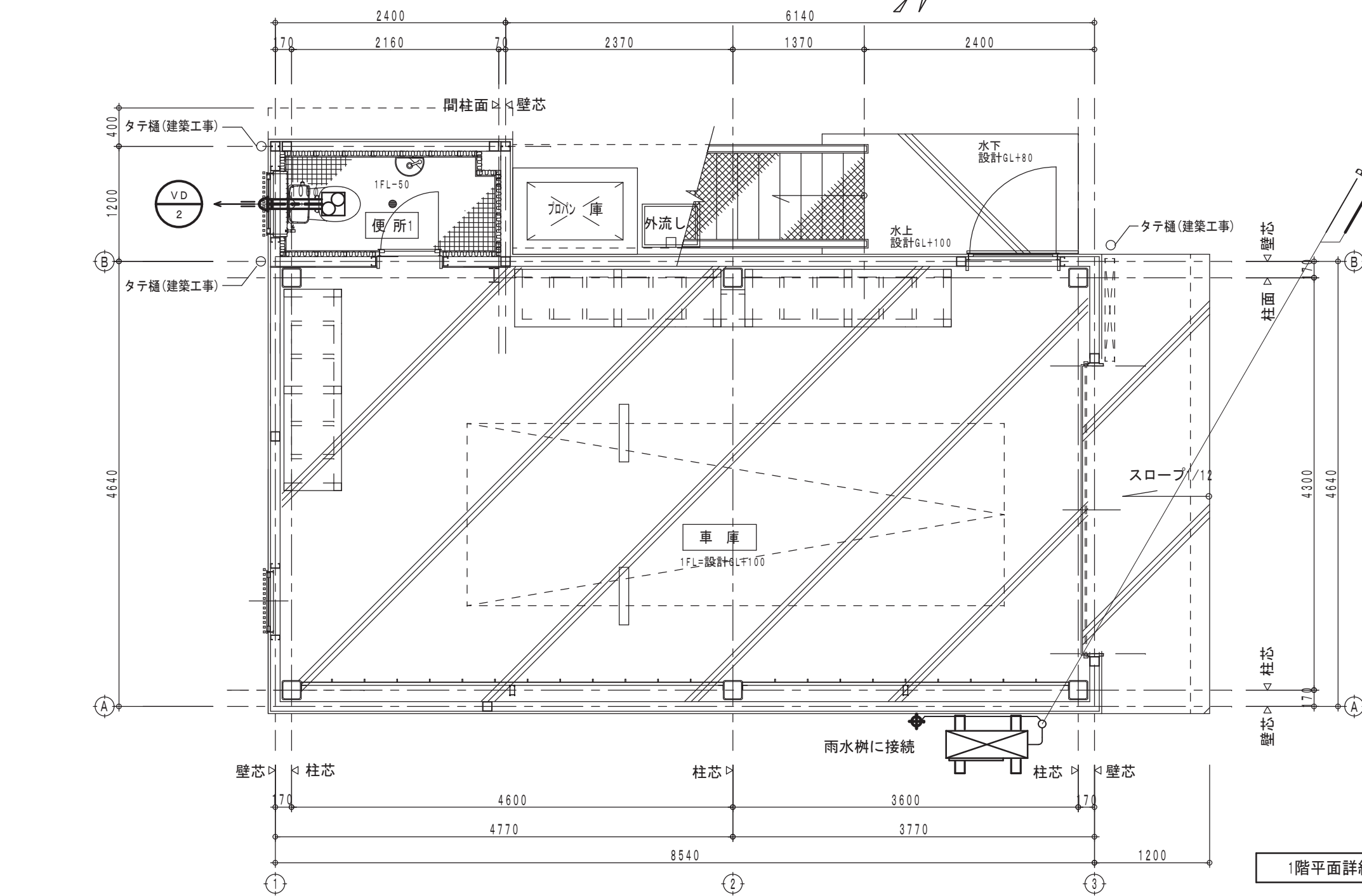
1級建築士登録第 四日市市諏訪町1番5号 号

令和7年4月版

[illegible]



2階平面詳細図 S=1:50



1階平面詳細図 S=1:50

- ※1) 冷房能力以外の数値は参考とする。
- 2) 室内外連絡線は冷媒管共巻きとする。(線種: EM-EEF2.0mm2-3C)
- 3) グリーン購入法適合品とする。
- 4) 屋外機は転倒防止策を施す。
- 5) 冷房能力・暖房能力はJIS条件による。

空調設備機器表

記号	機器名	仕様	数量
RAC-1	空冷ヒートポンプ式ルームエアコン	(壁掛型)	1
		冷房能力	
		7.1KW (0.5~7.3) KW	
		暖房能力	
		8.5KW (0.4~12.2) KW	
		消費電力	
		(C) 2210W, (H) 2020W (1φ×200V)	
VD-1	天井ダクト扇	圧縮機	1
		1900W	
		重量	
		(IN) 16.5KG, (OUT) 48KG	
		架台	
		既製コンクリート基礎400L×2本 (防振ゴム敷設)	
		付属品	
VD-2	天井ダクト扇	ワイヤレスリモコン (ホルダー共)	1
		(低騒音型) インテリアタイプ (金属ボディ, プラスチックグリル)	
		深型SUSベントキャップ (ガラリ付) 共	
		150φ×350CMH×60PA×82W×1φ×100V	
		(低騒音型) (金属ボディ, プラスチックグリル)	
		深型SUSベントキャップ (ガラリ付) 共	
		100φ×70CMH×30PA×9.3W×1φ×100V	
VD-3	天井ダクト扇 (24時間換気機能付)	(低騒音型) (金属ボディ, プラスチックグリル)	1
		深型SUSベントキャップ (ガラリ付) 共	
		100φ×70CMH×30PA×9.3W×1φ×100V	
		24H換気スイッチは電気工事へ支給	
		レンジフード ※建築工事	
		キッチン付属品 650m3/h 10Pa SUSウェザーカバー (25cm用・防鳥網付) は本工事、他一式共	
		給気口	
F-1	レンジフード	樹脂製給排気グリル (フィルター付) 開閉可 + 150φ 防虫アミ付深型SUSベントキャップ共	1
		(風量調整機能付)	

プロパンガス消費量による必要換気風量の計算	
部屋名:	2階待機室
理論排ガス量	$K=0.93M3/KWH$
ガス消費量	$Q=16.25KW$
(2口ガスコンロ5.75kw, 5号瞬間湯沸器10.5kw)	
必要換気風量	$V=40K \times Q$
	$=40 \times 0.93 \times 16.25$
	$\approx 605M3/H$
∴ 決定風量は605M3/Hとする。(10pa時) F-1	

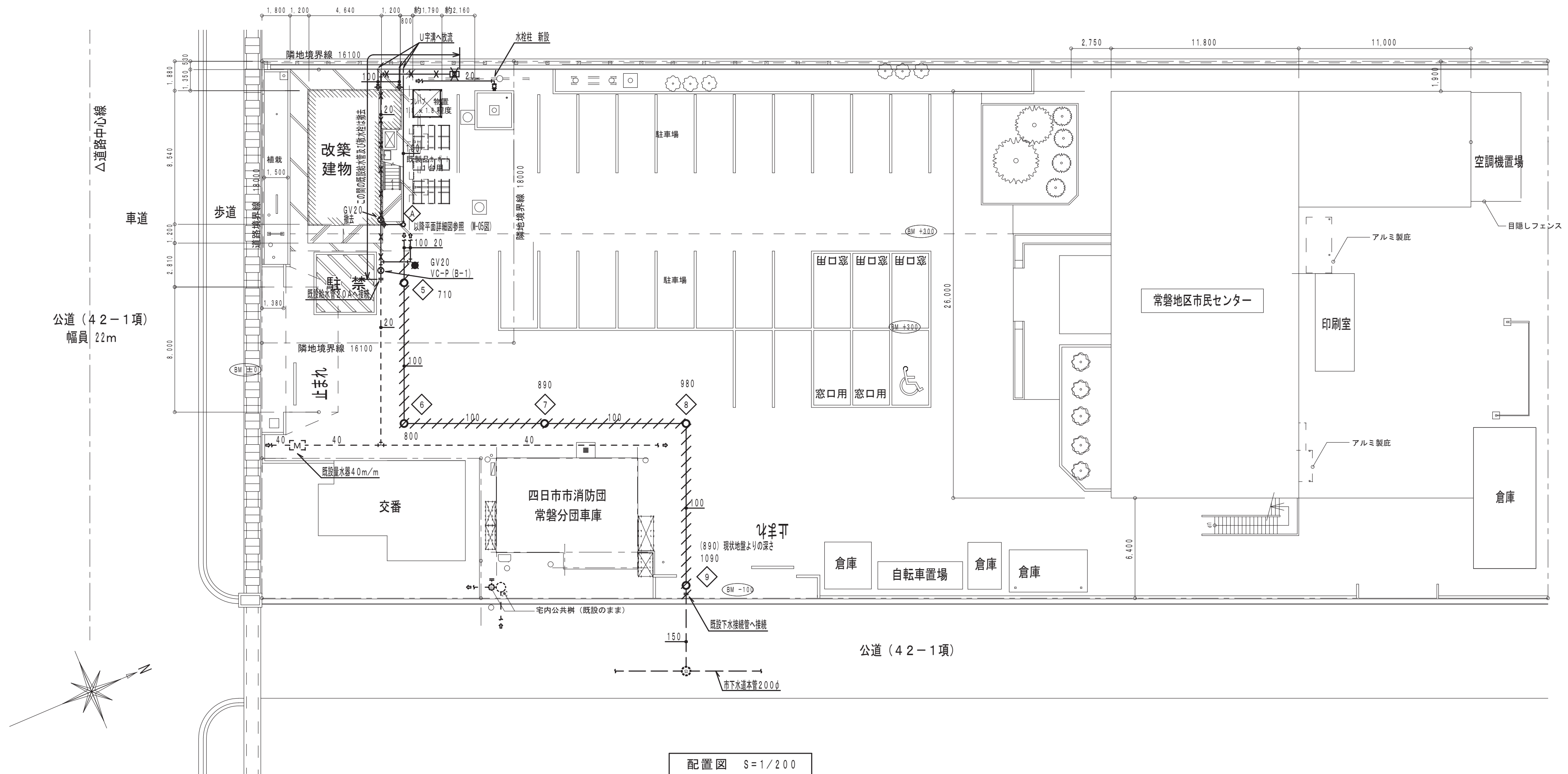
プロパンガス消費量による必要換気風量の計算	
部屋名:	2階和室14帖
理論排ガス量	$K=0.93M3/KWH$
ガス消費量	$Q=7.0KW$
2口コック(1口ガスコンロ相当) 3.5kw×2箇所	
必要換気風量	$V=40K \times Q$
	$=40 \times 0.93 \times 7.0$
	$\approx 261M3/H$
∴ 決定風量は350M3/Hとする。(60pa時) VD-1	

必要換気量の計算 (建築基準法 28条2 に基づくシックハウス対策)						
階	部 屋 名	面積 (m ²)	平均天井高 (m)	気積 (m ³)	必要換気回数 (回/h)	必要換気量 (m ³ /h)
2	和室14帖	29.38	2.4	70.512		
	待機室	8.27	2.6	21.502		
	便所2	1.99	2.3	4.577		
	計			(96.591)	0.3	28.978

1) ダクト計算 (直管相当長による方法)		換気種別及び換気機器の能力	
	相当長 (m)	換気種別	第3種換気
直管 (100φ)	0.7		(参考) VD-10ZLC14-S
曲管直管相当長 (100φ)	-	換気機器品名	天井扇 (VD-3)
SUS深型フード (100φ)	5.0	換気能力 (10m相当時)	85m3/h
P-13VS4 (100φ) 三菱電機		必要換気量	28.978m3/h
合計	5.7	85≥28.978	
∴	10	∴ 判定	OK

凡例

名称		使用管材
給水管	—— ー ——	(一般) 硬質塩化ビニールライニング鋼管 (VA)
		(土中) 硬質塩化ビニールライニング鋼管 (VD)
汚水管	—————	硬質塩化ビニール管 (VP)
雑排水管	—————	硬質塩化ビニール管 (VP)
ガス管	—— G ——	白ガス管

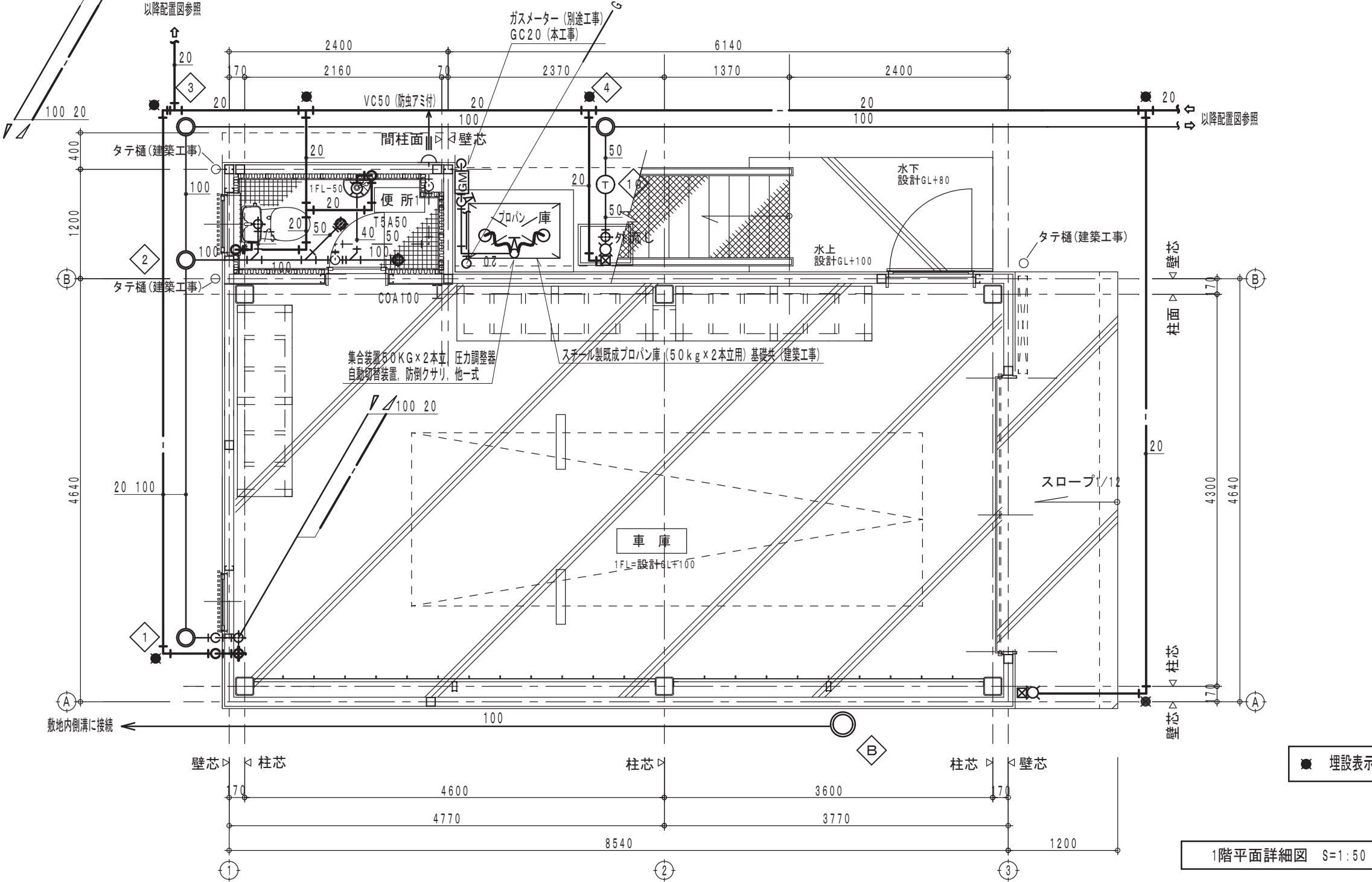
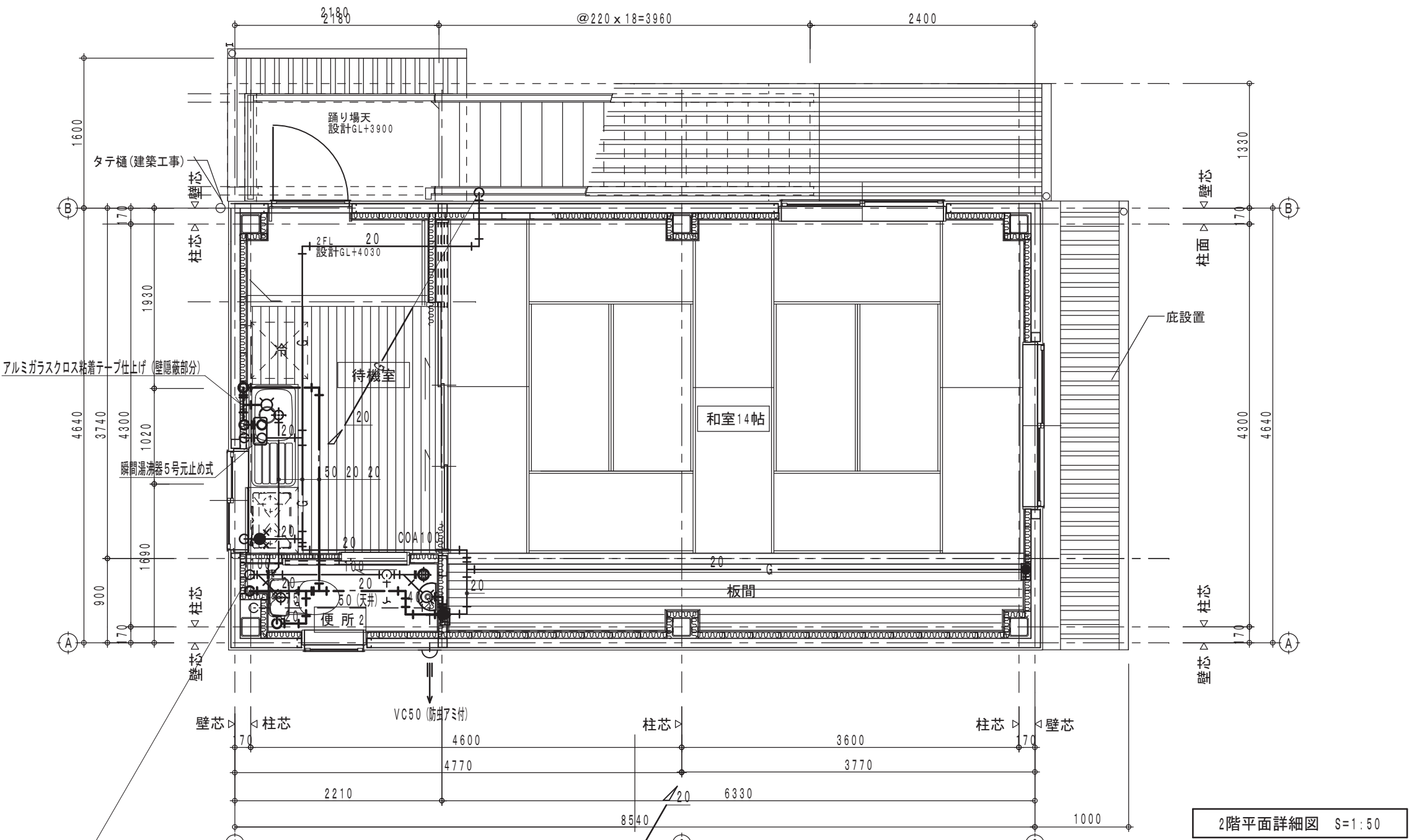


 アスファルトはつり復旧範囲（建築工事）

No. M-04 /

常磐分団車庫改築	工事設計図	令和 7 年 1 月
配置図 (衛生)		
scale	A2-1: 200 A3-1: 284	
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治		

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治



衛生設備器具表

器具名称	(参考) (TOTO)	(参考) (LIXIL)	付属品仕様	屋外	1階	2階	合計
腰掛便器	CS70B	BC-Z30S	防露タンク (手洗い無し・蓋固定・陶器製)、温水洗浄便座 (貯湯式)、セット金具一式		1	1	2
紙巻器	YH117	CF-32H	SUS製ワンタッチ式		1	1	2
コンパクト手洗器	LSL570APR	AWL-71UA (P)	ハンドル式単水栓、壁給水、Pトラップ、セット金具一式		1	1	2
横型自在水栓 (泡沫)	T130AUN13C	LF-12F-13-U	流し台用			1	1
吐水口回転形横水栓	T200CSNR13	LF-7RG-13-U	キー式		3		3
水栓柱			SUS製角型、70×70×1200H		3		3
地流し			樹脂製水栓柱パン、W=550、ゴム栓付、置き型タイプ	1			1
ガス瞬間湯沸器			瞬間式壁掛形、5号元止め式、止水栓 (チャッキ共)、可とう管コック、金属可とう管、SUS製フレキチューブ共		1		1
ガスヒューズコック			2口			1	1
壁埋込ガスコック			コンセントコック			2	2

- 注意事項 1) 排水管の勾配は1/100以上確保する事。
2) 樹深さは参考数値とする。
3) 基準地盤は樹番号1を基準とする。

汚水樹・雨水樹リスト

記号	名称	種別	基準地盤管底	備考
1	汚水樹	小口径塩ビ樹90Y100-200	-300	樹脂製蓋共
2	汚水樹	小口径塩ビ樹90Y100-200	-360	樹脂製蓋共
3	汚水樹	小口径塩ビ樹90L100-200	-380	樹脂製蓋共
4	汚水樹	小口径塩ビ樹90Y100-200	-430	樹脂製蓋共
5	汚水樹	小口径塩ビ樹ST 100-200	-710	T-14、防護ハット共
6	汚水樹	小口径塩ビ樹90L100-200	-800	T-14、防護ハット共
7	汚水樹	小口径塩ビ樹ST 100-200	-890	T-14、防護ハット共
8	汚水樹	小口径塩ビ樹90L100-200	-980	T-14、防護ハット共
9	汚水樹	小口径塩ビ樹ST 100-200	-1090	T-14、防護ハット共
10	雑排水樹 (トラップ)	小口径塩ビ樹ST 75-200	-300	樹脂製蓋共
A	雨水樹	小口径塩ビ樹90L100-200	-200	T-14、防護ハット共
B	雨水樹	小口径塩ビ樹ST100-200	-210	樹脂製蓋共

No. M-05

常盤分団車庫改築 工事設計図

R 7 年 1 月

1. 2 階平面詳細図 (衛生)

scale (A2) S=1:50・100 (A3) S=1:71・142

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治

解体工事			
総則 工事概要 1. 工事場所 四日市市 城西町 地内 2. 工事種目 解体工事 1. 共通仕様 (1) 図面及び特記仕様に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書・同解説(令和4年版)」(以下「解体共通仕様書」という。))による。 2. 特記仕様 (1) 項目は、○印の付いたものを適用する。 (2) 特記事項は、◎印の付いたものを適用する。 ○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。 (3) 特記事項に記載の [. . .] 内表示番号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。 (4) 特記事項に記載の (標 . . .) 内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。 部分完成 部分引渡し 1) 保険及び保証 ・建設工事保険 (保険証の写しを提出) ・請負業者賠償責任保険 (保険証の写しを提出) (・管理財物担保特約に加入のこと) 2) 建設共済等 ・任意にて加入 下記の制度について加入すること。 ・法定外労災補償制度 (加入証明書の写しを提出) ・建設業退職金共済制度 当初の請負金額が500万円以上の場合、掛金収納書を提出すること。また、増額の契約変更があった場合についても、その分を提出すること。 共済証紙購入額：請負金額の 0.8/1000以上 なお、他の退職金制度に加入している等、共済証紙を購入する必要がない場合は、理由書の提出をもって共済証紙の購入を不要とする ・任意にて加入 ※資材の購入及び下請け業者の選定に際しての留意事項 資材の購入及び工事の一部を下請け業者にて施工する場合、業者の選定に際しては、出来る限り市内業者を優先させること。			
章	項	目	特記事項
1章一般共通通事項	1	工事実績情報の登録	※請負金額が 500万円以上の場合、登録を行う。 [1.1.4] ※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うように努めること。
	2	工事の記録	※工事写真については以下による。(編集工程写真はA4版程度) [1.2.3] ※工事着工前 1部 ※工程写真 各工程毎に編集の上提出 1部 ※竣工写真 2部 ※工事の各記録写真については、デジタル画像にて整備編集を行うように努めること。
	3	電気保安技術者	・適用する ・適用しない [1.3.3] 事業用電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、その電気工作物の工事に必要な電気主任技術者の資格を有する者又はこれと同等の知識及び経験を有する者とする。 一般電気工作物に係る工事の電気保安技術者は、第一種又は第二種電気工事士の資格を有する者とする。
	4-1	週休2日制工事	「四日市市週休2日制工事実施要領(営繕工事)」(令和6年7月19日改正適用)に基づく適用は下記による。 ・週休2日制工事対象 ・週休2日制工事(受注者希望型)対象 ・週休2日制対象外工事(・工事の実働日数が30日未満の工事 ・現場閉所困難な工事) 完全週休2日制工事(受注者希望型含む)の現場閉所日については下記による。 ※土日閉所(ただし、 / ~ / については土日作業とすること。) ・土日以外閉所 ※土日以外閉所における現場閉所日は、着手前に監督職員と協議の上設定すること。 なお、現場閉所日については、原則として毎週連続する同一の曜日とすること。
	4-2	施工条件	[1.3.5] ・週休2日制対象外工事の現場閉所日については下記による。 ※土日閉所 ・土日以外閉所 ・現場閉所日、祝日、夜間に作業を行う場合は、事前に「休日及び夜間工事承諾願」を提出し、監督職員の承諾を得ること。 ・工事用車両の駐車場及び資機材置場 ※敷地内 ・ ・工事着手前に周辺住民への工事説明会が開催される場合は資料作成等に協力すること。 ・施工に際しては、工程及び施工内容について施設管理者と綿密な調整を行うこと。 ・工事に関わる法令手続きは受注者にて行うこと。手続きに係る手数料は受注者の負担とする。 ・仮囲い等について周辺住民等の安全上、使用上支障がないように計画し、維持管理に努めること。

5	施工中の安全確保	交通誘導員 ※配置する 1名以上(大型車の出入は必ず) ・配置しない [1.3.6] ・交通誘導警備員A ※交通誘導警備員B
6	発生材の処理等	・引渡しを要するもの() [1.3.10] ・工事現場において再利用及び再資源化を図るもの() ・特定建設資材の搬出 再資源化等を行う(再資源化が困難な場合には縮減) ・特定建設資材以外の搬出 ・構外搬出適正処理 ※廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。 ※建設発生土を搬出する場合は、事前に書面にて処分地の報告(位置図等)を行い、処分地での処理状況が分かる写真を提出すること。また、処分地が民有地の場合、土地所有者からの建設発生土受入承諾書の写しを提出すること。
7	石綿含有建材の調査	事前調査(有資格者) ※行う ・行わない [1.4.1] 調査結果報告書の貸与 ・有 ・無 分析調査 ・行う(対象箇所：) ※行わない ※定性分析 ・定量分析 ※分析調査は「建材中の石綿含有率の分析方法について(令和3年12月22日改正)」に基づき行う。 ※現地調査を行い、事前調査結果報告書を作成し、提出する。 調査の結果、設計図書と異なる場合は、監督職員と協議する。
8	施工体制台帳の提出	公共工事の入れ及び契約の適正化の促進に関する法律の定めにより、施工体制台帳の写しを提出すること。なお、警備業者についても記載すべき下請負人の範囲に含まれるものとする。
9	資源有効利用促進	※本工事が資源の有効な利用の促進に関する法律(平成三年法律第四十八号)の規定により再生資源利用促進計画の作成を要する工事である場合(下記内容該当工事)は、受注者は、工事の施工前に発注者に再生資源利用促進計画を提出し、その内容を説明しなければならず、工事の完成後に発注者から請求があったときは、その実施状況を発注者に報告しなければならない。 ・建設副産物を搬出する際の計画 1. 土砂500m3以上 2. コンクリート塊、アスファルト塊、建設発生木材の合計が200t以上 ・再生資材を利用する際の計画 1. 土砂500m3以上 2. 砕石500t以上 3. 加熱アスファルト200t以上

①騒音・粉じん等の対策	⊗ 騒音・粉じん等の対策 [2.2.1] ※ 防音パネルを隙間なく取り付ける。 ○ 防音シートをジョイントの重ねと結束を十分に施し、隙間なく取り付ける。 ・メッシュ金網、養生シート等を隙間なく取り付ける。 なお、シート類は防災処理されたものとする。 ※ 防音パネル等を取り付ける足場等の範囲 ※ 図示による。 ・設ける。(規模・備品等の設置は下記による) ○設けない 構内既存の施設 ・利用できる(・有償 ・無償) ○利用できない 構内既存の施設 ・利用できる(・有償 ・無償) ○利用できない
②監督職員事務所等	
③工事用電力	
④工事用水	

※提出書類はA4版とする			
※産業廃棄物税		四日市市都市整備部営繕工務課	
本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、請負者が本工事より生じた産業廃棄物が、課税対象となった場合には、翌年度に産業廃棄物税納税証明書等を添付して、本工事より生じた産業廃棄物税相当分を請求することができる。		一級建築士 登録 第 号	
		四日市市諏訪町1番5号	

3章解体施工	1杭	杭の解体 ・行う ・引抜き工法 ・破砕工法	・行わない [3.9.2]
	2構内舗装、樹木等	・樹木等の伐採 ・樹木等の伐採抜根 ・樹木等の移植	・行う ・行わない [3.11.1]
	③地下埋設物等	※対象樹木等は図示による。 地下埋設物及び埋設配管等の解体	○行う ・行わない [3.12.1]
	④埋戻し、盛土及び整地	解体後の埋戻し 盛土	・行う ○行わない [3.13.1]

4章建設廃棄物の処理	①再資源化等	中間処理施設(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設) [4.4.1] 再資源化施設(同上) ※ 特定建設資材廃棄物は、再資源化を行う(再資源化が困難な場合は縮減) 水銀使用製品産業廃棄物 ・行う ○行わない 硬質ポリ塩化ビニル管・継手 ・行う ○行わない ガラス ・行う ○行わない 木材の縮減 ・行う ○行わない 現場での利用 ・行う ○行わない
	2産業廃棄物 広域認定制度	産業廃棄物の広域的処理 ・行う ・行わない [4.4.2]
	③最終処分	最終処分物(引渡しを受ける物及び再資源化を行うものの以外の物) [4.4.3] 最終処分場(廃棄物の種別に応じ許可を受けた施設)
	4処理に注意を要する 建設廃棄物	・C C A処理木材 [4.5.1] ・ひ素・カドミウム含有石膏ボード ・上記以外の石膏ボード ・最終処分 ・再資源化
	⑤廃棄物管理票	※ 廃棄物管理票(マニフェスト)確認表を作成し、監督職員にA票及びD票もしくはE票の確認を受けるものとする。ただし、電子情報処理組織に登録(電子マニフェスト)により確認を行う場合は、この限りではない。

5章特別管理産業廃棄物の処理	1施工調査	特別管理産業廃棄物の分析調査 ・行う ・行わない [5.1.2]
	2特別管理産業廃棄物の処理等	特別管理産業廃棄物の処理等 ・行う ・行わない [5.4.1]
6章石綿含有建材の除去及び処理	①一般事項	P C Bを含む機器類 微量P C Bの分析調査 ・行う ・行わない [5.4.1] P C B含有シーリング材 分析調査及び撤去 ・行う ・行わない [5.4.1] 廃油 ・焼却処分 ・中間処理施設での再生処理 [5.4.1] 廃酸・廃アルカリ ・中和処理 ・焼却処分 ・中間処理施設での再生処理 [5.4.1] ダイオキシン類 サンプリング調査 ・行う ・行わない [5.4.1]
	②施工調査	労働安全衛生法第28条第1項の規定に基づく技術上の指針(建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等ばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する記述上の指針)を遵守すること。 ○アスベスト除去に伴う官公署等への届出申請を行うこと。 石綿障害予防規則及び大気汚染防止法の各規定に基づく官公署等への報告等を行うこと。 ○石綿含有事前調査結果の都道府県知事及び労働基準監督署への報告を行うこと。 ○事前調査結果及び特定粉塵排出等作業の掲示を行うこと。 ○アスベスト除去に伴う作業計画の作成を行うこと。 ○アスベスト除去完了に伴う発注者への報告を書面にて行うこと。 分析による調査 ・行う ○行わない [6.1.3] ※書面調査及び現地調査の調査結果を監督職員に提出すること。

工事名	
常磐分団車庫改築工事	
日付	図面名
令和7年1月	特記仕様書(解体1)
縮尺	
—	
図面番号	
K-01	
令和7年1月版	

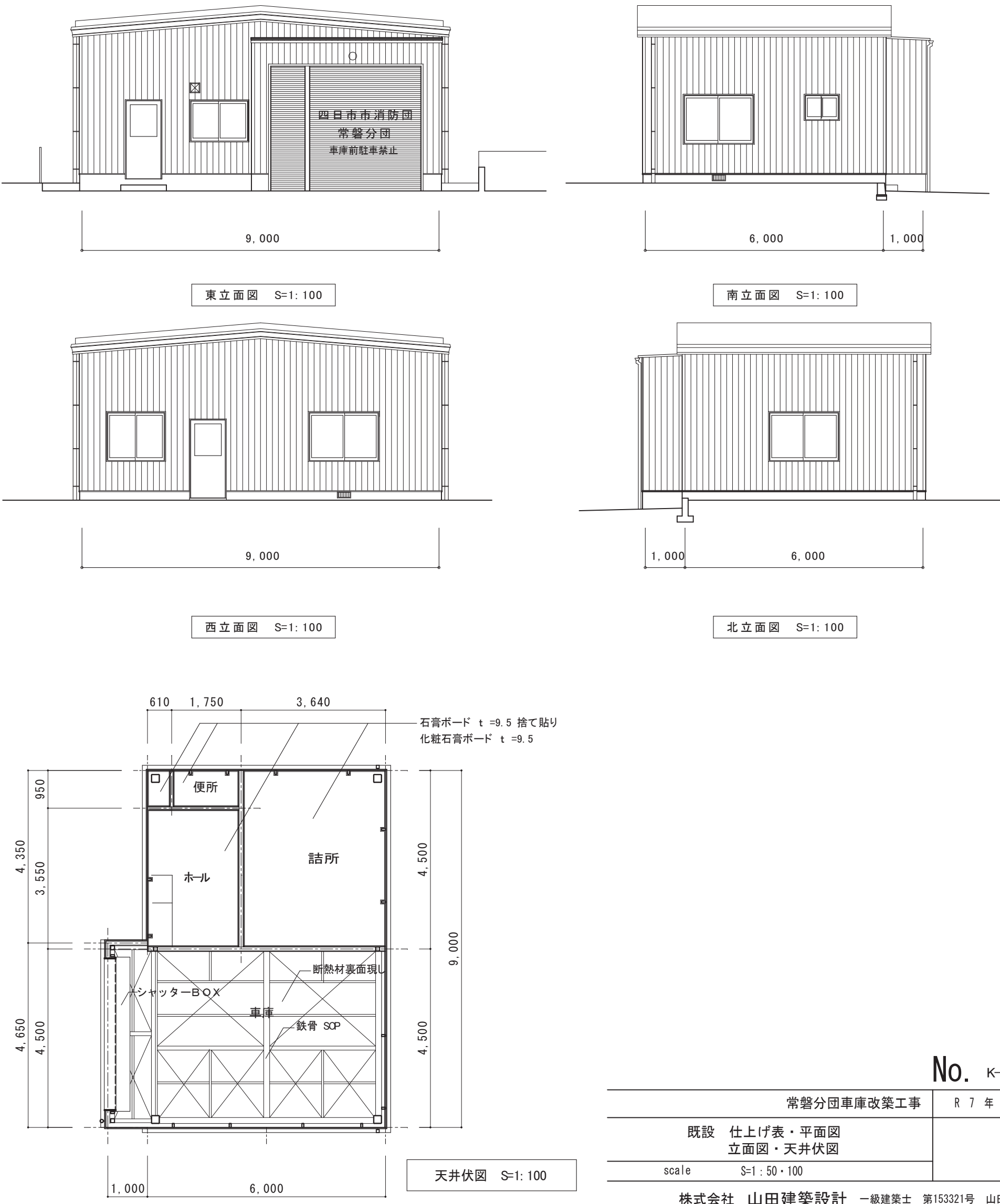
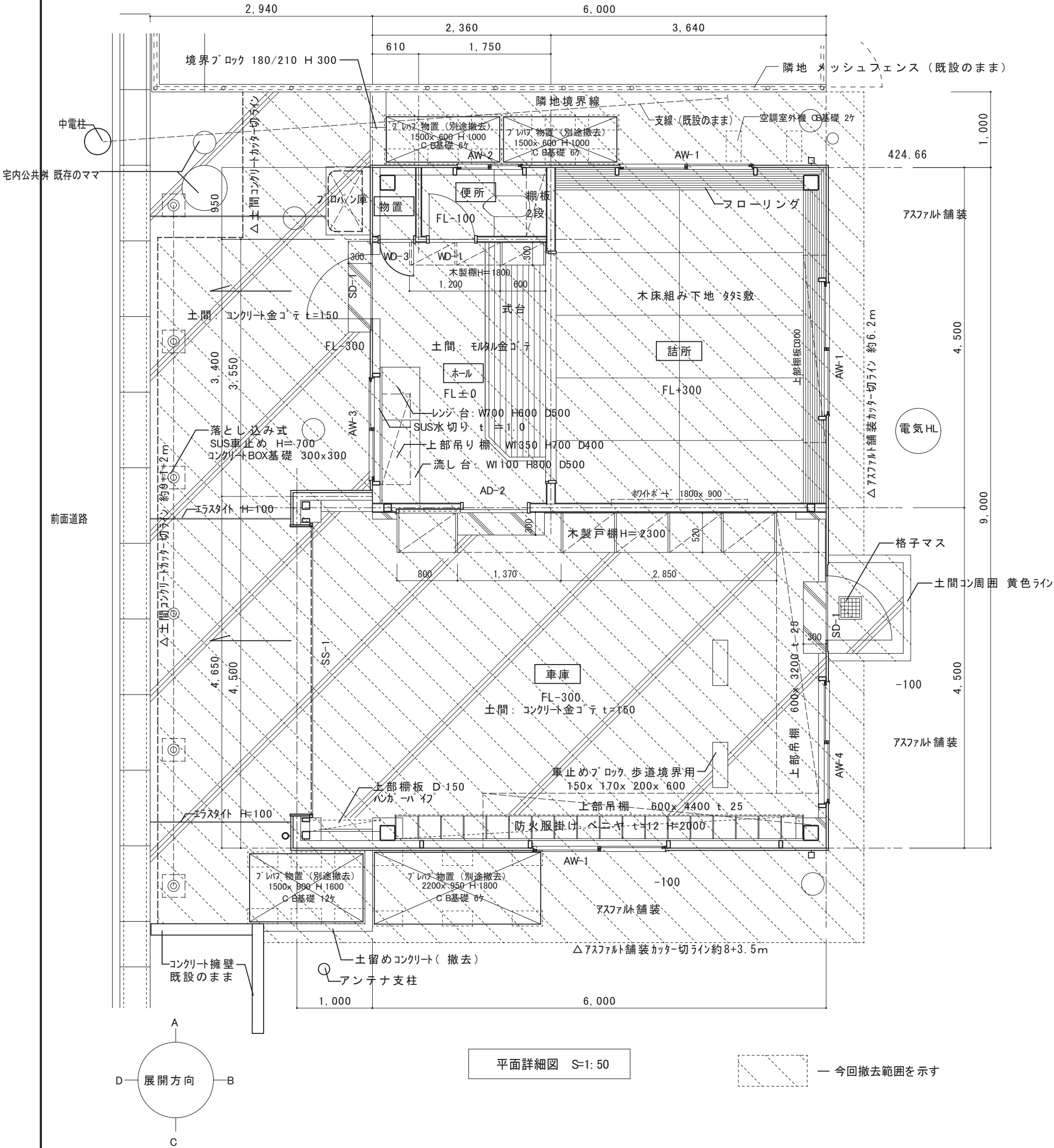
外部仕上表

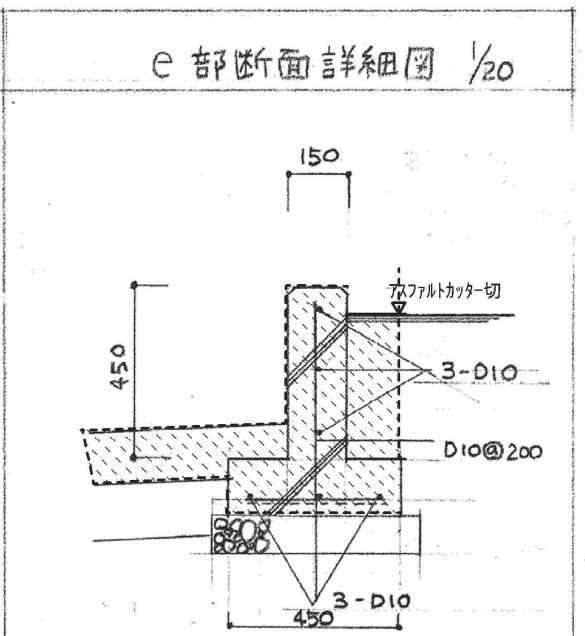
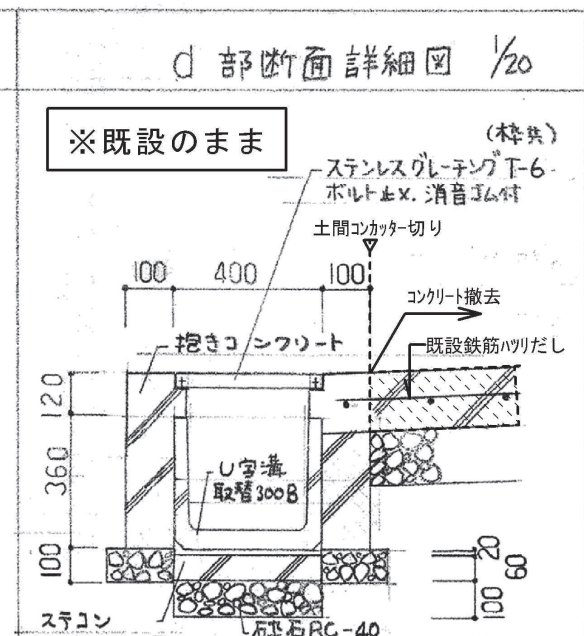
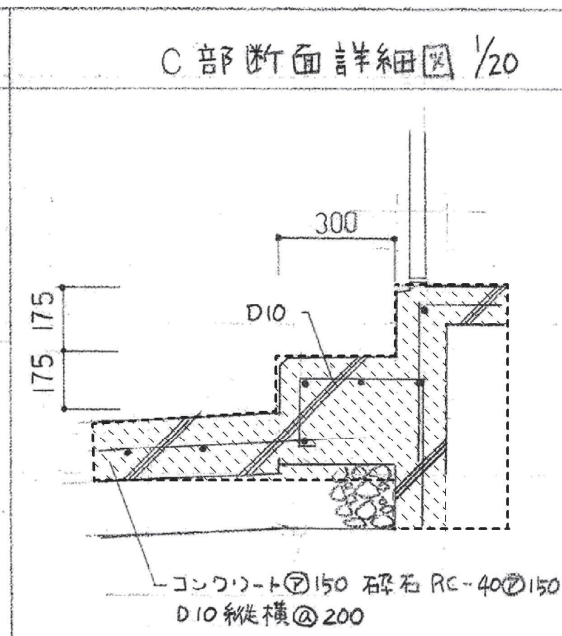
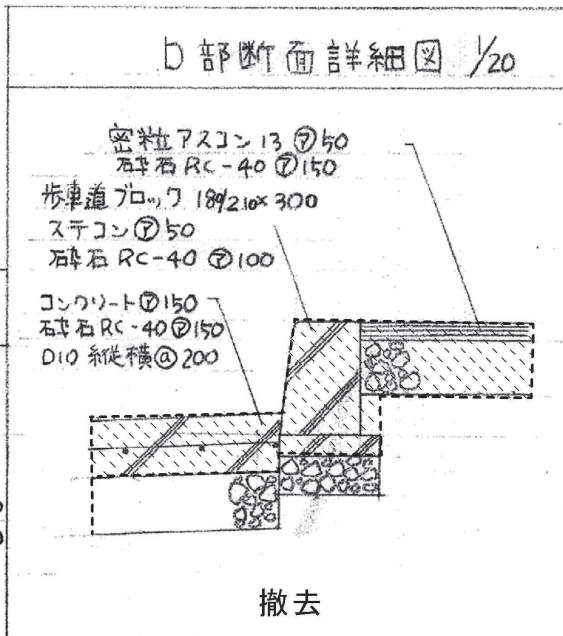
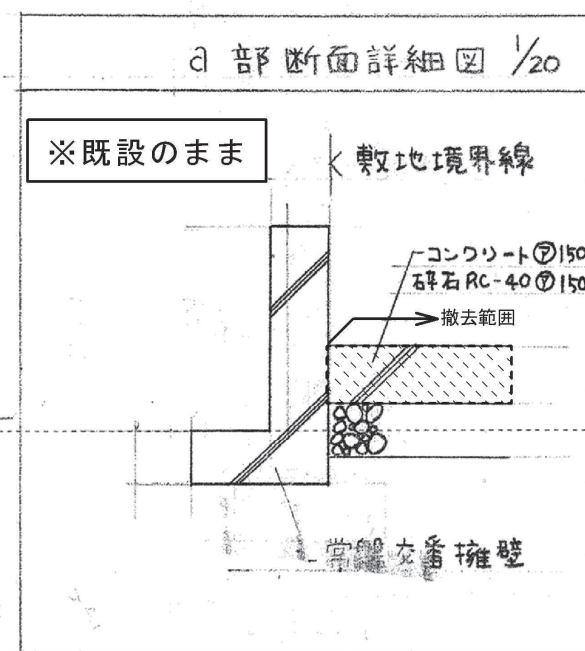
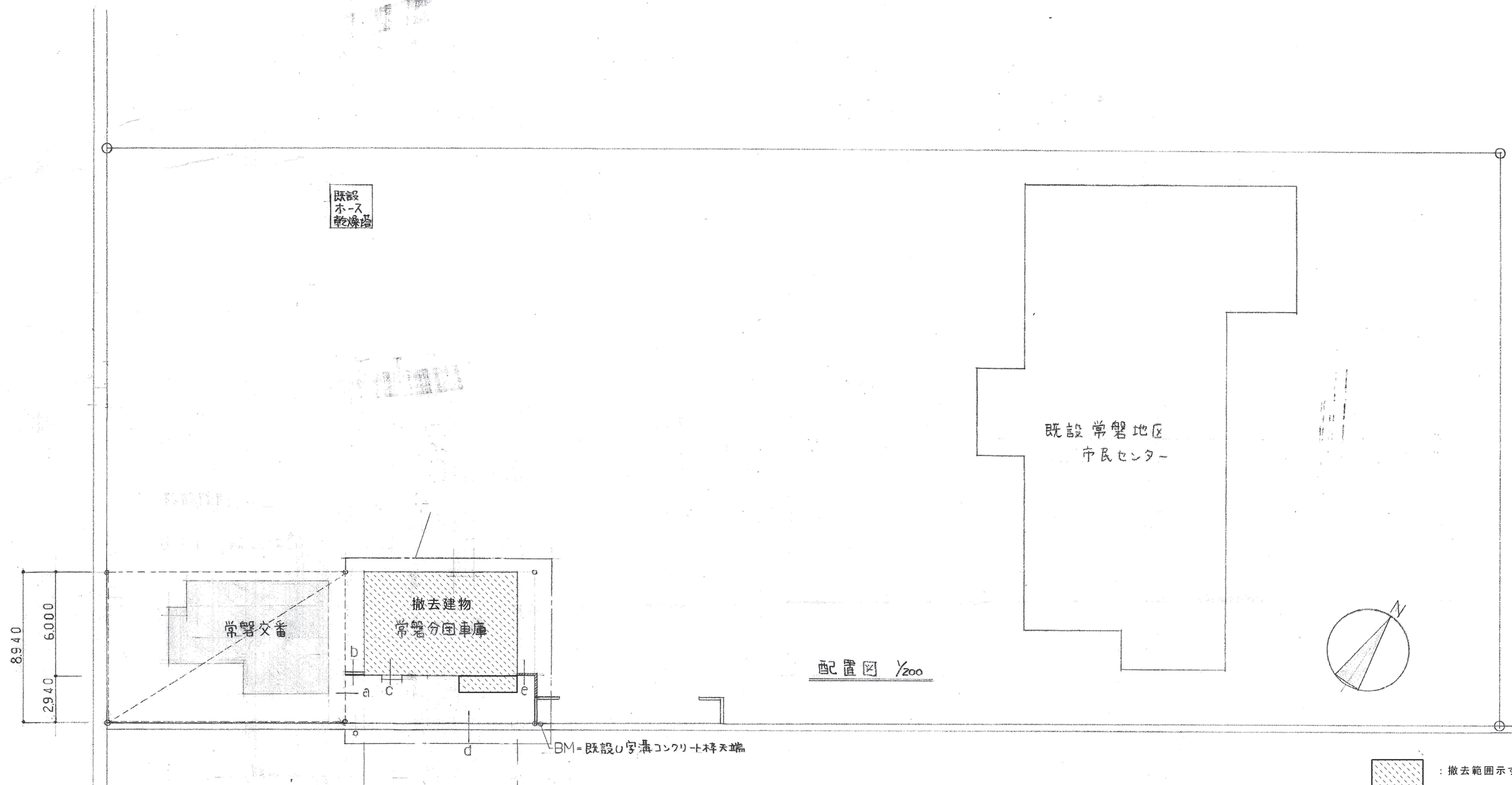
部位	仕上
屋根	角波カー鋼板 t0.5+断熱材 グラスウール t50 下屋 ガルバリウム鋼板 t=0.6 立ハゼ葺き +化粧野地板 厚30+アスファルトフィング
外壁	角波カー鋼板 t0.5+ 芯材グラスウール厚40
外部巾木	モルタル金ゴテ
スロープ 犬走り	コンクリート刷毛引き
樋	縦樋 カー鉄板 75角 支持金物 @1200 下屋部 軒樋 塩ビカー 105φ 縦樋 カーV P 支持金物 @1200

内部仕上表

室名	床	壁	天井	備考
車庫	コンクリート金ゴテ	外壁側:外壁材裏面現し 内壁側:LGS100+石綿ケイ酸カルシウム板 t8(※) AEP塗装 柱型:鉄骨現し SOP塗 立上り モルタル金ゴテ	断熱材裏面現し 梁型・母屋:鉄骨現し SOP塗	・木製戸棚、棚板+心カーパイプ、防火服掛け ・上部吊棚 L3200+4400、 ・車止めブロック
便所	砕石敷 t100+コンクリート t100+モルタル下地 +□50磁器質タイル貼	外壁側:外壁材裏面現し 内壁側:LGS100+石綿ケイ酸カルシウム板 t8(※) AEP塗装 立上り モルタル下地+□50磁器質タイル貼	LGS下地 石膏ボード t=9.5 捨貼 +化粧石膏ボード t =9.5	・木製棚板 2段
ホール	モルタル金ゴテ 式台 木床組下地 フローリング 約2600x 850 H 200	外壁側:外壁材裏面現し 内壁側:LGS100+石綿ケイ酸カルシウム板 t8(※) AEP塗装 立上り モルタル金ゴテ	LGS下地 石膏ボード t=9.5 捨貼 +化粧石膏ボード t =9.5	・流し台、ガス台 SUSバックガード付き ・SUS水切り、吊戸棚、木製戸棚
物置	木下地、塗装合板 t=12	外壁側:外壁材裏面現し 内壁側:LGS100+石綿ケイ酸カルシウム板 t8(※) AEP塗装 立上り モルタル金ゴテ	LGS下地 石膏ボード t=9.5 捨貼 +化粧石膏ボード t =9.5	・棚 ラワンSOP
詰所	木床組下地、ラワンベニヤ =12下地 タタミ敷き 一部フローリング	外壁側:外壁材裏面現し 内壁側:LGS100+石膏ボード t9.5 クロス貼り タタミ寄せ	LGS下地 石膏ボード t=9.5 捨貼 +化粧石膏ボード t =9.5	・ホワイトボード、棚板D300L2500、ブラインド ・ロールスクリーン

注) ※ 印部分 既設 仕上げ材料は アスベスト含有建材 とする





特記なき限り既設すべて撤去

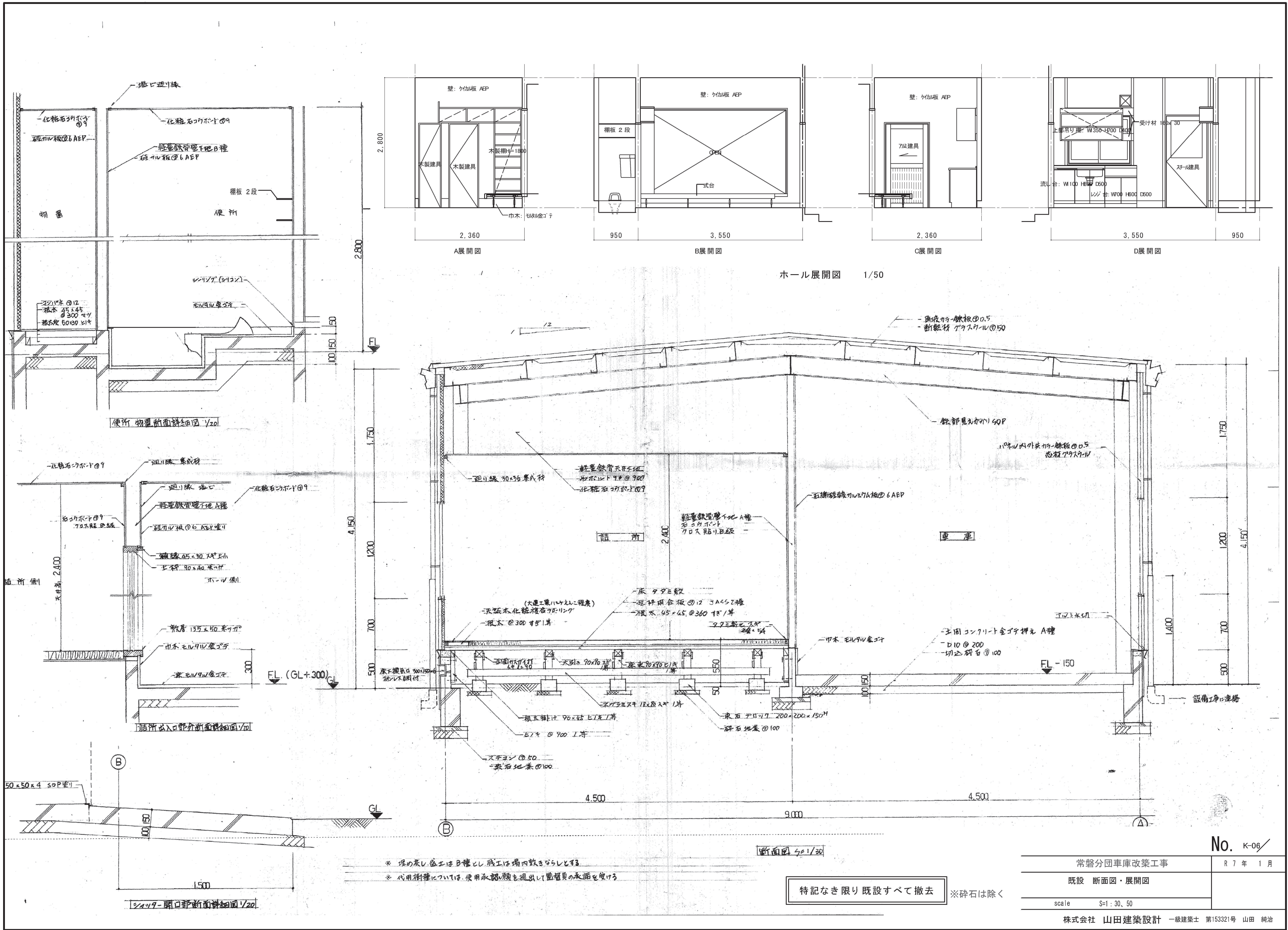
No. K-05

常磐分団車庫改築工事 R 7 年 1 月

既設 外構詳細図

scale S=1:20・200

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治



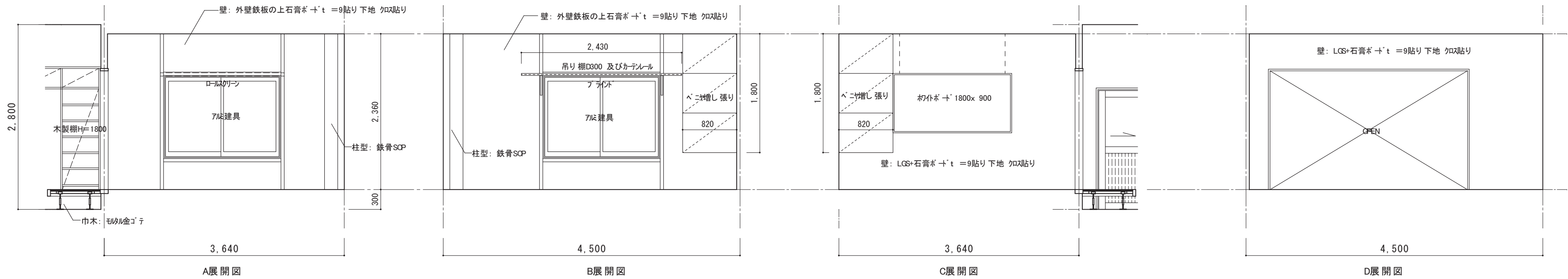
No. K-06

常磐分団車庫改築工事 R 7 年 1 月

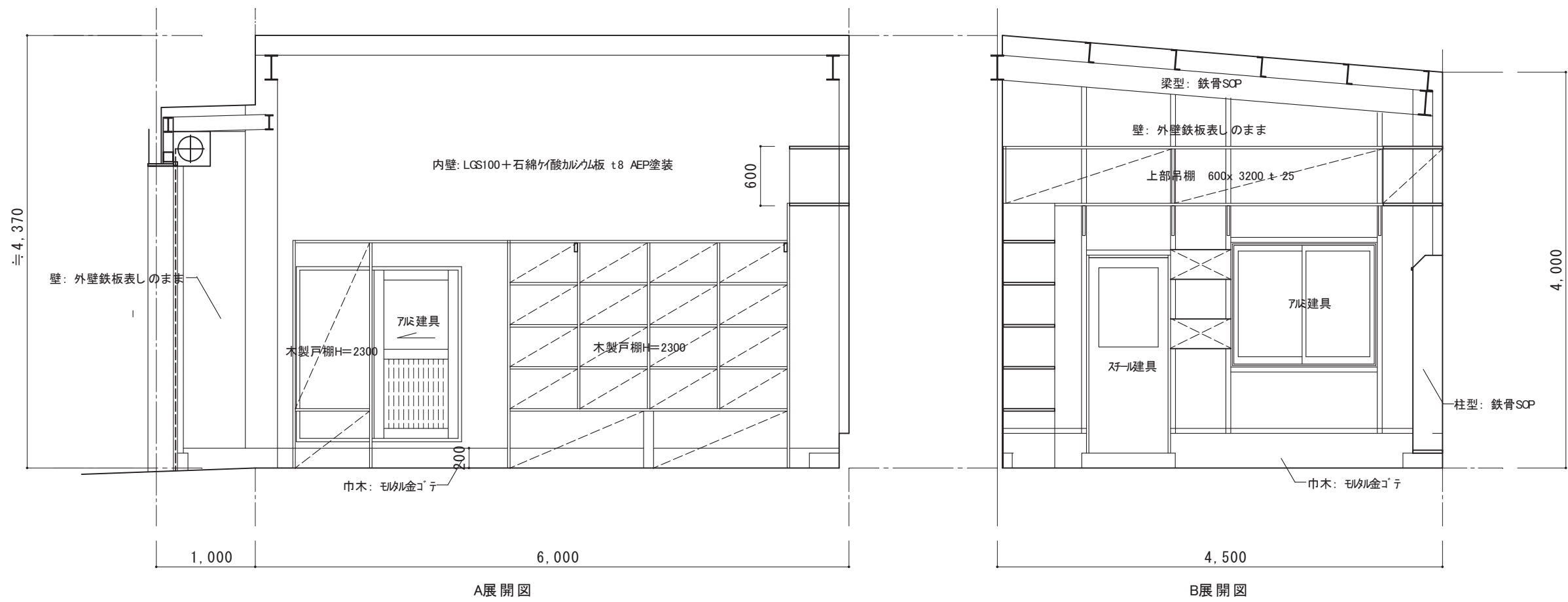
既設 断面図・展開図

scale S=1: 30, 50

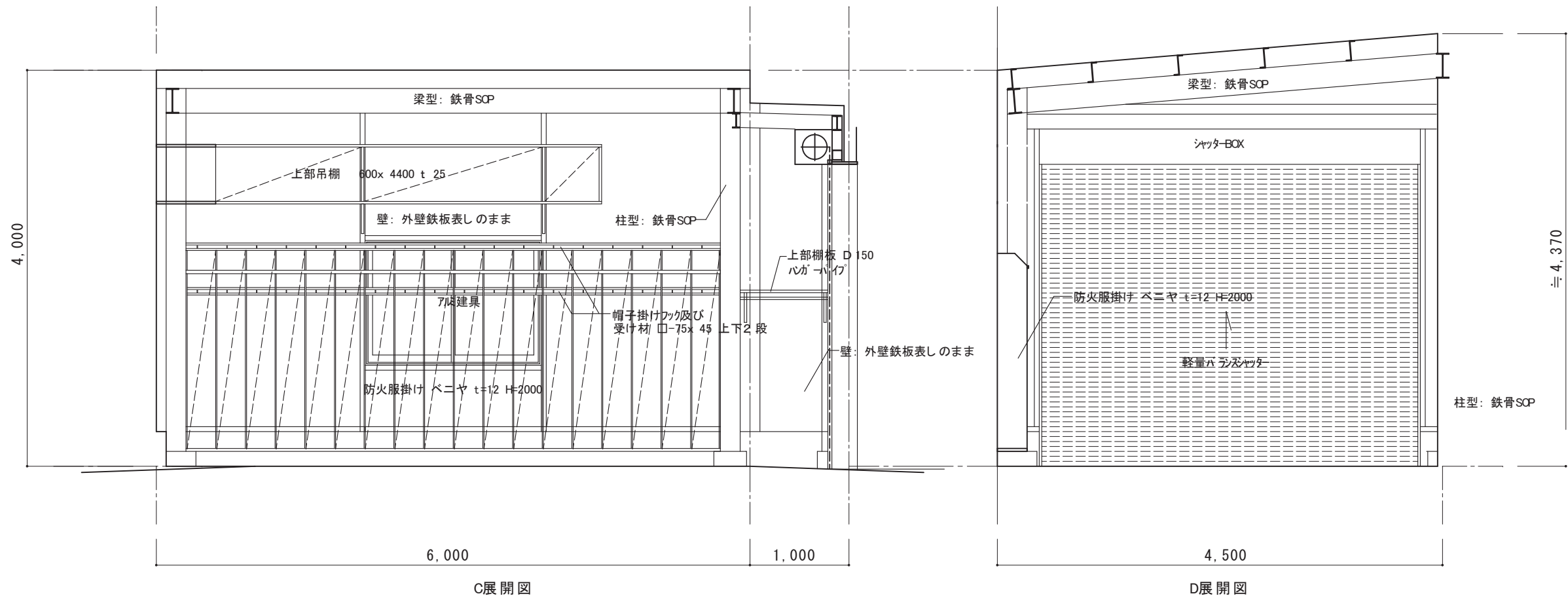
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治



詰所 展開図 1/50



特記なき限り既設すべて撤去

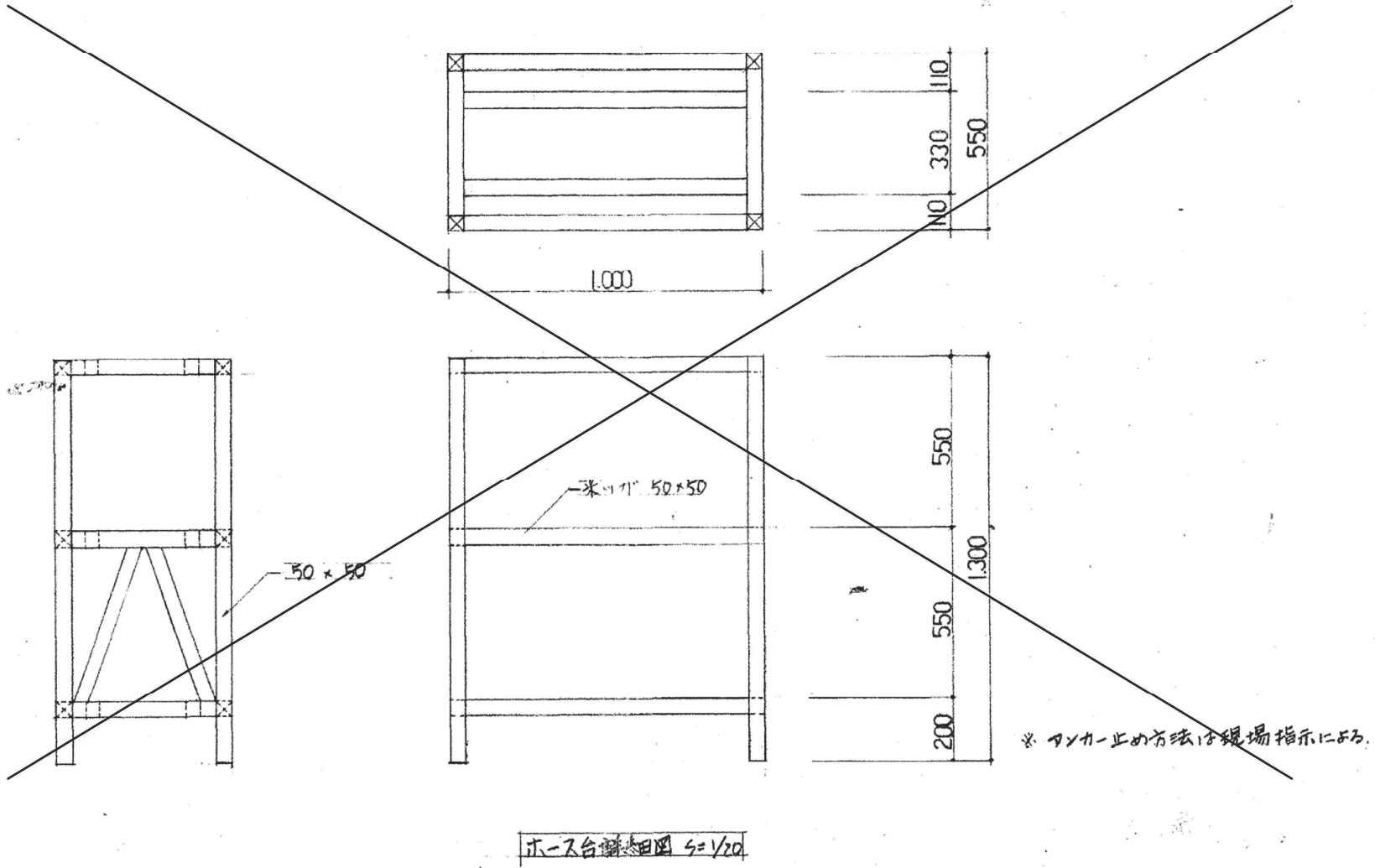


車庫 展開図 1/50

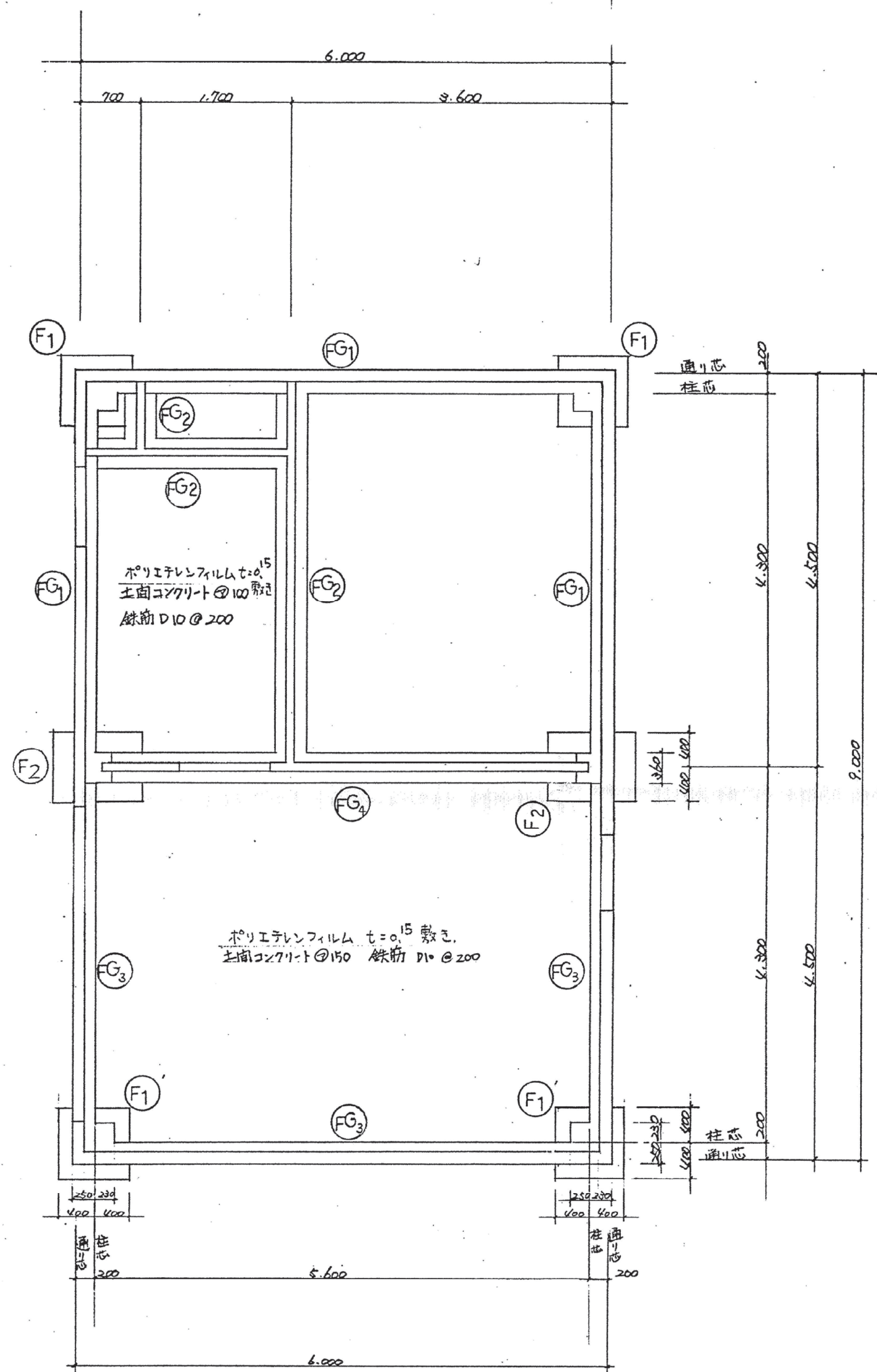
	AW1 アルミ引違い窓 3ヶ所	AW2 アルミ引違い窓 1ヶ所	AW3 アルミ引違い窓 1ヶ所	AW4 アルミ引違い窓 1ヶ所	SD1 SD2 スチールドア 2ヶ所	AD1 アルミ引違いドア	WD1 フラッシュドア 1ヶ所	WD2 フラッシュドア 1ヶ所
要図					 SD-2 17 右勝手			
仕上	特記仕様による					ホームサッシ	シバシバ 4 50P 4 国産 50P	
見込	70				75	40	40	
硝子	型板ガラス 4mm				型板ガラス 4mm 留付1 シリコンシーリング	型板ガラス 6.5mm		
金物	付属金物一式				握玉、シリコン錠、ロボットピン、D.C.	カムタン付 分錠錠 (ホール側)	表示錠カムタン付、兼和 HM 移度、 タイロンピン入 ステンレス 3 枚 102 x 102 x 2.3 枚	ステンレス固定玉、中芯ローラー型錠 (7 枚)、 タイロンピン入 ステンレス 3 枚 102 x 102 x 2.3 枚
その他	ステンレス鋼サ					脚 アルミノブ		

	WD3 4本引アス 1ヶ所	SS1 軽量スチールシャッター 1ヶ所
要図		
仕上	裸板 O.S.C.L. 新島の子	文字記入 四日市消防団 (黒) 〇〇分団 (黒) 車庫前駐車禁止 (赤) 25cm 角程度
見込	21	スラット板厚 0.9mm
硝子		
金物	引手	錠 中径 火の他付属金物一式、ステンレス床見切り
その他	芯材 ロールアス	シャッターボックス

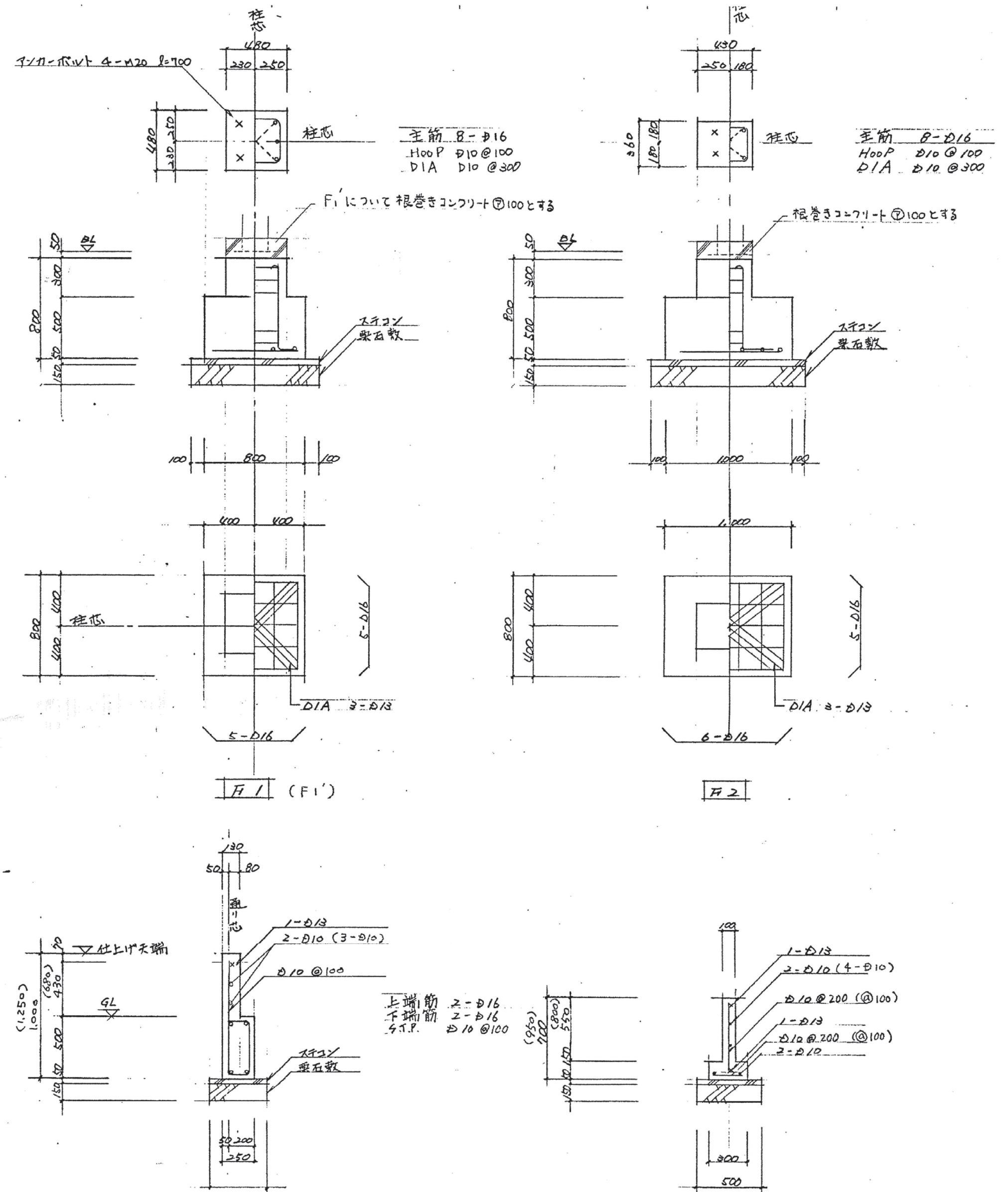
特記なき限り既設すべて撤去



建具表 5=1/50



基礎伏図 1/50



(FG3) 部分に
ついては () を適用。

(FG4) 部分に
ついては () を適用。

基礎詳細図 1/30

特記なき限り既設すべて撤去

※砕石は除く

No. K-09/

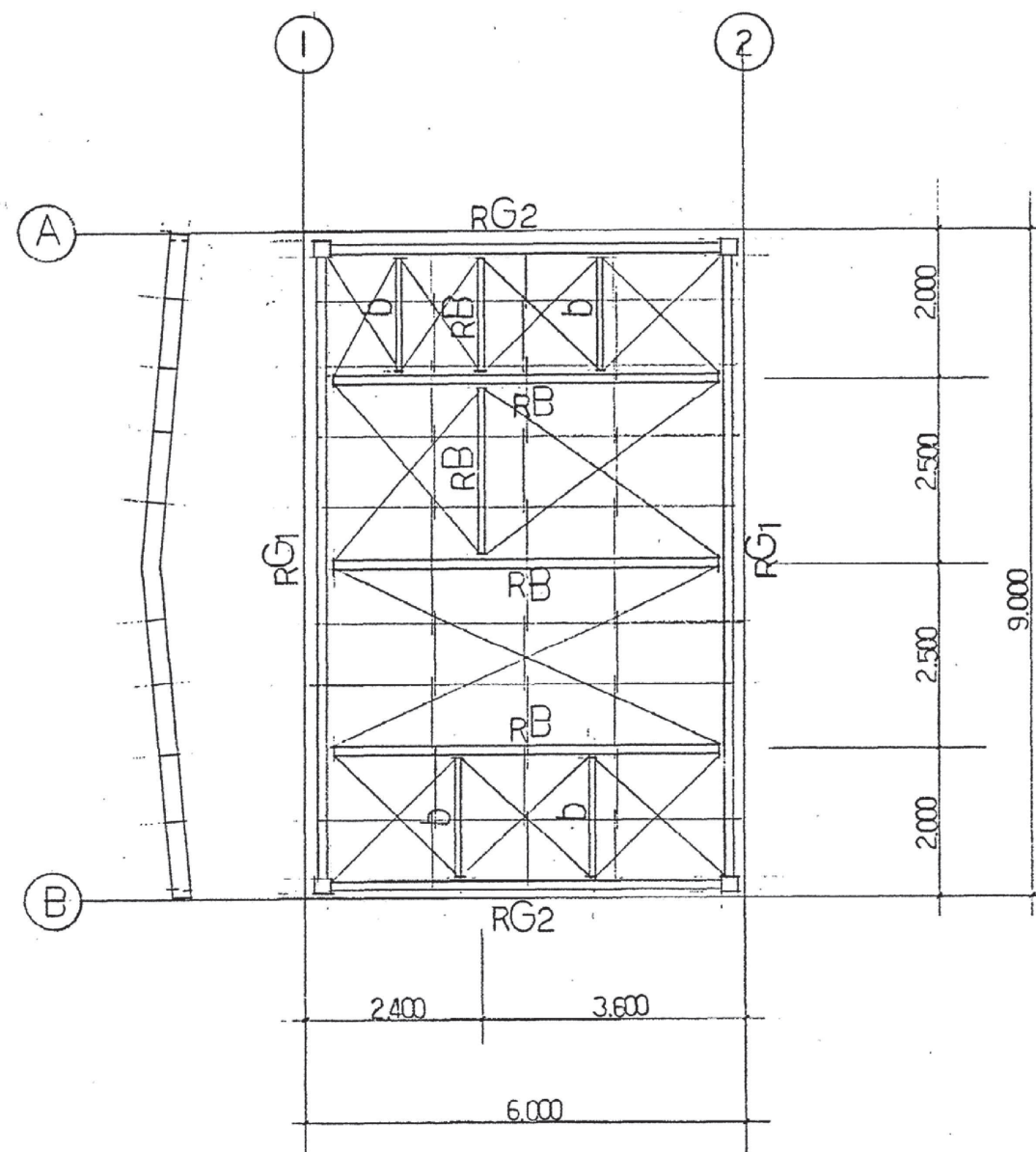
常磐分団車庫改築工事

R 7 年 1 月

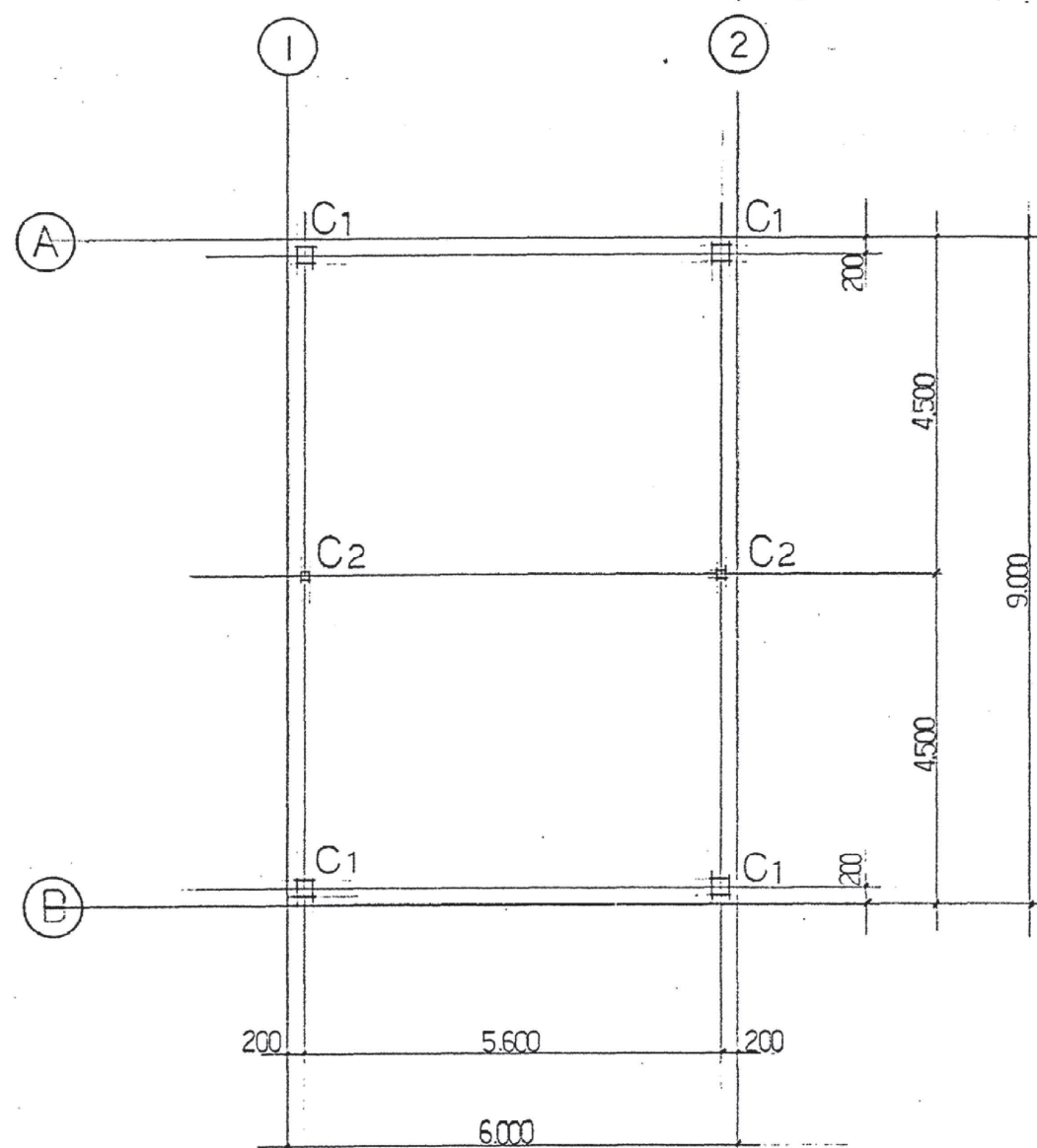
既設 基礎伏図・基礎詳細図

scale S=1:30・50

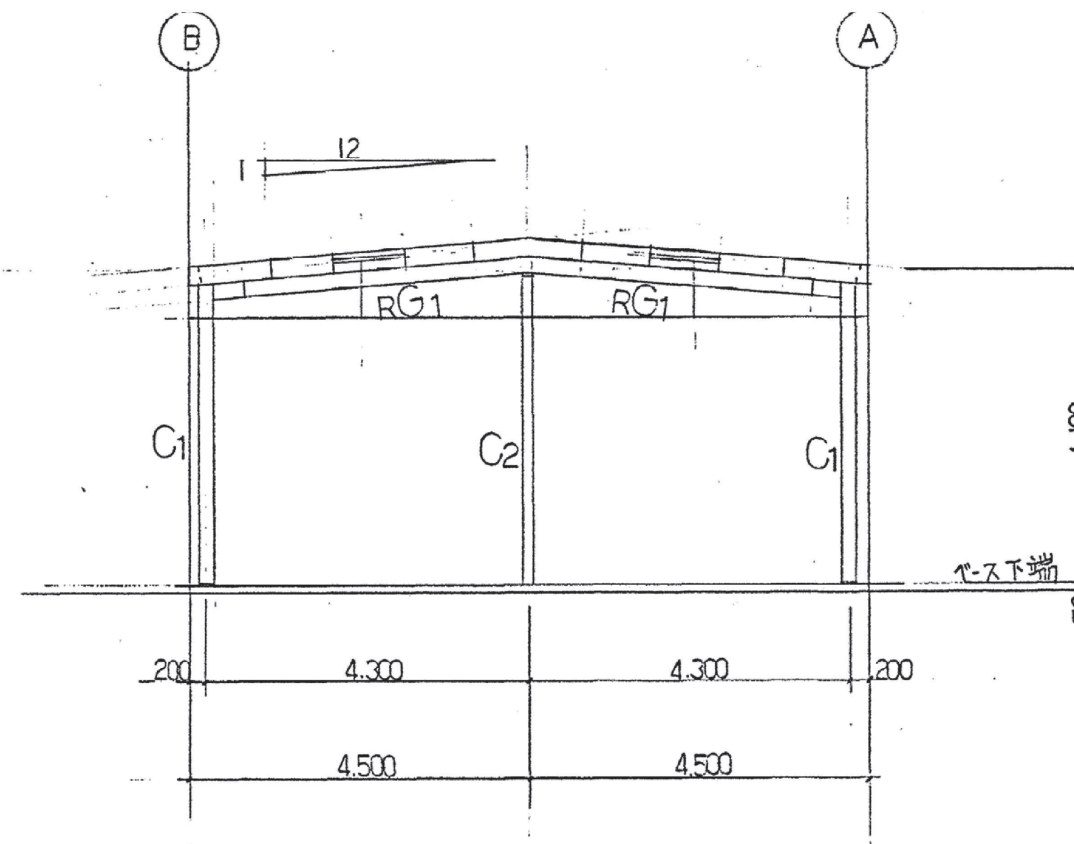
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治



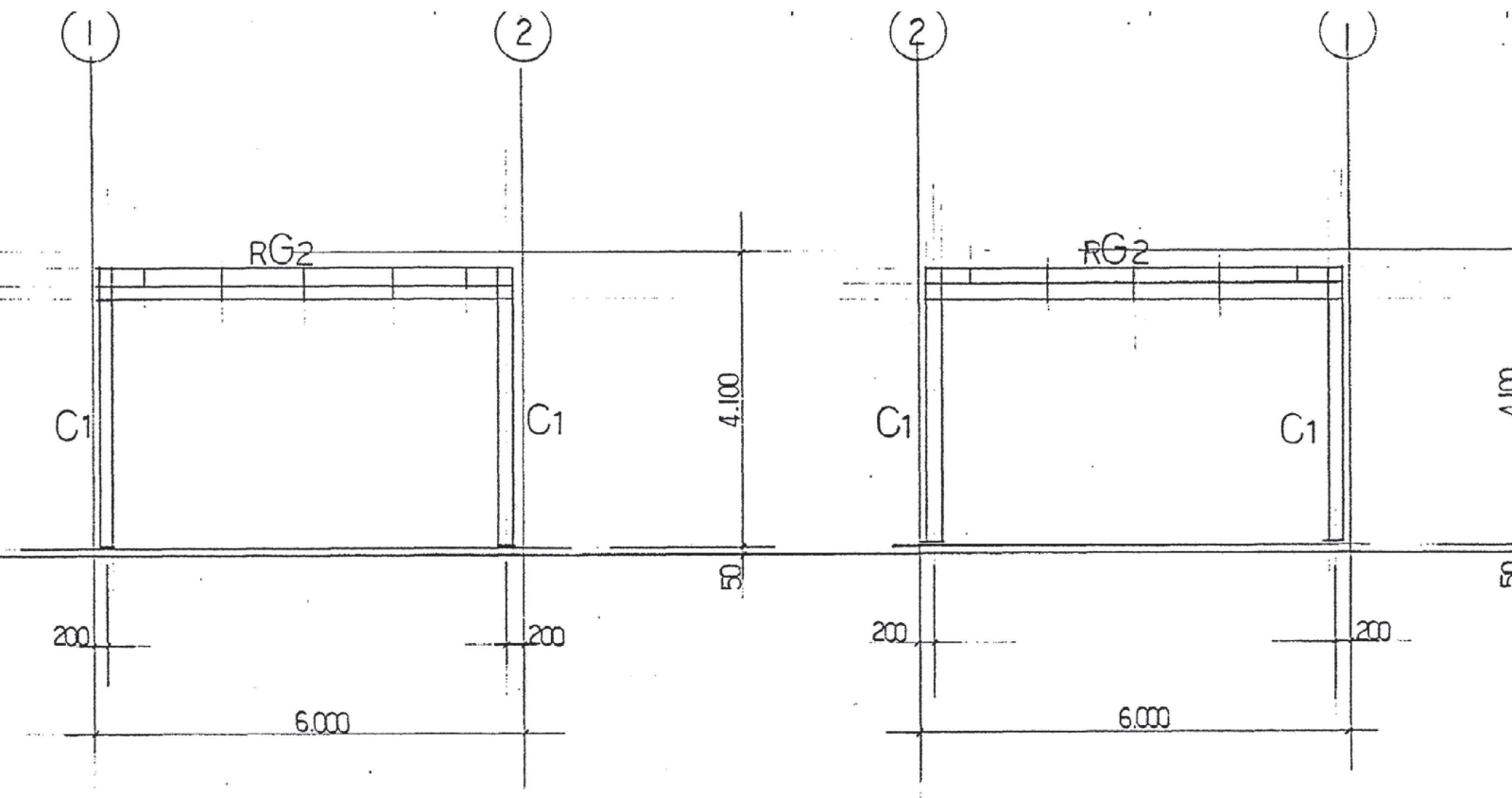
小屋伏図 S=1:100



柱伏図 S=1:100

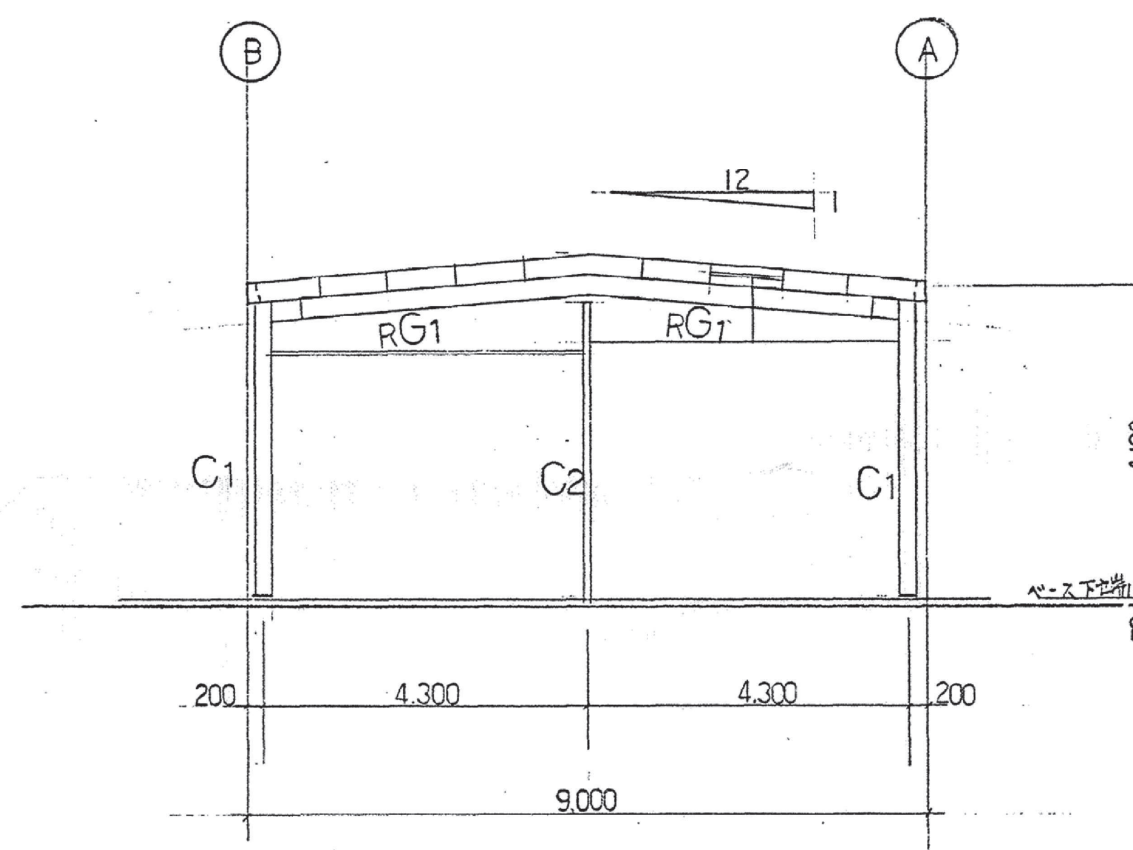


(2) 通り軸組図 S=1:100



(B) 通り軸組図 S=1:100

(A) 通り軸組図 S=1:100



(1) 通り軸組図 S=1:100

鉄骨部材リスト

記号	形状、寸法	備考
C1	□-200×200×6	DIA R-6
C2	□-100×100×4.5	
RG1	H-250×150×32×6	
RG2	H-250×150×32×6	
RB	H-200×150×32×4.5	GR-6 HTB 2-M16
b	C-100×50×20×32	GR-6 HTB 2-M16
小屋筋違	I-160 GR-9	
鼻母屋	C-238.3×112.5×7.5×3.5×32	
母屋	C-237.5×68.6×2.5×20	サグインクル L-25×25×23
桁行用胴縁	Z-237.5×68.6×2.5×32	サグロット 12φ
妻面用胴縁	Z-237.5×68.6×2.5×20	サグロット 12φ
ハッター	2C-162.5×7.5×2.5×32	

特記なき限り既設すべて撤去

No. K-10

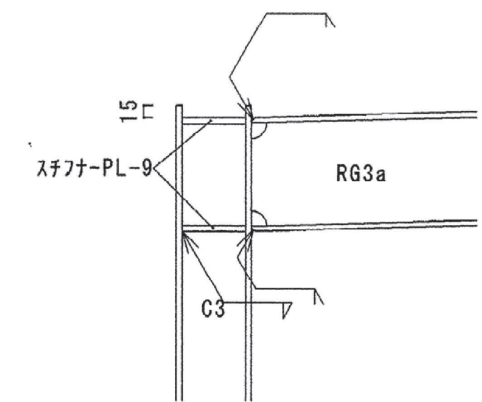
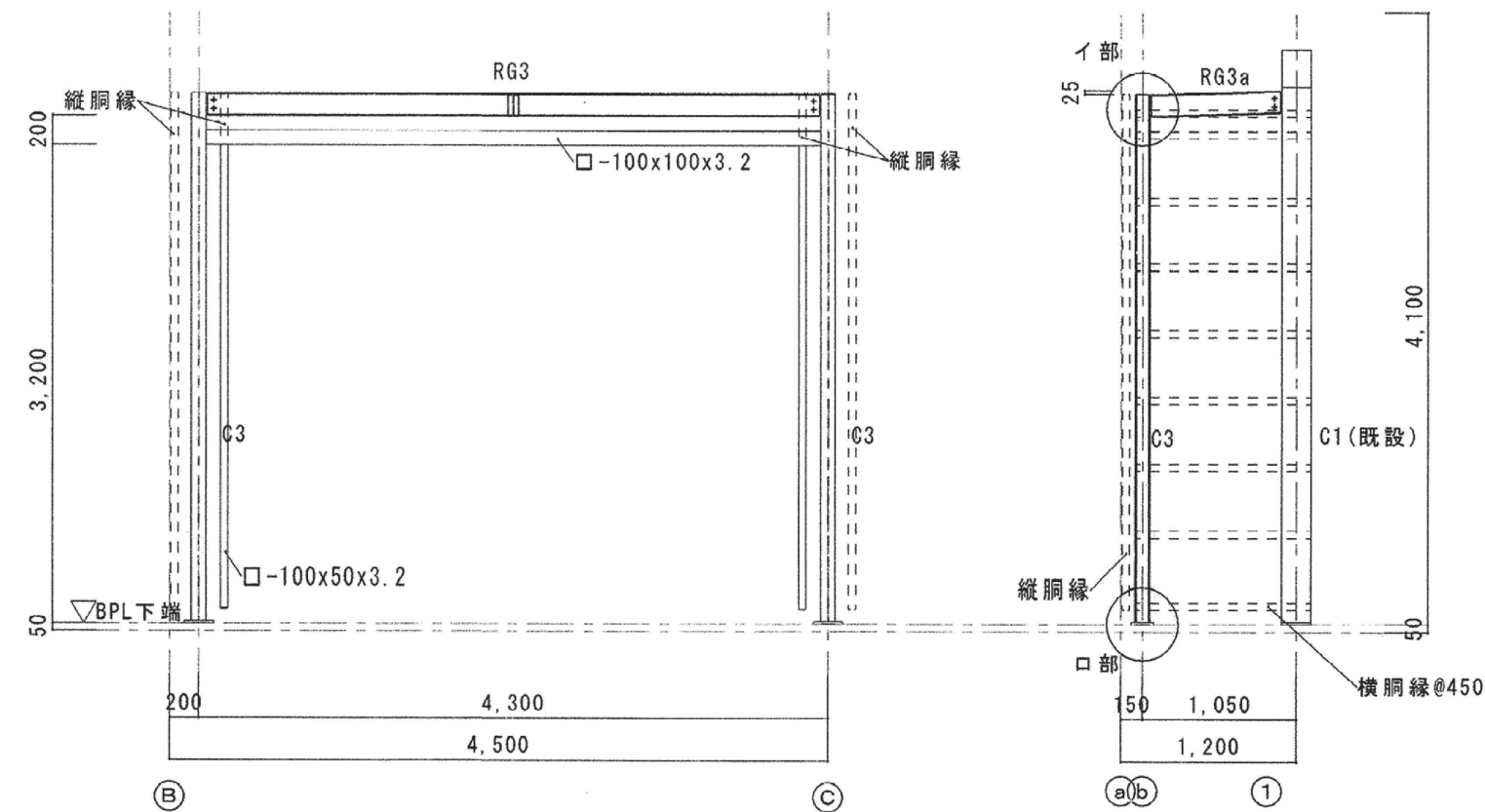
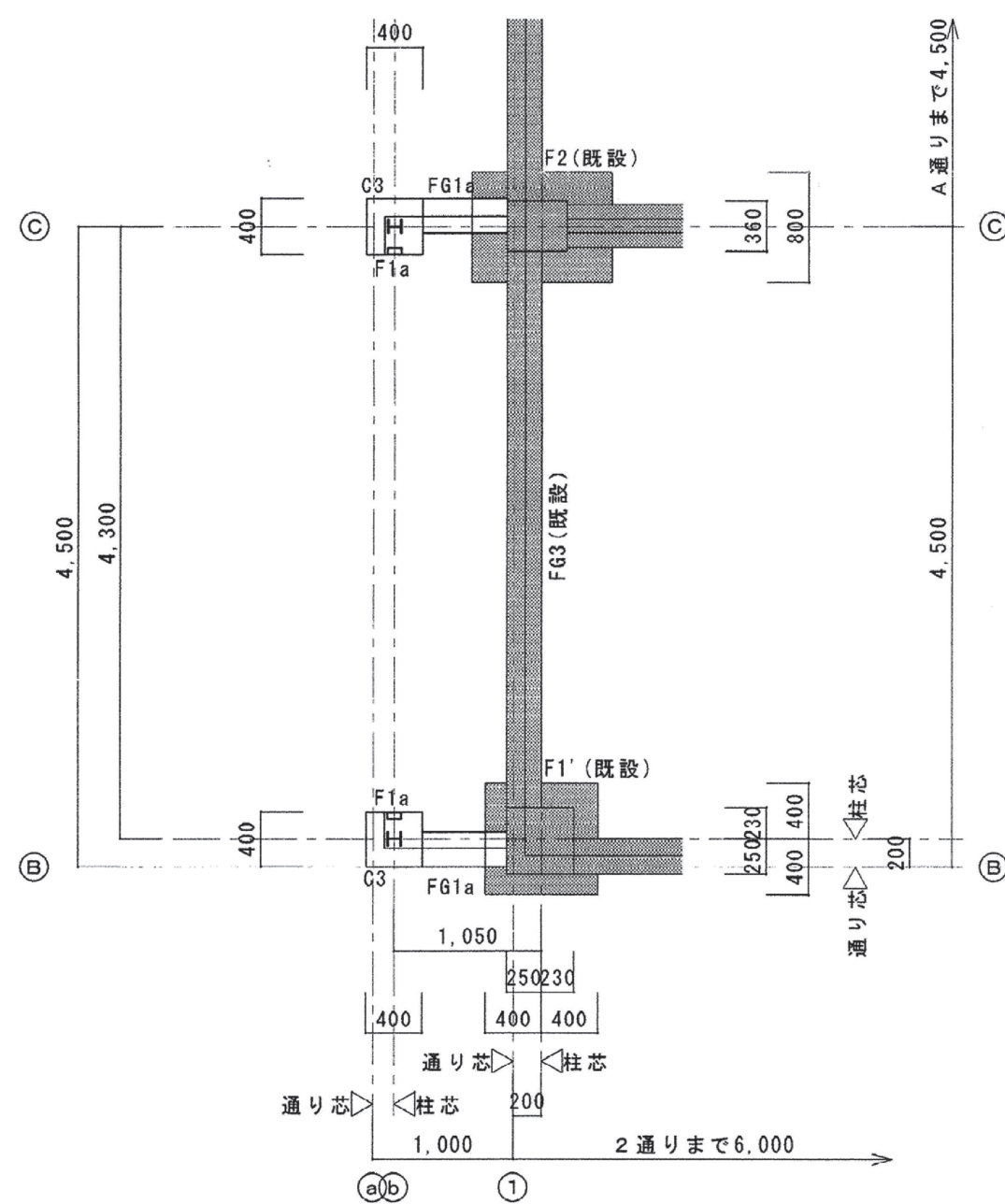
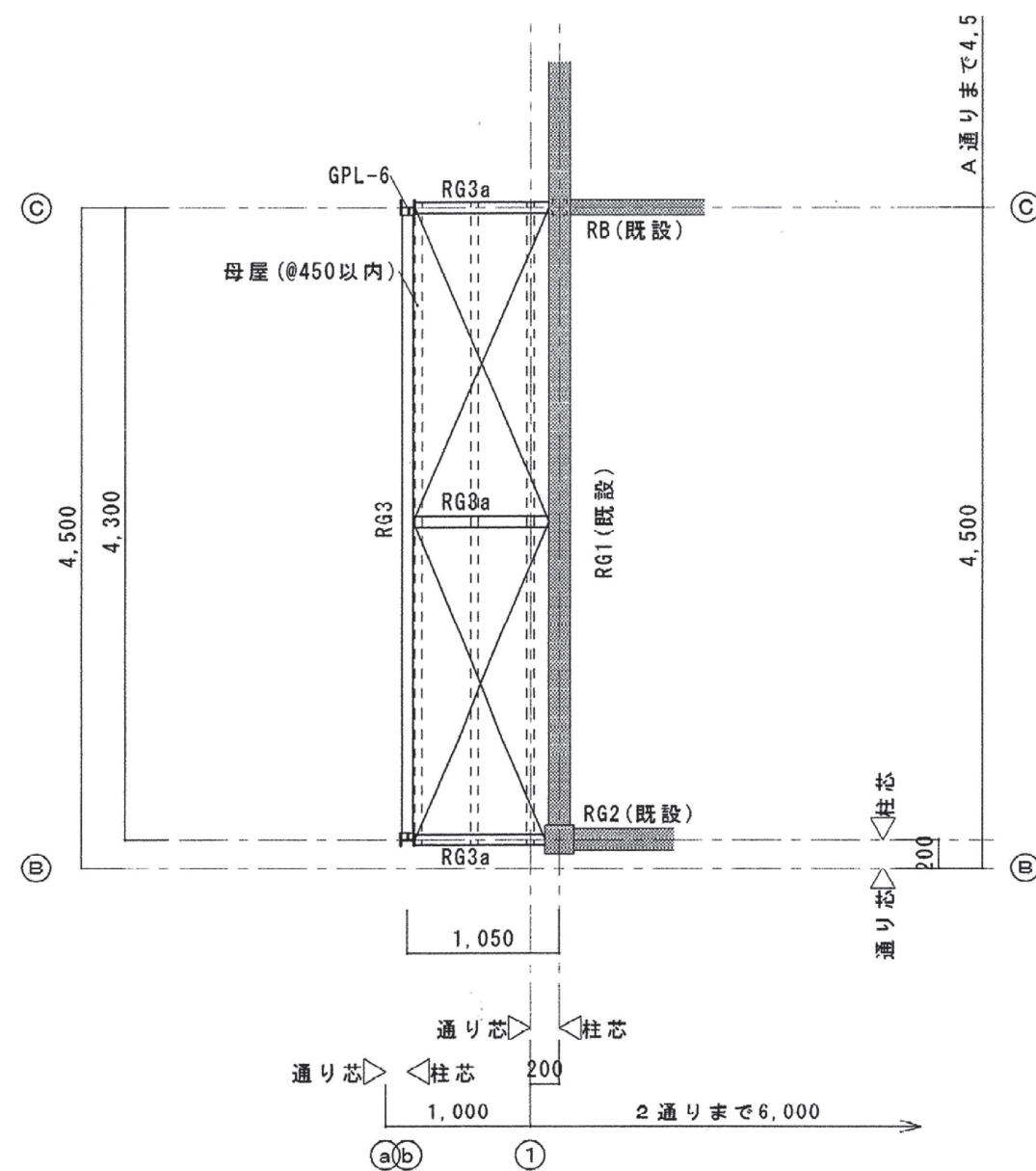
常磐分団車庫改築工事

R 7 年 1 月

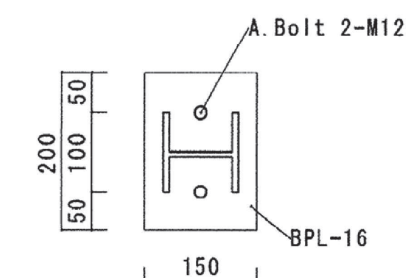
既設 梁伏図、軸組図

scale S=1:100

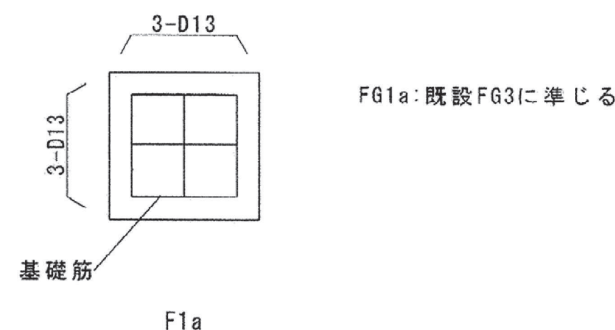
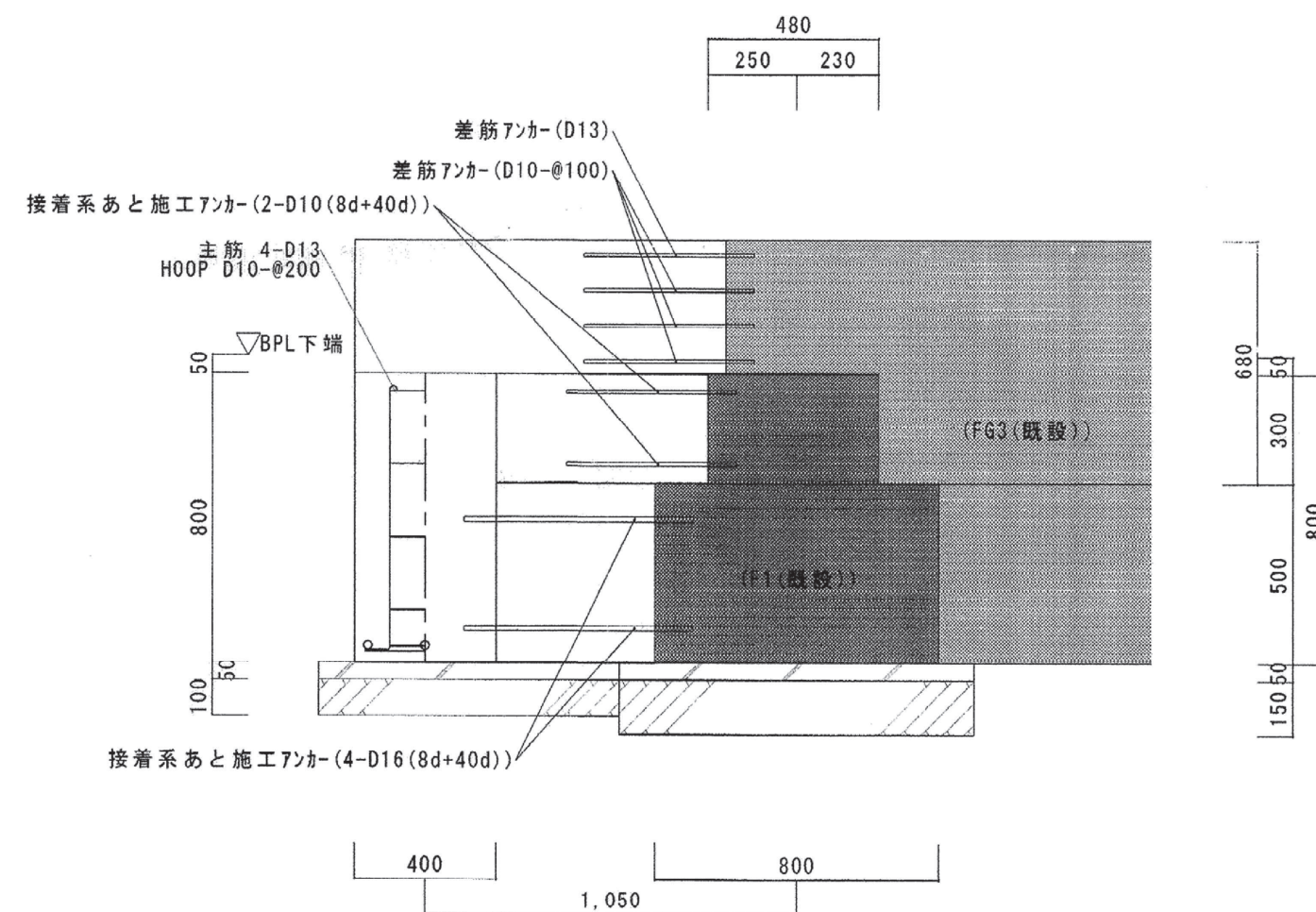
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治



イ部詳細図



ロ部詳細図



【新設部材】

C 3	H-100x100x6x8	BPL-16x150x200 A Bolt 2-M12 (L=600曲げDN)
R G 3	H-150x75x5x7	GPL-6 HTB 2-M16
R G 3 a	H-150x75x5x7	b通り剛接合 (RG3は2-M16) GPL-6 HTB 2-M16
屋根ﾌﾞﾚｰｽ	M12 (TB (割枠) 付き)	GPL-6 HTB 1-M16 (RG3aに取付)
シャッター下地	□-100x100x3.2 □-100x50x3.2	ﾈｯﾌﾟﾙ-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ M-12
胴縁	C-100x50x20x2.3	ﾈｯﾌﾟﾙ-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ M-12
母屋	C-100x50x20x2.3	ﾈｯﾌﾟﾙ-4.5 中ﾎﾞﾙﾄ M-12

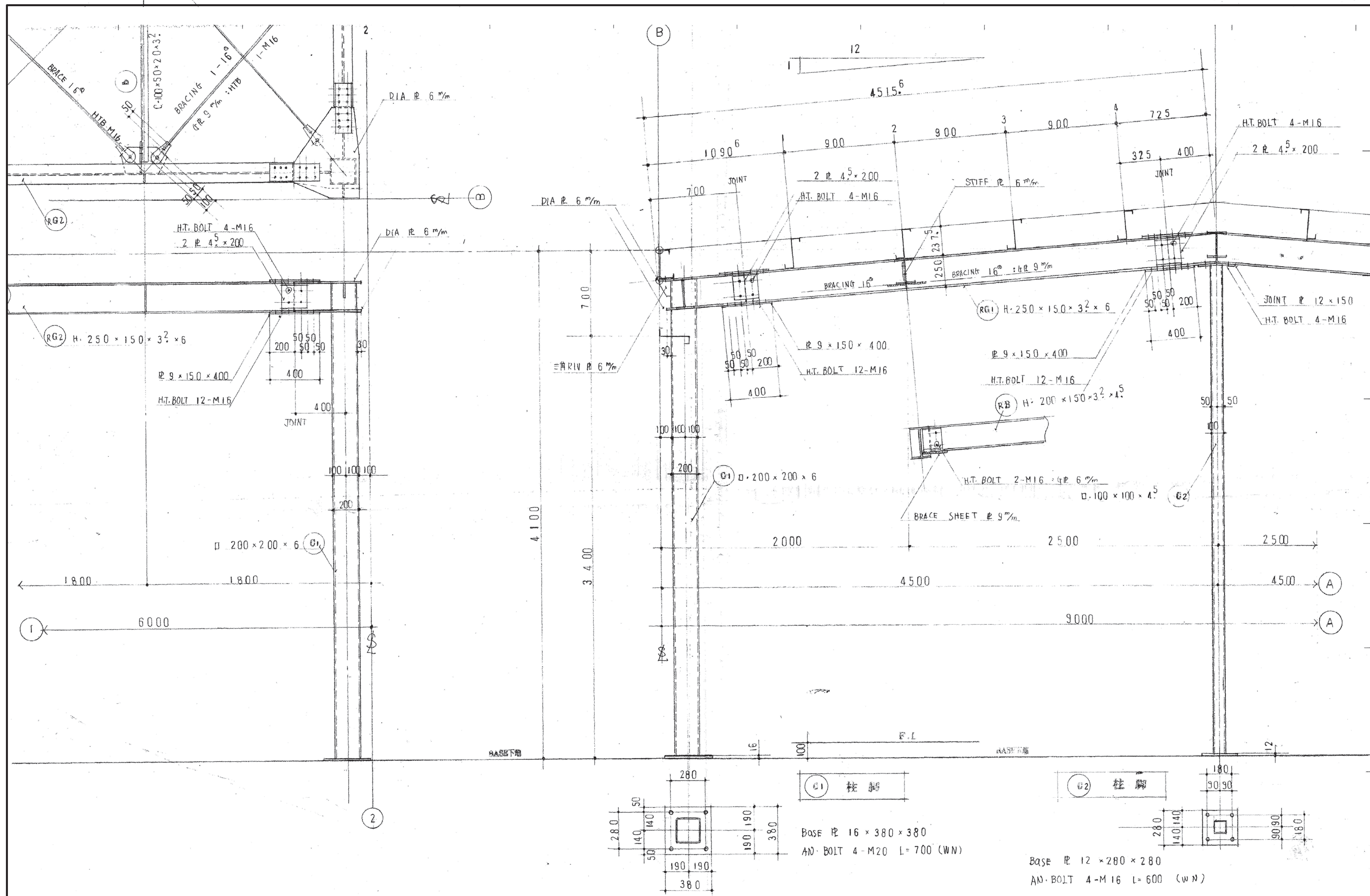
※既設柱に取付るGPLは、全周隅肉溶接とする
※新設鉄骨は全てSOP塗とする (既設シャッター下地はタッチアップ)

特記なき限り既設すべて撤去

※碎石は除く

No. K-11

常磐分団車庫改築工事	R 7 年 1 月
既設 増築部 構造図	
scale S=1:10・20・50	
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治	

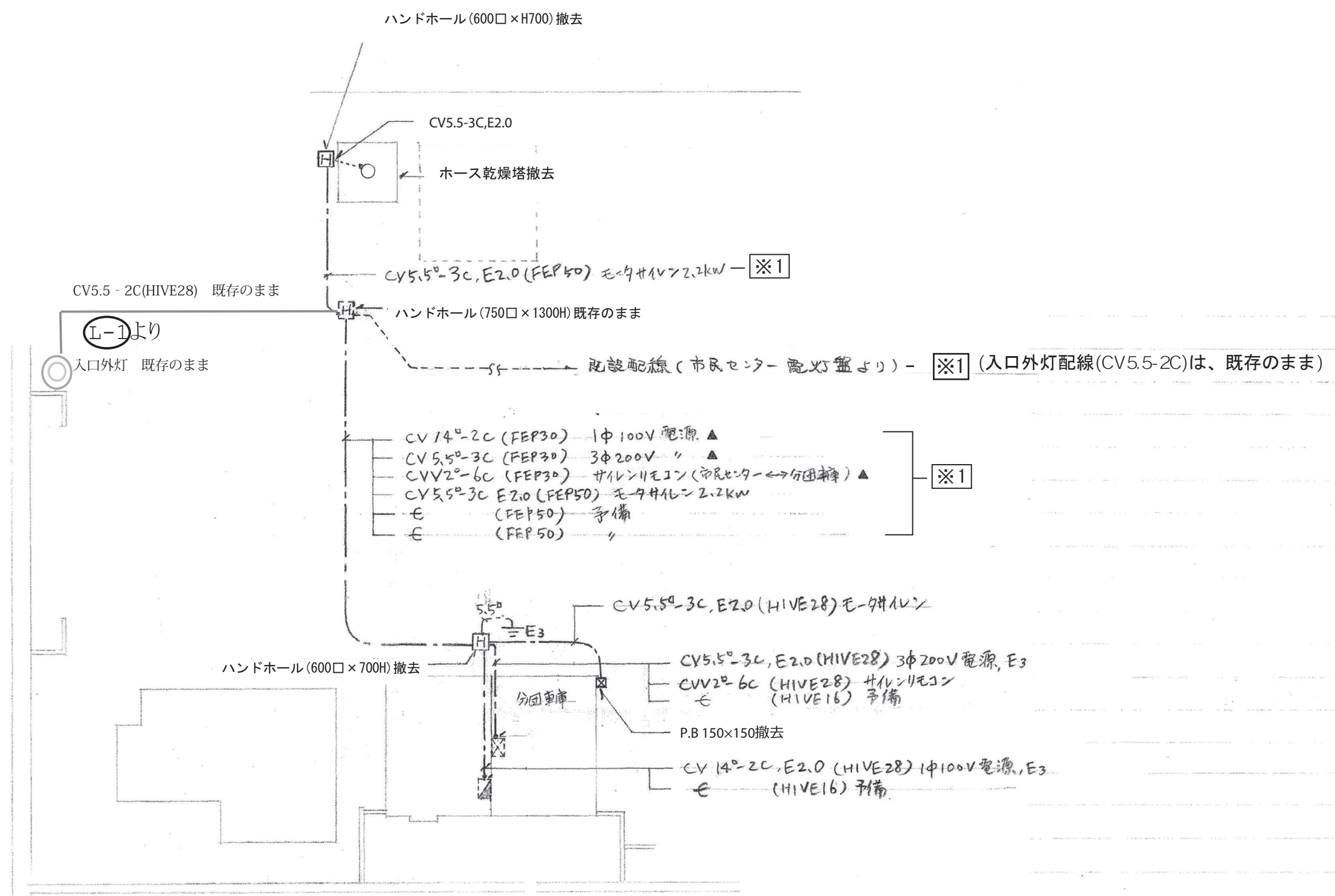


特記なき限り既設すべて撤去

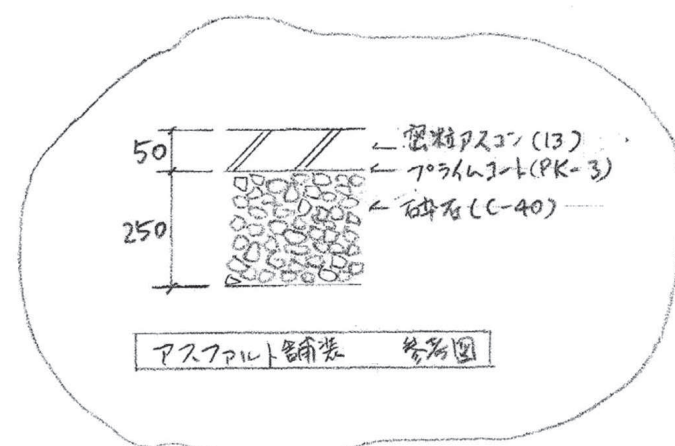
No. K-12/	
常磐分団車庫改築工事	R 7 年 1 月
既設 鉄骨詳細図	
scale S=1:30	
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治	

【特記事項】

※1 については、配線のみ撤去を示す。



屋外平面図 S=1/200

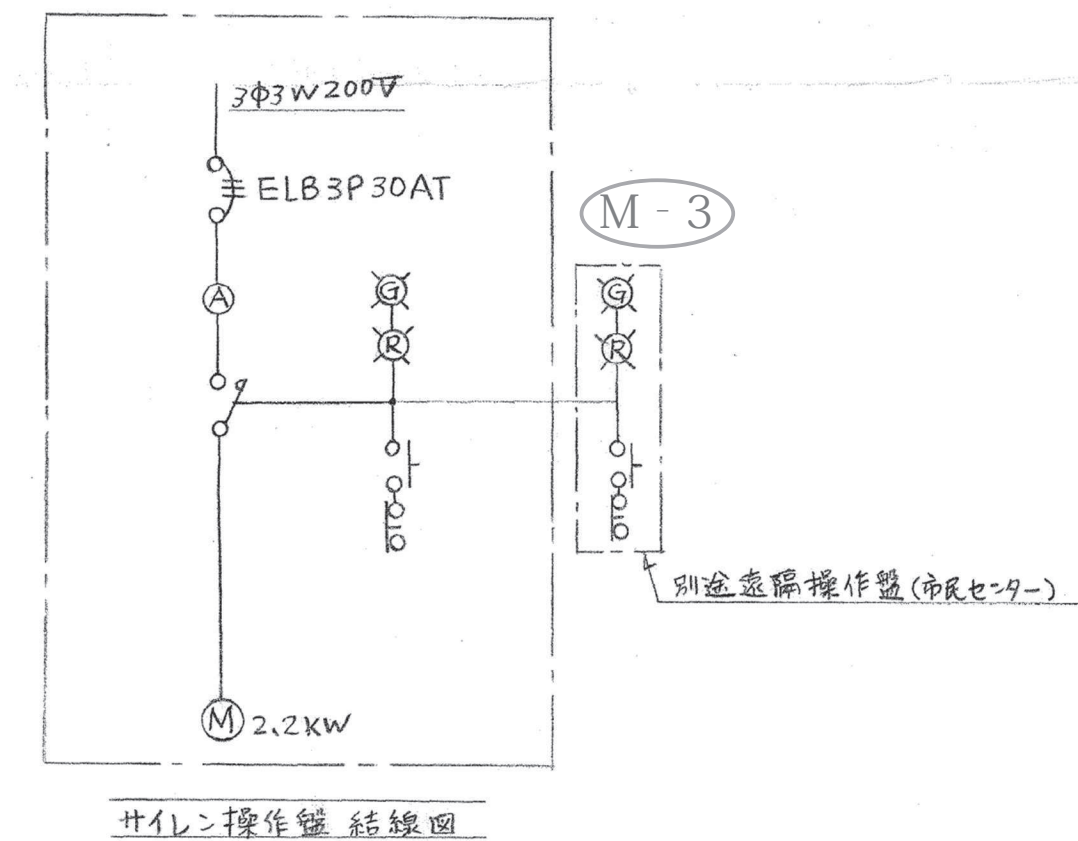
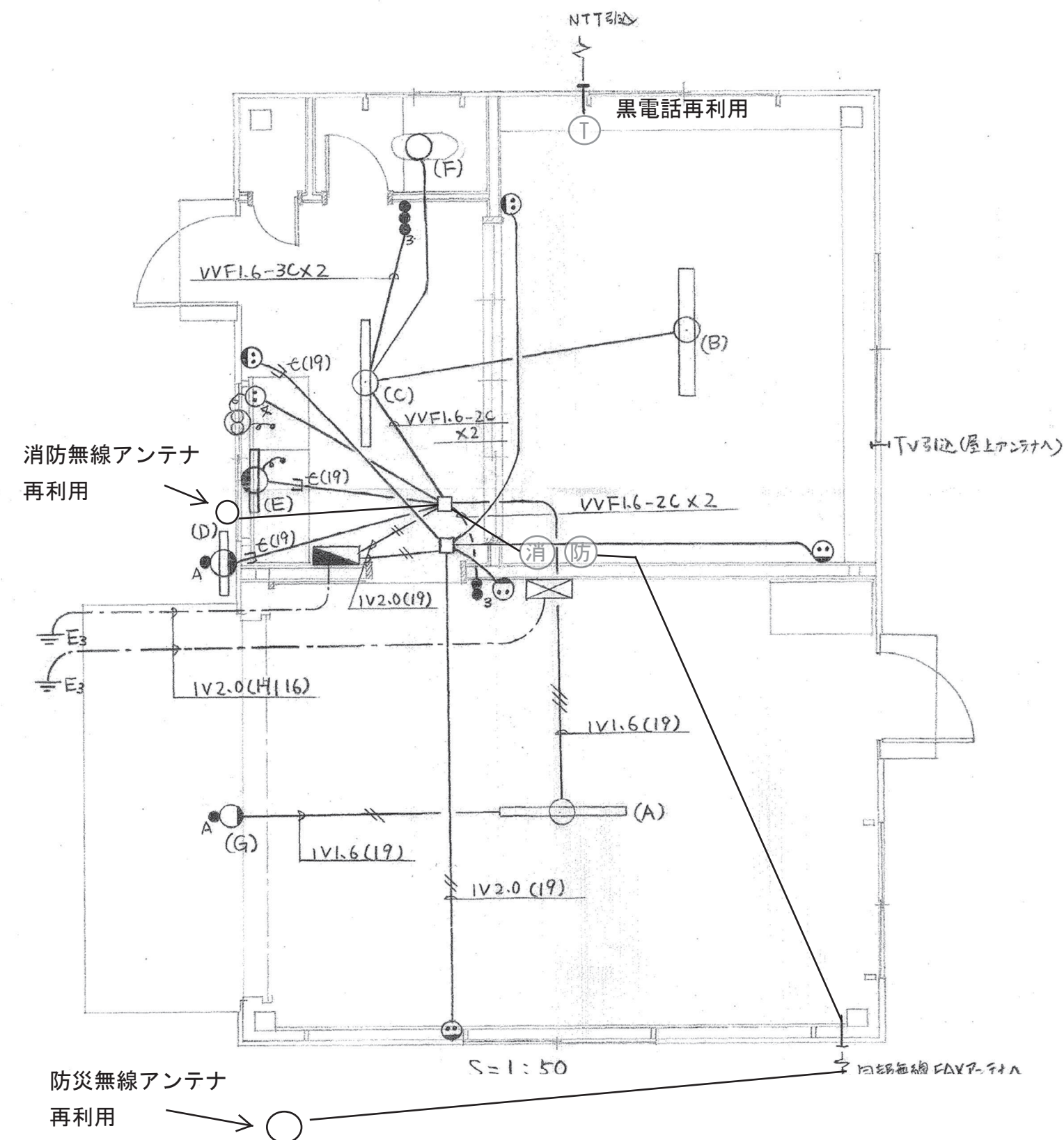


特記なき限り 既設すべて撤去

No. K-13		
常磐分団車庫改築	工事設計図	R 7 年 1 月
既設 電気図1	53/57	
scale S=1 : 200		
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治		

記号説明

記号	名称	備考
(A)	FL40Wx1 反射笠付直付天井灯	(官) FSR1-401 RH
(B)	FL40Wx2 V型	(*) FSS4-402 RH
(C)	FL40Wx1 V型	(*) FSS4-401 RH
(D)	FL20Wx1 ブラケット(wp)	(*) FBC1RP-201 GL
(E)	FL20Wx1 流元灯. 壁面取付	(参考) HW2601 GPL(松下) 程度
(F)	IL40Wx1 直付. コツ7°型	(*) LW56103 (*) "
(G)	IL60Wx1 赤色灯	(*) LA56418 (*) "
	壁付埋込コンセント 2P15Ax2	樹脂製7°レール
	天井付 " 2P15Ax1, スケ止め	"
	埋込スイッチ (片切x2, 3路x1)	"
	" (片切x1, 3路x1)	"
	換気扇 200中運動式シャッター	BL認定品 金属フード共
	黒電話	改築建物で再利用
	住宅用分電盤 樹脂製ホーム型	メイン ELB2P30A 7°ラッチ NFB2P20Ax2
	サイレン操作盤	下図参照
	5x54 アウトレットボックス	樹脂製丸蓋7°レール共
	消防無線、防災無線 (配線: 5C-FB)	改築建物で無線再利用(アンテナのみ本工事移設)

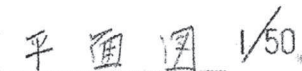


サイレン操作盤 結線図

特記なき限り既設すべて撤去

No. K-14/

常磐分団車庫改築 工事設計図	R 7 年 1 月
既設 電気図2	54/57
scale S=1:50	
株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治	



凡 例

器具表

AC-1

※冷媒(フロン類)の回収

空調機等の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修 標準仕様書による。

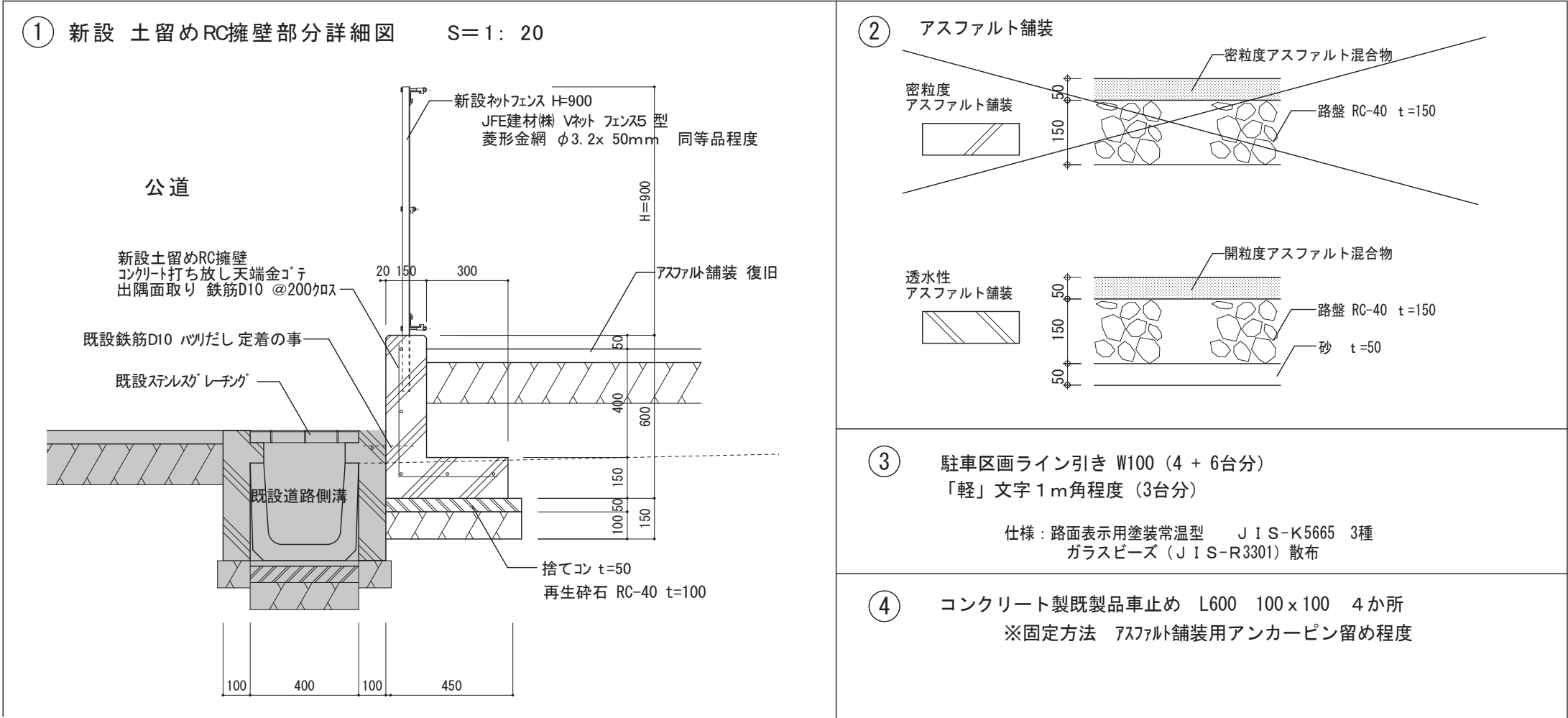
(1)冷媒の回収にあたっては、監督職員に次の書類を提出する。

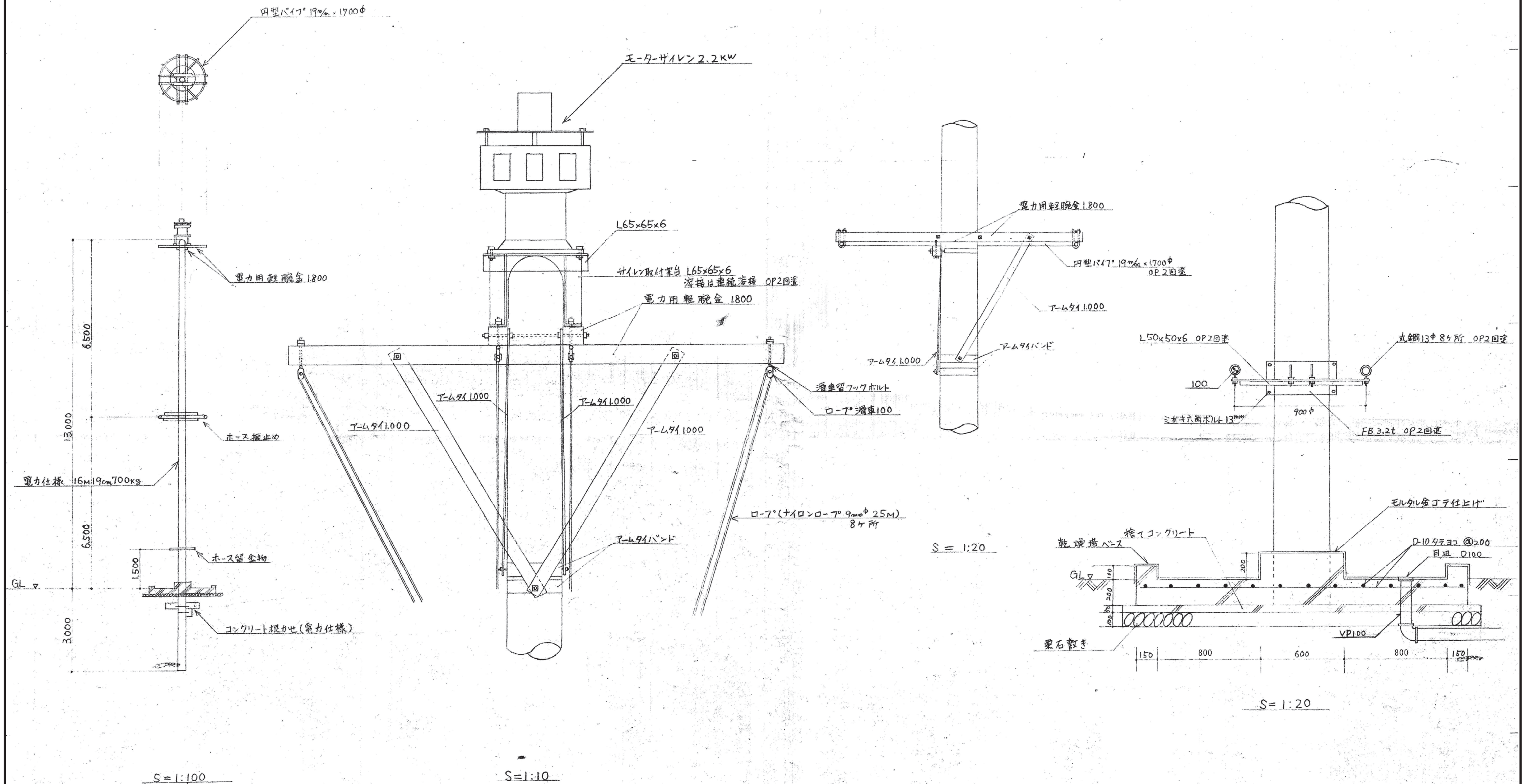
(ア)第一種フロン類回収業者登録通知書の写し

(イ) フロン類回収証明書

No. K-15/

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治





特記なき限り既設すべて撤去

No. K-17/

常磐分団車庫改築工事

R 7 年 1 月

既設 ホース乾燥塔

scale $S=1:10 \cdot 20 \cdot 100$

株式会社 山田建築設計 一級建築士 第153321号 山田 純治